

- 浮(ふ・源) → 浮(うかぶ・源、廷臣/歌人) 1 2 1 0
- 孚(ふ・中神) → 琴溪(きんけい・中神ながみ、医者) Q 1 6 8 2
- 孚(ふ・草鹿) → 玄菟(げんりゅう・草鹿くさか、医者/詩人) M 1 8 9 2
- 孚(ふ・宮城) → 春意(しゅんい・宮城/宮木、神道/儒者) M 2 1 3 7
- 孚(ふ・星) → 研堂(けんどう・星ほし、藩士/書家) L 1 8 7 2
- 孚(ふ・保岡) → 嶺南(れいなん・保岡/安岡やすおか、藩儒官) 5 1 6 0
- 孚(ふ・岩井) → 孚(まこと・岩井いらい、和算家) C 4 0 9 5
- 孚(ふ・宇都宮) → 孚(たかし・宇都宮うつのみや、国学/歌人) V 2 6 7 6
- 孚(ふ→まこと・鍋島) → 誠(まこと・鍋島なべしま/松平/龍造寺、国学) Q 4 0 0 3
- 怱(ふ・林) → 榴岡(りゅうこう・林はやし、幕府儒官) D 4 9 7 8
- 弣(ふ・野崎) → 弣(ゆつか・野崎のさき/昆陽野、塩田実業家) H 4 6 1 2
- 富(ふ・向井) → 元仲(げんちゅう・向井、幕臣) L 1 8 2 4
- 富(ふ・宮永) → 富(ふう・宮永みやなが、医者/国学) I 3 8 7 5
- 溥(ふ・ひろし・佐々木) → 愚山(ぐざん・佐々木ささき、儒者/書) D 1 7 6 8
- 武(ぶ/たけし・諸葛) → 中如(ちゅうじょ・諸葛もろくず、儒者/詩) G 2 8 2 9
- 武(ぶ/たけし・山本) → 正雄(まさお・山本やまもと、藩士/国学者) T 4 0 5 6
- 3800 富阿彌(ふあみ) ? - ? 室町幕府の同朋衆か?、華道家;
1445生け花最古の伝書「仙伝抄」の相伝者
- 3802 不案(ふあん) ? - ? 伊勢山田の俳人;重頼「犬子えのこ集」4句入
[鶯は勅使か開く繪旨梅りんじうめ](犬子集;一143)
- 3828 普安(ふあん・池田いけだ/菊谷) 1667-1734 越前金津の出身/陸奥津軽鯨ヶ沢の回船問屋、
1687より鯨ヶ沢住/津軽藩運送方を勤める、俳人;近江の孟遠門/西津軽俳壇の中心、
1722「そとの浜」、25撰集「石舎利」編、
[普安(;)号)の通称]通称;善左衛門/善兵衛/善七
- 鳧庵(ふあん) → 一草(いっそう・時雨坊、俳人) B 1 1 5 8
- 3829 豊安(ふあん;法諱) ? - 840 三河の律宗僧・唐招提寺入;如宝(鑑真の弟子)門、
815唐招提寺5世/816律師、平城天皇の戒律の師/835大僧都、唐招提寺の整備に尽力、
五重塔・回廊など建設/没後追贈僧正、830「戒律伝来記」831「鑑真和上三異事」
- 蕪庵(ふあん) → 可都里(葛里かつり・五味ごみ、俳人) C 1 5 5 6
- 蕪庵(2世ふあん) → 蟹守(かにもり・五味/可都里弟、俳人) C 1 5 6 6
- 蕪庵(3世ふあん) → 守彦(もりひこ・小尾、俳人) I 4 4 5 8
- 蕪庵(4世ふあん) → 彦貫(げんかん・清水しみず、守彦男/俳人) I 1 8 3 4
- 蕪庵(5世ふあん) → 田彦(でんげん・植松、守彦男/俳人) D 3 0 7 0
- 蕪庵(6世ふあん) → 四友(しゅう・小尾、守彦男/俳人) Z 2 1 9 4
- 3830 武夷(ふい・根本ねもと、名;遜志、信成男) 1699-1764 武蔵久良岐郡弘明寺村の豪農、
剣術;長沼四郎左衛門門/江戸八丁堀で武技を指南、儒・古文辞学;1717荻生徂徠門、
1720徂徠の命で足利学校の経書校勘に従事(同門山井崑崙と)、太宰春台・服部南郭と交流、
1725「徂徠先生答問書」編、「剣技小録」「鎌倉風雅集」「東遊筆記」「東野遺稿」「武夷山房集」、
読本「湘中八雄伝」著、「武夷山人遺稿」、
[武夷(;)号)の字/通称/別号]字;伯修、通称;八右衛門、別号(戯作号);北壺游/聚水庵、
- 武彝(ふい・小国) → 嵩陽(すうよう・小国おぐに、儒者/国事) B 2 3 0 4
- 武夷館(ふいかん) → 元瑞(げんずい・中西/小川、藩士/医者) K 1 8 3 5
- 普育(ふいく;字) → 慈等(じとう;法諱、天台僧) V 2 1 3 2
- 不違斎(ふいさい) → 三休(さんきゅう・無事庵/志村、幕臣/茶人) L 2 0 9 9
- 不倚斎(ふいさい) → 清房(きよふさ・三好みよし、藩士;重臣) V 1 6 3 3
- 不移山人(ふいさんじん) → 門左衛門(もんざえもん・近松、浄/歌伎作者) 4 4 3 7

- 3831 普一(ふいち) ? - ? 鎌倉期藤家流朗詠;1309因空(豪愉)より「朗詠要抄」を伝受、朗詠秘曲相伝;榮賢⇒心空⇒因空(豪愉)⇒普一
- 3832 普一(ふいち・本庄/本莊ほんじょう、名;俊篤、正俊男)1798-1846 武蔵本庄の医者;沼津藩医程田玄規門、1825長崎で眼科修学/帰郷;本庄で開業/火災により武蔵八幡山に移住、1829「眼科錦囊」、1831「萍跡叢話」44「天均堂脈論」、「萍跡発話」「眼科西漢要選書」「傷寒論管見」著、[普一(;号)の字/法号]字;士雅、法号;道誉文巖鳴海居士
- 孚一(ふいち・林) → 孚一(さねかず・林はやし/石井、商家/歌人) P 2 0 1 6
- 武一(ふいち・秋山) → 久勝(ひさかつ・秋山あきやま、藩士/国学) L 3 7 9 4
- 普一国師(ふいちこくし) → 志玉(しぎよく・総円、華巖入明僧) Q 2 1 3 1
- 普一潤山志玉(ふいちじゅんざんしぎよく)→志玉(しぎよく・総円、華巖入明僧) Q 2 1 3 1
- 不一房(ふいちぼう) → 安澄(やすずみ・平野ひらの、絵師) B 4 5 7 7
- 武一郎(部一郎ふいちろう・山地)→東山(とうざん・山地やまじ/千早、儒者) E 3 1 6 3
- 武一郎(ふいちろう・大脇) → 自笑(じしょう・大脇おおわき、幕臣/武術家) T 2 1 8 5
- 武一郎(ふいちろう・高内) → 松陰(しょういん・高内たかうち、和漢学/武芸) G 2 2 8 3
- 武一郎(ふいちろう・筑紫) → 従門(よりかど・筑紫つくし/藤原、幕臣/神道家) I 4 7 5 3
- 武一郎(ふいちろう・山地) → 蕉窓(しょうそう・山地/山路、儒者/詩) T 2 2 9 9
- 不溢(ふいつ・宮村) → 定満(さだみつ・宮村みやむら、商家/国学者) P 2 0 5 4
- 不溢居(ふいつきよ) → 杉二(すぎじ・小森こもり、不溢居/俳人) M 2 0 3 2
- 孚尹(ふいん/さねこれ・林) → 蓀坡(そんぱ・林/渋谷、藩士/儒者/詩) F 2 5 0 3
- 武員(ふいん・門司) → 武員(たけかず・門司もじ、武将/連歌) O 2 6 3 1
- 武員(ふいん・内藤) → 武員(たけかず・内藤ないとう、廷臣/狂歌) O 2 6 9 9
- 武員(ふいん・清原) → 武員(たけかず・清原、廷臣/記録) O 2 6 3 2
- 武因(ふいん・荒木田) → 武因(たけより・荒木田/榎倉、神職/連歌) Q 2 6 7 7
- 武胤(ふいん・菊池) → 武胤(たけたね・菊池きくち、庄屋/歌人) W 2 6 7 5
- フィンデナオ(;洗礼名)→ 秀包(ひでかね・毛利/小早川、武将/連歌) C 3 7 9 9
- 13875 富(ふう・宮永みやなが、通称;東作/号;暘谷ようこく)?-1846 越中砺波郡下川崎の医者、国学者、良蔵正純(1833-67)の父
- 楓阿彌(ふうあみ・宮城) → 玄魚(げんぎよ・梅素亭、絵師/狂歌) B 1 8 5 4
- 風庵(ふうあん・片岡) → 正方(まさかた・加藤、城主/連歌) B 4 0 8 5
- 風漪漁舎(ふういぎょしゃ) → 幸文(たかふみ・木下、歌人) 2 6 1 5
- 3834 風逸(風乙ふういつ・河合かわい、見風男)1751-1802 加賀の俳人;父見風門、兄の見度と俳諧を嗜む、1783父見風追善集「白達磨」編
- [風逸(;号)の通称/法号]通称;理右衛門、法号;釈順正
- 風一廬(ふういつろ) → 周竹(2世しゅうちく・平尾ひらお、俳人) I 2 1 0 8
- 楓蔭(ふういん・服部) → 中庸(なかつね・服部/箕田、医/国学者) E 3 2 4 8
- 楓蔭(ふういん・田島) → 仲道(なかつみち・田島たじま、神職/国学) N 3 2 5 9
- 楓蔭(ふういん・孫福) → 公好(きみよし・孫福ごぶく/足代、神職/国学) V 1 6 2 1
- 3835 風音堂(ふういんどう;本名不詳)?- ? 京の浮世草子作者;好色短編集「風流連三味線つれじゃみせん」著
- 風雲庵随翁(ふううんあんずいおう)→ 忠永(ただなが・本多、藩主/兵学/俳人) Q 2 6 3 3
- 風雲斎(ふううんさい) → 風状(ふうじょう・正木、俳人) 3 8 8 2
- 風雲斎(ふううんさい) → 助叟(じょそう・片山かたやま、俳人) C 2 2 7 6
- 3836 風雲子(ふううんし) ? - ? 俳人、1707「つげのまくら」編/序(;子英発句/調和系撰集)
- 不角の変名か? → 不角(ふかく・立羽たちば/山崎、俳人) 3 8 0 3
- 風雲子(ふううんし) → 林鴻(りんこう、堀江ほりえ、俳/浮世草子) K 4 9 2 2
- 風雲社法林庵(ふううんしゃほうりんあん)→ 成美(せいび・夏目、俳人) 2 4 1 2
- 風雲台(ふううんだい) → 東推(とうすい、俳人) F 3 1 7 2
- 風詠(ふうえい・山澄) → 英貞(ひでさだ・山澄やまざみ、藩士/故実) D 3 7 0 4
- 風詠軒(ふうえいけん) → 翠巖(すいがん・山口やまぐち、藩士/奉行) E 2 3 2 5
- 風詠亭(ふうえいてい) → 大凡(たいぼん・鈴木、史学) L 2 6 0 5

- 風詠堂(ふうえいどう) → 貞固(さだかた・藤田ふじた、藩士/武術/茶) P 2 0 8 7
 諷詠堂(ふうえいどう) → 貞喜(さだはる・牧野/源、藩主/諸芸) J 2 0 3 7
- 3837 風簷(ふうえん・山口やまぐち、名;重貞/重深、春水6男)1741-1806 若狭小浜藩士/儒;家学、
 1768小野鶴山門/69師の女婿(妻;三保)、江戸住;世子の講書指南役、70山口家相続;馬廻格、
 西依成斎門;崎門学研究、江戸の牛込文庫管理/1773江戸藩邸学問所預兼教授に就任、
 「閑度寧筆」「孫子考」著、「山口風簷遺稿」、
 [風簷(;号)の通称/法号]通称;貞吉/信八郎、法号;義翁了節居士、
 履斎・岡畏斎の弟、菅山・輜斎ゆうさいの父
- 楓簷(ふうえん・曲直瀬) → 正貞(しょうてい・曲直瀬まなせ/越智、医者/本草) K 2 2 9 9
 楓園(ふうえん・鍋島) → 直条(なおえだ・鍋島、藩主/詩人) 3 2 7 7
 楓園(ふうえん・白井) → 固(かたし・白井しらい、藩士/歌人) M 1 5 9 4
 楓園(ふうえん・宮城) → 玄魚(げんぎょ・梅素亭、絵師/狂歌) B 1 8 5 4
 楓園(ふうえん・尾崎) → 吉従(よしゆき・尾崎おさき、藩士/歌人) L 4 7 8 6
 楓園(ふうえん・大鐘) → 篤(あつし・大鐘おおかね/印田、商家/国学) H 1 0 2 2
 楓園(ふうえん・柴田) → 顕光(あきみつ・柴田しばた、神職/歌人) H 1 0 7 2
- 3838 風鷗(ふうおう・江網) ? - ? 奥州岩城の俳人;
 1669風虎催「百番俳諧発句合」右方参加;玖也判
- 風翁(ふうおう) → 轍士(てっし・東鮎巷/仏狸斎、俳人) C 3 0 3 6
 風翁(ふうおう) → 成斎(せいさい・小島こじま、藩士/書家) B 2 4 6 0
 風翁(ふうおう) → 俊民(としたみ・本多ほんだ、藩士/神職/歌) V 3 1 3 5
- H3865 風外(ふうがい、通称;柳屋三郎兵衛)?-? 備後上下の俳人、
 [浜松や茂りがなくは見え透に](短冊/松甫宛)
- 風外(ふうがい;道号) → 本高(ほんこう;法諱、曹洞僧/絵師) F 3 9 3 3
 風外(ふうがい;号) → 黙室(もくしつ;道号・焉智、曹洞僧) 4 4 9 2
 風外(ふうがい・古川) → 史千(しせん・古川ふるかわ、俳人) E 2 1 3 8
 風外(ふうがい) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7
 楓崖(ふうがい) → 武雄(たけお・足助あすけ/小槻/辻、神職) V 2 6 0 0
 風外軒(ふうがいけん) → 蘭室(らんしつ・藤村ふじむら、茶人) C 4 8 4 3
 風外軒(ふうがいけん) → 西武(さいむ・山本、俳人) 2 0 0 7
 風解散人(ふうかいさんじん) → 桂素(けいそ・文亭綾継、人情本作者) 1 8 8 1
 風外子(ふうがいし) → 千秋(ちあき・山原やまはら、俳人/国学) N 2 8 7 2
 風花翁(ふうかおう) → 雲阿(うんあ・円竜、神職/僧/狂歌) D 1 2 5 3
- H3878 風角(ふうかく・野中のなか) ? - ? 江前期上方の俳人、
 1673西鶴「生玉万句」第四茄子発句入、
 [お神楽の数は鈴なり茄子なすび哉](茄子発句/鈴なり茄子;数多く生る茄子)
- H3879 風鶴(ふうかく・吉田よしだ) ? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入
 [城の御門も立てりと思へば](物種集/前句;セツに過天晴器量の男山、
 古今;秋227布留今道;女郎花憂しと見つゝぞ行き過ぐる男山にし立てり思へば)
- 3839 風角(ふうかく) ? - ? 江戸雑俳点者、1691不角「二葉之松」2句入、
 1714「俳諧媒口なこうどぐち」入、生玉万句の風角と同一?、
 [葬はうむれど鉄漿はぐるに骨の焦こげかねて](二葉之松77、妻の死)
- 風鶴山人(ふうかくさんじん) → 倚松(いしょう・三好、俳人) F 1 1 6 6
 楓窩道人(ふうかどうじん) → 巖戈(いかにほこ・常盤井ときわい、神主/国学) F 1 1 1 7
 風化房(ふうかぼう) → 其成(きせい・菊舎さくや太兵衛、書肆/俳) B 1 6 3 7
 風花坊(ふうかぼう) → 良礎(りょうそ・皆川みながわ、医者/俳人) I 4 9 6 3
 楓館(ふうかん・井口) → 機山(きざん・井口いぐち/青山、儒者) K 1 6 6 2
 楓館(ふうかん) → 茂兮(もけい、俳人) B 4 4 1 6
 風観斎(ふうかんさい) → 長伯(ちやうはく・有賀あるが、歌学者) 2 8 2 5
- 3840 風鑑斎積水(ふうかんさいせきすい)?-? 江中期遠州流華道家、
 1796「女身持八景」/97「諸家永代請状」書/1800「插花秘伝図式」著

- 風観子(ふうかんし) → 胡民(こみん・中山、蒔絵師/茶湯/俳) N 1 9 7 4
 風観窓(ふうかんそう、風観窓) → 長雅(ながまさ・平間、歌人) 3 2 1 8
 風肝坊(ふうかんぼう) → 貞佐(ていさ・芥河、商家/狂歌) 3 0 7 8
 風菊房(ふうきくぼう) → 至芳(しほう・井田、代官元締/俳人) F 2 1 6 8
 3841 楓興(ふうきよう) ? - ? 俳人;一昌門、1685風瀑「一楼賦」入、
 1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
 [夜より春起きよとの鳥寐よとの鐘](一楼賦;春)
 3842 風喬(ふうきよう) ? - ? 京の俳人;1691北枝「卯辰集」2句入、
 [麦秋は身の置きどころなかりけり](卯辰集;上二184)
 3843 風喬(ふうきよう) ? - ? 河内八尾の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
 風興(ふうきよう) → 甫寛(ほかん・近藤[1766-1848]、儒者/俳人) C 3 9 8 1
 風郷(風卿ふうきよう・小林) → 西岳(せいがく・小林こばやし、藩儒) 2 4 9 0
 楓橋(ふうきよう・久保倉) → 正意(まさり・久保倉くぼくら、国学者) P 4 0 3 8
 風香一(ふうきよういち) → 風香一(ふうこういち;検校、歌人) H 3 8 9 2
 3844 風狂山人(ふうきようさんじん・姓名不詳)?-? 伊豆の狂詩作者;
 1864「煙花小筆」著(;静軒「江戸繁昌記」に抜粋)
 風狂子(ふうきようし) → 祥薬(祥瑞しょうざい;法諱、真言僧/詩) K 2 2 1 5
 風狂人(ふうきようじん) → 若芝(じゃくし・河村かわむら、絵師/工芸) G 2 1 1 5
 風狂堂(ふうきようどう) → 許六(きよろく・森川、俳人) 1 6 5 5
 風興坊魯竹(ふうきようろうちく) → 甫寛(ほかん・近藤、儒者/俳人) C 3 9 8 1
 風狂野郎(ふうきようやろう) → 十江(じゅう・林/高野、篆刻家) E 2 1 8 6
 3845 風玉(ふうぎよく) ? - ? 京の雑俳;1696円水「住吉おどり」入
 風砦(ふうぎよく;法諱) → 豊玉(ほうぎよく;法諱・雪潭、臨濟僧) 3 9 4 6
 3846 風斤(ふうきん) ? - ? 俳人;1698「続猿蓑」1句入、
 [凧がらしや背中吹かるゝ牛の声](続猿蓑;下/牛は追風を喜び順風を恐る)
 風琴(ふうきん・酒井) → 忠徳(ただのり/ただあり・酒井、藩主/歌/俳) F 2 6 6 2
 G3854 風吟(ふうぎん) ? - ? 江戸雑俳点者、1691不角「二葉之松」4句入、
 [まだ若き法師に角すみの跡有りて](二葉之松;446/前句;あまり淋しく文みの徒書むだがき)
 (剃った額に若衆の角前髪跡がある、恋の事情での出家か、出す宛てのない恋文)
 風吟庵(ふうぎんあん) → 蝶々子(ちょうちょうし・神田、俳人) J 2 8 4 7
 風琴子(ふうきんし) → 白峰(はくほう・三田、俳人) D 3 6 8 9
 風琴子(ふうきんし) → 露言(ろげん・福田、俳人) B 5 2 3 8
 風吟子(ふうぎんし) → 昌倫(まさとも・小田切おだぎり、幕臣/国学) O 4 0 1 1
 風薫舎(ふうくんしゃ) → 芙蓉(ふじやく・永田/太田、俳人) C 3 8 6 8
 3847 楓景(ふうけい) ? - ? 尾張知多の俳人;知雨亭の也有と交流
 3848 風圭(ふうけい・吉田よしだ) 1757- 1831 75 紀州和歌山藩士;小姓組25石、俳人:風悟門/文台を受、
 1814「更衣賀」編/15「寿星観」、20「庚申雑記」21「七歌仙」31「慕ふ秋」編、
 [風圭(;号)の通称/別号]通称;半左衛門、別号;五橋亭/壺涼園
 3849 楓溪(ふうけい・木山きやま、名;娶、中島官兵衛男) 1788-1865 78 備後東条の生、
 備中新見藩医木山貞策の養嗣子、儒者・朱子学;丸山松隠・古賀精里・長野賀山門、
 新見藩士/文政1818-30頃勘定頭兼町奉行、天保1830-44頃加判列/嘉永1848-54頃致仕、
 「奇縁行記」「語孟字義弁」「大名世紀」「中庸講義」「大学通疏附或問」著、
 [楓溪(;号)の字/通称]字;子文、通称;三介
 風卿(ふうけい・黒沢) → 四如(しよ・黒沢くろさわ、藩儒/易学) T 2 1 7 3
 風卿(ふうけい・小林) → 西岳(せいがく・小林こばやし、藩儒) 2 4 9 0
 H3807 風月(ふうげつ) ? - ? 江戸雑俳点者、1691不角「二葉之松」4句入、
 [癒いつきて逢ふ夜の肌の離るるな](二葉之松101、病気快癒後の恋人との再会)
 風月(ふうげつ;法名) → 時名(ときな・西洞院にしのだういん/平、廷臣/歌) J 3 1 5 0
 風月(ふうげつ・谷川) → 于喬(ゆきたか・谷川/尾崎、医/国学者) E 4 6 6 4
 風月(ふうげつ) → 正令(まさり・戸沢、藩主/歌人) G 4 0 2 4

- 風月(ふうげつ・江村) → 厚(あつし・江村えむら、藩士/勤王/斬首) B 1 0 3 0
 風月(ふうげつ・松浦) → 詮(あきら・松浦まつら、藩主/書/茶人) I 1 0 4 4
 風月庵(ふうげつあん) → 似雲(じうん; 法諱、真宗僧/歌人) 2 1 0 1
 風月庵(ふうげつあん) → 水樹(すいじゆ・福島ふくしま、俳人) E 2 3 6 4
 風月庵(ふうげつあん) → 景張(かげはる・高橋たかはし、歌人) U 1 5 9 4
 風雲庵随翁(ふうげつあんずいおう) → 忠永(ただなが・本多、藩主/歌学・俳) Q 2 6 3 3
- 3850 **風月庵眉住**(ふうげつあんまゆづみ、姓; 内田)?-? 江戸内神田弁慶橋畔の狂歌作者・初世桂眉住門、師没後2世を嗣、1835「まつの煙」著、37「狂歌職人尽花鳥集」編、
 [風月庵眉住(;号)の通称/別号]通称;清兵衛、別号;風月庵友俊(;初号)/桂かつら眉住2世
 風月翁(ふうげつおう) → 定信(さだのぶ・松平、寛政改革・随筆) 2 0 2 2
 風月皆宜楼主人(ふうげつかいぎろうしゅじん) → 鳳羽(ほうう・大竹、藩儒者) 3 9 1 6
- 3851 **風月窩光端**(ふうげつかこうたん、姓; 水津/名; 光端/号; 風月窩)?-? 周防徳山の連歌作者; 里村昌億門、俳人、1703「花玉集千句」著
 風月館(ふうげつかん) → 誉正(たかまさ・桂かつら、庄屋/国学/歌) D 2 6 7 6
 風月間人(ふうげつかんじん) → 菊泉(きくせん・河合かわい、藩士/儒者) I 1 6 4 6
 風月閑人(ふうげつかんじん) → 正令(まさのり・戸沢、藩主/国学/歌) G 4 0 2 4
 風月斎(ふうげつさい) → 耕雨(こうう・箕浦みのうら、藩士/儒者) G 1 9 6 4
 風月史生(ふうげつしせい) → 芳樹(よしき・近藤/田中、国学者/歌) 4 7 0 9
 風月主人(ふうげつしゅじん) → 愚極(ぐきよく; 道号・礼才、臨濟僧) C 1 7 3 3
- 3852 **風月庄左衛門**(初世ふうげつしょうざえもん、姓; 沢田さわだ、名; 宗智/宗知)?-? 京の二条通観音町の書肆、江前期に儒仏・医書を出版、1627「長恨歌伝」28「国花集」「医法明鑑」29「荘子膚齋口義」刊行、「風月庄左衛門日曆」は子孫の沢田一斎(5世庄左衛門?)著、
 [風月庄左衛門(;通称)の別通称/号]別通称; 風月庄左衛門、号; 風月堂
 風月庄左衛門(5世?ふうげつしょうざえもん) → 一斎(いっさい・沢田、書肆風月堂中興) B 1 1 4 2
 風月太郎(ふうげつたろう) → 琴堂(きんどう・加部かべ、名主/俳人) R 1 6 4 8
 風月亭(ふうげつてい) → 紅塵(こうじん・伊藤、商家/俳人) J 1 9 9 2
 風月堂(ふうげつどう) → 風月庄左衛門(初世ふうげつしょうざえもん、書肆) 3 8 5 2
 風月堂(5世?ふうげつどう) → 一斎(いっさい・沢田、重淵、書肆) B 1 1 4 2
 風月堂(ふうげつどう) → 直昌(なおまさ・渡辺/渡部、医者/歌) C 3 2 4 1
 風月楼(ふうげつろう) → 貞起(さだおき・萩原はざむら、商家/歌人) F 2 0 2 4
 風月楼(ふうげつろう) → 牛山(きゅうざん・箕田みた、書家) M 1 6 6 7
 風月楼(ふうげつろう) → 一枝(いっし・風月楼、洒落本) H 1 1 2 4
 風月楼(ふうげつろう) → 敏政(としまさ・上代かみしろ、歌人) U 3 1 8 1
- 3853 **楓軒**(ふうげん・小宮山こみやま、名; 昌秀まさひで、東湖男)1764-184077 江戸の儒者: 水戸藩儒立原翠軒門、1783水戸彰考館入; 大日本史校訂に従事、藩の郡奉行/町奉行/側用人を歴任、農政に精通、庶民教育に尽力/1838致仕、古文書蒐集/致仕・史書編纂、1814「水府志料」18「耆旧得聞」、1818-30「楓軒史料」29「水城金鑑」編、29「農政座右」30「盈筐録」、「燕石録」「実賓録」著、「楓軒紀談」「小宮山楓軒随筆」著/「小宮山楓軒叢書」「小宮山叢書」「小宮山家集」編外多数、
 [楓軒(;号)の字/通称/別号]字; 子実、通称; 造酒之介みきのすけ/次郎衛門、初号; 芙蓉楼/忍亭
 風軒(ふうげん・中山) → 信正(のぶまさ・中山/丹治、藩家老/歌) D 3 5 2 7
 風軒(ふうげん・大場) → 一眞斎(いっしんさい・大場おおば、藩士/歌) C 1 1 8 6
 風軒(ふうげん・間宮) → 定安(さだやす・間宮まみや、藩士/国学者) P 2 0 3 5
 風軒(ふうげん・豊島) → 権平(ごんべい・豊島とよしま、砲術家) P 1 9 2 8
 風軒(ふうげん・井手) → 今滋(いましげ・井手いで/橘、曙覧男/藩士/歌) D 1 1 1 4
 風軒(ふうげん・出雲寺) → 興通(おきみち・出雲寺いずもじ、神職) D 1 4 8 5
- 3854 **風弦**(ふうげん) ? - ? 伊勢の俳人; 芭蕉門/号は師から受く、
 1694其角「枯尾花」98「続猿蓑」1句入、
 [籠相そうなる膳ぜんは出されぬ牡丹かな](続猿蓑; 下/籠相は粗相; そまつ/牡丹の贅沢さ)
 風幻重(ふうげんあ) → 幻阿(げんあ・小渕おぶら、俳人) H 1 8 6 0

風弦斎(ふうげんさい) → 長教(ながのり・駕河おこ/駕氷、医者/歌) L 3 2 5 5

- 3855 風虎(ふうこ・内藤ないとう、名; 頼長/義概よしむね/義泰よしやす、忠興男) 1619-8567 奥州磐城平藩主;
1670襲封、従四下左京大夫、風流を愛し俳諧・歌を嗜む; 一藩の風雅盛行、
歌; 中院通村/鳥丸光広門、俳諧: 貞門/のち談林門、句合を主催/撰集を編纂、
「続類題和歌集」「磐城風土記」編纂を下命、蒐集した和漢書に蔵書印[牘庫]の押印、
義英[露沾るせん]・義孝の父、宗因・重頼・季吟らと交流、義英と不和/義孝を寵愛し嫡子とす、
のちの藩内紛の起因、1685(貞享2)没、
1666「夜の錦」編/72「奥州名所百番発句合」催・編、74「桜川」編、77「六百番誹諧発句合」催・編、
1678「五百番自句合」編、「志太の浮島」、「左京大夫義泰家集(風山公御集)」、「義泰公家集」著、
歌; 了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]2首入、
[鳳凰か今朝はさとりが鳴く吾妻の春](1680言水「江戸弁慶」入/新春の句)、
[初瀬山入相の鐘は響けども尾上の雪に暮ぞ残れる](若むらさき:100/雪の歌)、
[風虎(;号)の幼名/別号]幼名; 万菊、別号; 風鈴軒ふりょうけん/風鈴子ふりょうし/風山/紫硯/紫軒/
紫苔/白藤子、岩城之住(匿名)、法号; 花鈴院/華齡院/美鈴院風山
- 3856 風悟(ふうご・松尾まつお/修姓; 松、名; 隆弘、十郎左衛門男) 1732-181584 紀州和歌山藩士; 父の嗣、
徳川重倫・治貞・治宝3代に仕、俳人: 桃花庵貫考門; 破門/五竹坊門; 文台を授与、画に長ず、
1770「浦の賀」80「花すし」編/89「正風発句大概」94「俳諧こたつや」1801「去年の夢」著、
「此比草」「傘狂責」「和歌浦名所絵巻」「風悟文集」、1814「俳諧百画賛」著、門弟多数
[風悟(;号)の幼名/通称/別号]幼名; 熊之助、通称; 三七、
別号; 槐亭/塊亭/愧亭/風後/木鶏子/欠伸子/松塊翁
- 3857 風五(楓吳ふうご・小林こばやし、通称; 喜左衛門、一步男) 1742-9150 羽前山形旅籠町の薬種・紅花商、
俳人: 1747(16歳)獅子門、祖父十歩・父一步と共に俳諧を嗜む、1749坂部壺中門・以哉坊門、
1768壺中没後出羽国宗匠位を継嗣/1775頃から家産傾く、
1780前句付「田舎曲紅畠いなかふりべにばたけ」編、「水蛙集」「忠臣蔵」「俳諧百首」「雛の寝言」著、
「みねの月」編、「長谷堂八景」「五月物語」「追善臙影」著、
追善集「雪の朝」(1791門人文和編)、
[風五(;号)の別号]別号; 不二庵/白雪廬/いろは坊一二/春哉庵春哉/雪果坊/淡井舎、
淡井斎/秋江斎楓吳、法号; 明誉源洞風五居士
- 風後(ふうご・根岸) → 涼宇(りょうう・根岸ねざし、商家/俳人) G 4 9 2 8
風後庵又夢(ふうごあんゆうむ) → 又夢(ゆうむ・風後庵、久保、茶人) D 4 6 8 4
- 3858 風光(ふうこう・和知わち: 姓) 1701-175555 磐城白河の俳人: 初世湖十門/江戸住: 蝦夷行脚、
江戸のほか白河・盛岡・秋田など奥羽各地に門弟、1753「宗祇戻そうぎもどり」編、
[風光(;号)の別号] 灘風たんぼう/逐里/宝奥/夕顔庵/言寓斎/雷軒舎らいかんしゃ/月窓/山海堂、
長鼠斎/巽二坊そんにぼう
- 3859 風香(ふうこう・田中たなか) 1814- 188269 紀伊和歌山藩士、俳人: 白瑛(家老久野純固)門、
「桃のこつぶき」編、
[風香(;号)の通称/別号]通称; 幸之丞こうのすけ/忠右衛門、別号; 一炉庵
- 3860 楓江(ふうこう・嶺田/峰田みねた、名; 雋/宣俊、藩士矩俊男) 1817-188367 木村本太郎女、丹後田辺藩士、
藩校世話人/槍術稽古世話役、儒: 江戸の佐藤一斎・林復斎・梁川星巖門/蘭学; 箕作阮甫門、
諸国歴遊/1843蝦夷巡見; 開拓・防備を主張、1849「海外新話」著; 幕府の忌避投獄; 三都払い、
1854ペリ一再来時に開国を主張; 米使節一員に参加、田辺藩帰藩/1864禁門変に禁裏警固、
維新後は上総で子弟教育、1843「安房国志」編、詩; 1845「玉池吟社詩」共編(雲如・雲濤と)
1849「英吉利国紀略」、「峰田生蝦夷記聞」「鈴林けんりん随筆」「房総雑記」「啓蒙聖經図記」著、
[楓江(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名; 仙五郎、字; 士徳、通称; 右五郎/字五郎、
別号; 楓江釣人/紫清、法号; 光琢亀俊居士
- 3861 風篁(ふうこう・中村なかむら/本姓; 藤原)?-? 常陸下館の俳人: 巴人系の門、
「門瑟7回忌俳句集」編、
[風篁(;号)の通称/別号]通称; 兵左衛門、別号; 風篁庵/乱竿らんかん/常陽陳人
- 風篁庵(ふうこうあん) → 風篁(ふうこう・中村/藤原、俳人) 3 8 6 1
楓江(ふうこう・山田) → 常典(つねのり・山田/平井、国学/歌人) D 2 9 2 0

- 楓江(ふうこう・富士田) → 吉治(きちじ・富士田ふじた、長歌唄方) 1 6 2 0
 楓巷(ふうこう・関) → 鉄之介(てつのおすけ・関、藩士/桜田門外変) C 3 0 5 9
 風香(ふうこう・竹内) → 玄洞(げんどう・竹内たけのうち、蘭方医) L 1 8 9 5
 風香(ふうこう・鈴鹿) → 貞郷(さださと・鈴鹿すずか/中臣、神職/歌) O 2 0 7 1
 風航(ふうこう・転蓮社) → 了吟(りょうぎん; 法諱、浄土僧) H 4 9 0 9
 楓紅庵(ふうこうあん) → 秋虎(しゅうこ・垂井たるい、藩士/歌人) X 2 1 1 6
 H3892 風香一(ふうこういち; 検校) ? - ? 江後期; 歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [光みぬ我が身ながらも人並にくもるはいとふ望の月影](大江戸倭歌; 秋843、
 十五夜雨降るけるに)
 3862 風光齋(ふうこうさい) ? - ? 江戸中期江戸の俳人;
 1778「初鶉」編(自序/花屋久次郎板/江戸の宗匠25人の高点付句集)
 楓江釣人(ふうこうちようじん) → 楓江(ふうこう・嶺田/峰田、藩士/詩) 3 8 6 0
 3863 風黒(ふうこく・梅林軒) ? - ? 江前期大阪の俳人: 西鶴門、
 1682(天和2)「高名集こうみょうしゅう」編(西鶴の自画自筆による宗因以下66人の絵入発句集)
 3801 風国(ふうこく・伊藤いとう、通称; 玄怨、伊藤宗怨男?) ?-1701 京の医者/古医方家: 名古屋玄医門、
 俳人: 芭蕉門、1695「病家要論」、96「初蟬」97「菊の香」98「泊船集」編、1702轍士「花見車」入、
 [雨の間まを鳴きふさぎけりほととぎす](花見車; 四131/おくに名/東華集入)
 3864 風谷(ふうこく・金沢、別号; 鳩来庵) 1778-1836 59 江戸の俳人: 素丸門、1811「春興」編、16「春駒集」、
 1823・26・31「芳春帖」32・34「芳春帳」、鳩来庵風谷句集著
 風谷庵(ふうこくあん) → 文東(ぶんとう・弄風庵、俳人) G 3 8 2 9
 風居士(ふうこじ) → 三千風(みちかぜ・大淀、俳人) 4 1 0 3
 3865 諷沙(ふうさ) ? - ? 安藝厳島の俳人; 野坡門、1739詩歌連歌俳集「厳島八景」共撰、
 「うたかたや薬の水に啼く千鳥」(1752野坡追善「十三題」入)
 風左庵(ふうさあん) → 馬六(ばろく・寺村てらむら、俳人) H 3 6 1 4
 3866 風齋(ふうさい・春灯房しゅんとうぼう) ?-? 江中期俳人: 蓼太門、蓼太編「嵐雪追善; 続其袋」校訂、
 1760「僧都問答」著、1761「風月帖」編
 3867 楓齋(ふうさい・森もり/本姓源、名; 愿) ?-? 江末期江戸入谷日出稻荷の書家/儒者、
 1827辞書「雅俗幼学新書」編
 [楓齋の字/通称/別号]字; 叔恭、通称; 愿蔵、別号; 梅荘
 風齋(ふうさい・夷曲庵) → 貞風(さだかぜ・橘、狂歌) B 2 0 7 6
 風齋(ふうさい・淀川) → 盛品(もりただ・淀川よどがわ、藩士/民俗調査) F 4 4 6 2
 楓齋(ふうさい) → 源愿(げんげん・森) B 1 8 6 7
 楓齋(ふうさい) → 渭南(いなん・片岡、俳人) B 1 1 0 5
 風齋(ふうさい・稻梁軒) → 稻梁軒風齋(とうりょうけんふうさい、歌人) I 3 1 3 2
 風佐坊(風左房/楓左坊ふうさぼう) → 馬六(ばろく・寺村てらむら、俳人) H 3 6 1 4
 楓左堂(ふうさどう、楓左楼) → 馬六(ばろく・寺村てらむら、俳人) H 3 6 1 4
 3868 風山(ふうざん・柴田しばた、名; 成章) 1655-1728 74 筑前の儒者: 貝原益軒門、
 1671(寛文11)福岡藩の儒官、「五竜日記」著; 筆禍; 小呂島流罪、1699(元禄12)赦免; 博多住、
 書の師範を業、「桜井難題記」著、
 [風山(;号)の字/通称/別号]字; 文進、通称; 文之丞、別号; 随菴/朴翁/漸齋
 3869 楓山(ふうざん) ? - ? 江前期京の俳人/雑俳; 1696円水「住吉おどり」入
 3870 風山(ふうざん・谷島、東白軒/天臈堂) ?-? 京の俳人; 方山門、1702轍士「花見車」評判入
 3871 風山(ふうざん) ? - ? 江前期大阪の俳人/雑俳点者、
 1696円水「住吉おどり」入、1702「寄相撲」前句付入
 風山(ふうざん) → 風虎(ふうこ・内藤義泰、藩主/歌/俳人) 3 8 5 5
 風山(ふうざん、風山軒) → 貞吉(さだきち・今井、医/博物学者) I 2 0 0 9
 風残(ふうざん) → 英重(ひでしげ・山澄やまづみ、藩家老/和学) M 3 7 1 8
 風山房(ふうざんぼう/風山楼) → 柳涯(りゅうがい・曾根そね、篆刻家) D 4 9 2 1
 3872 風子(ふうし・竹葉軒) ? - ? 京三条通川原町の俳人; のち越前住、

1691江水「元禄百人一句」/1702轍士「花見車」1句入、
[年暮れてせかする物よ琴の音](元禄百人一句;91)

- 3873 風子(ふうし) ? - ? 伊勢俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- 3874 風子(ふうし) ? - ? 江戸雑俳点者、1691不角「二葉之松」入、
1702松淵「冠独歩行」/松葉軒「あかゑぼし」入/鷺水「若ゑびす」入
- H3808 風芝(ふうし) ? - ? 江戸雑俳点者、1691不角「二葉之松」入、
[花の露吸すて廻りし我は蝶](前句;かはゆがられて暮すなりけり、二葉之松39)
- 3875 風之(ふうし・額田ぬかた) 1687 - 1747 61 大和額田の出身、俳人;1716頃野坡門、
熊本で旅先の野坡に入門;梅従と並ぶの高弟、1727-8頃京寺町通に書肆;野坡門俳書を刊、
1737「六行会」(野坡梅従と共編)40「三日之菴」41「軽口はる袋」43「屋土里塚」(梅従と共編)、
「野坡吟草」編(1759文下刊行)、「誹諧耳底記」、追善集「かくれ蓑」(息子文下編)、
[風之(;号)の通称/別号]通称;正三郎/庄三郎、別号;九十九庵つくもあん/一步人、文下の父
- 3876 風紫(ふうし:号、法諱;賢嶺、別号;得失檐とくしえん) ?-1799? 安藝広島の本願寺派永照寺7世、
俳人;野坡/風律門、1773「鼠のみゝ」編、「霸王樹集」編、刷物;1792[得失檐月次余興]、
[此この夏行げぎやう苗に水かけ垣摘まん](「鼠のみゝ」)
- 風子(ふうし・西田) → 美英(よしひで・西田にしだ、郷土史家/俳) G 4 7 3 8
- 風姿園(ふうしえん) → 可葉(かよう・風姿園、浅井ゆき、俳人) P 1 5 6 1
- 風室(ふうしつ・十時) → 惟保(これやす・十時とき/大神、藩士) G 1 9 1 1
- 楓室(ふうしつ・藤井) → 好方(よしかた・藤井ふじい、藩士/藩助教) O 4 7 8 5
- 風耳坊(ふうじぼう) → 紫麦(しばく;号・野田のだ、俳人) V 2 1 4 6
- 3877 風車(ふうしゃ) ? - ? 江中期江戸日本橋雑俳点者、1777刊「芝さかな」入、
狂歌;橋州門/1782橋州「狂歌若葉集」入
- 風車軒(ふうしゃけん・牧野) → 成信(なりのぶ・牧野、紀行文) H 3 2 9 3
- 3878 風舟(ふうしゆう) ? - ? 大阪の俳人;1691賀子「蓮実」1句入、
[常よらぬ徒弟尋ぬる時雨哉](蓮実;377/雨宿りに弟子の家に立寄った)
- 楓樹園(ふうじゆえん) → 祐義(すけよし・長治ながはる、庄屋/歌人) D 2 3 2 6
- 楓所(ふうしよ・鷹見) → 泉石(せんせき・鷹見たかみ、家老/和漢学) M 2 4 7 8
- 風梳庵(ふうしよあん) → 川柳(4世せんりゆう、幕臣/雑俳点者) 2 4 4 2
- 3879 風蕉(ふうしゆう・中寺) ? - ? 奥州岩城の俳人;
1669風虎催「百番俳諧発句合」右方参加;玖也判
- 3880 風松(ふうしゆう・小出こいで、通称;熊之助、別号;一斎) ?-? 江後期俳人;5世宗瑞門、1818「旦暮吟」編
- 風牀(ふうしゆう) → 教存(きょうそん;法諱・快行、真言詩僧) O 1 6 2 6
- 3881 風丈(ふうじゆう・万花堂) ? - ? 江中期江戸の俳人/雑俳:
1762風丈如露評万句合を催;その前に啓蒙書「前句附初心抄」編、1796-7「古今前句集」入
- 3882 風状(ふうじゆう・正木まさき) 1713-1764 52 京の新町綾小路の俳人;羅人門、1746立机、
1746立机記念「正木のかつら」編、48「ひろはとり」(貞至・五始・慶山と共編)、
1748「飯富士」編/50「きき盃」「よし簾」編/54「行合田ゆきあひた」56「みつかなわ」編、
1756-11「宝曆除元集」64「除元集」編、「誹諧志ぼ竹」「誹諧一年尺」「誹諧五手船」外多数、
[風状(;号)の別号] 長牙(;初号)/風雲斎/新綾軒
- 風塵翁(ふうじんおう/風塵道人) → 延年(えんねん・山口墨山、篆刻/俳) C 1 3 1 9
- 3884 風水(ふうすい・日置へき、島しま倫重男) ?-1709 日置家の養嗣/出雲出雲郡日御碕神社神官、
和漢学;橋義俊門、俳諧・和歌に志し諸国行脚/晩年帰郷、古文書整理・著述活動に専念、
1672「東都紀行」(参勤交代に供奉;江戸から信州追分までの見聞録)著、
1688不ト「続の原」2句入/91「元禄百人一句」入、
1691門弟都水「風水塵ふうすいちり」に発句紀行書簡等入、
1705「隠岐のすさび」編、追善集「すがむしろ」、
[掃除して置きたる人の清水かな](続の原;十二番左47)、
[風水(;号)の名/通称/別号]名;瞳/卷男/彦雄、通称;主殿とのも/肥富/又彦雄、
別号;有声/空原舎/空原斎/天一散人/天山空/源金、
- 3883 風睡(ふうすい・浅井あさい、通称;利右衛門) ?-1701 伊賀上野の藤堂藩士/俳人;芭蕉門、

1694「枯尾花」95浪化「有磯海」入/98「続猿蓑」4句入集、法号;紅樹院

[行ゆきつくや蛙かはの居する石の直るく](続猿蓑;卷下/直は安定したさま)

H3870 **楓水**(ふうすい) ? - ? 江中期俳人、1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
[三絃の駒かはつれて秋の蟬](伊丹発句合;秋)

風水(ふうすい・水野) → 重孟(しげたけ・水野みずの、藩士) R 2 1 2 7

風水(ふうすい・日置) → 彦雄(ひこお・日置へき/島、神職/俳人) K 3 7 9 2

風水園(ふうすいえん・松浦) → 星洲(せいしゅう・松浦まつら、易占家) B 2 4 9 9

風水翁(ふうすいおう) → 幸和(よしかず・吉見/菅原/源、神職/国学) 4 7 0 6

風水軒(ふうすいけん) → 白玉(はくぎやく・正親町公通、歌/狂歌) 3 6 0 8

風水散人(ふうすいさんじん) → 幸和(よしかず・吉見/菅原/源、神職/国学) 4 7 0 6

風水坊(ふうすいぼう) → 東子(とうし・竹塚たけのつか、合巻作者/俳) 3 1 1 4

風生(ふうせい・伊藤) → 義足(よしたり・伊藤/伊東、商家/歌人) E 4 7 4 4

風声堂(ふうせいどう) → 素輪(そりん・松井まつい、俳人) E 2 5 5 4

3885 **風石**(ふうせき・宮地みやじ) 1723-1785 63 尾張名古屋藩士/熱田の俳人:横井也有を世話した、
1775「二度笠」編、

[風石(;号)の別号] 木兎坊/幽篁/桂坊、法号;桂光院

風石(ふうせき・津軽) → 朝喬(ともたか・津軽、藩士/雑俳) P 3 1 6 4

3886 **風泉**(ふうせん) ? - ? 俳人;1689「あら野」1句入、
[ほとゝぎす十日もはやき夜舟よぶね哉](あら野;二/淀にて/陰暦10日の夜航乗合舟)、
(本歌;いづ方に鳴きて行くらむ時鳥淀のわたりのまだ夜深きに[拾遺;113・壬生忠見])

3887 **風仙**(ふうせん) ? - ? 出羽俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入

H3809 **楓川**(ふうせん、橋屋吉右衛門)?- ? 京島原の橋屋の主人/俳人;淡々門、
1728柳岡「万国燕」23句入

風船子(ふうせんし) → 定重(さだじげ/ていちょう・端はた、俳人) F 2 0 2 8

楓川市隠(ふうせんしん) → 可侯(かこう・一筆庵、溪斎英泉、絵師/戯作) 1 5 1 3

楓川舎(ふうせんしゃ) → 黄金升成(こがねますなり、商家/狂歌) L 1 9 9 3

楓川亭(ふうせんてい) → 水旭(すいぎやく・楓川亭、俳人) 2 3 4 0

G3890 **風前雲叟**(ふうぜんのかもすけ、縣升見)?-? 狂歌;1785「後万載集」1首入、
[一年ひとせは酒にひたりて過してきこの世はさめて夢にぞありける](後万載集;675)
(本歌;百年の花に宿りて過してき此の世は蝶の夢にぞありける;詞花集/大江匡房)

風梳庵(ふうそあん→ふうしよあん) → 川柳(4世せんりゅう、幕臣/雑俳点者) 2 4 4 2

3888 **風草**(ふうそう・林はやし、名;宗弥) 1689-1761 73 出羽鶴岡三日町の米問屋、俳人:1728支考門、
深沢嵐七と鶴岡で美濃派俳諧の普及に尽力、美濃派出羽初代宗匠を名乗り門弟多数、
書画も嗜む、1728「俳諧哥まくら」編、

[風草(;号)の通称/別号]通称;太郎兵衛、別号;一株林/柳下斎、法号;眞月院

3889 **風窓**(ふうそう・狐塚) ? - ? 奥州岩代俳人;

1669風虎催「百番俳諧発句合」左方参加;玖也判

3890 **風窓**(ふうそう) ? - ? 俳人;1702鷺水「若えびす」入

風窓(ふうそう・恋稻庵) → 湖十(3世こじゅう・深川、2世養子/俳人) C 1 9 8 4

風叟(ふうそう・緑亭) → 川柳(5世せんりゅう、雑俳点者/草双紙) 2 4 4 3

楓窓(ふうそう・孫福) → 公裕(きみひろ・孫福まごぶく/度会、神職/詩) M 1 6 0 7

楓窓(ふうそう・木村) → 滌庵(せつあん・木村きむら、医者/儒/詩文) K 2 4 6 7

楓窓(ふうそう・酒井) → 抱一(ほういつ・酒井さかい、絵師/俳人) 3 9 1 3

楓窓(ふうそう・小林) → 辰(たつ・小林、医者) R 2 6 5 2

楓窓(ふうそう・樋口) → 義所(ぎしよ・樋口ひぐち、藩士/儒者) F 1 6 5 2

3891 **風蔵**(ふうそう・三角みすみ、名;正中/正方、池田屋又三郎男) 1784-1868 85 越中河北郡二日市の農家、
1810加賀金沢藩足軽/江戸との往還に本多利明に従い測量/1822金沢分間地図作製、
藩主より三角風蔵の名を賜る/1843能登半島の測量/藩の風炮管理、58退隠、「三角袋」編、
[風蔵(;賜名)の別通称]庄左衛門

風草軒(ふうそうけん) → 種寛(しゅかん・朝江/浅江、俳人) K 2 1 5 7

- 3892 **楓村**(ふうそん・池永いけなが、名;寛/字;仲栗)1802-31³⁰ 紀伊の儒者:詩人、「楓邨詩稿」著
風孫(ふうそん・座光寺) → 列(れつ・座光寺どうじ/山村、為巳後妻/歌) B 5 1 5 2
- H3868 **風知**(ふうち) ? - ? 江中期;撰津住吉郡平野庄の俳人、
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、
[飛梅に手向け焦がすの時雨かな](しぐれの碑/発句)
- 3893 **風竹**(ふうちく) ? - ? 京の俳人;1729隆志「俳諧草結」発句1句入
狂歌;1742百子「狂歌時雨の橋」入
[時雨行く日の清水きよみづを五色かな](俳諧草結;202/清水舞台からの眺/五色は色の変化)
- 3894 **風竹**(ふうちく・半楊庵はんとうあん/文笑庵)?-? 江中期江戸俳人:寸長門、美濃派・四大家じだい流の祖、
1746「百轉ももさえずり」編(俳文[炬燵の説][示鼠辞]所収)
風竹(ふうちく・蟻門亭) → 之道(しどう・槐本えのもと、商人/俳人) F 2 1 2 4
風竹舎(富竹園ふうちくしや) → 知十(ちじゅう、川瀬/河瀬、俳人) E 2 8 3 4
風竹亭(ふうちくてい) → 実紀(さねえ・姉小路あねがこうじ/藤原、廷臣/歌人) D 2 0 4 5
風兆(ふうちよう・山村) → 良喬(たかてる・山村やまむら、藩代官/俳人) M 2 6 3 4
風鳥庵(ふうちようあん) → 不見(ふけん・横井よこい、商家/茶道) B 3 8 7 5
- 3895 **楓亭**(ふうてい・福井ふくい/修姓;福、名;輓/立啓/啓発)1725-92⁶⁸ 京の医者:菅隆伯門/諸医方を折衷、
黒門武者小路上ルで開業医/1790江戸に招聘;躋寿館(のち幕府医学館)で講義、
1792内直;製薬所の監、福井家は室号崇蘭館と称し善本秘籍蒐集、「楓亭脉学」「楓亭腹診」、
「温疫論」「温疫論俗釈」「崇蘭館方藪」「崇蘭館試験方」「楓亭先生方藪」「楓亭先生病因解」著、
[楓亭(;号)の字/通称]字;大車、通称;柳介/立介りゅうすけ
楓亭(ふうてい・堀) → 貞恒(さだつね・堀ほり/菅原、医者) I 2 0 6 4
楓亭(ふうてい・加藤) → 景延(かげのぶ・加藤かとう、医者/国学) U 1 5 0 7
- 3896 **風笛**(ふうてき) ? - ? 比叡山僧?/俳人;芭蕉門、1689「あら野」入
- H3810 **風笛**(ふうてき) ? - ? 京俳人;1729隆志「俳諧草結」発句入
あら野俳人風笛と同一? → 風笛(ふうてき、芭蕉門) 3 8 9 6
風顛(ふうてん・松本) → 月痴(げつち・松本、蔵書/窮民救済) H 1 8 2 5
- H3803 **風兎**(ふうと・小倉おぐら、別号;多辱庵)1724-1802⁷⁹ 安藝廿日市の医者/俳人;刷物「春興」「兼題蟬」
- H3811 **風堂**(ふうどう) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」5句入
楓洞(ふうどう、楓洞逸人) → 延年(えんねん・長谷川、劍術/篆刻家) B 1 3 3 1
楓堂(ふうどう) → 幻阿(げんあ・小淵おぶち、俳人) H 1 8 6 0
風杜月柏陳人(ふうとげつぱくちんじん) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1
- 3897 **風徳**(ふうとく・小林こばやし、名;珠淵)?-? 江中期江戸の俳人:祇徳門、漢学;片山兼山門、
1783頃丹波園部藩に仕官?、1773「芭蕉文集」編/序(;芭蕉文集の最初)、「日本馬経」、
「卜子夏易伝」、「竜山先生文集」著、兄芦水(1740没)も同門俳人、
[風徳(;号)の字/別号]字;子淵、別号;竜山/因南/吸月房
風二(ふうに) → 奚花坊(けいかぼう・青木、俳人) 1 8 4 1
- 3898 **風麦**(ふうばく・小川おがわ、名;政任まさとう)?-1700 伊賀上野藩士/俳人;芭蕉門、梢風尼(俳人)の父、
1694「枯尾花」/95浪化「有磯海」/91「猿蓑」3句/98「続猿蓑」3句入、
[淡雪や雨に追はるゝ春の笠](続猿蓑;巻下)
[風麦(;号)の通称] 次郎兵衛
参考 → 梢風(松風しょうふう、俳人) B 2 2 3 5
- 3899 **風瀑**(ふうばく・松葉まつば) ? - 1707 伊勢大世古の伊勢神宮年寄師職松葉七郎大夫家、
江戸の出店を経営/俳諧:一品門、芭蕉・素堂・其角と交流、1685「一楼賦」編(;信徳歓迎会)、
1686帰郷;「丙寅へいん紀行」著、87一昌「丁卯集」入、89父没後は家業に専念、
[牛と寝て葦すれに妹を思ふかな](一楼賦)、
[風瀑(;号)の通称/別号]通称;七郎大夫、別号;垂虹堂、法号;悦山浄喜禅定門
風帆堂(ふうぼんどう) → 庸修(つねなが・平野、医/暦算/史家) C 2 9 8 5
- B3800 **風瓢子**(ふうひょうし、姓名不詳)?-? 江前期浮世草子作者:1711-18頃八文字屋自笑の代作者、
1716「曾我鎌倉飛脚」著
未練と同一? → 未練(みれん、浮世草子) H 4 1 3 1

- 風々曲(ふうふうきょく) → 大蕪(たいぶ・鼠屋、俳人) C 2 6 1 3
- B3801 風物(ふうぶつ・大莫陳人) ? - ? 談義本作者;
1763「俗談唐詩選」;芝浦沙彌自然坊の序(序も作者か?)
- H3855 風包(ふうほう) ? - ? 江前期上州安中の俳人;1694不角「うたたね」入、
[頼朝の果くわは鷹たか犬は義経ぎけいにて](うたたね/諺;犬は骨折って鷹に食わる)、
(弟の手柄を食って將軍となる)
- 風木庵(ふうぼくあん) → 渡牛(とぎゅう・風木庵、俳人) K 3 1 2 5
- H3812 風民(ふうみん) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入
- B3802 風鳴(ふうめい・東雲軒) ? - ? 江中期阿波の僧侶/俳人:才麿/言水らと交流、
1714「俳諧中道集」著
- I3886 風也(ふうや) ? - ? 江前中期;歌人、伝不詳、
1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、
[定めなき世のならひにやうき秋もくるゝとなればまた惜しむらん](若むらさき;84)
☆刈谷本一人一首の[清水巴齋牽流]の注に[風也・風竹]とある
- H3871 風也(ふうや) ? - ? 江中期俳人;3世湖十(前号;風也)門、
1773馬卵「双猿路談そうえんろだん」入(;3世湖十を中心)、
[惟茂これもちも心ゆるして桜かな](双猿路談、
謡曲紅葉狩;平維茂は紅葉見物で鬼神に襲われる)
- B3804 風也(ふうや・甲田こうだ) ? - ? 1803存 大阪伏見町の音曲家/琵琶:岸部檢校門、
師より[撥の法]を伝受/臥雲(小山蓬吾)に伝授、香川景樹と交流、「琵琶撥附」(伝授)、
風也(ふうや・井上) → 紀逸(2世きいつ・慶、俳人) 1 6 7 2
風也坊(ふうやぼう) → 惟草(いそう・黒川くろかわ、書家/俳人) B 1 1 0 4
風諭子(ふうゆし) → 傘狂(さんきやう・大野おおの、俳人) E 2 0 2 1
- B3805 風葉(ふうよう;号) ? - ? 江中期備後上下の俳人:蝶夢と交流、
1777「芳野行」編、82「道のしをり」編、
1774蝶夢「類題発句集」・90雅松「其みちのく」・95其両追善集「さゝ栗の露」入
- B3806 風陽(ふうよう・志継坊しけいぼう) ? - ? 江中期下総香取の俳人:2世宗瑞そうずい門、
1767「先手後手」(一叟兎什と共編)
- B3807 風陽(ふうよう・久松ひさまつ/本姓;菅原/修姓;菅、久松定朝男) 1785?-1871?87? 幕臣;1794家督、
尺八:3世黒沢琴古門、尺八の演奏と製作に長ず;琴古流中興の祖(4世琴古を後見)、
1818「独語」23「独問答」35「管銘録」38「海静法語」著、
[風陽(;号)の名/通称/別号]名;定晴、通称;雅五郎、別号;竹陰
風葉(ふうよう・中川) → 宗瑞(初世そうずい・中川、両替商/俳人) C 2 5 2 5
風葉(ふうよう・浅井) → 寥和(3世りょうわ・浅井、宗瑞4世/俳人) J 4 9 6 7
- B3808 風来(ふうらい・河原かわはら) ? - 1890 武蔵府中の戯作者:「改進黨新聞」寄稿、
1851「洗場手引草」、仮名垣魯文の勧めで風来山人三世を名乗る、「英和字彙」著、
[風来(;号)の通称/別号]通称;英吉、河丈紀/岡丈紀、別号;琴亭文彦/風来山人3世
風来閣(ふうらいかく) → 義端(ぎたん・永井ながい、藩士/詩人) L 1 6 1 9
風雷窟(ふうらいくつ) → 源助(げんすけ・村林むらばやし、商家/和漢学) N 1 8 9 9
風来山人(初世ふうらいさんじん) → 源内(げんない・平賀、儒/本草/戯作) 1 8 2 8
風来山人(2世ふうらいさんじん) → 中良(ちゅうりやう・森島/桂川、蘭学/戯作) 2 8 1 9
風来山人(3世ふうらいさんじん) → 風来(・河原、戯作者) B 3 8 0 8
風来散人(ふうらいさんじん) → 成卿(せいけい・杉田すぎた、医者/蘭学者) B 2 4 1 6
風羅堂(ふうらどう) → 惟然(いぜん・広瀬、俳人)?-1711 1 1 2 8
風羅堂(3世ふうらどう) → 千山(せんざん・井上、商家/俳人) F 2 4 4 7
風羅堂(ふうらどう) → 寒瓜(かんか・井上、千山男/俳人1687-1765) D 1 5 4 9
風羅堂(ふうらどう) → 兎夕(とせき・無耳庵、俳人)?-1784 O 3 1 2 8
風羅堂(2世ふうらどう) → 野坡(やは・志太、俳人;福山風羅堂創設) 4 5 1 2
風羅堂(3世ふうらどう) → 素浅(そせん・駒田、医者/俳人) D 2 5 9 3
風羅堂(4世ふうらどう) → 南河(なんか・安田、俳人) J 3 2 8 4

風羅堂(5世ふうらどう) → 李朝(りちよう・柴田、俳人) L 4 9 0 4
 風羅堂(8世ふうらどう) → 千明(せんめい、俳人) N 2 4 7 6
 風羅堂(9世ふうらどう) → 守三(もりみつ・葛垣、俳人)1777-1860 G 4 4 6 4
 風羅堂(ふうらどう) → 閑叟(かんそう・九々庵、俳人) R 1 5 2 4
 風羅坊(ふうらぼう) → 芭蕉(ばしょう・松尾、俳人) 3 6 1 7
 風羅坊(5世ふうらぼう) → 寒鳥(かんう・井上、俳人) G 1 5 0 9

B3809 風律(ふうりつ・木地屋きぢや、名;敏尹、2世木地屋保兵衛男)1698-1781⁸⁴ 安藝広島塩屋町の木地業、漆器商;3世を継嗣、俳人;吾竹・露川系の門/のち野坡門、1764頃に広瀬村油池に別邸;庭に船板で多賀城の碑を模造;遠近名勝の里程を示し多賀庵と称す、野坡門拡大に貢献、儒;栗栖庄三郎門/頼春水と親交、1750「浅緑」/60俳論「俳諧癖物語はいかいくせものがたり」著、1763「ささのほ」編/64紀行「紙魚日記」編/72・80「歳旦」編、「やまかつら」編/「小はなし」著、1776几董「続明烏」83維駒「五車反古」入、追善集「幻々集」(古江編)/「ゆふかほ集」(筵史編)、[降れふるな降るなふれ雪須磨の宿](短冊)、[風律(;号)の通称/別号]通称;木地屋保兵衛3世/彦兵衛、別号;浅茅庵/多賀庵たがあん、法号;風律以心道可居士

諷流庵(ふうりゅうあん) → 丈雪(じょうせつ・西村にしむら、俳人) T 2 2 8 8
 風流庵(ふうりゅうあん) → 正鉄(まさかね・井上/富田、神道家) C 4 0 1 7
 風流快史(ふうりゅうかいし) → 維則(これのり・西田、儒者/白話翻訳) O 1 9 6 9
 「通俗赤縄奇縁」記者は維則説と白駒説がある→白駒(はく・岡)3 6 2 1
 風流軒(ふうりゅうけん) → 方静(ほうせい・市川いちかわ、藩士/和算) C 3 9 0 1
 風流子(ふうりゅうし) → 滴水(てきすい・村山、俳人) C 3 0 0 2

風流侍従(ふうりゅうじじゅう); 神亀(724-9)頃聖武天皇近侍の風流な王たち
 [;延慶「家伝」下巻武智磨伝]

→ 門部王(かどべのおおきみ・大原真人、長屋王孫)?-745 1 5 2 6
 → 六人部王(身人部-むとべのおおきみ)?-729
 → 桜井王(さくらいのおおきみ・大原真人、川内王男)?-? B 2 0 4 9
 → 長田王(ながたのおおきみ、桜井王男)?-737 3 2 0 9
 → 小鯛王(おだいのおおきみ、置始多久美)万葉3期 1 4 3 6

B3810 風慮(ふうりょ) ? - ? 大阪雑俳点者;1696良弘「高天鶯たかまうぐいす」前句付入
 B3811 楓林(ふうりん・浅香) ? - ? 江前期俳人;1669季吟判「百五十番俳諧発句合」参
 H3813 風林(ふうりん) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入
 [口に似ぬ女房ぎらひの子を持ちし](二葉之松;402/口ばかりの女嫌い)

風鈴庵(ふうりんあん) → 何声(かせい・風鈴庵、神風館7世/俳人)M 1 5 6 1
 風鈴軒(ふうりんけん/ふりょうけん・内藤) → 風虎(ふうこ・内藤、藩主/俳人) 3 8 5 5
 風鈴軒(ふうりんけん/ふりょうけん・松岡) → 風鈴軒(ふうりょうけん・松岡/俳人;風虎の変名?) H 3 8 6 7
 風鈴山人(ふうりんさんじん) → 南畝(なんぼ・太田、四方赤良、狂詩歌) 3 2 3 3
 風鈴子(ふうりんし/ふりょうし) → 風虎(ふうこ・内藤義泰、藩主/歌/俳人) 3 8 5 5

B3856 風鈴先生泥郎(ふうりんせんせいでいらう)?-? 1764-72頃献笑閣「月花余情」江戸版再販;「陽台遺編」を合本洒落本の泥郎子と同一?ならば → 浚明(まつあけ・山岡、国学者) J 4 0 6 6

B3812 風芦(ふうろ・二沼) ? - ? 奥州岩城の俳人;
 1669風虎催「百番俳諧発句合」左方参加;玖也判

B3813 風芦(ふうろ) ? - ? 姫路俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
 風路(ふうろ) → 古声(こせい・越智、酒造業/俳人) D 1 9 0 7
 風浪(ふうろう・中村) → 信斎(しんさい・中村なかむら、漢学者) E 2 2 1 5
 風廬坊(ふうろうぼう) → 暮来(ぼらい・岡崎おかざき、俳人) E 3 9 7 9

B3814 風和(ふうわ・江原えはら)1652 - 1712⁶¹ 出羽最上郡大谷の神職/1711正六位/佐渡守、俳人;調和門、1698調和「洗朱」・1705等躬「一の木戸」入集、1709「梅の露」編、「把菅たばねすが」編集集中に京で客死;遺稿を息和牛が1713刊、調柯・和牛の父
 [風和(;号)の別号] 梅樹軒/梅寿軒/、壺竹軒
 風和(ふうわ・下郷しもさと) → 蝶羽(ちやうう・下郷/千代倉3世、俳人;1677-1741)

- B3815 **風話**(ふうわ・森川もりかわ) ? - ? 江中期俳人:五竹坊[1699-1779]門、
1745「春興三吟」編/91「俳諧ちもと」集編
[風話(;号)の別号] 送月庵/拾宇庵
武英(ぶえい・金谷) → 武英(たけひで・金谷かなや、藩士/紀行文) O 2 6 6 7
武英(ぶえい・小国) → 嵩陽(すうよう・小国おくに、儒者/国事) B 2 3 0 4
武盈(ぶえい・毛野) → 武盈(たけみつ・毛野けの、調料) O 2 6 7 9
不盈散人(ふえいさんじん) → 蕃山(ばんざん・熊沢、儒者/陽明学) 3 6 4 2
不易庵(ふえきあん) → 鶯室(おうしつ・中山なかやま、俳人) C 1 4 4 4
不易亭(ふえきてい) → 如松(じょしょう・寺戸てらど、里正/俳人) M 2 2 4 5
不易堂(ふえきどう) → 月邦(げっぽう・相沢あいざわ、俳人) H 1 8 3 9
笛大夫(ふえのたいふ;通称) → 有親(ありちか・藤原、歌人) B 1 0 7 7
武英(ぶえい) すべて → 武英(たけひで)
武衛公(ぶえいこう;諡号) → 義直(よしのぶ・徳川/源/松平、尾張初代藩主) 4 7 2 0
不易斎(ふえきさい) → 宗鎮(そうちん・三谷みたに、儒者/茶人) I 2 5 4 9
不易亭(ふえきてい) → 爾松(じしょう・寺戸、俳人) T 2 1 8 4
- B3816 **斧鉞**(ふえつ) ? - ? 俳人;一昌門、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
[炭木にも切りのこされし桜かな](丁卯集/四季懸;桜)
- B3817 **布悦**(ふえつ・柳斜亭) ? - ? 狂歌:1780梅好「大津みやげ」入
- B3818 **武日**(ぶえつ・宮沢みやざわ/宮本/春日、春日かすが源重郎男) 1776-1834⁵⁹ 信濃更級郡二ツ柳の俳人:
虎杖門/のち長翠門;冬日庵号を受く、1808宮本字声の養子;13不縁、
善光寺の饅頭屋宮沢家の養子、善光寺に庵住;俳諧宗匠となる、1823庵を門人月国に譲渡、
城山毘沙門堂に竜夢館を設立、京で絵師岸駒の食客となり画業・歌を嗜む、一茶と交流、
1810「庵ひらき」著、1813「故馬都比記こまひき」/19「夜のはしら」/27「続こまつひき集」編、
[武日(;号)の別号] 冬日庵ふゆのひあん/竜夢館、
- B3819 **武悦**(ぶえつ・千葉ちば) ? - ? 江後期撰津の和算家;福田金塘門、
1843刊「算題雑解前集」45「算法道標」編、
[武悦(;名)の通称/号]通称;五兵衛、号;金城
笛十(ふえとう・二条庵、俳人) → 三蔵(さんぞう・難波なにわ、浄/歌伎作) G 2 0 0 0
- B3820 **笛成**(ふえなり・麦原/樵歌亭) ?- ? 狂歌・頭光門、1789伯楽連
笛の舎(ふえのや) → 長世(ながよ・岩崎いわさき、国学/歌/神職) G 3 2 3 1
笛廼舎(ふえのや) → 茂世(しげつぐ・末永すえなが、藩士/歌人) Z 2 1 0 0
- B3821 **笛躬**(初世ふえみ・若竹わかたけ、別号;藤九郎/東九郎/東工郎) ?-? 浄瑠璃人形遣/浄瑠璃・歌舞伎作者、
1751頃-1766大坂豊竹座人形遣;第一人者/59-作者;中邑阿契・菅専助らと合作;30余編、
1760「祇園女御九重錦」73「撰州合邦辻」77「置土産今織上布」80「仮名写安土問答」、
1789「木下蔭狭間合戦」91「雕刻左小刀」93「蝶花形名歌島台」99「額額紺屋譜」外著多数
- B3822 **笛躬**(2世ふえみ・若竹わかたけ、名;伊助いすけ、役木男) ?-? 浄瑠璃作者、1771大坂豊竹座で伊輔を名乗、
竹本三郎兵衛・八民平七と合作、笛躬2世を襲名、1771「嗚呼忠臣楠氏簞」著、
[笛躬2世(;号)の通称/別号]通称;崎屋治兵衛/塩屋治兵衛、別号;若竹伊輔いすけ/松隣
夫右衛門(ふえもん・堀金) → 兀峰(ごっぽう・桜井/堀金、藩士/俳人) D 1 9 3 8
府右衛門(ふえもん・翠川) → 好文(よしふみ・翠川みどりかわ、駅吏/国学) P 4 7 3 4
- I3879 **武右衛門**(ぶえもん・三星屋みつぼしや、姓;中村/名;睦峰/号;良斎) 1674-? 大坂安土町の貸家業、和学、
懷徳堂創設の[五同志]の1;最年長で纏め役(町人教育のための施設建設)
- B3823 **武右衛門**(ぶえもん・野沢のざわ) 1790-1862⁷³ 陸中上閉伊郡馬牛出身/遠野南部家の家士、
寺子屋を開く、安政(1854-60)年間「御山先達往来」著
武右衛門(ぶえもん・田口) → 五左衛門(ござえもん・田口、藩士/記録) M 1 9 5 2
武右衛門(ぶえもん・松平) → 久豊(ひさとよ・松平、藩家老/日記) B 3 7 6 1
武右衛門(ぶえもん・松平) → 久映(ひさひで・松平、久豊男/藩家老) B 3 7 8 5
武右衛門(ぶえもん・伴部) → 安崇(やすたか・伴部ともべ、儒・神道家) B 4 5 8 3
武右衛門(ぶえもん・渡辺) → 梅童(ばいどう・渡辺、里正/俳人) B 3 6 9 0
武右衛門(ぶえもん・山本) → 荷兮(かへい・山本、俳人/連歌) 1 5 1 0

武右衛門(ぶえもん・堀金)→ 兀峰(ごつぼう・桜井/堀金、藩士/俳人) D 1 9 3 8
 武右衛門(ぶえもん・森田)→ 良郷(よしさと・森田/山川、藩士/文筆) D 4 7 4 2
 武右衛門(ぶえもん・加藤/大原)→ 観山(かんざん・大原おおはら、儒者) H 1 5 6 5
 武右衛門(ぶえもん・長谷川)→ 常雄(つねお・長谷川はせがわ/中里、国学) E 2 9 8 8
 武右衛門(ぶえもん・黒河内)→ 十太夫(じゅうだゆう・黒河内くろこうち、藩士/兵学) X 2 1 9 9
 武右衛門(ぶえもん・桑名屋)→ 堪忍成丈(かんにんのなりたけ、酒舗/狂歌) G 1 5 5 6
 武右衛門(ぶえもん・足立)→ 久任(ひさとう・足立あだち、藩士/弓術/歌) L 3 7 8 3
 武右衛門(ぶえもん・阿部)→ 順二郎(じゅんじろう・阿部あべ、藩士) N 2 1 0 6
 武右衛門(ぶえもん・入谷)→ 澄士(すみお・入谷いりや、藩士/歌人) I 2 3 0 9
 武右衛門(ぶえもん・植田)→ 方清(みちきよ・植田うねだ、庄屋/国学/歌) I 4 1 1 7
 武右衛門(ぶえもん・黒部)→ 重徳(しげのり・黒部くろべ、国学/歌人) O 2 1 3 6
 武右衛門(ぶえもん・原)→ 信好(のぶよし・原はら/秦、国学/歌/官吏) J 3 5 6 9
 武右衛門(ぶえもん・内田)→ 有木(有樹ありき・内田うちだ、商家/歌) H 1 0 1 4
 武右衛門(ぶえもん・虎岩)→ 頼啓(よりひろ・虎岩とらいわ、陪臣/国学) O 4 7 0 6
 武右衛門(ぶえもん・矢内)→ 光門(みつかど・矢内やない、国学者) K 4 1 8 5
 武右衛門(ぶえもん・三宅)→ 直郷(なおさと・三宅みやけ、大庄屋/国学) O 3 2 9 6

I3880 不遠(ふえん・渡辺わたなべ、屋号;宇治屋) 1689-1745⁵⁷ 讃岐寒川郡の郷土、農業・酒造業;富商、
 国学者・歌人;有賀長伯門、俳人;花月斎珊楽さんらくと共に讃岐志度の俳諧を興す、
 息子桃源(伝左衛門儀/臨江亭/俳人/1716-94)が家督嗣、
 [1743(寛保3)椎本芳室[甘泉]の八十賀に句を贈る

鶴齡の句をもて人々これにむかふ 臨江亭

幾星のりつるや梅の山かつら 不遠]([著めどきの花]入)

不遠(ふえん・岩本/巖本)→ 贅庵(ぜいあん・岩本/巖本/巖、儒者/詩) H 2 4 3 4

富延(ふえん・細田)→ 富延(とみのぶ・細田、国学者) O 3 1 9 1

蕪園(ふえん・栗枝園)→ 確斎(かくさい・武内、儒詩/読本/狂歌) E 1 5 6 8

不厭庵(ふえんあん)→ 淡斎(たんさい・村士すぐり、儒者/茶人) I 2 6 1 2

不遠院(ふえんいん;不遠院宮)→ 尊伝親王(そんでんしんのう、天台青蓮院門跡/連歌) F 2 5 6 7

普円国師(ふえんこくし;号)→ 處謙(しよけん;法諱・潜溪;道号、臨濟僧) C 2 2 3 8

不遠斎(ふえんさい)→ 三休(さんきゅう・無事庵/志村、幕臣/茶人) L 2 0 9 9

不怨斎(ふえんさい)→ 東海(とうかい・長沢ながさわ、儒者) B 3 1 8 7

H3814 不巧(ふお) ? - ? 江戸前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」1句入
 [いやしきも天子に腹を借かす美人](二葉之松;108/前句;あやかりものよ松の長生)

G3891 浮鷗(ふお) ? - ? 江戸狂歌;1785「徳和歌後万載集」1首入、
 [あたごいをしつるのもまし来ざる日は格子にほされ猶うかりけり](後万載;821)

頼翁(ふお;号)→ 恵琮(えそう;法諱、真宗本願寺派僧) E 1 3 0 1

富翁(ふお;喜早)→ 定中(さだなか・喜早きそ/度会、神職/記録) J 2 0 0 4

鳧翁(ふお;きょうお;関)→ 政方(まさみち・関せき/関藤、医/国学/歌) 4 0 0 6

普応円融禅師(ふおうえんゆうぜんじ)→ 定山(じょうざん;道号・祖禅、臨濟僧) J 2 2 3 2

B3824 斧屋(ふお;号) 1499-1556^{or57} 58-59 曹洞僧;武蔵万年寺の節庵良筠門、
 諸国行脚;父の喪に帰国/万年寺栄巖元秀の法嗣;1540万年寺3世/入間郡能仁寺の開山、
 1542「節庵良筠伝」、「綱宗録」著

B3825 富屋(ふお;潤うるつ) ? - 1806 江戸の俳人:蓼太門、「富屋点取帖」、
 「嵐亭富屋発句集」(;1811門人奚疑編)、「富屋居士逸品」著(1812刊)、
 [富屋(;号)の通称/別号]通称;治助、別号;嵐亭/心花斎/新月庵

不遠院宮(ふおんいんのみや)→ 尊伝親王(そんでんしんのう、天台青蓮院門跡/連歌) F 2 5 6 7

孚嘉(ふか・海保)→ 酔茗(すいめい・海保かいほ、篆刻家) F 2 3 0 3

孚嘉(ふか・楠本)→ 碩水(せきすい・楠本くすもと、藩儒/教育) D 2 4 6 5

富雅(ふが・夏秋)→ 富雅(とみまさ・夏秋かしゅう、儒者) O 3 1 9 6

武雅(ぶが・小野)→ 武雅(たけまさ・小野おの、幕臣/国学者) W 2 6 0 0

- 武雅(ぶが・森岡) → 武雅((たけまさ・森岡もりおか、藩士/詩人) O 2 6 7 5
- H3851 浚明(ぶかみら・不破ふわ、別名;巖、不破篤敬男)?-? 江中・後期金沢藩士;不破宇平の養嗣、
1771御使番頭、1800致仕、儒;伊藤莘野しんや門/初め古義学のち朱子学、詩人、
「藝州道之記」「声準」/1772「御親翰留」著、
[浚明の通称/号]通称;勘太夫/和平、号;南台/介翁
- 不可庵(ふかあん) → 幹雄(みきお・三森みつり、俳人) 4 1 6 8
- B3826 不悔(ふかい) ? - ? 俳人;1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
1689「あら野」1句入、[鴨沈み河骨軽し嵐哉](丁卯集;不忍池)、
[麦の葉に菜の花かゝる嵐哉](あら野;卷之二)
- B3827 浮芥(ふかい) ? - ? 京俳人;「流木集」「一夜百句」「柳の道」編、1702花見車;目録入
- B3828 孚介(ふかい;法諱) 1702 - ? 天台僧;延暦寺宝珠院住僧/妙法院宮家、
1752隠居、1750「桜町院百箇日法華三昧法則」著
- B3829 布界(ふかい;法諱) ? - ? 江後期越後真宗大谷派僧;真勝寺住職、
「具舎論聞記」「六合釈講義」/1834「成唯識論講義」著
- 父戒(ふかい;法諱) → 孝巖(こうがん;道号・父戒;法諱、臨濟僧) I 1 9 0 9
- B3830 富涯(ふがい・森山もりやま、名;定志、通称;団右衛門、渡部氏昌男)?-? 出雲広瀬藩士森山定弘の養子、
家督を嗣;広瀬藩士、山鹿流兵学;長曾又左衛門門/1792藩命で甲州流兵学;松宮定俊門、
帰藩後藩校の兵学教授/藩政に関与、1811定俊より「神略妙運抄解」を伝受、
1832刊「孫子管窺かんき」、「城制示蒙」著
- 不会庵(ふかいあん) → 仏洲(ぶつしゅう;道号・仙英;法諱、曹洞僧) H 3 8 4 5
- 浮海窩老人(ふかいかりうじん) → 溟北(めいほく・円山/小池、藩士/儒者) 4 3 3 7
- 不壊身院御室(ふかいしんいんのおむろ) → 濟仁親王(せいになしんのう、真言僧) J 2 4 3 6
- B3831 深臣(ふかおみ・大沢おおさわ、通称;播磨)?-? 江後期備前赤坂郡山手村の生、
美作英多郡巨勢郷下倉敷村の巨勢総社神主/国学者・歌;1850(嘉永3)平賀元義門、
古風和歌を詠む、1857-8「巨勢総社千首」編/58「美作国巨勢卿略」著
- 深川散人(ふかがわさんじん) → 寢言先生(ねごとせんせい・夢中散人、洒落本)
- 深川親和(ふかがわしんな) → 親和(しんな・三井みつゐ、書家/篆刻) P 2 2 5 0
- 深川漁父(ふかがわのぎよふ) → 親和(しんな・三井みつゐ、書家/篆刻) P 2 2 5 0
- 不可棄法師(ふかきほうし) → 俊苒(しゅんじょう;法諱、入宋僧/戒律復興) J 2 1 9 7
- 3803 不角(ふかく・立羽たちば/山崎まさき) 1662-1753長寿92 江戸平松町南側の書肆/俳人;13歳で不卜門、
雑俳点者として活動、1703剃髪;詠[けし坊主木の端はしでなし草の端]/法橋/30法眼、
1683調和「題林一句」入(初見)/87浮世草子「色の染衣」、88不卜「続の原」4句入、
1691「曙染」編、1702轍士「花見車」入、「漢考怪談録前集」/歳時記「清匏きよがんな」、
1701紀行「笠の蠅」14「雑煮椀」29「ことふき車」30紀行「木曾の麻衣」32「柁木のかづら」、
江戸座の圏外で一派をなす/門人;千人以上;淡々・紀逸・備角らの師、
[不角の撰集]1691第一集「二葉之松」(月並前句付高点集)編/1691第二集「若みどり」、
1692第三集「千代見草」/93第四集「一息ひといき」/93第五集「二息ふたいき」、94「蘆分あしわけ船」、
1694第六集「へらず口」/94第七集「うたたね」/95第八集「昼礫ひるつぶて」、
1696第九集「矢の根鍛冶やのねかじ前集」/96第十集「矢の根鍛冶後集」、
1697第十二集「双子山後集」、99「草結」「水車」、1703第十三集「広原海わたつみ」、
1704第十四集「瀬取船せどりぶね」、05第十五集「水馴棹みなれざお」/05「誹諧粘飯籠」、
1706第十六集「一騎討」/07「篋纏輪わかせむ」「一騎討後集」15「雲間の梅」、
1730「正風集」、36「江戸菅笠」38「節小袖」「風姿亀鏡集」/39「誹諧友音鶴」40「俳諧登坂」、
1742「帆なし船」44「春の春」48「米の守」50「米の守後集」「村雀」、外著多数、
[三日月は梅におかしきひづみ哉](続の原)/[松とりて常の朝日となりにけり](続の原)、
[不角(;号)の通称/別号]通称;定之助、別号;遠山(初号)/千翁/虚無斎/虚雲斎、
南々舎/松月堂/正風斎/温故知新斎、法号;満光院法眼積定月不角居士
- 妻も俳人 → 妙閑(みょうかん・立羽) G 4 1 2 5
- 息子の不扇・壽角・辰角も俳人 → 不扇(ふせん) B 3 8 7 4
- 壽角(じゅかく) I 2 1 5 1

- 辰角(しんかく) D 2 2 7 1
- 富鶴(ふかく・檜垣) → 貞晋(さだしげ・檜垣/度会、神職) B 2 0 2 9
- B3832 伍楽(ふがく/ふらく・加藤かとう、友勝男) 1673-1738 66 安藝安藝郡海田市の庄屋(里正);猫屋、
儒:広島藩儒植田玄節(良背こんぱい)門、神儒の学を修得;朱子社倉法を講ず、友徳(十千)の父、
学芸の振興/飢饉対策の社倉制度を藩主に提言/執政岡本大蔵のために「社倉攷意」著、
「社倉推演」著
[伍楽(;号)の名/通称/号]名;友益ともす、通称;次郎左衛門/新右衛門
- 富岳(ふがく・大橋) → 慎三(しんぞう・大橋おおはし/橋本、土佐勤王党) P 2 2 2 8
- B3833 舞閨(ふかく・藤屋、新七) 1756- 1802 47 京島原の揚屋紫藤楼主人、俳人;夜半亭俳壇で活動、
1772几董「其雪影」73「明鳥」76「続明鳥」入/77蕪村「夜半楽」82「花鳥篇」入
[うぐひすに枕かへすや朝まだき](夜半楽;56)
- 舞鶴(ふかく・俳名) → 勘三郎(八世かんざぶろう・中村、歌舞伎役者) D 1 5 7 4
- 普覚円光禅師(ふかくえんこうぜんじ) → 白崖(はくがい:道号・宝生:法諱、臨濟僧) C 3 6 8 4
- 不学斎(ふがくさい・脇坂) → 義堂(ぎどう・脇坂わきさか、心学者) L 1 6 6 6
- 不学斎(ふがくさい) → 敏言(としこと・小島こじま/村松、藩士/国学;) V 3 1 1 5
- B3834 深草檢校(ふかくさげんぎょう) ? - ? 正徳享保(1711-36)頃の地唄/組歌名手;作曲
深草右大臣(ふかくさのうだいじん) → 信量(のぶかず・大炊御門おおいみかど、歌/連歌) B 3 5 0 9
深草の元政(ふかくさのげんせい) → 元政(げんせい、日政、日蓮僧/詩歌) 1 8 2 3
- B3835 深草少将(ふかくさのしょうしょう) ? - ? 小町説話の人物;謡曲「通小町」などから発生、
百夜通い/榻じの端書
- 深草帝(ふかくさのみかど) → 仁明天皇(にんみょうてんのう、承和じょうわの帝) G 3 3 7 6
- 深草百合丸(ふかくさのゆりまる) → 明之(てるゆき・香取、狂歌師) D 3 0 0 4
- 舞鶴亭(ふかくてい) → 利濟(としただ・南部なんぶ、藩主) M 3 1 7 2
- 不可刻斎(ふかこくさい) → 林谷(りんこく・細川ほそかわ/広瀬、篆刻家/詩人) K 4 9 2 7
- 覃(ふかし・大田) → 南畝(なんぼ・大田おた、幕臣/狂歌詩) 3 2 3 3
- 覃(ふかし・倉田) → 葛三(かつさん・倉田くらた、俳人) C 1 5 4 4
- 不可思議(ふかしぎ) → 元政(げんせい、日政、日蓮僧/詩歌) 1 8 2 3
- 不可思議(ふかしぎ;号) → 正舎(しょうがん;法諱、浄土僧;大僧正) H 2 2 8 6
- 深澄(ふかすみ・柳村/鹿持) → 雅澄(まさすみ・鹿持かもち/飛鳥井/柳村、藩士/国学者) 4 0 0 9
- 深蔵(ふかぞう・月形) → 漪嵐(いらん・月形つきがた弘、藩士/儒者) I 1 1 3 6
- 普活(ふかつ;法諱) → 普誥(ふこく/ふこう;法諱、僧/歌人) B 3 8 8 7
- 不可停(ふかてい;号) → 雲臥(うんが;法諱、浄土僧) D 1 2 5 9
- 不可得(不可徳ふかどく;号) → 憲寿(けんじゅ;法諱・道本、真言僧) J 1 8 4 5
- 不可得(ふかどく;号) → 月珠(げつしゅ;字・覚了、真宗僧) H 1 8 0 6
- 不可得(ふかどく;号) → 願海(がんかい、天台僧/千日回峰) Q 1 5 0 7
- 不可得(ふかどく;号) → 宥性(ゆうしょう;法諱・智友、真言僧) C 4 6 5 8
- 不可得(ふかどく) → 千斎(儼斎せんさい・木村きむら、医者/歌) O 2 4 0 9
- 不可得庵主(ふかどくあんしゅ) → 祖通(そつう;法諱・貫山;道号、曹洞僧) K 2 5 1 2
- 不可得斎(ふかどくさい・倉田) → 績(いさお・倉田、儒者) F 1 1 4 7
- 富花能舎(ふかのや) → 快存(かいぞん;法諱/真言宗/歌人) U 1 5 1 6
- 深野屋利助(利介ふかのやりすけ) → 公忠(きみただ・深野ふかの/小泉、書肆) M 1 6 0 3
- 不可拔斎(ふかぼつさい) → 柳北(りゅうほく・成島なるしま、幕臣/儒者) F 4 9 6 7
- 不可美(ふかび) → 玄同(げんどう・田子たご、医者) L 1 8 9 2
- 不可無竹居主人(ふかむちくきょしゅいん) → 雲濤(うんとう・竹内、詩人) B 1 2 5 7
- 深寧(ふかやす・佐野) → 蓬宇(蓬雨ほうう・佐野さの、商家/俳人) 3 9 1 5
- 3804 深養父(ふかやぶ・清原きよはら、房則男) ? - ? 平安前期廷臣;内匠大允/922内蔵大允/従五下、
歌人・詩人・琴、晩年には洛北岩倉住;補陀落寺建立、元輔の父or祖父?、家集「深養父集」著、
勅撰41首;古今(17首129/166/300以下)後撰(5首92/317/322以下)拾(202)新古(5首)以下、
雲葉集4首入、

[夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを雲のいづこに月やどるらむ](古今166)

- I3869 **深志**(ふかゆき・古海ふるみ、)1849-1916 68 伊予風早郡宮内村の代々三島神社社司;古海美根よし継嗣、
学問;大洲の武田塾軒門/国学・歌;鈴木重樹・矢野玄道門、児童教育、歌人;歌会を結成、
[深志(;名)の別名/通称]別名;重雄/美真(よしまさ?)、通称;近江輔
- B3836 **府貫**(俯鑑ふかん;道号・雄道ゆうどう;法諱)1724-87 64 加賀金沢曹洞僧;天徳院の雷洲惟黙門、
天徳院14世/1767名古屋黄竜寺住寺;中興、美濃大竜寺・伊勢洞雲寺などに転住、
「雄道和尚語録」著
- B3837 **普寛**(ふかん・号;本明院ほんみょういん、俗姓;木村/浅見)1731-1801 71 武蔵秩父郡大滝村郷士木村家生、
浅見家の養子/修験僧;江戸で修行;日照門/1782聖護院派伝灯阿闍梨となる;諸国遍歴、
1792木曾王滝村で御嶽登拝の王滝口登山道を開く(同行の明岳院広山・金剛院順明らと)、
越後八海山を開山、江戸中心に関東一円に御嶽信仰を普及;最初の御嶽講高砂講を組織、
上州武尊山・武蔵意和羅山を開山/布教途次に武蔵本庄で没、1792「御嶽山由来記」著、
[普寛(;行者名)の幼名/通称]幼名;好八、通称;左近
- 不関(ふかん・川井) → 立斎(りゅうさい・川井/河井、医者/歌) E 4 9 0 1
扶幹(ふかん・藤原) → 扶幹(すけもと・すけむと・藤原、廷臣/歌人) D 2 3 1 3
普観(ふかん;法諱) → 虚庵(きょあん;道号・普観、曹洞僧) N 1 6 0 7
普願(普頑ふがん;法諱) → 鉄崖(てつがい;道号・普願、曹洞僧) C 3 0 1 9
不干斎(ふかんさい、不干ハビアン) → ハビアン(Fabian・巴鼻庵、修道士) F 3 6 5 7
不願斎(ふがんさい) → 為範(ためり・中川、藩士/茶人) S 2 6 6 6
不敢散人(ふかんさんじん) → 蕃山(ばんざん・熊沢、儒者/陽明学) 3 6 4 2
不還子(ふかんし;号) → 性海(しょうかい;道号・霊見;法諱、臨濟僧) Q 2 2 9 4
ふき(・葛山) → 了然尼(りょうねに;道号・元聡;法諱、黄檗僧) J 4 9 2 1
不愧(ふき・高橋/鮎沢) → 国維(くにつな・鮎沢あゆさわ、藩士) C 1 7 9 0
富季(ふき/とみすえ・高橋) → 富兄(とみえ・高橋、藩士/国学/歌人) O 3 1 8 0
不欺(ふぎ・礪はざま) → 師古(しこ・礪はざま、絵師) T 2 1 2 9
武記(ふぎ・諏訪すわ) → 塘水(とうすい・日々庵、藩士/俳人) F 3 1 8 1
武矩(ふぎ・菊池/菊地) → 高洲(こうしゅう・菊池/菊地/加藤、儒者) B 1 9 8 8
武軌(ふぎ・中田) → 勇蔵(ゆうぞう・中田なかた、藩士/暦算家) D 4 6 3 2
武熙(ふぎ/たけひろ・榎倉/福井) → 端隠(たんいん・福井/度会/榎倉、神職/篆刻) T 2 6 1 5
武義(ふぎ・加須屋) → 武義(たけよし・加須屋かすや/岩越、藩士/歌) W 2 6 3 9
- B3838 **吹上氏かはずの介安方**(ふきあげうじかはずのすけやすかた) ?-? 江戸吉原評判記「讚嘲記さんちょうき時之太鼓」
- G3898 **吹上松風**(ふきあげのまつかぜ) ?-? 武蔵練馬の狂歌作者;1787「才蔵集」入:547、
[思ひきやわがふるさとの練馬なる大根ばたけにいもをほるとは](才蔵集:547)、
(大根ばたけは本郷の岡場所/妹と芋を掛る)
- 浮亀庵(ふきあん) → 卷阿(かんあ・加藤かとう、俳人) D 1 5 3 8
- G3892 **吹鼓咽人**(ふきがらのむせんど) ?-? 狂歌;深川連、「太の根」初出、1785「後万載」/78「才蔵集」入、
[かきながす文のあや瀬にこきうすき墨田川原の筆の枯芦](飯盛「吾妻曲狂歌文庫」入)
- 富喜子(ふきこ・横田) → ふき女(ふきじよ・横田よこた、商家/歌人) I 3 8 7 8
- I3878 **ふき女**(ふきじよ・横田よこた、名;益子/富喜子)1819-94 76 武蔵川越の豪商横田家の妻、
政徳(五郎兵衛)・秋足(文作)の母、歌人;尾高高雅門、
- 露園(ふきぞの) → 祐訓(すけのり・梅内うめない、藩士/古蹟調査) G 2 3 9 6
露菌(ふきぞの) → 常典(つねのり・山田、国学/歌人)
武吉(ふきち→たけよし・村上) → 武慶(武吉たけよし・村上、水軍武将) O 2 6 8 8
武吉(ふきち・樺山) → 資雄(すけお・樺山、藩士/神職/国学/歌) G 2 3 1 0
武吉(ふきち・長井) → 琳策(りんさく・長井ながい、藩医/本草家) K 4 9 3 3
不匱堂(ふきどう) → 長喬(ながたか・小西にし/井沢、歌人) M 3 2 0 8
吹黄刀自(ふきのとじ) → 吹芟刀自(ふきのとじ、万葉歌人) 3 8 1 5
- B3839 **普求**(不求ふききゅう・山本)1693-1771 79 京東洞院通五条下ル町の俳人;知木・其彦門、
1759「たね袋」編/「俳諧磯乃うみ」著、追善7回忌「あきひより」(門弟賦泉編)、

[普求(；号)の別号] 松門亭/雪莎翁

B3840 不及(ふきゅう;法諱・蔡華さいか;号、俗姓;木山)1785-1846⁶² 肥前佐賀真宗本願寺派僧:仰遣・道命門、のち安藝寂静寺の道振門、佐賀善定寺住職;寺内に精居寮設置;子弟教育/1836学林監事、「慶歎録」著、[不及(；法諱)の字]探情

布旧(ふきゅう・安田)	→	布旧(のぶもと・安田、郡奉行)	D 3 5 2 1
浮丘(ふきゅう・里井)	→	孝幹(たかもと・里井、国学)	N 2 6 4 2
不及(ふきゅう・後藤)	→	基岳(もとむら・後藤ごとう、郷土史家)	E 4 4 4 1
不及(ふきゅう・藤井)	→	靖(やすし・藤井ふじい雪堂/木村、絵師)	G 4 5 5 2
不及(ふきゅう・森田)	→	正憲(まさのり・森田もりた、国学者)	T 4 0 2 6
不休(ふきゅう・万年)	→	頼方(よりかた・万年まんねん、軍記作者)	I 4 7 4 9
不休(ふきゅう・建部)	→	賢弘(かたひろ・建部たけべ、幕臣/暦算家)	C 1 5 3 4
不求(ふきゅう・山田)	→	成章(なりあき・山田やまだ、藩士/歌人)	P 3 2 2 0
不求(ふきゅう・古川)	→	氏清(うじきよ・古川、幕臣/和算家)	B 1 2 8 3
武久(ぶきゅう)すべて	→	武久(たけひさ)	
不求庵(ふきゅうあん)	→	方静(ほうせい・市川いちかわ、藩士/和算)	C 3 9 0 1
不求橋(ふきゅうきょう)	→	茂睡(茂妥もすい・戸田/渡辺、歌人)	4 4 0 5
不求軒(ふきゅうけん)	→	常円(じょうえん;法諱、修験僧)	H 2 2 3 4
不求斎(ふきゅうさい)	→	頼方(よりかた・万年まんねん、軍記作者)	I 4 7 4 9
不求斎(ふきゅうさい)	→	爽鳩(そうきゅう・鷹見/鷹、家老/儒者)	B 2 5 0 3
不求斎(ふきゅうさい)	→	演徴(のぶあきら・由比ゆい、藩士/歌人)	3 5 8 6
不及斎(ふきゅうさい)	→	宗也(そうや・久田;4世、不及斎、茶人)	C 2 5 4 2
不及斎(ふきゅうさい)	→	数馬(かずま・伊藤いとう、医者)	M 1 5 4 7
不及斎(ふきゅうさい)	→	守静(もりしず・高久たかく、和算家)	F 4 4 4 8

B3841 不及子(不求子ふきゅうし・服部はつとり)?-? 江中期1716-41頃京の俳人/京雑俳界の代表点者、1731(享保16)「長ふくべ」34「へらず口」編/38「冠附句集」「前句付冠付集」「火燧ひらき」編、1739「とはず口」編、「誹諧謡名寄」「誹諧都鳥」著

不求主人(ふきゅうしゅじん)	→	筋堂(せつどう・十河そごう、篆刻家)	L 2 4 3 2
不求甚解翁(ふきゅうじんかいおう)	→	拙斎(ちゆうさい・渋江、医者/考証学)	G 2 8 0 9
不求堂(ふきゅうどう・吉田)	→	鷺湖(がこ・吉田、藩士/儒詩)	H 1 5 8 1
不及坊(ふきゅうぼう)	→	五由(ごゆう・不及坊、真宗僧/俳人)	D 1 9 9 8
不去庵(ふきよあん)	→	幹雄(みきお・三森みつもり、俳人)	4 1 6 8

B3842 普行(ふきょう;法諱、諡号;但信房)1792-1844⁵³ 越中真宗本願寺派学僧:照頭寺杵旭門、1808西本願寺学林入学;諸宗の典籍を研究/1837大阪浄光寺住/44勸学に就任、「学苑談叢」「教行信証摭要せきょう編」「言南無者普行録」「三帖和讃録」「選撰集私記」外著多数、[普行(；法諱)の別法諱/別諡号]別法諱;眞了、別諡号;但信院

B3843 舞郷(ふきょう、舞興?) ? - ? 大阪の俳人;之道門、1690之道「江鮭子あめご」6句入、[淋しさは口塩もなき夕まぐれ](あめ子;七吟歌仙5句目/口塩は入口に置く盛り塩)、(前句;寐ても居をられぬ船心なり;光延)(船酔いに塩が効くの俗信?)

B3844 武郷(ふきょう・太秦うずまさ)? - ? 伝記作者・1812「柔話じゅうわ」著(；柔術)

武郷(ふきょう→たけさと・飯田)	→	蓬室(ほうしつ・飯田、藩士/国学者)	B 3 9 2 6
武喬(ふきょう・服部)	→	武喬(たけたか・服部、藩士/儒/語学)	E 2 6 3 9
不器用又平(ふきよまたへい)	→	国貞(初世くにさだ・歌川、3世豊国/絵師)	1 7 2 9
芙蓉館(ふきよかん)	→	南郭(なんかく・服部、儒者)	3 2 3 1

H3815 不棘(ふきよく) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入

B3845 不玉(ふぎよく・伊東/伊藤いとう、伊東是久男)1648-97⁵⁰ 出羽酒田の町医者;1670上京し長井宗朔門、酒田本町三丁目横丁加賀屋与助の借家で医業/1695酒田筆頭町医、弟;不撤(大庄屋)、俳諧:1689細道旅の芭蕉を招待/芭蕉門、支考・去来と交流、酒田俳壇も基礎を築く、1682三千風「松島眺望集」入、92「継尾つぎお集」「葛の松原」「あつみ山」編、「歳旦拾梅帖」著、[不玉(；号)の通称/別号]通称;玄順/淵庵、別号;潜淵庵、玄的(医者)の父

武曲(ぶきよく・只野)	→	克巳(かつみ・只野ただの、国学者)	V 1 5 0 0
-------------	---	-------------------	-----------

- 不玉齋(ふぎょくさい) → 汶上(ぶんじょう・石塚、医者) F 3 8 7 8
 梟居室(ふきよしつ) → 言道(ことみち・大隈おおくま、歌人) 1 9 3 8
 芙蓉亭(ふきよてい) → 藕塘(ぐとう・志毛しげ/鶴殿、儒者) C 1 7 0 4
- B3846 巾(ふきん・奥田おくだ、別号;九阜/九阜亭)1720or21-? 1787存 撰津伊丹俳人:木田文人門;才麿系、
 晩年;大阪で宗匠、1764「小六月」81「忘れ杖」、87/8「除元輯」編、「石母艸」「舞巾五十賀集」編、
 1774美角「ゑぼし桶」入、[亡き母の恋しき夜のふすま哉](ゑぼし桶;57/九阜名)
 不矜院(ふきんいん;法号) → 正俊(まさとし・堀田/紀、藩主/大老/歌) E 4 0 4 3
 不錦書屋(ふきんしょおく) → 磐里(ぼり・大槻おおつき、医/蘭学者) 3 6 6 5
- I3866 復(ふく・林はやし、) 1785 - 1863 79 紀伊の医者/和泉堺で医業、国学
 [復(;名)の字/号]字;白圭、号;寿山/松寿
 復(ふく・井上) → 子休(しきゅう・井上いのうえ、藩士/儒者) Q 2 1 1 2
 復(ふく) → 慊堂(こうどう・松崎、儒者) 1 9 1 7
 復(ふく・亀井) → 雷首(らいしゅ・亀井かめい/三苫みとま、医者/儒) 4 8 5 5
 復(ふく・頼) → 支峯(しほう・頼らい、儒者) F 2 1 7 0
 復(ふく・福田) → 金塘(きんとう・福田、暦算家) R 1 6 4 9
 復(ふく・松崎) → 慊堂(こうどう・松崎まつざき、儒者) 1 9 1 7
 復(ふく・岩本/巖本) → 贅庵(ぜいあん・岩本/巖本/巖、儒者/詩) H 2 4 3 4
 復(ふく・青木) → 北海(ほっかい・青木/殿岡、和漢学者) E 3 9 5 3
 服(ふく・田中) → 元勝(もとかつ・田中、医者/国史) C 4 4 3 9
 副(ふく・源) → 嗣(つぐ・源みなもと、廷臣) D 2 9 4 7
 福(ふく・斎藤) → 春日局(かすがのつばね、家光の乳母) C 1 5 2 1
- H3816 武矩(ぶく) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」1句入、
 [神鳴は落ちて仁者じんしゃを損なはず](二葉之松;156/前句;逆らばはでよき水の正直、
 論語雍也篇;知者は水を楽しみ・・・仁者は静か・寿いのちながし、たとえ雷が落ちても)
 武矩(ぶく)上記以外すべて → 武矩(たけのり)
- H3805 福安(ふくあん) ? - ? 江戸初期山城の歌人;1666行風「古今夷曲集」1首入、
 [年たけて又きようともしひきや命なりけりさやのお小袖](夷曲集;527、
 身貧しく老いけるにある人のきよらなる小袖給ふし返事に/新撰狂歌集入)
- B3847 復庵(ふくあん・小瀬おせ/初姓;坂井さかい、名;良正)1669-1718 50 加賀藩医;430石、詩文に長ず、
 「桃溪文集」、「前田興盛伝記」編、「良正集」「木曾駅路記」著、「桃溪先生詩集」(没後;1724刊)、
 [復庵(;通称)の字/号]字;順元、号;桃溪、小瀬甫庵の後裔
 復庵(ふくあん;道号) → 宗己(そうき;法諱・復庵;道号、臨濟僧) 2 5 9 3
 復庵(ふくあん・森) → 儼塾(げんじゅく・森もり、医者/漢学) E 1 8 9 1
 復庵(ふくあん・今村) → 了庵(りょうあん・今村いまむら/山県、医者) G 4 9 0 9
 福庵(ふくあん・愚益) → 梅隣(ばいりん・平元、儒医/詩歌/俳人) C 3 6 2 6
 福庵(ふくあん・中川) → 徳野(とくや・中川、揚屋主人/俳人) L 3 1 5 0
 福菴(福庵ふくあん) → 素檠(そぼく・藤森、俳人/俳画) E 2 5 2 5
- 福井三傑(ふくいさんけつ/三公);江戸時代中期越前福井の傑出した3人の俳人
 → 韋吹(いすい・天井) 1 1 9 3
 → 六枳(ろくし・眞恵;法諱、僧侶) 5 2 8 9
 → 玄駁(げんき/玄駁-ばく・松平正明/藩老) E 1 8 0 4
- 復一(ふくいち・並河) → 天民(てんみん・並河、儒/医/雅楽/神道) E 3 0 3 4
 復一(ふくいち・青木) → 北海(ほっかい・青木/殿岡、和漢学者) E 3 9 5 3
 復一(ふくいち・山本) → 復一(またかず・山本やまもと、本草家/官吏) T 4 0 5 9
- 福内鬼外(ふくうちきがい) → 源内(げんない・平賀ひらが、儒/本草/戯作) 1 8 2 8
 福内鬼外(2世ふくうちきがい) → 中良(ちゅうりょう・森島/桂川、蘭学/戯作) 2 8 1 9
 龍園(ふくえん・徳力) → 竜潤(りゅうかん・徳力とくりき、幕臣/儒者) D 4 9 2 7
 福雄(ふくお/さきお・藤原) → 輔民(すけたみ・福島ふくしま、医者/歌人) H 2 3 8 5
 蝠翁(ふくおう・和田) → 以悦(いえつ・和田わだ、儒者/歌人) 1 1 4 1

蝠翁(ふくおう) → 白鯉館卯雲(2世はくりかんぼううん・和田、幕臣/狂歌) E 3 6 0 6
 蝠翁(ふくおう・田能村) → 直入(ちよくにゅう・田能村たのむら、絵師) K 2 8 3 2
 福翁(ふくおう・福住) → 正兄(まさえ・福住/大沢、名主/報徳思想) B 4 0 3 4
 福応斎(ふくおうさい) → 牛山(きゅうざん・箕田みた、書家) M 1 6 6 7
 福恩院(ふくおんいん;号) → 顕俊(けんしゅん;法諱、法相僧/歌人) J 1 8 6 9
 福音寺前関白内大臣(ふくおんじさきのかんぱくないだいじん;新葉) → 師基(もろもと・二条、南朝歌人) I 4 4 0 4
 復義(ふくぎ・五味) → 復義(またよし・五味ごみ、和算家) J 4 0 5 6
 覆篁斎(ふくきさい) → 篁斎(きさい・岡村おかむら、儒者/勤王派) K 1 6 4 9
 福吉(ふくきち・大村) → 福吉(ふくよし・大村、医者) B 3 8 6 8
 伏亀堂(ふくきどう) → 林石(りんせき・甲良こうら、俳人) K 4 9 5 5
 福旧(ふくきゅう・松本) → 福旧(ふくひさ・松本、藩士/馬術家) B 3 8 6 5
 福隅軒蛙井(ふくぐうけんあせい) → 蛙井(あせい・福隅軒、浮世草子/洒本) B 1 0 1 8
 復圭(ふくけい・富田) → 長洲(ちようしゅう・富田、藩士/儒者/詩) I 2 8 7 2
 復圭斎(ふくけいさい・中西) → 直方(なおかた・中西、神道) 3 2 8 5
 復軒(ふくけん・上田) → 利容(としひろ・上田うねだ、藩士/漢学者) N 3 1 6 1
 復軒(ふくけん・板倉) → 復軒(ふくけん・板倉、幕臣/儒/詩人) D 3 8 3 1
 復軒(ふくけん・山田) → 復軒(ふくけん・山田、藩士/儒/詩人) D 3 8 3 2
 復軒(ふくけん・西山) → 復軒(ふくけん・西山、拙斎男/詩人) D 3 8 3 3
 復軒(ふくけん・林) → 榴岡(りゅうこう・林はやし、幕府儒官) D 4 9 7 8
 復軒(ふくけん・大槻) → 文彦(ふみひこ・大槻おおつき、国学/辞書) I 3 8 0 6
 馥軒(ふくけん・唐坊) → 長秋(ながあき・唐坊とうぼう、藩士/儒者) D 3 2 1 5
 復元(ふくげん・坂本) → 浩然(こうねん・坂本、医/本草/絵師) K 1 9 9 0
 復原楼(ふくげんろう) → 精里(せいり・古賀こが/劉、幕府儒官) 2 4 1 5

B3849 福子(ふくこ/ふくし/さきこ・張ちよう;=尾張か?) ?-? 奈良期薬師(大宰府の医者)/渡来人か、
 730旅人の梅花宴参加、万葉三期歌人;5829、
 [梅の花咲きて散りなば桜花継ぎて咲くべくなりにてあらずや]

B3850 服子(ふくこ・堤つみ) ? - 1819 江中期江戸の歌人、
 歌集「はゝその落葉」(息;喜之よしゆき編;服子1周忌1820刊)

福子(ふくこ・稲葉/斎藤) → 春日局(かすがのつぼね、家光の乳母) C 1 5 2 1
 福子(ふくこ→さちこ・田内) → 幸子(さちこ・田内たうち/伴、歌人) K 2 0 4 3
 福子(ふくこ・望月) → 福子(よしこ・望月もちづき、歌人) P 4 7 6 0
 復古(ふくこ・安達) → 復古(なおひさ・安達あだち、国学者) 3 2 5 8
 福孝(ふくこう・原田) → 平入(初世へいにゅう・原田、幕臣/茶人) 2 7 7 5
 復享(ふくこう・松平) → 胤富(たねとみ・遠藤たえんどう/松平、藩主) V 2 6 9 5

福光園入道前関白左大臣(ふくこうおんにゅうどうさきのかんぱくさだいじん) → 良実(よしざね・二条) D 4 7 4 9
 復五郎(ふくごろう・増山) → 守正(もりまさ・増山/藤原、医者/詩歌) G 4 4 5 3

B3851 復斎(ふくさい・山本やまもと、名;信義) 1680-1730⁵¹ 撰津武庫郡魚崎の代々酒造業、
 儒者:浅見綱斎・三宅尚斎門;3傑、垂加流神道説;高田正方門、雀松精舎を設営;講説業、
 京で没、1701「天人一道講義」08「御陵所考」、「復斎漫記」「近思録考」「四書国読」「学庸考」、
 「神代鈔説」「易経本義講義」「神路山講義」「三種祓意考」「復斎稿」外著多数、「復斎遺稿」、
 [復斎(;号)の通称/別号]通称;源蔵/原蔵、別号;香山/守境霊社/雀松舎、井上篤好の師
 B3852 復斎(ふくさい・佐藤さとう、名;尚志、安澄男) 1749-91⁴³ 越後新発田藩江戸藩邸の生、儒:野田剛斎門、
 幸田誠之門、藩主溝口直養の近習/1767新発田に住;藩儒教授/藩政参加、郡奉行/90物頭、
 1775「石原寛信葬埋筆記」、「尚志割記」著、「幸田先生語録続編並附録」著(没後1793刊)、
 [復斎(;号)の通称]通称;八右衛門、弟;熙明・重遠・明善・懋徳(いずれも藩儒)
 B3853 復斎(ふくさい・高橋たかはし、名;栗、山崎博監男) 1788-1834⁴⁷ 高橋元弼の養嗣子/儒;宮原竜山門、
 江戸昌平黌;古賀精里門/昌平黌舎長/1821帰国;伊予松山藩儒;侍読/28藩校明教館教授、
 「論語私記」「学庸私記」「復斎経学私記」「桐陽集」「復斎詩文集」著、「蘭林堂遺稿」、
 [復斎(;号)の字/通称/別号]字;子實し・公董、通称;善次、別号;蘭林
 B3854 復斎(ふくさい・林はやし、名;輝あきら、述斎4男) 1800-59⁶⁰ 林家支族林信隆の養嗣/のち宗家に復す、

儒;家学のち松崎慊堂門/幕府儒官;住五下大学頭/1808信隆家継嗣;小普請/24書物奉行、1838二/丸留守居/43先手鉄砲頭/47西丸留守居;学問所御用兼務/1853壯軒没し宗家復帰、林家11代;小姓組番頭次席/大学頭、1854米使節ペリーとの交渉;和親条約締結に従事、1817「竊山だいざん詩稿」17・18「鬪詩合集」28「家園漫吟」編/49「海防策草」54「轎中雜識」、「読書臆記」「彙刻類目録」「重訂御書籍目録」、「復齋詩文稿」「復齋遺稿」外著多数、[復齋の字/通称/別号]字;弼中、通称;熒之助いのすけ/右近/式部小輔、別号;梧南/藕漬ぐうこう、諡号;文毅

B3855 **復齋**(ふくさい・平井ひらい、名;元直)1804-7067 加賀大聖寺藩士、儒;江守城陽門/経史に通ず、郡奉行・作事奉行/1844藩主前田利平の近習侍読、57藩校時習館用掛/68時習館会頭、学制改革・学校増設に尽力、詩人;中島棕隠・大沼枕山・広瀬旭莊と交流、「温樹秘録」著、[復齋(;号)の通称/別号]通称;五郎左衛門/勝馬、別号;無入

覆載(ふくさい・味木) → 立軒(りっけん・味木あじき、儒者) B 4 9 6 9
 復齋(ふくさい・鎌田) → 碩庵(せきあん・鎌田かまた、医者/歌人) J 2 4 9 1
 復齋(ふくさい・神林) → 復所(ふくしょ・神林かんばんやし、藩士/儒者) B 3 8 5 8
 復齋(ふくさい・的場) → 健(たけし・的場まとは、医者/歌人) Z 2 6 6 5
 復齋(ふくさい・五嶺舎) → 推己(すいこ・浅原あさはら、俳人) E 2 3 4 6
 蝠齋(蝠才ふくさい・和田) → 以悦(いえつ・和田わだ、儒者/歌人) 1 1 4 1
 覆載院(ふくさいいん) → 豊昌(とよまさ・山内やまのうち、藩主/兵学) R 3 1 5 8
 福三郎(ふくさぶろう・鶴飼) → 技美(わざよし・鶴飼うかい、藩士/軍学者) 5 3 2 2
 復三郎(ふくさぶろう・大槻) → 文彦(ふみひこ・大槻おおつき、国学/辞書) I 3 8 0 6
 福子(ふくし・張) → 福子(ふくこ/ふくし/さきこ・張、医者/歌) B 3 8 4 9
 福子(ふくし・華園) → 福子(としこ/とみこ・華園はなぞの/西園寺、歌) W 3 1 1 1
 福芝齋(ふくしさい・井上) → 得蕪(とくぶ・井上、俳人) L 3 1 3 2
 福寿(ふくじゅ・尊勝院) → 尊勝院福壽(そんしょういんのふくじゅ、童/歌) L 2 5 3 2
 福寿(ふくじゅ) → 江隠(こういん;道号・宗頭;法諱、臨濟僧) H 1 9 3 5
 福寿院(ふくじゅいん) → 日富(にっふ/日遇・見龍、日蓮僧) F 3 3 5 2
 福集金剛(ふくしゅうこんごう) → 安然(あんねん;法諱、天台僧/悉曇学) C 1 0 4 1
 福十郎(ふくじゅうろう・永見ながみ) → 徳太郎(とくたろう・永見、問屋/算法) L 3 1 1 9

B3857 **復初**(ふくしょ・原田はらだ、名;喬/種雄、元慶男)1767-182559 肥前佐賀藩士/儒者;1784藩校入学;古賀精里門、1790熊本藩儒の藪孤山門、帰藩後藩儒/1820藩校弘道館教授、藩学政に参画、詩を嗜む、「西肥古蹟詠」「芥子園画伝国字解」「復初文集」著、「珮川詩鈔」入、蘇堂の父、[復初の字/通称/別号]字;維岳、通称;忠助/多嘉士、別号;鶴楼/鶴橋/西隍せいこう/松水

B3858 **復所**(ふくしょ・神林かんばんやし、名;弼/良弼)1795-188086 磐城平藩士/儒者;藩校施政堂に修学、江戸の佐藤一斎門、帰藩後儒官、神林惺齋・大須賀筠軒の父、「国字母考」「愚得漫録」、「怪談集覽」「復所雜筆」「讓善舎文詩」「琢屑録」著、1852「医術談叢」編/58「韻学便蒙」外著多、[復所の字/通称/別号]字;伯輔、通称;清助/清介/清竹/讓、別号;復齋

復所(ふくしょ・江村) → 如亭(じよてい・江村、儒者/本草家) C 2 2 8 2
 復初(ふくしょ・梶原) → 景惇(かげあつ・梶原、商家/和漢学) B 1 5 8 1
 福昌(ふくしょう・久富) → 山公(さんこう・久富ひさとみ、俳人) M 2 0 1 8
 福照院(ふくしょういん) → 満基(みつもと・二条、関白左大臣、歌人) E 4 1 9 6
 福照院関白左大臣(;新統古今集) → 満基(みつもと・二条、関白左大臣、歌人) E 4 1 9 6
 蝠翔齋(ふくしょうさい・小野) → 弘度(ひろり・小野おの、商人/心学者) G 3 7 9 0
 福次郎(ふくじろう・岡) → 扇歌(せんか・初世都々一坊、うかれ節) E 2 4 9 9
 副次郎(ふくじろう・近田) → 冬載(ふゆとし・近田ちかた、歌人) I 3 8 4 8
 復真(ふくしん・松岡) → 定庵(ていあん・松岡、本草家) 3 0 2 5
 福臣(ふくしん・安部) → 惟貞(これさだ・安部、国学/連歌) O 1 9 3 4
 福信(ふくしん・狩野) → 洞春(とうしゅん・狩野かのう、絵師) F 3 1 0 7
 福慎(ふくしん・横瀬) → 貞征(さだゆき・横瀬よこせ/松平、旗本高家) N 2 0 3 9
 福親(ふくしん・高木) → 正剛(まさかた・高木たかぎ/松平/源、藩士/歌) L 4 0 6 9
 福綏(ふくすい・池口) → 杏圃(きょうほ・池口いけぐち、藩士/儒者) O 1 6 5 1

- 福穂(ふくすい・藤木) → 実斎(じつさい・藤木ふじのき、儒者/詩人) U 2 1 7 0
 伏水隠士(ふくすいんし) → 通溥(みちひろ・河野こうの、国学/歌人) J 4 1 1 1
 復助(復輔ふくすけ・三宅) → 樅台(しょうだい・三宅みやげ、儒者/詩文) U 2 2 0 7
 腹赤(ふくせき・桑原) → 腹赤(はらあか・はらか・桑原/都、詩人) F 3 6 7 9
 福宣(ふくせん・檜山) → 福宣(とみのぶ・檜山ひやま、暦法家) O 3 1 9 2
 福善斎(ふくぜんさい) → 謝庵(しゃあん・丹羽/藤、絵師) F 2 1 9 9
 復然堂逸士(ふくぜんどういつし) → 一庵(いちあん・高橋たかはし、儒者) F 1 1 9 5
 福蔵(ふくぞう・高松) → 法身(法心ほっしん、真壁平四郎、臨濟僧) C 3 9 6 7
 復蔵(ふくぞう・大江) → 広海(ひろみ・大江/早川、国学者/歌) H 3 7 2 0
 福草舎(ふくそうしゃ) → 守由(もりよし・衣笠きぬがさ/東、絵師/歌) J 4 4 9 0
 輻湊堂(ふくそうどう) → 春樹(はるき・山本、書肆/歌) G 3 6 2 8
 福孝(ふくたか・原田) → 平入(初世へいにゅう・原田、幕臣/茶人) 2 7 7 5
 福田勢三(ふくだせいぞう;号) → 籠松軒(ちようしょうけん、歌舞伎作者) I 2 8 9 9
 福田の翁(ふくだのおきな) → 江三(こうさん・村井むらい、俳人) J 1 9 1 1
 福田舎(ふくだや) → 驥六(きろく・武田/竹田、酒造業/俳人) H 1 6 7 0
 復太郎(ふくたろう→またたろう・河村) → 秀根(ひでね・河村、藩士/国学者/歌) D 3 7 5 4
 福太郎(ふくたろう・中岡) → 慎太郎(しんたろう・中岡、勤王派/討幕) 2 2 5 9
 福地親雲上(ふくちへい・くみ) → 盛命(せいめい・識名しきな/伊野波/毛、琉球三司官) D 2 4 0 0
 福長(ふくちよう・高辻) → 福長(とみなが・高辻たかつじ、廷臣) O 3 1 9 0
 C3896 不屈(ふくつ) ? - ? 伊賀上野俳人、1672宗房(芭蕉)「貝おほひ」入、
 [掃除して瓢箪たゞきや炭ぼこり](貝おほひ;廿九番左、
 炭取瓢箪;叩けば埃が出るのもじり)
 復定(ふくてい・増山) → 守正(もりまさ・増山/藤原、医者/詩歌) G 4 4 5 3
 福亭三笑(ふくていさんしょう) → 三笑(さんしょう・福亭/富久亭、噺本作者) F 2 0 8 8
 福亭禄馬(ふくていろくば) → 西馬(さいば・楽亭らくてい、書肆/戯作者) H 2 0 0 3
 B3859 復堂(ふくどう・萩野はぎの/本姓平・孔平くひら、名;信珉/珉文びんぶん) ?-? 江前期出雲の医者/儒者;
 1696松江藩侍医、儒者;藩儒に宇佐美瀧水しんすいを推挙、1761「東藻会彙纂略」、鳩谷きゆうくの父、
 [復堂(;号)の字/通称]字;石甫/春庵、通称;玄改/求之助
 B3860 復堂(ふくどう・鉄てつ、名;煥/頭考、藤兵衛男) 1777-1843 阿波名東郡上佐那河村農家、好学心旺盛、
 画;八木巽所んしよ門/儒;那波網川もうせん門、江戸の古賀精里門/加賀藩の招聘を断り帰郷、
 徳島常三島で開塾;子弟教育/在野の学者/書画;水墨画が得意、「復堂詩抄」、
 [復堂(;号)の字/通称/別号]字;子文、通称;嘉三よしぞう、別号;芳溪(;初号)/渭洲/高亭
 B3861 復堂(ふくどう・杉山すぎやま、名;忠亮、七郎衛門策之男) 1801-45 常陸の儒者;昌平黌で古賀精里門、
 水戸藩儒藤田幽谷門;水戸藩出仕/1821彰考館史官/31総裁代役/40藩校弘道館教授、
 1843彰考館総裁兼任、藩主継嗣問題では異論を退け斉昭擁立に成功、「葦原集」「国語稿」、
 1818「高山正之伝」、「蒲生君平伝」「正志斎詩鈔」「杉山叢書」「復堂叢書」著、「復堂遺稿」、
 [復堂(;号)の字/通称/別号]字;子元、通称;千太郎、別号;致遠斎/致斎
 B3862 復堂(ふくどう・芳野よし、名;毅、金陵男) 1830-45:夭折 16歳 江戸の生/儒者;父門/亀田綾瀬門、
 「復堂遺稿」;詩千余首/文百余篇、桜陰の兄
 [復堂の字/通称] 字;伯仁、通称;純蔵
 福堂(ふくどう・秋山) → 光彪(てるたけ・秋山、国学/歌) C 3 0 7 9
 福堂(ふくどう・渋川) → 敬直(ひろなお・渋川しぶかわ、幕臣/暦算家) G 3 7 5 8
 福道(ふくどう;名) → 尊超親王(そんちようしんのう、浄土知恩院僧) F 2 5 6 3
 福同(ふくどう・内藤) → 忠世(ただよ・内藤、藩家老/俳人) R 2 6 2 2
 復堂(ふくどう) → 醒廬(せいろう・万波まんなみ、儒者) D 2 4 2 2
 復堂(ふくどう・亀田) → 敦(あつし・亀田、商家/儒/詩) E 1 0 6 5
 復堂(ふくどう・市川) → 霞洞(かどう・市川いちかわ、儒者) O 1 5 2 1
 復堂(ふくどう・長川) → 政徳(まさのり・長川ながかわ/高杉、漢学者) G 4 0 2 9
 B3863 福富(ふくとみ・水野みずの、別名;長富、勝寿男) 1652-1714 水野勝成の曾孫/備後福山藩士;

1682家督相続、84番頭役/98藩主水野勝岑没し改易;浪人し京伏見に退去、
下総結城藩転封の水野勝長の招聘、結城藩家老となる、
俳人;梅盛・立圃門、詩歌/狂歌も嗜む、狂歌;1669梅盛「狂遊集」入、
俳;1667湖春「続山井」/70種寛「俳諧詞友集」/76季吟「続連珠」/81似船「安楽音あんらくのこえ」入、
1681常矩「俳諧雑巾」入、「はりぬき千句」編、「福山名所記」「歌林一葉」「結城新城記」著、
歌人;1682河瀬菅雄[麓の塵]7首入、

[昨日見し外山の花やちりぬらん尾上の風にはるる白雲](麓の塵;春100/遠山落花)、
[福富(;名)の通称/号]通称;平内/織部/将監/兵庫、号;梅径/水器子

福成(ふくなり・牡丹花/牡丹楼)→牡丹花福成(ぼたんかふくなり・狂歌作者) E 3 9 4 6

福之助(ふくのすけ・中村)→歌右衛門(うたえもん三世・中村、初世金沢龍玉) 1 2 6 4

福之助(ふくのすけ・三井)→高猷(たかのり・三井みつゐ、商家/国学) Z 2 6 7 9

福廼屋内成(ふくのやうちなり、鬼外楼)→内成(うちなり・福廼屋、狂歌) B 1 2 7 9

B3864 福徳(ふくのり・背[消]奈せな/しような)?-? 大和藤原期高麗妻渡来人/武蔵高麗郡住、行文ぎょうもの父

B3865 福旧(ふくひさ・松本まつもと、能重男)?-? 江中期越前福井藩士;1736家督/57大番入、

大坪流馬術家;町田利涉門、「打毬」「打毬之記」著、

[福旧(;名)の通称] 善蔵、福道の養父

福富(ふくふ・水野)→福富(ふくとみ・水野みずの、藩士/俳/詩歌) B 3 8 6 3

福平(ふくへい・於田)→於田福平(おたふくへい・滑稽本作者) B 1 4 5 2

福馬(ふくま・中村/桜木)→蛙井(あせい・桜木さくらぎ、随筆家) E 1 0 4 9

復馬(ふくま・佐竹/山内)→心阿(しんあ・松月堂しょうげつどう、僧/歌人) N 2 2 2 5

福増(ふくます・藤木)→有久(ありひさ・藤木ふじき/賀茂、神職) F 1 0 6 5

福松(ふくまつ・田川)→成功(せいこう・鄭てい/朱/国姓爺、武将) 2 4 7 3

福松(ふくまつ・平元/飯塚)→恰(ゆたか・飯塚/平元、藩士/歌/狂詩) G 4 6 0 7

福松(ふくまつ・三保)→喜左衛門(きざえもん・三保みほ、船頭/樺太見聞口述) F 1 6 3 6

B3866 福丸(ふくまる) ? - ? 江中期撰津伊丹の俳人;1776几董「続明烏」1句入、

[松風も春のものとして暖かに](続明烏;46)

福麻呂(ふくまろ・田辺)→福麻呂(さきまろ・田辺、万葉歌人) 2 0 1 3

福麿(ふくまる・渡辺)→福麿(さちまる・渡辺わたなべ、藩士/歌人) P 2 0 8 3

復明医窟(ふくめいいくつ)→道斎(どうさい・三浦、医者/語学) E 3 1 4 1

復明堂(ふくめいどう)→円如(えんにょ;法名・馬嶋まじま、眼科医) F 1 3 2 7

B3867 服膺(ふくよう;法諱・法雲院;諡号、俗姓;広川) 1809-7466 越後真宗大谷派皆応寺住職:

高倉寮に修学、1847寮司/54擬講/71嗣講、東本願寺の命で東北北海道など各地布教教化、
「六合釈講解」「後出阿弥陀仏偈講義」著

復陽洞(ふくようどう、復陽洞真人)→見僕(見朴けんぼく・村井、藩士/医者) E 1 8 4 1

蝠翼(ふくよく)→知空(ちくう・石橋いしばし、国学/歌/出家) M 2 8 0 4

伏翼子(ふくよくし)→朝彦(ともたつ・片桐かたぎり、藩士/郡奉行) P 3 1 7 1

B3868 福吉(ふくよし/ふくきち・大村おむら、姓かばね;直/賜姓;紀宿禰)?-? 平安期834-48頃丹波の医者/右近医:

瘡病治療、仁明天皇の寵愛を受け居宅を賜う/賜姓;紀宿禰、845外従五下/853造兵正、
「治療記」著(口訣による)

B3869 福良満(ふくらまる・淡海おうみ、姓かばね;眞人)?-? 806存 大友皇子の後裔、平安期廷臣;797従五下、

797治部少輔/806桓武天皇の山造司/従五上、詩人、凌雲集3首/経国集2首入

福力庵(ふくりきあん)→村径(むらみち・武田たけだ、俳人) D 4 2 2 1

B3870 普栗釣方(ふぐりのつりかた)?-1783 江戸神田鍋町・小伝馬町の書肆満々堂経営;狂歌関係書出版、

狂歌作者:四方連/歌角力の会を創始、絵草子/滑稽本作者、1783「狂歌知足振しつたりぶり」編、
「菊壽草」著、徳和歌後万載集3首/才蔵集入、

[花曇りかゝる病もはるの旅さなわづらひそ(そんなに心配するな)後は快晴](後万載;五386)、

[普栗釣方(;号)の通称/別号]通称;奈良屋清吉/本屋清吉、別号;満々堂/漫々堂

福良満(ふくりょうまん・淡海)→福良満(ふくらまる・淡海おうみ、廷臣/詩人) B 3 8 6 9

福林堂巨立(ふくりんどうきまりつ)→湖鯉鮒(こりふ・便々館、狂歌) E 1 9 0 2

B3871 福輪道人(ふくりんどうじん・姓名不詳)?-? 洒落本作者;

1777「郭中掃除」著;主人公祖礼は荻生徂徠のもじり、
儒者?;それも護園けん派か?

- G3837 **福留**(ふくろ・憶礼おくり) ? - ? 7ct百濟より渡来亡命の達率(百濟貴族の官位)、兵法家、
665達率四比福夫しふくと共に筑紫に派遣され大野城と基肆(椽)城を築く、
671大山下だいせんげを叙位
- B3872 **文車**(ふぐるま) ? - ? 京島原桔梗屋抱え太夫、斜天/吞獅の遊里案内記「一目千軒」序
茯苓斎(ふくれいさい) → 章夫(しょうぶ・山本、本草家/写生画) L 2 2 4 6
- G3893 **袋筒長**(ふくろつつなが) ? - ? 江戸狂歌;1785「徳和歌後万載集」2首入、
[折々に唄もとぎれて早乙女のさゝやきあふは恋のうへつけ](後万載集;八497)
- G3894 **袋町入隅**(ふくろまちいりすみ) ? - ? 江戸狂歌;1785「後万載集」2首入;
[ぬかるまいと思ひながらもふみこめば足の抜けぬが恋路なるらん](後万載集;523)
袋屋(ふくろや) → 梅塵(ばいじん・山岸、醸造業/俳人) B 3 6 6 4
不群(ふぐん;字) → 超然(ちょうねん;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 8 6 3
- B3873 **不圭**(ふけい) ? - ? 連歌作者、1558「花千句」参加
- B3874 **不肩**(ふけい・立羽たちば、不角男)?-? 江戸中期江戸の俳人:父門、父の俳諧活動を支援、
1733「富のかど」/34「宝舟」編/44「俳諧音羽の滝」、47「松竹梅」編/51「玉かつら」「金銭居士」、
1752・70「初日影」、54「たからの玉」編/63「風姿第四集上」65「三笠山」67「家之栄」著、
1776「福之神」編、「春物語」「八十公」「苧生の浦梨」著、寿角・辰角の兄、不茎ふせん・不勞の父、
[不肩の別号] 泰角/玉壺亭/松月庵/西湖亭/安月堂/梅林斎/友柳軒
不携(ふけい・山本) → 常朝(つねとも・山本やまと、藩士/学者) C 2 9 7 2
富馨(ふけい;法諱・徳林) → 徳林(とくりん;道号・富馨、曹洞僧) L 3 1 5 9
富兄(ふけい・高橋) → 富兄(とみえ・高橋、藩士/国学/歌人) O 3 1 8 0
缶卿(ふけい・菊池) → 大瓠(たいこ・菊池/菊地、藩士/儒者) B 2 6 3 4
孚卿(ふけい・井内) → 南涯(なんがい・井内いうち、藩士) I 3 2 7 0
涪溪(ふけい・平田) → 淳(あつし・平田ひらた、藩校学頭/歌人) I 1 0 3 3
布慶(ふけい・箱島) → 阿誰(あすい・箱島はこしま、商人/俳人) B 1 0 1 0
溥卿(ふけい・古賀) → 穀堂(こくどう・古賀こが、藩士/儒者/詩) C 1 9 3 9
普馨(ふけい・河村) → 若芝(じやくし・河村かわむら、絵師/工芸) G 2 1 1 5
武経(ふけい・野村) → 武経(たけつね・野村のむら、軍記作者) O 2 6 4 9
武経(ふけい・浅野) → 武経(たけつね・浅野あさの、藩士/国学/歌) U 2 6 3 3
武慶(ふけい→たけよし・村上) → 武慶(武吉たけよし・村上、水軍武将) O 2 6 8 8
武卿(ふけい・蘆沢) → 下田翁(かでんおう・蘆沢あしざわ、藩士/儒) O 1 5 1 2
武啓(ふけい/たけひろ・今成) → 慮呂(慮呂りよる・今成、商家/俳人) J 4 9 8 3
不軽院(ふけいいん) → 日昭(にっしょう;法諱・成弁、日蓮僧) E 3 3 1 6
不軽居士(ふけいこじ) → 冠山(かんざん・松平/池田、藩主/和漢学) D 1 5 8 0
不軽子(ふけいし) → 妙葩(みょうは;法諱・春屋;道号、臨濟僧/五山文学) 4 1 4 3
不繫舟庵(ふけいしゅうあん) → 居敬(やすたか・藤本ふじもと、国学者) G 4 5 5 3
富傑(ふけつ・北村) → 富傑(よしまさ・北村/原、国学/歌人) M 4 7 5 0
負月翁(ふげつおう) → 松琵琶(しょうひ・窪田/西川、俳人) B 2 2 3 0
芙月斎(ふげつさい) → 紅器(こうき・高月たかつき、商家/俳人) I 1 9 1 8
浮月房(ふげつぼう) → 鉄船(鉄仙てっせん・眞幡まはた、医/俳人) C 3 0 5 2
富家殿(ふけどの) → 忠実(ただまね・藤原、撰関/故実/歌) 2 6 2 5
- B3875 **不見**(ふけん・横井よこい) 1643 - 172886 京の西洞院中立売の商家(豪商);藤村庸軒と縁戚、
茶道:千宗且門/古流の茶に精通、大坂鴻池の新田開拓事業に参画、
金森宗和・古田織部・桑山可斎らと交流、「茶道心法集」著、「望月集」(門人風後庵又夢編)、
[不見(;号)の通称/別号]通称;田屋源右衛門、
別号;風鳥庵/等甫/鳩庵/鳳庵、法号;永貞居士
不騫(ふけん・松平) → 近儔(ちかとも・松平、藩主/俳人) B 2 8 3 4
不見(ふけん・小出) → 永安(えいあん・小出こいで、儒者) C 1 3 3 4

- 不見(ふけん・朽木) → 昌綱(まさつな・朽木くつき、藩主/古銭学) E 4 0 0 0
 普見(ふけん;・字) → 妙音(みょうおん;法諱、天台宗安楽律僧) G 4 1 2 0
 傳儉(ふけん;法諱) → 霖翁(りんおう;道号・禅霈;法諱、臨濟僧) K 4 9 0 2
 B3876 不言(ふげん・省、別号;柿下庵/合歡堂)?-1791 江戸の俳人:2世沾山門、1772「霜はしら」編
 B3803 不言(ふげん・省、九狐斎)?-? 江戸市ヶ谷の俳人:江戸沾徳座点者、
 柿下庵不言の一族、1848沾山7世「俳諧鱈はいかいけい」28句入
 B3877 不言(ふげん) ?-? 江後期陸中宮古の俳人、「春日独問答」著
 B3878 普眼(ふげん;法諱) ?-? 1842存 江後期江戸の天台宗東叡山浄名院僧;安楽派、
 1842「東台布薩儀」「布薩法事次第」著
 不言(ふげん・司馬) → 江漢(こうかん・司馬しば/安藤、絵師/蘭学) 1 9 9 1
 不言(ふげん・跡見) → 滝野(たきの・跡見あとみ、絵師/書/教育) V 2 6 2 2
 富元(ふげん・宇仁館) → 富元(とみもと・宇仁/宇仁館うにだて、神職/占ト) O 3 1 9 7
 蕪軒(ふげん・清水) → 卯三郎(うさぶろう・清水、洋学者) C 1 2 2 5
 武賢(ふげん・増田/菊池) → 黄山(こうざん・菊池きくち、儒者) J 1 9 2 1
 武賢(ふげん・鳴見) → 武賢(たけかた・鳴見なるみ/鳴海、銭座経営) O 2 6 3 3
 武健(ふげん・菊池) → 西水(せいすい・菊池きくち、馬医) I 2 4 9 6
 B3879 武元(ぶげん) ?-? 伊勢山田俳人:1633重頼「犬子えのこ集」1句入
 [落ちゆくは負けか座論の梅の花](犬子集;一163、座論梅;梅の一種)
 武元(ぶげん・秦) → 武元(たけもと・秦はた、武将/兵法家) O 2 6 8 2
 武元(ぶげん・木曾) → 武元(たけもと・木曾きそ、郷土史家) O 2 6 8 4
 武元(ぶげん・松平) → 武元(たけちか・松平、藩主) O 2 6 4 5
 武元(ぶげん・愛敬) → 四山(しざん、愛敬あいぎょう、藩儒者/詩人) T 2 1 6 0
 武元(ぶげん・八代) → 柳圀(りゅうた・八代やしろ、儒者/教育) F 4 9 1 0
 武彦(ぶげん・松木) → 武彦(たけひこ・松木まつき、神職) Z 2 6 5 5
 不見庵宗非(ふけんあんそうひ;茶号) → 昌綱(まさつな・朽木くつき、藩主/古銭学) E 4 0 0 0
 不見院(ふけんいん;法号) → 昌綱(まさつな・朽木くつき、藩主/古銭学) E 4 0 0 0
 普賢院内供(ふげんいんのないぐ) → 淳祐(しゅんゆう;法諱、真言僧) L 2 1 9 1
 不倦斎(ふけんさい・山田) → 勘解由(かげゆ・山田、宮家臣/勤王派) L 1 5 4 3
 B3880 不言斎(ふげんさい・斎藤、名;専章) 1751-1825 75 日蓮宗僧:日導門、1824「己心本有本尊抄」、
 「竜女成仏書」「観心本尊文底秘沈頭本抄」著、
 [不言斎(;号)の別号] 六部庵
 不言斎(ふげんさい・本多) → 猗蘭(いらん・本多忠統、藩主/詩人) B 1 1 9 3
 不言斎(ふげんさい・猿山) → 竜池(りゅうち・猿山さやま、書家) F 4 9 1 8
 B3881 不乾斎雨声(ふけんさいうせい、別号;不眠斎)?-? 江後期戯作者:感和亭鬼武の支援を受ける、
 1811「初昔濃茶口切」12「文福茶家満」13「石動丸高野紅葉」「増補忠臣蔵」「昔譚宮城野信夫」
 武源太(ぶげんた・内崎) → 隆直(たかなお・内崎うちさき、兵学者) M 2 6 5 6
 不言亭(ふげんてい) → 霞山(かざん・上野うえの、儒者) L 1 5 6 9
 不言亭(ふげんてい) → 竹泉(ちくせん・関せき、商家/茶人) D 2 8 2 9
 不言堂(ふげんどう) → 方舟(ほうしゅう・不言堂、里正/俳人) B 3 9 5 1
 普賢心寺宮(ふげんしんじのみや) → 雄仁親王(ゆうにんしんのう、嘉言よしこと、天台修験僧) D 4 6 5 3
 B3882 普古(ふこ) ?-? 伊勢雑俳点者;1727?「二重袋ふたえぶくろ」入
 B3883 布古(ふこ・服部) ?-? 国学者:伴信友門、
 師信友の關係書を蒐集;「伴信友叢書」編纂の基礎
 不顧(ふこ;号) → 誠拙(せいせつ;道号・周樗;法諱、臨濟僧) C 2 4 4 5
 B3884 武虎(ぶこ・困横子) ?-? 京の雑俳点者;1696円水「俳諧住吉おどり」入/跋
 武固(ぶこ・荒木田) → 武固(たけもと・荒木田あきだ、神職/歌人) O 2 6 8 3
 I3840 普光(ふこう;法名・号;他阿たあ、俗姓;小野岡) 1543-1626 84 常陸の時宗僧;水戸の神応寺開山、
 声体寺開山、佐竹の浄光寺14世/相模藤沢遊行寺;1584遊行上人32代/1589藤沢上人13世、
 和学者、清浄光寺(遊行寺)に没
 B3885 不交(ふこう) ?-? 美濃岐阜の俳人;1689「あら野」2句入、

[窓くらき障子をのぼる螢哉](あら野;三)

- B3886 **扶好**(ふこう・菅波すがなみ/高橋/修姓;菅、高橋金右衛門男)?-1790 菅波久兵衛好永の養子、妻;半、備後川北村神辺の本陣本莊屋当主、のち本陣宿を親戚に譲渡;別家し農業・酒造業を営む、詩文/俳諧を好む、息子茶山(ちやざん/さざん)を教育、1789素釣「こてふつか」入、遺稿「三月庵集」(息子茶山編刊/門人兎洋跋)、[気短な恋であるらし雉子の声](1769貫千/冬芽「鴈の羽風」入)、[扶好(;名)の幼名/通称/号]幼名;亀松、通称;久助、号;蘆丈ろじょう/樗平、菅茶山の父
- 不光(ふこう・石井) → 忠虎(ただとら・石井、兵法家) E 2 6 4 5
普誥(ふこう;法諱) → 普誥(ふくく/ふこう;法諱、僧/歌人) B 3 8 8 7
鋪綱(ふこう・朽木くつき) → 鋪綱(のぶつな・朽木くつき、藩主/教育) C 3 5 1 1
布高(ふこう・村沢) → 布高(のぶたか・村沢むらさわ、天文暦算) B 3 5 7 3
敷広(ふこう→のぶひろ・松前) → 章広(あきひろ・松前まつまえ、藩主) D 1 0 8 4
巫江(ふこう・猿山) → 竜池(りゅうち・猿山さやま、書家) F 4 9 1 8
武公(ぶこう;諡号) → 治紀(はるとし・徳川、藩主/歌人) G 3 6 5 8
武江(ぶこう) → 竹陰(ちくいん・篠崎/加藤、儒者) C 2 8 5 2
武功(ぶこう・岡田) → 閑林(かんりん・岡田おかだ、絵師) R 1 5 8 3
武阜(ぶこう) → 田社(でんしゃ・谷村、俳人) D 3 0 6 9
武好(ぶこう・大島) → 武好(たけよし・大島、商家/廷臣/地誌家) O 2 6 8 9
武香(ぶこう・根岸) → 武香(たけか・根岸ねぎし、国学者) O 2 6 3 0
武康(ぶこう・菊池) → 武康(たけやす・菊池きくち/浅井、藩士/国学) W 2 6 7 7
武侯(ぶこう・菊池) → 武侯(たけよし・菊池きくち、国学者) W 2 6 7 8
普広院(ふこういん) → 義教(よしのり・足利、将軍/歌人) 4 7 2 4
普光院(ふこういん) → 賢高(けんこう;法諱・那須なす、浄土僧/歌) N 1 8 8 5
普光園院(ふこうおんいん) → 良実(よしざね・二条、閑白/歌人) D 4 7 4 9
普光園入道前閑白左大臣(ふこうおんにゅうどうさきのかんぱくさだじん) → 良実(よしざね・二条) D 4 7 4 9
普光観智国師(ふこうかんちこくし) → 存応(ぞんおう;字、浄土僧/増上寺発展) F 2 5 7 2
不高語(ふこうご) → 梅園(ばいえん・杉山すぎやま、儒者/詩) 3 6 6 5
武江市隠(ぶこういん) → 丈阿(じょうあ・観水堂、草双紙作者) Q 2 2 7 6
普光禅師(ふこうぜんじ・法智) → 独秀(どくしゅう;道号・乾才、臨濟僧) K 3 1 9 0
普光大幢国師(ふこうだいたうこくし) → 月林(げつりん/がつりん;道号・道皓、臨濟僧) H 1 8 4 1
不孤園(ふこえん・佐々木) → 露秀(ろしゅう・佐々木、妓楼主人/俳人) B 5 2 6 7
ふご和尚(ふごおしょう) → 勝算(しょうさん/しょうざん;法諱、黄檗僧) U 2 2 9 4
- B3887 **普誥**(ふくく/ふこう;法諱、別諱;普活)?-? 僧;法師、歌;新拾遺1870、[あらましにいとふは今もやすき世をまことにならば捨てやかねまし](新拾遺;1870)
- B3888 **賦国**(ふく;法諱、初法諱;吞了、俗姓;石井)1656-171156 京の時宗僧/江戸浅草日輪寺24世、1708時宗48代遊行上人;相模藤澤で相続、奥羽・京・兵庫を巡歴、藤沢に帰入、1697「時宗要略譜」1702「芝崎文庫」著
- B3889 **斧克**(ふこく) ? - ? 俳人;1776樗良「月の夜」入、[晴残る雲に恨みや宵の月](月の夜)
- B3890 **阜谷**(ふこく・岡田おかだ、名;贇)?-? 江戸期江戸の漢学者:「老子古今文考」「道德指帰論」「道德経異同考」「王註老子補」「鄭玄注学庸」著、[阜谷(;号)の字/通称]字;子贇いん、通称;権兵衛
- 武国(ぶこく・風間) → 武国(たけくに・風間かざま、藩士/歌人) W 2 6 4 4
- B3891 **夫古工**(ふここう・万里亭) ? - ? 江戸歌舞伎劇書;1771「役者名物袖日記」著
- 撫孤松園(ぶこしょうえん) → 溟北(めいほく・円山/小池、藩士/儒者) 4 3 3 7
梟滸釣叟(ぶこしょうそう) → 大雅(たいが・池/池野、絵;文人画) B 2 6 1 2
不五舍人(ふごのとねり) → 宇中(うちゅう・和田わた、俳人) B 1 2 4 2
- B3892 **不崑**(ふこん・仙掌亭せんしょうてい)?-? 江後期京の狂歌作者;仙果亭嘉栗(紀上太郎)門、1809「狂歌筒井筒」編;嘉栗追悼集
- B3893 **普巖**(ふごん;法諱・号;竜門、別法諱;海蔵)1744-? 安藝山県郡真宗本願寺派西方寺住職、

西方寺諦観の弟、1820「浄土真宗僧宝伝」著

- B3894 **普厳**(ふごん;法諱・円護;字) 1775-1835 61 安藝安藝郡坂村の真宗本願寺派西林寺9世、
俗家の生/大瀛(たいいん)門;多年修学、大瀛の子として西林寺に入りやがて住職、
三業惑乱の際は常に師に随伴、1831勸学、「三業一件書」「往生論註聴記」「浄土論管見記」、
「選択本願行信義記」「本典仰信記」/1833「入出二門偈頌聴記」著、
[普厳(;法諱)の号] 洞雲/森谷/方舟斎、諡号;遵正院(じゅんせいいん)
普厳(ふごん;字) → 眞淳(しんじゅん;法諱、真宗高田派僧) O 2 2 7 9
- I3831 **房**(ふさ・三条さんじょう、房姫、井伊直興女)?-1749 父は近江彦根藩主、権大納言三条公充(きんあつ)の妻、
夫は三条家24代当主、三条実顕室の母、歌人、歌;[彦根歌人伝・鶴]入
- I3802 **布佐**(ふさ・内山うちやま、渡辺[旧姓:齋藤]剛の女) 1755-? 遠江浜松の生、
渡辺蒙庵の孫娘(母;蒙庵2女)、豊田郡大谷村の内山真竜(1740-1821)の後妻、
祖父と夫の感化で歌人
- B3895 **ふさ** ? - ? 俳人;1777江涯「仮日記」入;
[路傍みちばたの梅は折られて片枝かな](仮日記;83)
- I3832 **ふさ**(・塩沢しざわ、旧姓;知久)?-1826 信濃伊那郡島田村の庄屋塩沢亮雄(あきお)の妻、
歌人;桃沢夢宅門/国学;森広主門(夫と同門)
ふさ(・中沢/池田) → 松月尼(しょうげつに・池田いけだ、1812-1905/歌人) U 2 2 6 5
房(ふさ・座光寺) → 里(さと・座光寺ざこうじ、為巳女/歌人) O 2 0 5 4
- B3896 **房顕**(ふさあき・棚守/本姓;野坂)?-? 戦国期巖島神社棚守職、1580記録「房顕覚書」著、
各種宮島連歌に参加、元行の父
- I3827 **英顕**(ふさあき・佐久間さくま、) 1620-1671 52 江戸の幕臣/国学者、
[英顕(;名)の通称] 甚之助/与右衛門
- I3867 **房明**(ふさあき・菱田ひだ、) 1697-1766 70 江戸の幕臣;作事方、儒学;林檎(いんげん)門、詩文、
大坂安治川の工事・貨幣の鑄造を老中に上書;実現、作事方として日光廟修繕、
[房明(;名)の別名/字/通称/号]初名;香/信、字;謚(しん/まこと、通称;丹後、号;一牛居士
総亮(ふさあき・神白) → 朝興(ともおき・神白こうじろ、神職/歌人) V 3 1 2 0
- B3897 **英明**(ふさあきら/ひであきら/よしあきら/つねあきら/つねよし・源みなもと、齐世親王男)?-939 母;菅原道真女、宇多天皇孫、
廷臣;侍従/近衛中将/927蔵人頭/937駒牽に取手を務める/不遇であったが詩文では活躍、
華美で色好(江談/河海抄)、詩文;橘在列と唱和(扶桑集入)/926菊花宴参加、文粹4首入、
和漢朗詠集・作文大体・類聚句題抄・新撰朗詠・和漢兼作集入、「慈覚大師伝」「源氏小草」著、
歌;雲葉集・夫木抄入、後撰集916;
[伊勢の海の海人のまでかた暇いとま無み永らへにける身をぞ怨むる](後撰;恋916)、
(多忙で女の許へ通えなかった弁解の歌/までかたは古来の難義;左右の手肩か)
[散る木の葉かさなるしもにあともなし山路のすゑの秋のわかれば](雲葉;秋848)
- B3898 **英明女**(ふさあきらのむすめ・源みなもと)?-? 平安中期歌人、藤原助信(敦忠男)の室、淑如の母か、
藤原道兼と贈答;続古今集1577、
[人の世か露かなにぞと見し程に面馴おもなれにけるあさがほの花](続古;1577/返歌)、
(贈歌;あさがほのあしたの花の露よりもあはれはかなき世にもふるかな/道兼)
- B3899 **普斎**(ふさい・杉木すざき、名;光敬、光貞男/本姓;荒木田) 1628-1706 79 母;美津、伊勢度会の外宮御師、
茶人;千宗旦・宗守・宗左門/普斎流の祖;伊勢・大阪・播州網干に門流、画・俳諧を嗜む、
1683「茶湯之華生様」87「利休流茶湯習法」89「普斎十卷条」1690-97「普斎茶書」、
「茶道普斎録」「炉風炉台子伝書」「茶道五度之書」「茶湯の奥義」、吉太郎光則の父、
[普斎(;号)の字/通称/別号]字;周禪、通称;吉太夫、
別号;宗喜/直入庵/得失庵/有麦庵/眞庵/瑞夢子/出入軒/宗寿
- I3884 **普濟**(ふさい;法諱) ? - ? 江中期僧;京の真言宗金蔵院僧/歌人;宮川松堅門、
1722松堅[倭譚五十人一首]入、
[いさり火の影さへ消えて明石瀉たぐひもなみの月の光は]、
[倭譚五十人一首;24海辺月/なみは無みと波を掛ける]
- C3800 **普濟**(ふさい;法諱) ? - ? 江戸後期撰津真宗本願寺派僧;智洞門/智洞の侍者、

1797大瀛が道岳名で智洞の講義について学林に質問書を提出した際;智洞の意を受け答釈、
「藝備諸藹上問尋書答釈」「論衡編議詳」著

- 普濟(ふさい;道号) → 善救(ぜんきゅう;法諱・普濟、曹洞僧) M 2 4 0 4
孚齋(ふさい・大塚久成) → 退野(たいや・大塚, 儒者) C 2 6 2 4
孚齋(ふさい・大塚) → 退野(たいや・大塚おつか、藩士/儒者) C 2 6 2 4
普最(ふさい;法諱・妙庵) → 妙庵(みょうあん;道号・普最、黄檗僧) G 4 1 0 9
浮齋(ふさい・永我) → 永我(えいが・盛、俳人) C 1 3 5 4
普在(ふさい;法諱) → 在庵(ざいあん;道号・普在;法諱、臨濟僧) H 2 0 0 1
普濟庵(ふさいあん) → 玄朝(げんちよう・保倉ほくら、医者/製薬) L 1 8 4 0
不裁庵(ふさいあん) → 成章(せいしょう・田村たむら、俳人) I 2 4 7 8
普濟国師(ふさいこくし) → 疎石(そせき;法諱・夢窓;道号、臨濟僧/五山文学) 2 5 2 4
富齋人(ふさいじん) → 秀政(ひでまさ・吉野よしの、神職/地誌) D 3 7 8 1
房一(ふさいち;都名) → 歌木檢校(うたぎけんぎょう、地歌作曲家) B 1 2 3 9
普濟堂(ふさいどう) → 游(ゆう・武部たけべ、蘭学/医者) 4 6 4 6
夫左衛門(ふざえもん・岡崎) → 宜平(よしひら・岡崎おかざき、藩士/測量) G 4 7 5 1
3805 武左衛門(ぶざえもん・鹿野しかの(;号)、姓;志賀しが、名;安次郎) 1649-99⁵¹ 大阪の生、
江戸長谷川町で塗師、話芸の道に進む;座敷仕形咄を得意/江戸噺家の祖、
1683「鹿野武左衛門口伝はなし」、「はなしの間屋」「軽口都男」著
1686「鹿の巻筆」著/中の一話が筆禍;1694-99伊豆大島に流刑
武左衛門(ぶざえもん・松永) → 乙人(おつじん・松永まつなが、俳人/浄瑠璃) D 1 4 1 9
武左衛門(ぶざえもん・桃田) → 柳栄(りゅうえい・桃田ももた、絵師) C 4 9 8 3
武左衛門(ぶざえもん・北川) → 正種(まさたね・北川きたがわ、藩士/歌人) L 4 0 6 2
武左衛門(ぶざえもん・小島) → 葛人(かつじん・小島こじま、俳人) C 1 5 4 6
武左衛門(2世ぶざえもん・鹿野) → 正蔵(しょうぞう・林屋はやしや、噺家/合巻作者) 2 2 6 4
武左衛門(ぶざえもん・沢村) → 西陂(さいへい・沢村、藩士/儒) C 2 4 7 6
武左衛門(ぶざえもん・岡島) → 林齋(りんさい・岡島おかじま、幕臣/絵師) K 4 9 3 1
武左衛門(ぶざえもん・福島) → 満政(みつまさ・福島ふくしま、藩士/書簡) E 4 1 8 8
武左衛門(ぶざえもん・樺山) → 資雄(すけお・樺山、藩士/神職/国学/歌) G 2 3 1 0
武左衛門(ぶざえもん・関) → 守雄(もりお・関せき、商家/国学者) F 4 4 1 9
武右衛門(ぶざえもん・矢内) → 光門(みつかど・矢内やない、国学者) K 4 1 8 5
武左衛門(ぶざえもん・野崎) → 弥(ゆづか・野崎のさき/昆陽野、塩田実業家) H 4 6 1 2
武左衛門(ぶざえもん・矢内) → 千俊(ちかとし・矢内やない、国学/歌人) W 1 5 0 1
I3845 房雄(ふさお・高松たかまつ、本姓;橘)?-? 江中後期;紀伊和歌浦の玉津島神社神主、
国学;本居宣長(1730-1801)門、師宣長を和歌浦に迎え饗宴を催、
[房雄(;名)の通称] 上総介
総夫(ふさお・山田) → 広助(ひろすけ・野城のしろ、国学/勤王) K 3 7 5 8
C3801 房勝(ふさかつ・津田つた、勝元男) 1629-1701⁷³ 尾張藩士/父を継承;藩主徳川義直側室貞松院出仕、
御賄頭・御傳、貞松院没後;清姫に出仕;150石/清姫没後;御馬廻、1665随筆「正事記しょうじき」編、
[房勝(;名)の通称/法号]通称;藤兵衛、法号;理性院
C3802 房吉(ふさきち・重元しげもと、初代平八)?-? 琴商/山田流六尺の箏を創作;琴師として名を残す、
箏曲;1809「吾孀箏譜あづまことうた」編(;山田流詞章集)
房吉(ふさきち・高宮/最上) → 徳内(とくない・最上もがみ、探検家/紀行) L 3 1 2 5
房吉(ふさきち・根岸) → 友山(ゆうざん・根岸、農業/儒者/武術) C 4 6 0 2
房吉(ふさきち・山吹) → 正直(まさなお・山吹やまぶき/鈴木、藩士/歌) T 4 0 5 3
普磋吉(ふさきち・渡辺) → 政香(まさか・渡辺/源、神職/国学/歌) B 4 0 6 4
C3803 房子(ふさこ・福田ふくだ/旧姓;杉下) 1770-1831⁶² 飛騨吉城郡宇津江の歌人;田中大秀門、
高山の国学者福田敷雄しきお(のおお/大秀門/1769-1837)と結婚、「房子詠草」著
夫 → 敷雄(しきお/のおお・福田ふくだ/瀬木、国学/歌) J 3 5 8 7
C3804 房子(ふさこ・高野たかの、別名;保子、保右女) 1823-83⁶¹ 母;松前章弘女、京の生、

1840統仁親王付中臈、1858勾当掌侍こうとうのない、和宮降嫁に中心的役割、1864禁門変で退任、1867再出仕；典侍ないのすけ、1872致仕/従三位、1852-58「孝明天皇女房房子日記」著、
従三位高野保美の妹、

[房子(；名)の通称]光/右京/新掌侍しんしょうじ/侍従掌侍/中将掌侍/勾当掌侍/藤宰相/筑紫町

房五郎(ふさごろう・山田) → 維則(これのり・山田やまだ、藩士/儒者) O 1 9 7 2

房五郎(ふさごろう・南部) → 広矛(ひろぼこ・南部なんぶ、藩士/歌人) K 3 7 5 2

- 3806 房前(総前ふささき・藤原朝臣ふじわらのあそみ、通称；北卿、不比等ふひと男)681-73757 奈良期廷臣/政治家、
北家の祖、武智麻呂の弟/宇合・麻呂の兄、母；蘇我連子(武羅自古)女の娼子、
717参議/721従三位/724正三位、732東海・東山節度使/民部卿、元明天皇に重用される、
737疫病で兄弟3人とも没、追贈太政大臣、万葉三期歌；5812(大伴旅人へ返歌)、
詩；懐風藻3首、続古今309、
[言問はぬ木にもありとも我が背子が手馴たなれの御琴みこと地つちに置かめやも](万葉；812)
万葉；1195左注の[藤原卿]は房前か？

- C3805 房定(ふささだ・上杉/本姓；藤原、上条上杉の祖清方男)？-1494 戦国期武将；
越後守護上杉房朝の養嗣子、1449養父没後に越後守護、守護代長尾邦景を殺害、
足利義政の命で関東平定のためしばしば古河公方足利成氏と合戦、
宗祇・飛鳥井雅康・堯恵らを厚遇、連歌；新菟玖波集発句2句入、
釣雪老人「上杉問答」の質問者？、

[房定(；名)の通称]左馬助/民部大輔/相模守、法号；長松院常泰

- C3806 房郷(ふささと・北畠きたはたけ/本姓；源、具能男)？-？ 室町期廷臣；従五下右近中将、
歌；1450宝徳二年十一月仙洞歌合参加(5首)、

[山かけにうかぶ千入ちほや水無瀬川袖つく色にまがふ紅葉ば](仙洞歌合；十二番右24)

房郷(ふささと・横田) → 勘左衛門(かんだえもん・横田、藩士/軍学) Q 1 5 7 3

- C3807 房実(ふささね・九条くじょう、忠教男/本姓；藤原)1290-132738 母；藤原有時女、廷臣、
兄師教の没後に家督嗣、1301従三位/19右大臣/22皇太子傅・左大臣/23関白・氏長者、
1324致仕、「嘉暦二年日記」著、1315京極為兼[詠法華経和歌]参加、
歌；勅撰7首；玉葉226・続千載195・続後拾150/413/615/764/1127(；5首)、
[散るはうく香はなつかしき花のえにいとひいとほぬ春の山風](玉葉集；二226)

[房実(；名)の号]号；報恩院/後一音院のちのいちおんいん

房実(ふささね・上杉/上条/上条上杉) → 玄澄(げんちよう；法号、武将/連歌) L 1 8 3 1

- C3808 房繁(ふさしげ・八条はちじょう、房藤男/本姓；源)？-？ 1508存 武州八条馬術家；小笠原民部少輔植盛門、
小笠原流の奥義を極める、八条流馬術を創始、「騎方書」「騎方百問答」「印之書」「印之図」著、
[房繁(；名)の通称] 近江守

- C3809 総茂(ふさしげ・石川いしかわ、総良男)1671-173363 母；本多忠義女、1685父の遺領伊勢神戸を相続、
奏者番/寺社奉行/1717若年寄/25將軍徳川家重付側用人、32常陸下館藩主(2万石)に転封、
「いとまの記」著、

[総茂(；名)の通称/法号]通称；主水/内膳、法号；大機院

房滋(ふさしげ・杉野) → 配力(はいりき・杉野、藩士/俳人) C 3 6 1 8

房重(ふさしげ・鱸) → 有飛(ありとび・鱸すずき、国学者) F 1 0 5 1

房七郎(ふさしちろう・出口) → 利純(としずみ・出口でぐち/吉田、歌人) M 3 1 6 4

房次郎(ふさじろう・新見) → 正興(まさおき・新見しんみ/源、幕臣外国/奉行) B 4 0 5 6

房治郎(ふさじろう・具足屋) → 正明(まさあき・尾崎/源、国学/狂歌) B 4 0 0 7

- C3810 房輔(ふさすけ・鷹司たかつかき、教平男)1637-170064 母；上冷泉為満女の妻子、廷臣；1645従三位、
1664撰政・氏長者/68関白/72従一位/82関白辞退、1675「鷹司房輔記」77「鷹司房輔消息」著、
歌；1666「新院御所月次御会和歌」など御会和歌記録多数/「鷹司房輔詠歌並雑詠」著、
[房輔(；名)の別号/法号]別名；楊、法号；後景皓院、兼熙の父

- I3835 房澄(ふさすみ・末松すえまつ)1820-187960 豊前京都郡前田村の庄屋、国学者、
妻；伸子/房泰・謙澄父、

[房澄(；名)の通称/号]通称；七右衛門、号；臥雲

- C3811 房藏(ふさぞう・吉沢よしざわ)？-？ 江後期上州勢多郡粕川村堀の内の文筆家、

1847「深津邑案内」著

房蔵(ふさぞう・寺山) → 吾鬢(あざら・寺山、藩士/歌人) E 1 0 4 8

房蔵(ふさぞう・鈴木) → 鷲雄(わしお・鈴木すずき、国学/歌人) 5 3 8 5

I3857 房忠(ふさただ・丹羽にわ、旧姓;平尾) 1840-1916 77 尾張名古屋藩士、国学・歌;間島冬道門、
維新後;鎌倉鶴岡八幡宮宮司/寒川神社宮司、「丹羽房忠翁歌集」
[房忠(;名)の通称] 与三郎

房甚(ふさただ・河口) → 信任(のぶただ・河口かわぐち、蘭医) B 3 5 8 4

C3812 房種(ふさたね・河北かわきた) ? - ? 江後期京の棋士:坊門の外山算節門、五段に進む、
和漢学に通ず/能書、算節「置碁必勝」「置碁必勝後編」編刊、
1840「囲碁小学」49「囲碁答蹄」著、
[房種(;名)の字/通称]字;伯隆、通称;耕之助

C3813 房種(ふさたね・歌川うたがわ、姓;村井)?-? 幕末期絵師:歌川貞房門、
安政1854-60頃から芝居絵・源氏絵を画く、1855「糸桜春蝶奇縁」56「須磨浦後廻白浪」画、
1856「再茲相馬之旧緯」、「俳優団扇画」「絵本十二月」画、
[歌川房種(;号)の通称/別号]通称;静馬、別号;一笑斎/一瓢斎/桜斎

C3814 房継(ふさつぐ・荒木田あらかた、氏継男)?-1376 南北朝伊勢の神職;1355伊勢内宮禰宜、五位、
歌人;1334「度会わらい朝棟亭歌会」参加(3首)、風雅集2121、
[ふして思ひあふぎて頼む神路みち山ふかきめぐみをつかへてぞ待つ](風雅;神祇2121)、
[水清き山田の原のおしほ井に秋も今宵と月や澄むらん](朝棟歌会;49)

C3815 房嗣(ふさつぐ・近衛このえ、忠嗣男/本姓;藤原) 1402-88 87 室町期廷臣;1415従三位/38左大臣・従一位、
1445関白・氏長者/47一条兼良が関白職を望んだため辞任/1461太政大臣/74出家、
歌:「文政百首」入/新続古今1759、連歌;新菟玖波集2句入、1459-84「後知足院殿記」著、
[染め残すかぎりは松にあらはれて紅葉色こき秋の山の端](新続古今;十七雑1759)
[房嗣(;名)の通称/法名]通称;後知足院関白、法名;大通

C3816 房経(ふさつね・一条いちじょう、経通男/本姓;藤原) 1347-66 早世 20 北朝廷臣;1359従三位/65権大納言、
1366従二位、歌:新拾遺集570、内嗣(南朝臣)の弟、
[いづくより吹きくる風のさそふらん梢もしらぬ庭の紅葉ば](新拾遺;六冬570)

C3817 房常(ふさつね・橘川きつかわ、大江房利男)?-? 江中期享保1716-36頃父を継承;仙台藩士;料理人、
藩主伊達綱村の料理人/伊達吉村の時;大番組に抜擢、致仕後;「料理集」(3巻;包丁奥義)著

C3818 房常(ふさつね・速水はやみ/本姓;藤原) 1700-69 70 京の官人/有職故実家;壺井義知門、
律令格式・職官に精通、歌人、1728「職原秘頭抄鈔出」編/57「職原須知」/60「御狩衣地考」、
1764「公事根源愚考」68「河水問答」、「拾藁抄」「職原撮鈔」「伊呂波分類名目抄」外著多数、
[房常(;名)の通称/号]通称;小一郎、号;方巾斎/洛下陳人、常成の父

I3821 英輝(ふさてる・小出こいで、英信男) 1660-1731 72 江戸の幕臣/旗本;寄合/内記、国学者/歌人、
但馬養父郡大藪村知行の旗本小出家2代当主;1686(貞享3)家督継嗣、
1718(享保3)隠居、英長ふさながの兄、
[八重葎茂る垣根と里はあれて残るやいく夜露の月影](茂睡[鳥の迹]秋355/故郷月)、
[英輝(;名)の初名/通称/号]初名;吉尚、通称;虎松/内記、号;徹山、法号;法源院

C3819 房輝(ふさてる・臼井うすい) ? - ? 江後期幕臣;1825小納戸方、43日光御社に供奉、45致仕、
「日光供奉記」、出家/歌人;1829「臼井房輝入道詠歌」、1832「宝所詠草糾繆」著、
[房輝(;名)の通称]才三郎/采女

英時(ふさとき・北条) → 英時(ひでとき・北条/赤橋、武将/歌) D 3 7 3 0

H3890 房知(ふさとも・福井ふくい) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[声立てし木木の梢は冬がれて峰のあらしぞ松に残れる]、
(大江戸倭歌;冬1152/寒樹交松)

房仲(ふさなか・馬場) → 信祥(のぶよし・馬場ばば、幕臣/和学者) J 3 5 5 8

I3822 英長(ふさなが・小出こいで、英信2男) 1665-94 30 江戸の幕臣/旗本;寄合、英輝ふさてるの弟、
1692(元禄5)宗家の但馬出石藩7代藩主小出英益没;養嗣子として出石藩8代藩主を襲封、
4万4千石/従五下播磨守、国学者、1694(元禄7)没/長男英及(生後1ヶ月)が家督嗣、
[山住に問ひよる人もなかりけりわが友とては軒のまつ風](茂睡[鳥の迹]雑下683)、

- [英長(；名)の通称]久次郎/藏人/播磨守、法号；休心太岳仙峯院
- C3820 **総長**(ふさなが・高辻たかつじ、長量男/本姓；菅原)1688-174154 母；高辻豊長女、廷臣；1716従三位、1728権中納言/30式部大輔/34正二位、詩歌；「懐旧詩十一首」、「宣命位記」「朔旦冬至賀表」著、
[総長(；名)の法号] 恭清院、冬長・家長の父
房之丞(ふさのじょう・寺山)→ 吾鬢(あざら・寺山、藩士/歌人) E 1 0 4 8
房之助(ふさのすけ・宇都宮)→ 孚(たかし・宇都宮うつのみや、国学/歌人) V 2 6 7 6
房之助(ふさのすけ・信太)→ 意舒(もとのぶ・信太しだ/しのだ、藩士/砲術) K 4 4 0 8
房之助(ふさのすけ・前田)→ 利聲(としかた・前田まえだ、藩主/国学) W 3 1 4 3
- I3823 **英陳**(ふさのぶ・小出こいで、丹波園部藩主英知ふさとも2男)1664-174279 江戸の幕臣/旗本；寄合、園部藩主英利の弟/板倉重高の兄？、国学者、
[英陳(；名)の初名/通称]初名；英親、通称；富之助/外記
房信(ふさのぶ・富川/暁鶏堂)→ 吟雪(ぎんせつ・富川とみかわ、書肆/草双紙) E 1 6 2 1
- C3821 **房則**(ふさのり・清原きよはら、海雄男)？-？ 平安前期の地方官(受領)/豊前守、深養父ふかやぶの父
- H3883 **英教**(ふさのり・小出こいで、肥前大村藩主大村純昌8男)1829-55早世27歳 1842(天保13)小出英発養子、英発3女と結婚/1843(天保14)養父隠居；丹波園部藩主襲封/従五下加賀守/信濃守、1844常磐橋門番、1855(安政2)養父に先立ち没、跡を長男英尚が継嗣、小出英尚・松平義生の父、歌；蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[梅の花かげぞうつれる池水の底のもくづもかをるばかりに](大江戸倭歌；春131)
- I3846 **房規**(ふさのり・滝口たきぐち、通称；左右衛門)？-？ 遠江城東郡横須賀の国学者、横須賀藩主西尾忠善が横須賀学問所修道館創設、1845(天保2)八木美穂(1800-54)を招聘、房規は藩校で八木美穂に和漢学を修学、遠江横須賀学問所修道館教官に就任
成仁(ふさひと・親王)→ 後土御門天皇(ごつちみかどてんのう、応仁乱/歌人) D 1 9 3 7
房姫(ふさひめ)→ 房(ふさ・三条さんじょう/井伊、歌人) I 3 8 3 1
- C3822 **房熙**(ふさひろ・鷹司たかつかさ/本姓；藤原、近衛家熙男)1710-30早世21 母；町尻兼量女、鷹司兼熙の養子、廷臣；1720従三位/27従二位/28(19歳)内大臣、「白馬内辨要」「鷹司房熙記」「鷹司房熙申文案」外記録多数
- C3823 **総博**(ふさひろ・藤井ふじ、総尹男)1780-？ 1842存 京の有職故実家/1789衛士/92伊予掾、1842息子重義に家職を譲渡し隠居；中長者町新町西に住、1814「賀茂臨時祭祀」著、1814「賀茂臨時祭次第」24「御幸始御列書」「35四季色目」著、重義・尚弼の父、
[総博(；名)の通称/号]通称；右衛門、号；深海堂
- C3824 **総弘**(ふさひろ・石川いしかわ)？-？ 儒者；帆足万里門、1854万里「西嶋せいん先生余稿」編
房広(ふさひろ・歌川)→ 国麿(初世くにもろ・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 9 5
傳三郎(ふさぶろう/もりさぶろう？・木村)→ 昌明(まさあき・木村、武士/文筆) 4 0 9 3
- H3899 **総昌**(ふさまさ・石川いしかわ、総氏男)1658-172467 江戸旗本；総氏系石川家(保久石川家)2代、歌人、母；河内丹南藩第3代藩主高木正弘女、幕臣；1695(元禄8)家督嗣/98御書院番組頭、所領が三河国額田郡・加茂郡2郡に統括され4千石、1703(元禄11)小普請組に降格閉門、1704赦免/19小普請組支配、1721辞職；旗本寄合席/23(享保8)病で致仕、息子総朗が家督嗣、妻；7石川義當女、息子；安千代/千蔵/大久保総比(大久保忠明養子)/総朗、息女；阿くま(近藤用相室)
[総昌(；名)の通称/号]通称；左近/兵庫/監物、号；観計、法号；総昌院殿観計日芳
- I3837 **房政**(ふさまさ・鈴木すずき、)1832-190877 武蔵橘樹郡の歌人、国学/歌；橘道守・海上胤平門、
[房政(；名)の字/通称/号]字；友郷、通称；久弥、号；一貫/玉巖
房政(ふさまさ・久田)→ 宗栄(そうえい・久田ひさだ；初世、茶人) B 2 5 6 6
- H3889 **総丸**(ふさまる・伊藤いとう)？-？ 江後期；歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[ふるさとと成りにし宿を来て見れば涙とともに降る木の葉かな]、
(大江戸倭歌；冬1110/故郷)
房丸(ふさまる・稲本)→ 梅門(ばいもん・稲本、俳人) C 3 6 1 2
- I3809 **総麿**(ふさまる・香取かとり)1862- 191958 下総香取郡の神職/1896玉前神社禰宜、1897四条畷神社宮司/1900(明治30)香取神宮宮司、国学者

房麿(ふさまる・稲本) → 梅門(ばいもん・稲本、俳人) C 3 6 1 2

総麿(ふさまる・香取)

- C3825 **房通**(ふさみち・一条いちじょう、房家男) 1509-5648 一条冬良の養嗣子/廷臣; 1518従三位/41従一位、1542左大臣/45関白・氏長者、1544「唯心院装束抄」、「関白房通公装束抄」「禁中装束式」著、「一条家代々御猶子之例」著、歌人; 歌会に参加、兼冬の父、法号; 唯心院
- C3826 **総光**(ふさみつ・広橋ひろし、兼勝男/本姓; 藤原) 1580-162950 母; 烏丸光康女、廷臣; 1609参議/右大弁、1618権大納言/20正二位、歌/連歌を嗜む、兼頭の父、「白馬節会次第」「白馬節会略次第」「貫主拝賀次第」著、[総光(;名)の法号] 静月光寂
- C3827 **房光**(ふさみつ・春木はるき/本姓; 度会わたらい、亀田末昆男) 1752-180857 伊勢田中中世古の生、春木寄光の養嗣子; 正四下/伊勢外宮の権禰宜; 玉串大内人、国学に通ず、「両丹撰播紀行」著、[房光(;名)の初名/通称/号] 初名; 末員/末貞、通称; 弥門やもん/三郎五郎/隼人、号; 松圃
- I3830 **房光**(ふさみつ・桜井さくらい、光章男) 1834-186734 信濃飯田の国学者; 岩崎長世・平田鉄胤門、1865(慶応元)頃敬神愛国の大義を主唱; 倉澤清也・島崎正樹・北原稲雄らと交流、[房光(;名)の初名/通称] 初名; 正宣、通称; 真之助/文治郎
- I3816 **房元**(ふさもと・日下くさか、旧姓; 小栗) 1813-7058 江戸の幕臣; 納戸頭、国学・歌人; 大石千引門、[房元(;名)の通称/号] 通称; 数馬、号; 自完
- 房氏(ふさもと/ふさゆき?・芝原) → 春房(はるふさ・芝原しはら、国学者) G 3 6 7 8
- I3824 **英安**(ふさやす・小出こいで、吉重男) 1637-9155 母; 有馬豊氏女、1673(延宝元)父隠居; 家督継嗣; 但馬出石藩6代藩主/弟1500石分与、従五下備前守、国学者、新田開発・藩札発行に尽力、家臣等に対する粛清; 藩札発行の不正に多くの家臣や商人を処刑、これを諫めた家老・奉行・医者を追放、結局自ら隠退、長男英益が家督嗣、室; 内藤頼長女、英益・英道の父、7代藩主英益は1692没; 分家から養子英長が継嗣; 英長も1694没、その長男英及は生後1ヶ月で9代藩主継嗣; 翌1696没; 出石藩の小出家は断絶、[英安(;名)の初名/通称] 幼名; 万作、通称; 勘解由/備前守、法号; 法雲院
- I3836 **房泰**(ふさやす・末松すえまつ、房澄長男) 1841-192080 母; 伸子、豊前京都郡前田村の庄屋の家、謙澄の兄、国学者、維新後; 小倉県に出仕、「冠詞例歌集」著、[房泰(;名)の通称/号] 通称; 良策、号; 星舎ほしのや
- I3800 **房泰**(ふさやす・石田いしだ、) 1848- ? 下総香取郡大倉村側高神社社司、国学
- 房安(ふさやす・柳沢) → 吉保(よしやす・柳沢/源/松平、藩主/歌) H 4 7 7 5
- 総芳(ふさよし・鳥海) → 酔車(すいしゃ・鳥海とりうみ、里正/郷土史家) E 2 3 6 2
- H3801 **不三**(ふさん・藤田ふじた) ? - ? 江前期俳人/貞門系、1671「難波草」(宜久如貞らと)共編
- C3828 **浮山**(ふさん・中島なかじま、名; 義方) 1658-172770 京の儒者; 伊藤仁斎門/講説業、笠原雲溪と親交、「徳山名勝記」「四書通解」「傍訓五経正文」「傍訓古文真宝」「日用書」「孤山之集」著、[浮山(;号)の字/別号] 字; 正佐、別号; 訥所/孤山、諡号; 文節先生、養子; 直方・敬方、孫; 九華、曾孫; 棕隠
- C3829 **賦山**(ふざん) ? - ? 京河原町二条の俳人; 淡々門、1702轍士「花見車」1句入/28柳岡「万国燕」2句入、[涼しさや大魚おほろをはねる沖津船おきつぶね](花見車; 四143)
- C3830 **富山**(ふざん) ? - ? 歌舞伎研究家; 1756「古今役者四季発句合」
- C3831 **普山**(ふざん・山崎やまさき、名; 意春/養轍、藩医杏雨男) 1729-180981 母; 市女、筑前福岡の医者; 父門、父の跡を継嗣し医者; 法眼/名声を得る、俳人; 父母の門/1763文台を受、1768「五色水」「雪見舟」69「嶺の雲」76「続雪見舟」78「松の林」83「とも鶴」88「多摩訶止波」、1788「袖鏡」93「鉄線花」94「長生草」97「教訓ゆき平なべ」98「鳩の箒つゑ」1800「農家訓」外著多、[普山(;号)の通称/別号] 通称; 文亮/好節、別号; 不山/芙山/杏扉/釣鯉坊/青陽堂
- G3886 **斧山**(ふざん; 道号・玄鋤げんとつ; 法諱) ?-1789 越後の曹洞僧; 慈光寺の悲衡田相量門/法嗣、蒲原郡長禅寺18世/同郡福正寺9世、のち越後荷谷の舎那庵・大日庵に遇す、「永平広録抄」「安永行巻」「宝慶記聞解」「舎那庵語録」/1775-76「正法眼蔵聞解」外著多数
- C3832 **夫山**(ふざん・岩田いわた、名; 忠恕、好左男/本姓; 藤原) 1758-181962 江戸の書家; 片山于休門、

安永1772-81頃幕府の鉄砲百人組勤務/致仕、京で青蓮韻流奥義を受、江戸牛込に開塾、1807「ちらし文庫」17「書札独稽古」書、

[夫山(；号)の字/通称/別号]字；子貫、通称；来助、別号；寒松堂/見石亭

- C3833 普山(ふざん・藤林ふじばやし、旧姓；大西)1781-1836⁵⁶ 山城綴喜郡普賢寺村の医者、蘭学；1806海上随鷗(三伯)忠雄門、1810「訳鍵やっけん」(「ハルマ和解」抜粋訂正：簡略版)編、1810(文化7)「蘭学選」/1812「和蘭語法解」(最初のオランダ文典)著、1822医官錦小路頼尚門、1828「西医方選」著、1830有栖川宮の医員(近習)、京で学塾を経営；門弟多数、長女タミ(民/母；千代)の婿で門弟の三谷みに泰作(守元もりもと)を養子とす、[普山(；号)の名/字/通称/別号]名；紀元もとのり、字；君諧、通称；泰助たいすけ/泰輔/泰介/淳道、別号；筒城

- C3834 廓山(ふざん・高橋) ? - ? 幕末期米沢商家/俳人；「卯の花集」「夏木立」著

浮山(ふざん・林) → 羅山(らざん・林はやし、幕府儒官祖；幕政) 4 8 0 2
廓山(ふざん・小田村) → 廓山(ろくざん・小田村、儒者) 5 2 8 4
梟山(ふざん・水野) → 政和(まさかず・水野、鋳物師/和算家) B 4 0 7 7
布山(ふざん・東里山人) → 鼻山人(はなさんじん・細川、戯作者) F 3 6 4 5
不山(ふざん・今井) → 八九郎(はちくろう・今井いまい、藩士/測量) E 3 6 8 3
不山(芙山ふざん・山崎) → 普山(ふざん・山崎、医者/俳人) C 3 8 3 1
富山(ふざん・土肥) → 経平(つねひら・土肥/平、藩士/故実家) D 2 9 5 1
富山(ふざん・奥沢) → 軒中(けんちゅう・奥沢おくさわ、医；産科医) L 1 8 1 6

- C3835 蓐山(ふざん・宮原みやはら、名；厳/詮胤、八郎左衛門安胤男)1784-1849⁶⁶ 備後福山儒；菅茶山門/都講、備中井原村で経学を講義/大江村で門弟指導、のち医業を専らとす、晩年は歌・謡曲を嗜む、「蓐山詩集」「世説増注」著、胤敬・胤寿・胤謙の父、[蓐山(；号)の字/通称]字；莊叔、通称；玄叔

- C3836 撫山(ふざん・中島なかじま、名；慶)1829-1911⁸³ 江戸亀戸の儒者；亀田綾瀬・鶯谷門、大関剣峰と並称、神田お玉ヶ池本誓願寺前で子弟教育、維新後は埼玉久喜に幸教舎開、「性説疏義」著、[撫山(；号)の字/通称/別号]字；伯章、通称；慶太郎、別号；演孔堂/有期斎/佐致麻呂

葵山(ふざん・高/深見) → 玄岱(げんたい・深見/高こう、儒/書家) E 1 8 3 4
武山(ふざん；法諱) → 蘭阿坊(らんあぼう；号、僧/俳人) B 4 8 5 4
舞山(ふざん・山口) → 養生(よしなり・山口、国学者) P 4 7 8 2
富山翁(ふざんおう) → 巳人(むつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1
富山山人(ふざんさんじん) → 経平(つねひら・土肥/平、藩士/故実家) D 2 9 5 1
負山子(ふざんし) → 越人(えつじん/おつじん・越智、俳人) 1 3 1 0
負山子(ふざんし) → 貞陳(さだのぶ・坪田つばた、詩人) F 2 0 4 2
浮山水(ふざんすい) → 祇丞(ぎじょう・三上みかみ、札差/俳人) B 1 6 2 7
富山仙人(ふざんせんじん) → 金忠(かねただ・梅津うめづ、藩士/軍学) O 1 5 6 0
富山亭(ふざんてい) → 巳人(むつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1
富山亭(ふざんてい) → 老梅(らうばい・上倉かみくら、幕臣/歌人) 5 2 4 4
普山亭曙雀(ふざんていしよじゃく・島界散人) → 正英(まさひで・三島、実録小説作者) G 4 0 7 1

- C3837 巫山陽腎男(ふざんようじんなん、姓名不詳)?-? 洒落本作者；1754「本草妓要」著

芙雌(ふし・中村) → 愈積(まさかず・中村なかむら、歌人) R 4 0 1 9
富之(ふし・竹中) → 富之(とみゆき・竹中たけなか、歌人) T 3 1 5 1
富嗣(ふし・中西) → 富嗣(とみつぐ・中西/斎部/大中臣、神職) O 3 1 8 7

- I3877 藤(ふじ・山口やまぐち、旧姓；鈴木)1818-39^{処刑}22 江戸の歌人；信州飯田藩主の妹重子に出仕、歌；飯田藩主堀親審ちかしの側室の若江(1830豊浦に改名)門、飯田藩江戸藩邸の奥女中、1839(天保10)江戸藩邸上屋敷で豊浦(藩邸の奥の実力者)を斬りつけ重傷(まもなく没)、藤は飯田に護送され処刑；辞世[信濃なる山路の雪と諸共に春をもまたで消る今日哉]、錯綜した風聞流布；[烈女ふじ]として後世脚色；安井息軒「阿藤伝」藤本藤陰「烈女お藤」等、参照

→ 豊浦(とよら；女房名/若江、藩主側室/歌) V 3 1 8 7
富治(ふじ・田鎖) → 鶴立斎(かくりゅうさい・田鎖たぐさ、藩士/絵師) K 1 5 5 9
富爾(ふじ・広岡) → 秀富(ひでとみ・広岡ひろおか、医者) D 3 7 3 5

- 不二(ふじ;号) → 宥祥(ゆうしやう;法諱・妙浄、真言僧) C 4 6 4 5
武之(ぶし・坂上) → 烏涯(うがい・坂上さかがみ、儒者/詩人) C 1 2 0 7
武之(ぶし・高橋) → 武之(たけゆき・高橋たかはし/紀、医者/歌) Y 2 6 0 4
武史(ぶし・長尾) → 勝元(かつもと・長尾ながお、藩士/記録) N 1 5 9 2
武氏(ぶし・安部井) → 武氏(たけうじ・安部井あべい、藩士/歌人) O 2 6 2 6
武次(ぶじ・牧) → 武次(たけつぐ・牧まき、藩士/軍記) O 2 6 4 6
藤篤(ふじあつ・千秋) → 藤範(ふじのり・千秋せんしゅう、藩士/儒者/尊王) C 3 8 6 0
不二庵(ふじあん) → 二柳(じりゅう・勝見、桃左、俳人) D 2 2 2 0
不二庵(ふじあん) → 一有(いちゆう・桜山さくらやま、茶人) G 1 1 4 8
不二庵(ふじあん) → 風五(ふうご・小林、商家/俳人) 3 8 5 7
不二庵(ふじあん) → 黄牛(こうぎゅう・松田まつだ、医者/儒者) G 1 9 5 2
不二庵(ふじあん) → 蔵澤(ぞうたく・吉田よしだ、藩士/絵師) L 2 5 1 4
不二庵(ふじあん) → 四山(しざん・松平まつだいら、藩主/俳人) D 2 1 7 9
不尽庵(不之庵ふじあん) → 木尻(もくじ・伊藤いとう、俳人) 4 4 9 0
不之庵(ふじあん) → 木全(もくどう・沢木さわき、俳人) B 4 4 0 5
C3838 無事庵(ふじあん、姓名不詳)?- ? 越後の俳人、1794「おくの信折しおり」著(關更序;奥羽紀行)
無事庵(ふじあん) → 楼川(ろうせん・谷口(ろうせん・谷口江戸俳人;1699-1782) 5 2 3 3
無事庵(ふじあん) → 三休(さんきゅう・志村、幕臣/茶人;1701-57) L 2 0 9 9
無事庵(ふじあん) → 眞酔(ますい・石橋庵いしばしあん、戯作/川柳;1774-1846) I 4 0 9 2
無事庵(ふじあん) → 喜斎(きさい・桑野くわの、医者/詩歌;?-1859) K 1 6 4 8
無事庵(ふじあん) → 佳孝(よしたか・戸張とばり、茶人;江戸後期) E 4 7 1 3
無事庵(ふじあん) → 宗古(そうこ、至哉坊、俳人) H 2 5 2 4
無事庵(ふじあん) → 慮呂(慮呂りよる・今成、商家/俳人) J 4 9 8 3
無事庵(ふじあん) → 春湖(しゅんこ・橋田きつた、俳人) J 2 1 5 9
無事庵(ふじあん) → 仙鳥女(せんちょうじよ、農業/俳人) G 2 4 4 1
無事菴(ふじあん・梅溪) → 公克(きみかつ・桑野くわの、国学/歌人) U 1 6 2 9
藤井丹後入道(ふじいたんごにゅうどう) → 宗恵(そうえ;法諱、武士/法師/歌) 2 5 6 1
C3839 藤井連(葛井連ふじいのむらじ、名不詳)?-? 廷臣;万葉歌人/卷九1779;任終え上京時娘子に和す歌、
[命をしま幸さきくもがも名欲山なほりやま岩踏み平ならしまたまたも来こむ](万葉;九1779)
(娘子の歌;明日よりは我は恋ひむな名欲山岩踏み平し君が越え去いなば)
2 説 → 大成(おおなり・葛井ふじい、万葉三期歌人、筑後守) 1 4 2 9
→ 広成(ひろなり・葛井ふじい、万葉三期歌人、備後守) 3 7 2 3
藤井戸神主(ふじいどかぬし) → 国基(くにもと・津守、神官/歌人) 1 7 1 0
藤枝(ふじえだ・春日) → 紀重(のりしげ・春日かすが、神職/国学者) H 3 5 9 1
節右衛門(ふしえもん・古谷) → 道生(どうせい・古谷ふるや、和算家/測量) S 3 1 8 6
不二園(ふじえん) → 定子(さだむるこ・大野/井上/榎本、歌人) J 2 0 8 7
藤雄(ふじお・矢入) → 葛溪(かっけい・矢入、詩人/書) F 1 5 3 9
C3840 葛起(ふじおき・芝しば、葛喜ふじよし男) 1770-1817 48 奈良方の楽人;笛・舞を業とする、
1814従四下肥後守、「芝氏日記」著、葛永ふじひさ・葛元ふじもとの父
葛垣内(ふじかいと) → 稻葉(いなば・門田かどた/寺井、狂歌/国学) K 1 1 1 4
藤垣庵(ふじがきあん) → 道彦(みちひこ・鈴木、医/俳人) 4 1 1 5
C3841 藤景(ふじかげ・伊藤いとう、初名;景的) 1738-1811 74 尾張藩士;小吏/普請方見分役、兵法:甲州軍法、
槍・薙刀・鎖鎌の術に長ず、「伊藤直之進上書」「講武秘書文武」「赤心秘書」著、
[藤景(;名)の通称]直之進/権之助/織治
C3842 藤蔭(ふじかげ・戸田とだ、田中信行男) 1805-82 78 1819(15歳)筑後久留米藩士戸田永保の養子、
久留米藩士;1833御徒士組/中小姓組御側目付/奥御右筆格/公事方調役/70刑法局少属、
1871致仕、歌学;香川景樹門、詩;梁川星巖門、国学・歌;井上文雄・西田直養・大隈言道門、
万葉・古今集に精通、「米府年表」編、「有馬義源公逸話」「藤蔭歌話」「万葉集愚考」著、
[藤蔭(;名)の字/通称/号]字;惟精、通称;熊次郎/信一、号;滄洲/篠舎
藤賀徒見(ふじがのかつみ、藤原) → かつみ(賀徒見かつみ・藤原、女房/歌) C 1 5 5 2

- 藤谷中納言(ふじがやつちゅうなごん) → 為相(ためすけ・冷泉、歌人) 2 6 6 1
藤谷殿(ふじがやつどの) → 為相(ためすけ・冷泉、歌人) 2 6 6 1
富士川船麻呂(ふじがわのふなまろ) → 船麻呂(ふなまろ・富士川、絵師) D 3 8 5 6
不識(ふしき・石井) → 忠虎(ただとら・石井、兵法家) E 2 6 4 5
- C3843 不時宜(ふじぎ・園田そのだ、名;朝弼ともすけ) 1819-1891⁷³ 豊後玖珠郡の森藩士/医者/儒者(漢学)、
1833(天保4)咸宜園入門;佐藤謙堂・広瀬淡窓門、医を志す;秋月・肥後・長崎に游学、
帰郷後;儒学に研鑽/藩主久留島通胤より文学侍従に抜擢;藩校[修身舎]教授、
1849藩命で家塾[学半舎]開設;門弟千余、藩主通靖の時上士首班に列す;政事加判兼務、
維新後藩の公議人として東京の公議所議員/特命常勤幹事、帰郷;権大参事//学務委員、
地域教育に尽力/京都師範学校教授、鷹城(扇吾)の兄、恒四郎(天放)の父、
漢文日記、「東遊百絶」「学規及規約」「環甲瑣言」著、
[不時宜(;号)の字/通称/別号]字;士輔、通称;保、別号;鷗処/鷹巢/学半舎
- 不識庵(ふしきあん) → 謙信(けんしん・上杉、武将/歌人) C 1 8 3 5
不識庵(ふしきあん) → 源底(げんてい:道号・道派:法諱、臨濟僧) L 1 8 5 8
不識庵(ふしきあん) → 紹真(しょうしん・勝かつ、平曲家) J 2 2 9 9
不思議庵(ふしぎあん) → 義導(ぎどう;法諱・福田、真宗僧) L 1 6 6 7
富士吉(ふじきち・松井) → 八澄(やすみ・松井まつい、国学者) G 4 5 6 7
藤木神主(ふじきのかんぬし) → 重保(しげやす・賀茂かも、神職/歌人) D 2 1 2 0
不識房(ふしきぼう) → 百明(ひゃくめい・杉坂すぎさか、俳人) 3 7 1 3
- C3844 藤清(ふじきよ・藤原ふじわら、秀清男or寂清法師男?)?-? 南北期廷臣/歌人;1359成立「新千載」1845、
秀清男なら;勾当/右近将監/木工権頭、
[行く年のかさなる老を身にすれば昔いそぎし春もまたれず](新千載;十六1845)
- H3897 藤子(ふじこ・池田いけだ、福岡藩主黒田継高女) 1726-94⁶⁹ 備前岡山藩主池田宗政の正室、歌人、
池田治政(藩主)・相良長寛ながひろの母、
[藤子(;名)の号] 宝源院
- I3842 藤子(ふじこ・伊達だて、伊達吉村8女or7女) 1733-47^{夭逝} 15 陸奥仙台藩主の女、
母;側室の倫(於多智の方/恵心院/高橋治昌女)、江戸住;歌人、郷姫・村勝・村良の姉、
[藤子(;名)の別号/号]別号;萌/八十/百合姫、号;普明院
- H3881 布治子(ふじこ・真田さなだ、真田信安女?)?-? 信濃松代6代藩主真田伊豆守幸弘(1740-1815)の妹、
歌;賀茂真淵門、本居大平「八十浦の玉」入、
[雁がねの鳴きてさわたるをち方の山田の稲葉いろづきにけり]、
(八十浦;上33/菅原信幸母八十賀屏風絵題和歌参加/田面色づきたる雁渡る所)
- C3845 藤子(ふじこ・本居もとおり、別号;ふじ子/布地子/小竹、本居大平3女) 1804-58⁵⁵ 伊勢松阪の生;
1809(6歳)父母と紀伊和歌山に移住/国学;父門;父の助手/和歌山藩に一時出仕?、
1831本居内遠と結婚/コレラ感染;和歌山で没、歌;「ふじ子刀自詠草」著
- 藤子(ふじこ・多羅尾) → 藤女(ふじよ・多羅尾たらお/土井、国学) I 3 8 4 1
鳧菰斎(ふしさい) → 仙水(せんすい・桃井ももい、俳人) M 2 4 7 0
無事斎(ぶじさい) → 麦二(むくいに・小島こじま、鋳物師/俳人) D 3 6 7 8
無事斎主人(ぶじさいしゅじん) → 梅園(ばいえん・三浦、医者/哲学/詩) 3 6 0 2
節左衛門(ふじざえもん・小刀屋) → 雅直(まさなお・木全きまた、商人/歌人) F 4 0 0 0
藤沢上人(ふじさわしょうにん) → 其阿(きあ、仏天、他阿上人、25代遊行上人) J 1 6 1 4
不二山人(ふじさんじん) → 昌俊(まさとし・佐河田、歌/連歌) 4 0 1 5
不二山人(ふじさんじん) → 百庵(ひゃくあん・寺町/越智、幕臣/茶/歌) E 3 7 4 3
不二山人(ふじさんじん) → 元寛(もとひろ・長谷川、役人/戯作研究) E 4 4 1 8
不二山人(ふじさんじん) → 美香(よしか・村瀬むらせ、藩士/詩歌/篆刻/陶芸) P 4 7 5 4
- C3846 藤茂(ふじしげ/ふじもち・藤原ふじわら/家名;星野、季保男?)?-? 南北期の武家;六位、
歌人;新千載1584/新後拾遺615、
[つらかりしたただそのままの契にてあはずは身をも恨みざらまし](新千載;十五恋1584)
- I3881 藤成(ふじしげ・上杉[梶]うえずぎ/本姓;藤原、頼成よりしげ[?-1346]男?)?-? 鎌倉南北期武将;
宮内少輔/大輔、歌人;藤葉集入(父も入集)、

- [むくいある世ともおもはずとし月をうき身ばかりにたへて忍べば](藤葉;恋580)
- I3808 **藤茂**(ふじば・河北かわきた/本姓;度会)1821-1883⁶³ 伊勢度会郡の師職(御師)、国学者;足代弘訓門、
[藤茂(;名)の別名/通称/号]別名;愛茂、通称;助太夫/与四郎/主計かづえ、号;雪廬
伏し柴の加賀(ふししばのかが)→ 加賀(かが・待賢門院、歌人) B 1 5 1 7
- C3847 **藤女**(ふじよ/ふじによ) ? - ? 江前期大阪の俳人;談林系?、
1684西鶴「俳諧女哥仙によかせん」入;
[袖笠そでかさや木の葉の音にかづきもの](女哥仙;20、
木の葉の音に欺かれ時雨かと袖を笠代りに被く)
- H3884 **藤女**(ふじよ/ふじによ・細田ほそだ)?- ? 江後期江戸の歌人、国学者細田富延とみのぶ女?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[冬がれし蓬よぎがおくの柴の戸は時雨の外に音づれもなし]、
(大江戸倭歌;冬1076/閑居時雨)
- I3841 **藤女**(ふじよ・多羅尾たらお、名;藤子、越前大野藩主土井利義としのり女)1812-84⁷³ 土井利恒の叔母、
初名;土井清子、近江信楽代官多羅尾たらお純門ひろかど(1803-78)の妻;藤子と改名、
国学;本居内遠・萩原広道・佐々木弘綱門(夫と同門)
不二身(ふじしん/ふにしん;号)→ 大観(だいかん;道号・文珠、臨濟僧) J 2 6 5 1
不二道人(ふじしんどうじん/ふにどうじん)→ 方秀(ほうしゅう;法諱・岐陽、臨濟僧) 3 9 5 5
不二叟(ふじそう) → 宇橋(うきょう・草川、俳人) B 1 2 2 6
- C3848 **不二鷹**(ふじたか・榎井たるい、通称;正直屋弥作、正直屋弥右衛門男)?-? 撰津兵庫本町の俳人、
「浪花三十六佳人」著
藤孝(ふじたか・三淵/長岡/細川)→ 幽斎(ゆうさい・細川/源、武将/歌/連歌) 4 6 0 2
藤忠(ふじたか・速水) → 常忠(つねただ・速水かやみ/山田、故実/歌) C 2 9 4 4
藤田屋(ふじたや) → 宗雄(むねお・藤井ふじい、商家/神道家) B 4 2 1 0
藤太夫(ふじたゆう・梅津) → 金忠(かねただ・梅津うめづ、藩士/軍学) O 1 5 6 0
藤太夫(ふじたゆう・香川) → 庸昌(つねまさ・香川、地誌/俳人) B 2 9 3 1
節太郎(ふじたろう・井手) → 真棹(まささ・井手いで/西村、藩士、歌人) N 4 0 3 6
藤太郎(ふじたろう・伊藤) → 武矩(たけのり・伊藤、儒者/詩文) O 2 6 6 1
藤太郎(ふじたろう・中村) → 歌右衛門(4世うたえもん・中村なかむら、歌舞伎役者) 1 2 6 5
藤太郎(ふじたろう・富岡) → 正忠(まさただ・富岡、藩士/国学/歌) D 4 0 5 3
藤太郎(ふじたろう・武田) → 立斎(りつさい・武田たけだ、儒医/経学) B 4 9 8 7
藤太郎(ふじたろう・松木/寺島) → 宗則(むねのり・寺島/松木/長野、洋学/外交) C 4 2 2 3
藤太郎(ふじたろう・西村) → 芳藤(よしふじ・歌川うたがわ/西村、絵師) G 4 7 7 8
藤太郎(ふじたろう・神谷) → 道一(みちかず・神谷かみや、国学/史家) I 4 1 7 0
藤太郎(ふじたろう・国方) → 豊民(とよたみ・国方くにかた、藩士/国学) V 3 1 0 4
藤太郎(ふじたろう・山本) → 直彦(なおひこ・熊谷くまがい/山本、藩士/絵師) L 3 2 9 9
藤太郎(ふじたろう・関) → 盛長(もりなが・関せき、藩士/国学/歌) K 4 4 1 7
武七(ぶしち・瀬在) → 一啓(かずひろ・瀬在せあり、国学者) U 1 5 8 1
不失(ふしつ・吉松) → 龍菴(りゅうあん・吉松よしまつ、藩士/国学) M 4 9 5 3
不叱(ふしつ・大関) → 増業(ますなり・大関/加藤、藩主/国学) J 4 0 1 1
- C3849 **藤継**(ふじつぐ・藤原ふじわら、藤直男)?-1665 幕臣;長崎で活躍/撰津銀山奉行、
「仮名善御譜」著
- C3850 **藤経**(ふじつね・源みなもと) ? - ? 南北期幕臣?;五位、歌;足利義詮家三十首歌会参加、
勅撰4首;新千載1177/新拾遺1054/新後拾遺475/638、連歌;菟玖波1句入
[山風の吹くかたにのみさそはれて木の葉は根にもかへらざりけり](新後拾遺;冬475)、
(宝篋院贈左大臣[足利義詮よしあきら]家三十首歌にて)
- C3851 **藤経**(ふじつね・藤原ふじわら) ? - ? 南北期廷臣;五位、歌;新後拾遺951、
[心こそたえぬ思ひに乱るとも色にな出でそ忍ぶもぢぢり](新後拾遺;十一恋951)
- I3834 **葛鎮**(ふじつね・芝しば、旧姓;芝崎)1849-1918⁷⁰ 大和奈良御所馬場の雅楽師;幼少より竜笛に長ず、
雅楽の家の舞曲[抜頭][還城楽]の秘伝を受/宮中の楽人、
のち1870(明治3)東京住;宮中の楽人(少伶人)/宮内省雅楽局創設に尽力/式部職楽部楽長、

洋楽;英人フェントン・独人エッケルト門、宮中に洋風式楽を創始/文部省音楽取調掛、
雅楽曲の教授/唱歌「鏡なす」「大和撫子」「五常の歌」など作曲、日記「芝葛鎮日記」著、
「船上」「四恩の歌」「継命」「秋の夕」「めぐみ」など作曲多数、芝葛盛(日本史学者)の父、
[葛鎮(;名)の通称] 大隅守

藤壺中宮(ふじつぼのちゅうぐう)→ 威子(い/たけ・藤原、後一条院中宮、道長女) E 1 1 0 5

藤壺女御(ふじつぼのによご)→ 四条中宮(しじょうちゅうぐう、藤原暎子し、歌合催) E 2 1 1 4

- C3852 孚子内親王(ふしないしんのう・さねこないしんのう、宇多天皇皇女)?-958? 母;十世王女の徳姫女王、
895内親王宣下:桂宮住、大和物語等に異母兄敦慶・貞数親王・源嘉種らとの恋の逸話、
色好みの女性として知られる、勅撰2首;後撰(529)新勅撰(888)、
[唐衣きて帰りしに小夜すがらあはれと思ふを怨むらんはた](後撰;九恋529)、
(訪れた敦慶あつよし親王に逢わずに帰した翌朝贈った歌/きては着てと来てを掛る)
[孚子内親王(;名)の通称]桂の内親王みこ/桂宮、

- C3853 孚子内親王家童女(ふしないしんのうけのわらわ、桂内親王のわらわ)?-? 平安前期歌人;後撰209;螢の歌、
[つゝめども隠れぬ物は夏虫の身よりあまれる思ひなりけり](後撰;四夏209)、
(内親王に螢を捕らえてと言われ袖に包んで詠む/状況については諸説ある)

- C3854 藤長(ふじなが・甘露寺かんろじ、隆長男/本姓;藤原) 1319-6143 廷臣;1321従五下/43右大弁;正四上、
藏人頭/1344造興福寺長官/45参議/46従三位/48権中納言/49致仕本座/55正三位/58従二位、
1360正二位、詩人;1343五四番詩歌合参加

- C3855 藤長(ふじなが・田口たぐち、伝歌男/田口藤好の孫) 1793-185967 陸中盛岡藩士;1831産物方、
絵師;文化1804-18頃盛岡滞在中の2世喜多川歌麿門/狂歌:四方側判者、
1837藩主南部利済の悪政痛罵の落首の廉で処分;以後は絵師を専業;「九相図」(永泉寺)、
1827「俳諧歌森廼下風」、「岩手山集」「俳諧歌璞集」「松山集」「丁亥納会」著、
[藤長(;名)の通称/号]通称;八五郎、号;雪廼屋森蔭/北風舎/蹄馬/玉屑山人

- C3856 藤永檢校(ふじながげんぎょう) ? - ? 江後期大阪の地唄三絃の演奏家;岡崎檢校門、
1757檢校、「松尽し」などの作曲/尺八曲「八千代獅子」を三味線曲に編曲、
「新增大成糸のしらべ」校訂(1812菊永檢校刊)、政島檢校・菊永檢校の師、3代まで続く

藤浪(ふじなみ・松) → 松藤浪(まつふじなみ、狂歌) K 4 0 9 1

藤波翁(藤浪翁ふじなみおう)→ 時綱(時綱ときつな・真野まの/藤波、神職) J 3 1 3 5

藤縄(ふじなわ・箕形) → 政香(まさか・箕形みのかた/源、藩士/歌人) S 4 0 9 8

藤女(ふじによ) → 藤女(ふじよ/ふじによ、俳人) C 3 8 4 7

藤の井(ふじのい) → りん女(林女/倫女りんじよ、俳人) K 4 9 4 4

藤垣内翁(ふじのかきつおう) → 大平(おおひら・本居、国学者) 1 4 0 7

富士唐丸[麿](ふじのからまる) → 梅花(ばいか・藤堂とうどう、儒者/詩文) 3 6 7 8

- G3896 富士川住(ふじのかわずみ) ? - ? 甲府の狂歌作者、1787「狂歌才蔵集」入;163、
[あげそむる高燈籠をふみ月の足代あしほにして秋やたつらん](才蔵集;四163)
(あげ始める高い燈籠;7月から晦日まで七回忌まで上げる/踏みと文月を掛る)

藤之丞(ふじのじょう・土岐) → 朝直(ともなお・土岐とき、幕臣/弓術) P 3 1 9 8

藤之丞(ふじのじょう・柏木) → 素龍(そりゅう・柏木/藤原、書家/歌/俳) E 2 5 5 0

藤之助(ふじのすけ・福岡) → 勝準(かつのり・福岡ふくおか/児玉、藩士/国学) V 1 5 5 3

- C3857 富士鷹茄子(ふじのたかなす) ? - ? 江戸狂歌;芝連、1787「狂歌才蔵集」入:
[富士釜のわきたつ春のたて初そめは茄子の茶入に鷹の羽帯はぼうき](才蔵集;-17)

藤の長房(ふじのながふさ) → 雀庵(じゃくあん・加藤/田中/加田、俳/隨筆) G 2 1 0 5

- G3895 藤葉奈丸(ふじのはなまる) ? - ? 江戸狂歌;1785「徳和歌後万載集」3首入;
[今ははやうき名もたつの天上にのぼりつめたるわが恋路かな](後万載集;恋618)

- C3858 藤信(ふじのぶ・山本やまもと) ? - ? 江中期1751-72頃江戸の絵師:石川豊信門か?、
紅摺絵・錦絵役者・美人画を得意、「大江山軍記」画(1764-72頃)、版元丸屋小兵衛と同一?

藤の坊(ふじのぼう;号) → 堯恵(ぎょうえ;法諱、天台僧/歌人) 1 6 3 2

藤坊(ふじのぼう) → 梁盛(りょうせい;法諱、堯恵門歌僧) I 4 9 4 4

- C3859 藤満丸(ふじのまんまる) ? - ? 狂歌四方連、徳和歌後万載集2首:500. 844、
[恋人のつげのをぐしも利休形さすが千家のかこひ物好](後万載:500)

- 布志乃舎(ふしのや) → 正胤(まさたね・師岡もろおか、国学者/神道) D 4 0 6 2
 富士の屋(ふじのや) → 正寛(まさひろ・岡おか、藩士/国学) O 4 0 5 3
 富士廼舎(ふじのや) → 本雄(もとお・真川まがわ/藤原、国学/神道) L 4 4 2 5
 不二之家(ふじのや) → 実行(さねゆき・古久保ふるくぼ、神職/国学) P 2 0 2 8
 藤舎(ふじのや・加藤) → 一周(かずかね・加藤、歌人) M 1 5 1 6
 藤の舎(ふじのや) → 元宝(もととみ・齋藤さいとう、藩士/国学者) K 4 4 0 5
 藤の舎(ふじのや) → 好国(よしくに・平岡ひらおか、神職/歌人) O 4 7 7 5
 藤之舎(ふじのや・伊藤) → 友吉(ともよし・伊藤いとう/伴、藩士/歌人) U 3 1 1 0
 藤廼舎(ふじのや) → 千代梅(ちようめ・白井、歌人/紀行) J 2 8 9 1
 藤廼舎(ふじのや) → 弘貫(ひろつら・住吉、広行男/幕府絵師) G 3 7 4 5
 藤廼舎(ふじのや) → 真蔭(まかげ・齋藤、庄屋/国学/歌人) 4 0 4 6
 藤廼舎(ふじのや) → 経教(つねのり・遠藤えんどう/藤原、神職/歌) F 2 9 3 5
 C3860 藤範(ふじのり)・千秋せんしゅう、別名;藤篤、範篤男) 1815-64 自刃50 金沢藩士/藩校明倫堂で修学、
 1841昌平黌入;舎長、45歳藩/明倫堂助教/世子の侍読、尊王思想、禁門変に画策;逮捕自刃、
 1851「能勝一斑録」、「七家詩存」著/「有磯遺稿」「有磯遺文」、
 [藤範(;初名)の字/通称/号]字;慥爾こうじ、通称;順之助、号;顧堂/有磯/黄薇/黄薇庵
 C3861 藤彦(ふじひこ・千歳園ちとせえん)?- ? 江後期安藝広島の俳人:篤老門、「厳島絵馬鑑」著
 C3862 葛永(ふじひさ・芝しば、初名;葛満、葛起男) 1801-32 32 奈良方の楽人/1817左近将監/27従五上、
 「芝氏日記」著、葛元ふじもとの兄
 C3863 藤英(ふじひで・三淵みつぶち、晴員男/本姓;源)?-1574切腹 武将:足利義輝・義昭の家臣、
 1569三好三人衆の入京に対し本圀寺で合戦/1573義昭が信長と不和;二条城を守備/敗北、
 明智光秀預り/1574近江坂本城で切腹、細川幽斎の異母兄、秋豪の父、1572紹巴と何人百韻
 藤平(ふじひら・成瀬) → 石痴(せきち・成瀬なるせ/横瀬、彫刻/歌) K 2 4 3 8
 富士平(ふじひら・藤由) → 維清(これきよ・藤由ふじよし、国学者) R 1 9 2 5
 C3864 藤房(ふじふさ・万里小路までのこうじ、初名;惟房、宣房男/本姓;藤原) 1295?-? 廷臣;1324参議/31中納言、
 正二位/1331後醍醐天皇の鎌倉討幕行動に参加;捕縛;32常陸配流、1333建武新政府に出仕、
 中納言に復/1334出家;以後消息不明、
 詩;1314詩歌合(;詩に参加)、「藤房卿記」著、季房の兄、
 出家後の消息について;相国寺住説or妙心寺2世授翁宗熙と同一説など
 節平(ふしへい・石原) → 馬年(ばねん・石原いしはら、藩士/俳人) F 3 6 5 2
 藤間勘兵衛(ふじまかんべえ) → 勘兵衛(かんべえ・藤間、歌舞伎所作事) G 1 5 6 3
 藤松(ふじまつ・福山) → 博正(ひろまさ・福山ふくやま、神職) K 3 7 8 2
 節松嫁々(ふじまつのかか) → 嫁々(かか・節松ふしまつ・管江妻、狂歌) 1 5 0 3
 富士丸(ふじまる) → 一雪(いつせつ/かずゆき・椋梨、俳人) B 1 1 5 4
 C3865 節麻呂(ふじまる・大伴部おともべ)?- ? 755防人/上野国の人;万葉集廿4406、
 [わが家いほろに行かも人もが草枕旅は苦しと告げやらまくも](万葉集;廿4406)
 3807 藤麻呂(ふじまる・三宅臣みやけのおみ、勝麻呂[類聚国史・日本紀略])?-? 奈良期廷臣;正八下、
 714(和銅7)2月10日詔により「国史」を紀清人と共に選録(続日本紀:六/元明天皇期入)
 富士麿(ふじまる・佐々木) → 了綱(りょうこう・佐々木ささき、真宗僧/歌) M 4 9 1 6
 不二身(ふじみ;号) → 大観(だいかん;道号・文珠、臨済僧) J 2 6 5 1
 伏見院新宰相(ふしみいんのしんさいしゅう、女房)
 → 新宰相(しんさいしゅう・伏見院、歌人) O 2 2 5 7
 伏見院中納言典侍(ふしみいんのちゅうなごんのすけ、女房)
 → 中納言典侍(ちゅうなごんのすけ・伏見院、歌人) G 2 8 7 4
 伏見院中務内侍(ふしみいんのなかつかさのないし、女房)
 → 中務内侍(なかつかさのないし、歌人、日記) E 3 2 3 5
 伏見修理大夫(ふしみしゆりたいふ) → 俊綱(としつな・橘、歌人) M 3 1 8 7
 伏見中納言(ふしみちゅうなごん) → 師仲(もろなか・源、権中納言/歌人) H 4 4 5 8
 3808 伏見天皇(ふしみてんのう、名;熙仁、後深草天皇皇子) 1265-1317 53 母;洞院実雄女玄輝門院愷子いんし、
 1275皇太子/1288即位-98退位、両統迭立では持明院統の立場を主張、1313出家、

歌人;京極為兼門/京極歌壇の確立、為兼に「玉葉集」勅撰を命ず、1303仙洞五十番歌合催、
1303三十首歌主催/歌会多数催、能筆;「広沢切」(自筆家集断簡)、琵琶/蹴鞠を嗜む、
「伏見院御記」「伏見院御宸翰」/「金玉歌合」(為兼と合番)/「伏見院五十首」「伏見院三十首」著、
勅撰295首;新後撰(20首9/82/133以下)玉葉(94首5/18/24以下)続千(18首)続後拾(13首)、
風雅(85首6/26/38以下)新千(27首32/101以下)新拾(22首)新後拾(12首)新続古(4首)

小倉実教[藤葉集]10首入/菟玖波集10句入、

[春やとき霞やおそきけふもなほ昨日のままの峰の白雪](新後撰集;一春上9/院御製)、

[伏見天皇の通称/法名]通称;持明院殿、法名;素融

伏見殿(ふしみどの) → 崇光天皇(すこうてんのう、歌人) D 2 3 2 9

伏見殿(ふしみどの) → 後崇光院(ごすこういん、貞成さだふさ親王) 1 9 3 4

伏見修理大夫(ふしみのしゆりたいふ) → 俊綱(としつな・橘たちばな、廷臣/歌人) M 3 1 8 7

伏見宮(初代ふしみのみや) → 栄仁親王(よしひとしんのう、歌人) G 4 7 4 6

伏見宮(三代ふしみのみや) → 後崇光院(ごすこういん、貞成さだふさ親王) 1 9 3 4

伏見宮(五代ふしみのみや) → 邦高親王(くにたかしのう、歌人/連歌) 1 7 7 2

伏見宮(七代ふしみのみや) → 邦輔親王(くにすけしのう、歌人) 1 7 0 9

伏見宮(九代ふしみのみや) → 邦房親王(くにのぶしのう、歌人) 1 7 8 5

伏見宮(12代ふしみのみや) → 邦道親王(くにみちしのう、歌人) B 1 7 6 6

伏見宮(14代ふしみのみや) → 邦永親王(くにながしのう、歌人/楽曲) 1 7 8 3

伏見屋宇兵衛(ふしみやうへえ) → 宇兵衛(うへえ・伏見屋、絵師) D 1 2 3 1

藤茂(ふじもち・藤原/星野) → 藤茂(ふじげ・藤原/星野、歌人)

C3866 葛元(ふじもと・芝しば、葛起男) 1808-4134 江後期奈良方の楽人/1819右近将曹/35従五上、
「芝氏日記」著

不捨(ふしゃ;号) → 光撰(こうせん;法諱・本如;号、西本願寺19世) K 1 9 1 4

富且(ふしや・和田) → 富直(とみなお・和田わだ、藩士/和算家) O 3 1 8 8

富士屋(ふじや) → 春馬(はるま・初世しゅんば・三亭、戯作者/狂歌) 2 1 6 5

不舍観其水(ふしゃかんきすい) → 其水(きすい・不舍観、俳人) B 1 6 3 2

C3867 府尺(ふしやく・露木つゆき、名;正義) 1786-183752 相模中郡堀山下の俳人;吳竹亭叙来門/2世継承、
「月の吳竹集」編、
[府尺(;号)の通称/別号]通称;市郎右衛門/市右衛門、別号;耐鶴(なづ)ふしやく(初号)/吳竹亭2世
法号;流泉院

C3868 芙蓉(ふじやく・永田/太田、通称;堺屋弥太郎、別号;風薫舎) ?-? 大阪の俳人;諷竹[之道]門/芭蕉門、
舎羅と交友、1699「鳥驚とりおどし」編/1702「駒撮こまざらえ」編、02轍士「花見車」入、
[念入れて見れば垣根のほたる哉](花見車;四168)

C3869 普寂(ふじやく;法諱、秀寛男) 1707-8175 伊勢桑名の浄土真宗源流寺の生;幼時より修学;父門、
1731真宗を離脱/尾張八事山の高麟門;一向念仏を受戒、下総大巖寺で宗戒両脈を受;
浄土宗僧として活動;京・大阪・尾張を遍歴し唯識・俱舍論を講義、1762江戸に長泉律院創、
1763同院住職/芝増上寺で講義、「学戒類要」「陳人名歌集」「戒体義章」「香海一滴」外著多数、
[普寂(ふじやく;法諱)の幼名/法名/号]幼名;左南、法名;宣蓮社明誉、号;徳門/道光

不寂斎(ふじやくさい・堀内) → 宗心(そうしん・堀内ほりのうち;2代目/三好/本橋、茶人) I 2 5 0 7

I3858 藤居(ふじやす・西田にしだ、) 1838-191578 近江日野の和学者;辻墨溪(「蒲生古蹟考」著)門、
歌人:[鴉のうみ]入、

[藤居(;名)の通称]通称;善兵衛

藤泰(ふじやす・山根/桑原) → 黙斎(もくさい・桑原/山根、宿場取締/史家) 4 4 8 5

藤柳麿(ふじやなぎまろ) → 庄兵衛(しょうべい・初世井筒屋・阿誰軒) B 2 2 4 6

富寿(ふじゅ・伊原) → 富寿(とみひさ・伊原いはら、国学者) U 3 1 1 3

武種(ふしゅ・大原) → 武種(たけたね・大原真人おおはらのまひと、神職/俳人) E 2 6 4 1

武種(ふしゅ・太田) → 武種(たけたね・太田おた、国学者) W 2 6 2 3

C3870 武壽(ふじゅ) ? - ? 江前期堺住の俳人;1633重頼「犬子えのこ集」2句入、
[芋の子も風や身にしむ衣被きぬかづき](犬子集;五1318)

武寿(ふじゅ・大原) → 山清(さんせい、大原おおはら、神職) M 2 0 4 5

- 武樹(ふじゆ・若槻) → 武樹(たけき・若槻わかつき、里正/農政) 2 7 3 4
 不守一(ふしゅいち・板津) → 正的(しょうてき・板津いたう、検校/連歌) L 2 2 0 4
- C3871 布舟(ふしゅう・田中、名;左太夫)1734-180875 播磨高砂材木町の酒造業/高砂川浚総代、
 俳人:布仙門/のち青羅門、1790二条家の俳諧に列席/蕪村・几董らと交流、
 1790「栗本集」編、1773几董「明鳥」1句・76「続明鳥」2句・76樗良「月の夜」1句入、
 1782蕪村「花鳥篇」1句・83維駒「五車反古」1句入、
 [折りとらば憂うき人出でん垣の梅んめ](続明鳥;甲25/憂き人は愛しくつれない人)、
 [布舟(;号)の通称/別号]通称;鍵屋孫右衛門、別号;暮桜亭、法号;敬空宗君布舟居士
- 賦秀(敷秀ふしゅう・蒲生) → 氏郷(うじさと・蒲生がもう、武将/城主/歌) 1 2 3 1
 普宗(ふしゅう;法諱) → 亮廓(りょうかく;道号・普宗、曹洞僧) G 4 9 8 6
 梟州(ふしゅう・唐坊) → 長秋(ながあき・唐坊とうぼう、藩士/儒者) D 3 2 1 5
 富秋(ふしゅう・森野) → 治天(やてん・森野もりの、藩士/医者/俳人) D 4 5 8 2
 不重(ふじゅう・亀/小倉/十亀) → 東谿(とうけい・亀井/亀き、絵師) D 3 1 1 1
 敷充(ふじゅう・宮沢) → 義茂(よしげ・宮沢みやざわ、藩士/歌人) P 4 7 4 1
 武修(ふしゅう・笹島/柴田) → 艾軒(がいけん・柴田/笹島、心学者) I 1 5 6 1
 武秀(ふしゅう・内田) → 武秀(たけひで・内田うちだ、商家/歌人) V 2 6 8 5
 武秀(ふしゅう・山内) → 武秀(たけひで・山内やまうち、庄屋/歌人) O 2 6 6 9
 武周(ふしゅう・高田) → 武生(たけなり・高田たかた/榎倉、神職/国学) Y 2 6 0 0
 武重(ふじゅう・小原) → 武重(たけしげ・小原おはら、歌人) 2 7 6 6
 富秋園(ふしゅうえん) → 輝昌(てるまさ・三河口みかわぐち/野村、幕臣) C 3 0 9 3
 不住斎(ふじゅうさい) → 竹心(ちくしん・藪内やぶのうち、茶人) D 2 8 2 3
- I3856 藤到(ふじゆき・二階堂にかいどう、孝行たかゆき[1718-99]男)?-1797 薩摩鹿児島藩士、歌人;父門、
 [藤到(;名)の別号/通称]別名;村雄/澄行、通称;彦太郎
- 布淑(ふしゆく・小川) → 布淑(のぶよし・小川、歌人) C 3 5 3 4
 富俣(ふしゆく・石原) → 富俣(とみよし・石原いしはら、藩士/記録) O 3 1 9 9
 不肅斎(ふしゆくさい・増田) → 顕忠(あきただ・増田ますだ、陪臣/和学者) I 1 0 4 3
 富春(ふしゆん・百々) → 俊道(しゅんどう・百々どど、医者/本草家) L 2 1 5 9
 富春(ふしゆん・小神) → 富春(とみはる・小神おがみ、神職/歌人) O 3 1 9 3
 富春(ふしゆん・加藤) → 善庵(ぜんあん・加藤かとう、藩士/医者) L 2 4 6 0
 普潤(ふじゆん・岩佐) → 普潤(ふにん・岩佐、天台僧) D 3 8 5 8
 普潤(ふじゆん;字) → 歛励(かんれい;法諱・普潤、真宗大谷派僧) R 1 5 8 5
 富潤(ふじゆん・名古[護]屋) → 玄医(げんい・名古屋/名護屋、医者) H 1 8 6 8
 武春(ふしゆん/たけはる・有馬) → 喜三太(喜惣太きそうた・有馬ありま、絵師) L 1 6 1 3
 武純(ふしゆん/たけずみ?・本田) → 四明(しめい・本田ほんた、儒者) V 2 1 8 1
 富春館(ふしゆんかん) → 道善(どうぜん・松山まつやま、医者) G 3 1 2 4
 富春館(ふしゆんかん) → 草偃(そうえん・佐久間さくま、絵師) G 2 5 3 4
 富春軒仙溪(ふしゆんけんせんけい) → 仙溪(せんけい・富春軒、華道) M 2 4 1 1
 富春齋(ふしゆんさい) → 通直(みちなお・河野、武将/城主/連歌) C 4 1 0 6
 富春齋(ふしゆんさい) → 瓢水(ひょうすい・滝/滝野、商家/俳人) F 3 7 2 7
 富春山人(ふしゆんさんじん) → 桐江(とうこう・田中、儒/詩人) D 3 1 7 2
 富春山人(ふしゆんさんじん) → 金忠(かねただ・梅津うめづ、藩士/軍学) O 1 5 6 0
 富春山人(ふしゆんさんじん) → 君山(くんざん・松平、藩士/儒者) 1 7 2 8
 富春子(ふしゆんし) → 間庵(かんあん・安東あんどう、藩儒/詩文) P 1 5 9 2
 富春舎(ふしゆんしゃ) → 波響(はきょう・蠣崎/松前、家老/絵師) C 3 6 4 6
 富春堂(ふしゆんどう) → 通玄(つうげん・石黒いしぐろ、藩医/本草) 2 9 3 3
 富春堂(ふしゆんどう) → 濟庵(さいあん・石黒、通玄男/藩医/本草) H 2 0 0 0
 梟准堂(ふじゆんどう) → 行喜(ゆきよし・甲田こうた、医者/窮民救済) F 4 6 9 5
- C3872 不障(ふしょう) ? - ? 近江の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
 C3873 扶昌(ふしょう) ? - ? 俳人;1692常牧「冬ごもり」独吟半歌仙入
 C3886 浮生(ふしょう/ふせい・北藤きたふじ)1655-171763 江前中期江戸白金町の俳人;北村季吟・嵐雪門、

1681?俳諧伝記「滑稽太平記」著?、1707俳論「滑稽弁惑・原俳論」著(；風雲子「つげの枕」論難)、
1709「国栖哥くずうた」編/10呂笏「三山雅さんざんが集」校訂/14「五十韻扇」、「嘉辰」著、
追善集「野明り」(雨橋編)、

[浮生(；号)の別号] 銀塘居/銀塘幽客/迦[伽]楼羅園

府生(不笑ふしゅう・今田)→	頼武(よりたけ・今田いまだ、藩士/執政)	I 4 7 9 4
富章(ふしゅう;号)	成章(なりあきら・富士谷、国学/歌)	3 2 2 7
斧象(ふしゅう・沢田)	静庵(せいあん・沢田さわだ、儒者/詩人)	H 2 4 2 6
撫松(ふしゅう・白雲堂)	其雲(きてき・梅津忠昭、家老/俳人)	B 1 6 5 5
撫松(ふしゅう・駒沢)	利廉(としかど・駒沢、儒/農本論)	M 3 1 2 8
撫松(ふしゅう・島田、撫松園)→	嘉津次(かつじ・島田しまた、藩士/儒者)	N 1 5 3 6
撫松(ふしゅう・吉村)	光徳(みつり・吉村よしむら、里正/国学者)	K 4 1 9 4
撫松(ふしゅう・井手)	伊明(これあき・井手/山内、藩士/歌人)	Q 1 9 2 8
撫松(ふしゅう・三好)	元好(もとよし・三好みよし、藩士/歌人)	L 4 4 5 4
武松(ふしゅう・有沢)	師貞(もろさだ・有沢ありさわ、藩士/軍学)	H 4 4 2 1
武昭(ふしゅう・高瀬)	武昭(たけあき・高瀬たかせ、文筆家)	O 2 6 2 4
武昭(ふしゅう・村井)	武昭(たけあき・村井むらい/秦、国学者)	Z 2 6 8 7
武章(ふしゅう/たけあき・今成)→	慮呂(慮呂りよる・今成、商家/俳人)	J 4 9 8 3
武章(ふしゅう・菊池)	武章(たけふみ・菊池さくら、儒者/国学)	W 2 6 7 6
武勝(ふしゅう・下毛野)	武勝(たけかつ・下毛野しもつけ、官人/鷹飼)	2 7 8 8
武城(ふしゅう・落合)	直言(なおのぶ・落合おちあい、国学/政変参画)	L 3 2 5 6
撫松庵(ふしゅうあん)	景範(かげのり・加藤かとう、儒/歌学者)	B 1 5 9 0
武城館(ふしゅうかん)	君熙(くんき・原田はらだ、和算家)	D 1 7 6 1
普照国師(ふしゅうこくし)	隠元(いんげん・隆琦、黄檗宗祖)	C 1 1 0 3
普照恵灯禅師(ふしゅうけいとうぜんじ)	大観(だいかん・文珠、臨濟僧)	J 2 6 5 1
不生斎(ふしゅうさい)	三千風(みちかぜ・大淀、俳人)	4 1 0 3
不浄斎(ふじょうさい)	正寧(まさやす・阿部あべ、藩主/歌)	L 4 0 9 6
不生主人(ふしゅうしゅじん)	大典(だいてん・顕常、臨濟僧/詩人)	B 2 6 9 0
普照独銚先生(ふしゅうどくちゅうせんせい)	接伝(しょうでん、白井/平、神職)	L 2 2 1 0
富松房(ふしゅうぼう)	広延(こうえん;法諱、彦山修験僧)	H 1 9 6 4
撫松楼(ふしゅうろう)	燕石(えんせき・日柳くさなぎ、詩人/勤王派)	B 1 3 8 1
不如学斎(ふじよがくさい・羽生田)	修平(のぶひら・羽生田、国学/歌)	D 3 5 0 7
不如学斎(ふじよがくさい・杉山)	梅園(ばいえん・杉山すぎやま、儒者/詩)	3 6 6 5
不如帰(ふじよき・楫取)	素彦(もとひこ・楫取/松島/小田村、藩士)	D 4 4 9 5
不如及斎(ふじよきゆうさい)	宜堂(ぎどう・伊藤いとう、儒者/教育)	I 1 6 6 7
不除軒(ふじよけん・佐藤)	幹員(もとかず・佐藤さとう、詩人/俳人)	C 4 4 2 7

C3874 **藤好**(ふじよし・田口たぐち)?-1716 陸中盛岡の儒者;藩主南部重信に出仕、元禄1688-1704頃致仕、
詩賦に長ず/飯富了通・太田友悦と交流、「岩手峰記」「新城天神縁起」著、妻;土岐屋久の姉、
[藤好(；名)の通称/号]通称;弥兵衛(；初通称)/善平/弥右衛門/作左衛門、
号;章山/章山学士、法号;釈善空

不如子(ふじよし→ふによし)	江雪(こうせつ・宗立、臨濟僧)	K 1 9 1 2
不如無(ふじよむ;号)	江雪(こうせつ;道号・宗立;法諱、臨濟僧/詩)	K 1 9 1 2
不如無斎(ふじよむさい)	稻川(とうせん・山梨、儒者/詩人)	3 1 1 9
無事楽斎(ぶじらくさい)	眞酔(ますい・石橋庵、戯作/川柳)	I 4 0 9 2
無事老(ぶじろう)	眞酔(ますい・石橋庵いしばしあん、国学/戯作)	I 4 0 9 2

I3882 **藤若**(ふじわか・勸修寺かじゅうじ)?- ? 鎌倉期;京の勸修寺の童、歌人、
1237刊[檜葉集]入、

[むめがえにふるあは雪もけさよりはおもひなしにやさえよわるらむ](檜葉;雑童688)

藤若(ふじわか;幼名) → 世阿弥(ぜあみ・元清、能役/作者) 2 4 0 1

C3875 **藤原郎女**(ふじわらのいらつめ、名不詳)?-? 万葉四期歌人:四766、
[道遠み来じとは知れるものからに然しかそ待つらむ君が目を欲ほり](万葉;四766)、

- (久邇京で大伴家持が坂上大嬢に贈歌した際和えた歌/兩人に親しい女性であろう)
藤原皇后(ふじわらののおきさい) → 光明皇后(こうみょうこうごう、聖武后) 1 9 2 1
- C3876 節藁仲貫(ふしわらのなかぬき、姓;吉田)?-? 讃岐高松藩士、江戸小石川金杉に住、
狂歌:四方連、1784「早来恵方道」著、1785徳和歌後万載;3首/87才蔵集入、
[高砂のうらを一見せばやとて二けんましたる家のはりまち](後万載;七賀453)、
(詞書;家居二間建て続けたる人を賀して/謡曲高砂の台詞/梁に播磨路を掛る)
[節藁仲貫(;号)の通称/別号]通称;十五郎、別号;節原仲貫ふしわらのなかぬき
藤原の村上入道(ふじわらのむらかみにゅうどう)→道彦(みちひこ・鈴木、医者/俳人) 4 1 1 5
藤原夫人(ふじわらぶにん) ; 万葉集入集者は次の姉妹2人(藤原鎌足女)
→ 氷上大刀自(ひがみのおおとじ)(姉) 3 7 0 2
→ 五百重娘(いおえのおとめ)(妹) 1 1 0 5
- C3877 不深(ふしん) ? - ? 江前期大阪歌人;1690「堀江草」編(歌人70余/1316首入)
堀江草の作者は大坂近辺の地下歌人で葛岡宣慶/熊沢正脩/日比正甫/浅井忠能ら
- C3878 普人(ふじん) ? - ? 加賀宮腰の俳人;1691北枝「卯辰集」3句入、
[とらへても放したふなる燕かな](卯辰集;一97)
- 武信(ぶしん)すべて → 武信(たけのぶ)
武慎(ぶしん・菊池) → 南陽(なんよう・菊池、儒者) 3 2 4 4
武辰(ぶしん・土山) → 武辰(たけとき・土山つちやま、廷臣/日記) O 2 6 5 1
武辰(ぶしん・たけとき・野田) → 千町(ちまち・野田のだ、藩士/国学/歌) F 2 8 4 1
武辰(ぶしん・岡田) → 武辰(たけとき・岡田おかだ、歌人) U 2 6 5 5
武振(ぶしん・小島) → 将満(まさみつ・小島こじま、相良総三/赤報隊) P 4 0 6 0
武岑(ぶしん・小山) → 武岑(たけみね・小山こやま、藩士/古書筆録) O 2 6 8 0
武眞(ぶしん・靱木) → 武眞(たけまさ・靱木もみき、藩儒/教育) Z 2 6 9 7
不審庵(ふしんあん) → 宗旦(そうたん・千せん、茶人/利休の孫) C 2 5 4 6
不審庵(ふしんあん) → 宗左(初世そうさ・千せん、宗旦男/江岑宗左/茶人) B 2 5 5 4
不審庵(ふしんあん) → 宗左(宗佐・2世そうさ・千せん、久田、茶人) H 2 5 3 4
不審庵(ふしんあん) → 宗左(3世そうさ・千せん、久田、茶人) H 2 5 3 5
不審庵(ふしんあん) → 宗左(宗佐・4世そうさ・千せん、茶人) H 2 5 3 6
不審庵(ふしんあん) → 宗徧(そうへん・山田やまだ、茶人) C 2 5 9 0
不信斎(ふしんさい・猿山) → 竜池(りゅうち・猿山さやま、書家) F 4 9 1 8
負薪山人(ふしんさんじん) → 百庵(ひやくあん・寺町/越智、幕臣/茶/歌) E 3 7 4 3
不深子(ふしんし・浅井) → 忠能(ただのり・浅井/橘、幕臣/歌人) G 2 6 0 6
不尽廼舎(ふじんのや) → 秋香(あきか・中村なかむら、幕臣/歌人) I 1 0 1 3
毒庵(ぶすあん) → 義府(よしもと・堤つつみ、医者/歌人) N 4 7 9 4
- H3862 不誰(ふすい・渡辺わたなべ) ? - 1693 渡辺吉光の裔、江前期近江の文筆家、
1684(貞享元)「渡辺勘兵衛遺像裏書」著、
[不誰(;号)の別号]別号;渠庵、法号;英性院
- C3879 芙水(ふすい) ? - ? 俳人;1689「あら野」1句入、
[河骨かははねに水のわれゆく流れ哉](あら野;三699/コウホネの強靱さ)
- C3880 浮水(ふすい) ? - ? 出羽松山(松浦)の俳人;
1690言水「新撰都曲」1句入(223)、1691賀子「蓮実」1句入(269)、
[夕立に乳ちのあらわるゝ女かな](蓮実;269)
- H3817 不睡(ふすい) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」3句入
[歳強としつよの初孫うひまご様と仰がれて](二葉之松;30)
(前句;福ぶくしくも笑ひ聞ゆる/歳強は年の前半[春・夏]に生まれた子)
- C3881 浮水(ふすい) ? - ? 地誌;1710東水「三山雅集」校正
- C3882 布水(ふすい・小代こしろ、名;育)?-1847 代々佐賀藩士;藩校教諭/儒・詩文、「前修遺稿」編、
[布水(;号)の字/通称/別号]字;万成、通称;喜右衛門、別号;拙道人
- C3883 富水(2世ふすい・芙蓉庵ふようあん/姓;西谷にしたに) 1830-8556 俳人;2世漣々[初世芙蓉庵富水]・春湖門、
「かへり花」「まつりの日」「末広」「俳諧作例集」編、

- 富水(初世ふすい・芙蓉庵)→ 漣々(2世れんれん・大久保忠保、俳人) B 5 1 3 6
 不水(ふすい・石井) → 忠虎(ただとら・石井、兵法家) E 2 6 4 5
 浮水(ふすい・香西) → 隆清(たかきよ・香西こうさい/かさい、藩家老/僧) L 2 6 7 8
 C3884 普随(ふすい;法諱) ? - ? 江中期越後の真宗恩長寺住職、
 「観無量壽経説時強証決」著
 不随斎(ふずいあん・夏目) → 成美(せいび・夏目なつめ、札差/俳人) 2 4 1 2
 武水軒(ふずいけん) → 朝竜(ともたつ・片桐、藩士/郡奉行) P 3 1 7 1
 無酔居士(ふすいこじ) → 文炳(ぶんぺい・菊田、絵師) G 3 8 4 0
 不随斎(ふずいさい) → 成美(せいび・夏目、俳人) 2 4 1 2
 扶翠堂(ふすいどう) → 李天(りてん・河本、俳人) C 4 9 2 1
 不数(ふすう) → 良弘(りょうこう・平野、俳人) H 4 9 4 6
 武助(ぶすけ・田中) → 桐江(とうこう・田中/田、儒者/詩人) D 3 1 7 2
 武助(武介ぶすけ・田中) → 蘭陵(らんりょう・田中/田、桐江の甥/儒者/講説) D 4 8 2 3
 武助(ぶすけ・左右田) → 易重(やすしげ・左右田そうだ、兵法家) B 4 5 6 7
 武助(ぶすけ・甲斐庄) → 正方(まさみち・甲斐庄かいしょう/橋、幕臣/歌) L 4 0 6 3
 武助(ぶすけ・生川) → 春明(はるあきら・生川なるかわ、商/国/歌/俳) 3 6 2 9
 武助(ぶすけ・上田) → 子琴(しきん・上田うえだ、詩人) D 2 1 4 4
 武助(ぶすけ・菅野) → 眞斎(しんさい・菅野すげの、儒者) O 2 2 4 6
 武助(ぶすけ・山下) → 政彦(まさひこ・山下やました、庄屋/歌) L 4 0 7 7
 武助(ぶすけ・小池) → 信之(のぶゆき・小池こいけ、国学者) I 3 5 3 7
 武助(ぶすけ・竹内) → 宜平(よしひら・岡崎おかざき、藩士/測量) G 4 7 5 1
 武助(ぶすけ・鈴木) → 正長(まさなが・鈴木すずき、藩家老/農政) F 4 0 3 2
 武助(夫介ぶすけ・田中) → 年足(としたり・田中たなか、大庄屋/歌人) V 3 1 5 0
 武助(ぶすけ・岩沢) → 直真(なおさね・岩沢いわさわ、藩士/歌人) L 3 2 2 3
 武助(ぶすけ・矢田部) → 喜信(よしのぶ・矢田部やたべ、国学/歌人) P 4 7 7 2
 C3885 浮世(ふせい) ? - ? 戦国期の連歌作者;1561三好長慶「飯盛千句」参加
 浮生(ふせい・北藤) → 浮生(ふしょう・北藤、俳人) C 3 8 8 6
 C3887 普成(ふせい・服部はつとり) 1747- 1829 83 江戸の材木商、俳人:蓼太門、
 1776「真砂歌」89「さくら縁起」編、1811「亀戸奉納発句拔萃類題」編、
 [普成(;号)の通称/別号]通称;太郎右衛門、別号;宝田窟/夜雪庵
 布政(ふせい・松岡) → 布政(のぶまさ・松岡、郷土史/伝説収集) D 3 5 3 2
 府生(ふせい・吉岡) → 信之(のぶゆき・吉岡、藩士/国学/歌) D 3 5 7 4
 府生(ふせい・松田/香川) → 景柄(かげもと・香川、歌人) 1 5 1 1
 府生(ふせい・鈴木) → 重胤(しげたね・鈴木/穂積/源、国学/歌) 2 1 1 2
 府生(ふせい・山田) → 青門(せいもん・山田やまだ、藩士/儒者/詩) J 2 4 6 5
 府生(ふせい・ふしょう・今田) → 頼武(よりたけ・今田いまだ、藩士/執政) I 4 7 9 4
 扶正(ふせい・林) → 扶正(すけまさ・林はやし、藩士/皇典有職) I 2 3 9 5
 富成(ふせい・牧野) → 富成(とみしげ・牧野まきの、藩主) O 3 1 8 2
 富成(ふせい・佐野) → 西山(ゆうざん・佐野さの/中井、藩儒) B 4 6 9 4
 溥整(ふせい・黒田) → 溥整(ひろなり・黒田/加藤、家老/連歌) G 3 7 7 5
 C3888 武清(ふせい/たけきよ・榎倉えのくら/本姓;荒木田あらかだ) ?-? 江前期伊勢の神官、俳人、
 1633重頼「犬子えのこ集」2句入、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、
 [春鳴くや天下一はの郭公ほととぎす](犬子集:二600/名工の称号;天下一/一羽)
 C3889 武清(ふせい・喜多きた) 1776 - 1856 81 江戸八丁堀の絵師:谷文晁門、狩野探幽に私淑;一家を成す、
 唐絵風読本挿絵が多い/古画の鑑定・臨模、1804京伝「優曇華物語」画、「近世奇跡考」画、
 1810「歌仙絵抄」「三十六歌仙」/13「骨董集」/14「萍の跡」/18-51「武清写生帖」画、
 1836「美人百詠」39「絵本勲功草」56「武清縮図」画、「可菴画叢」「群馬図」「扇面画譜」画、外多、
 [武清(;名)の字/通称/号]字;子慎、通称;栄之助、号;可庵/五清堂/鶴翁/一柳斎
 武清(ふせい・大原) → 武清(たけきよ・大原、儒者/実録作者) E 2 6 3 4
 武清(ふせい・佐草) → 武清(たけきよ・佐草さくさ、神職/国学) X 2 6 1 6

- 武成(ふせい・加須屋) → 武成(たけなり・加須屋かすや、弓術家) O 2 6 5 6
 武成(ふせい・加須屋) → 武成(たけなり・加須屋かすや、藩士/国学) W 2 6 3 8
 武成(ふせい・岡) → 延年(のぶとし/えんねん・岡おか、商家/絵師) H 3 5 7 7
 武生(ふせい・高田) → 武生(たけなり・高田たかた/榎倉、神職/国学) Y 2 6 0 0
 武正(ふせい・指田) → 武正(たけまさ・指田さした、藩士/地誌) O 2 6 7 4
 武正(ふせい・たけまさ・大原) → 山清(さんせい、大原おおほら、神職) M 2 0 4 5
 武正(ふせい・庭山) → 武正(たけまさ・庭山にわやま、藩士/神職) Y 2 6 8 6
 武政(ふせい・安養寺) → 武政(たけまさ・安養寺あんようじ、藩士/国学) V 2 6 3 3
 撫贅庵(ふぜいあん) → 荷兮(かけい・山本、俳/連歌) 1 5 1 0
 富盛親方(ふせいうえ-かた) → 盛命(せいめい・識名しきな/伊野波/毛、琉球三司官) D 2 4 0 0
 不生斎(ふせいさい) → 三千風(みちかぜ・大淀、三井、商家/俳人) 4 1 0 3
 不生斎(ふせいさい) → 長主(ながぬし・中田なかた、商家/和学) O 3 2 0 7
- C3890 不成山人(ふせいさんじん; 姓名不詳)?-? 京の洒落本作者、
 1761「くだまき綱目」著(; 竹亭「俳諧をだまき綱目」のもじり)
 不生主人(ふせいしゅじん; 号) → 大典(だいてん; 号・梅莊頭常、臨濟僧) B 2 6 9 0
- H3857 不石(ふせき) ? - ? 上州渋川の俳人; 1703不角「広原海わたつみ」入、
 [石に成るまでは野干やかんも化け過ぎし](広原海/前句; 落つきにけり落つきにけり)
 (殺生石伝説; 金毛九尾の妖狐は班足太子・褒姒・玉藻の前と化けたが安倍泰成に見破られ、
 那須野に逃れたが三浦介義明に射殺され殺生石と化し、玄翁和尚に砕かれやっとな住)
- C3892 布磧(ふせき・内藤/浦野うらの、名; 重暉じゅうけい) 1720-86 67 尾張俳人; 沢露川門、
 多病のため仕官せず、浦野と改正、
 1783「俳諧諸集訂誤」(桂吾刊)、尾張藩士内藤昌敷の弟、
 [布磧の通称/別号]通称; 甚左衛門、別号; 銀河亭/烏雀菴
- C3893 布席(ふせき・鷹来庵、伊達屋林右衛門の養子) 1760-1804 45 岩代伊達郡保原の生、俳人; 乙二門、
 1803蝦夷松前の豪商伊達屋の養子/箱館に出仕、1811「鳳楼随筆」13「わかほとけ」著、
 1831「耳さらへ集」(; 乙二の俳文と句)、33「蕪村発句解」、「うしまうで」胡沙曇著、
 [鷹来庵布席の通称/別号]通称; 伊達屋清兵衛/吉田、別号; 白燕庵鷹来/梅窓布席/夷斎
- C3894 孚石(ふせき・四弁庵しきあん)? - ? 江中期俳人; 鳥酔門、1775師7忌追善「涅槃像」、
 1775「歳旦」編、同門先輩鳥明・百明の師の俳論刊行に助力
- C3891 不石(ふせき・角鹿斎かくろくさい、井上、一鼠[1730-82]男)?-? 江中後期大阪の製墨業/俳人:
 1783父追善「一鼠句集」著
 不夕(ふせき・上田) → 堂山(どうざん・上田うえた、庄屋/詩人) E 3 1 7 0
- C3895 不雪(ふせつ) ? - ? 俳人; 1671重徳「新独吟集」下巻入
- H3880 不屑(ふせつ・中林なかばやし) ? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、
 [浪の寄せ来るきりあひ人形](物種集/前句; 舟人も肩で息するばかり也、
 きりあひ人形; 人形芝居で戦闘場面に登場する詰人形)
- 富雪(ふせつ/とみゆき・六花亭) → 六花亭富雪(りっかていとみゆき、絵師) B 4 9 6 4
 不説(ふせつ; 道号・達聞) → 達聞(たつもん; 法諱・不説、曹洞僧) R 2 6 6 6
 不絶(ふせつ; 号) → 盤察(ばんさつ・厚誉、浄土宗布教僧) H 3 6 7 3
- C3897 舞雪(ふせつ・滝沢たきざわ、別号; 桜坊/杞柳斎)?-? 江中期宝暦1751-64頃大阪の俳人; 紹廉門、
 1753「しなどの樹」編、57律中「耳勝手」入、59「俳諧有声無声」編、62紹廉追善「雪達磨」編、
 1763「さし柳」編、63「連俳執筆法考」、「連俳執筆法考」於飛幾能免、桜坊関係俳書あり
 富雪庵(ふせつあん) → 仙雅(せんが・中川ながわ、俳人) L 2 4 8 3
- H3828 不遷(ふせん; 道号・法序ほうじよ; 法諱、俗姓; 二階堂) 1313-83 71 相模の臨濟僧; 夢窓疎石門/法嗣、
 近江徳雲寺住/天竜寺16世/1382南禅寺42世、「禅林集句韻」「鳳林吒之ほうりんたし」「菩薩蛮」著、
 [不遷法序の諡号] 仏照慈明禪師
- C3898 鳧仙(ふせん) ? - ? 俳人; 1689「あら野」入:
 [雪降りて馬屋にはひる雀かな](あら野; 卷一)
- C3899 不諷(ふせん) ? - ? 俳人; 1690言水「続の原」入:

[古井戸に筭たけのこ生えし且あしたかな](続の原;30)

- D3800 **不染**(ふせん) ? - ? 名古屋俳人;1693露川「流川集」入
- D3801 **不染**(ふせん) ? - ? 江中期泉州堺の俳人;雑俳点者、
享保(1730-36)頃堺の三村宮開口神社に奉納「猷納左海三村宮五千句集」編
- D3802 **釜川**(ふせん・五味ごみ、名;国鼎、宗智男)1718-54³⁷ 甲斐中巨摩郡藤田村の医者;香川修庵門、
儒/詩;太宰春台門、徂徠学を講説、帰郷後;医業/家塾開設、山県大式・広瀬中庵らの師、
「詩文集」「詩書古伝補考」「水土明辨」「古文孝経箋註」「釜川漫筆」、「釜川遺稿」外著多数、
[釜川(;号)の字/通称]字;伯耳、通称;貞蔵
- D3808 **賦泉**(ふせん・石田いじ、別号;松林翁)1720-76⁵⁷ 江中期京七条堀川の俳人:普求[雪莎]門、
師七回忌追善「あきひより」編(1777刊)
- I3820 **普仙**(ふせん・黒瀬くろせ、与三右衛門普入男)?-1771 備中倉敷の商家;成羽屋、国学者、
妻;江草睦女(国学者/歌人)、智秀(国学者/尼)の父、
[普仙(;名)の通称]与三右衛門(代々の称)
- D3803 **不莖**(不莖ふせん・立羽たちば、別号;柳下軒、不肩ふい男)?-? 江中期江戸の俳人/雑俳:父門、不角の孫、
叔父寿角など一族に俳人多、1773「千歳のみとり」編、「親子鶴」
- D3804 **溥泉**(ふせん・山県やまがた、名;習)1751-1805⁵⁵ 周防岩国藩士/儒:1779上京し柴野栗山門/朱子学、
易学;皆川淇園門/詩;江村北海・細井平洲門、1794岩国藩の講堂で教授、「溥泉詩文集」著、
[溥泉(;号)の字/通称]字:子成、通称;市三郎
- D3805 **普川**(ふせん、雪雄2世) ? - ? 俳人;梅室門、1828雪雄を襲名
- D3806 **布川**(ふせん・早川はやかわ、別号;守中庵)1751-? 1832^存 信濃布施五明の俳人:天姥門、長翠と親交、
1829「つたもみち集」編
- D3807 **布泉**(ふせん・鈴木すずき、忠兵衛[木蘭]男)?-? 三河御馬の庄屋の生/俳人:父門、
1810父追善「はくれむけ」編(蚊牛[鉄斎]・蒲城の序跋)
- 普船(普仙ふせん) → 介我(初世かいが・佐保、俳人) 1 5 9 3
不遷(ふせん:法諱) → 物外(もつがい:道号・不遷、曹洞僧/武術) F 4 4 5 3
不占(ふせん・堤) → 朝風(あさかぜ・堤つみ/源、幕臣/国学者) 1 0 4 6
芙川(ふせん・中島) → 魚坊(ぎよぼう・中島、歌人/俳人) Q 1 6 3 0
富川(ふせん・榎本) → 敬元(たかもと・榎本えのもと、医者/歌人) V 2 6 9 4
- D3809 **普全**(ふぜん) ? - ? 越前福井俳人;1694「炭俵」入;
[山桜小川飛び越すおなご哉](炭俵;上巻)
- D3810 **普然**(ふぜん・栗田くりた、別号;二応庵)?-? 江後期江戸の俳人/法橋、
1846「俳諧清水鑑」52「素秋并陰見之口伝」、「自亭稻荷奉燈」著
扶善(ふぜん・黒田) → 梁洲(りょうしゅう・黒田くろた/森、藩士/儒) H 4 9 8 6
- D3811 **武仙**(ぶせん・岩井いかい) ? - ? 大阪俳人;宗因・西鶴門、1666可玖「遠近おちこ集」入、
1673西鶴「生玉万句」第八桮もみぢ千句発句入、1676「天満千句」/83西鶴「精進繪」百韻、
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、1706団水「こゝろ葉」連句入、
[紅葉焚たくまたぶりなれや鹿の角](難波色紙;67/火杈たきは火勢を加減する火箸)
- G3867 **武仙**(ぶせん) ? - ? 俳人、1698「続猿蓑」入(;少年);談林の武仙とは別人?、
[若水や手にうつくしき薄氷](続猿蓑:巻下)
- 武仙(ぶせん・鈴木) → 清右衛門(せいえもん・鈴木/穂積、藩士/兵学者) H 2 4 4 4
武仙(ぶせん) → 仙慶(せんきょう;法諱・武たけ、真宗僧) O 2 4 2 7
武川(ぶせん) → 永理(えいり・武川亭・礪川亭、絵師) C 1 3 0 7
無川(ぶせん) → 不老(ふろう・吉岡よしおか、俳人) H 3 8 5 0
- D3812 **武禪**(ぶぜん・墨江すみのお、名;道寛)1734-1806⁷³ 大阪の船頭、絵:月岡雪鼎門;南宋画を修得、
山水画に長ず、詩文を嗜む、「鉢山図会」「占景盤」「占景盤図式」著、
[武禪(;号)の字/通称/別号]字;子全、通称;莊蔵、別号;心月/朦朧斎、法号;春光院
- 武然(ぶぜん・吉田/望月) → 武然(ぶねん・望月もちづき、書家/俳人) D 3 8 6 0
豊前(ぶぜん・甲良) → 宗賀(むねよし・甲良こうら/藤原、幕臣/工匠) C 4 2 8 4
豊前(ぶぜん・滝川) → 征成(ゆきしげ・滝川、藩士/記録) E 4 6 5 1

- 豊前(ふぜん・高屋) → 清永(きよなが・高屋たかや、藩士/歴史) Q 1 6 0 5
 豊前(ふぜん・鎮西) → 清行(きよゆき・鎮西ちんぜい、神職/歌人) U 1 6 7 4
 豊前(ふぜん・鎮西ちんぜい) → 靱の屋(もみのや、鎮西清宣、神職/国学) E 4 4 9 6
 豊前(ふぜん・三宅) → 重武(しげたけ・三宅みやけ/竹尾、神職) R 2 1 3 2
 豊前(ふぜん・小国/鈴木) → 重年(しげとし・小国/鈴木/清原、神職/国学) 2 1 1 4
 豊前(ふぜん・太郎館) → 季賢(すえかた・太郎館たろうだち/荒木田、神職/国学) F 2 3 3 9
 豊前(ふぜん・佐々) → 定隆(さだたか・佐々ささ、藩国老/歌人) O 2 0 4 9
 豊前(ふぜん・中島) → 信秋(のぶあき・中島なかじま、和学者) J 3 5 3 5
 豊前(ふぜん・葦名) → 盛倫(もりとも・葦名あしな、邑主/国学) J 4 4 0 8
 豊前(ふぜん・車館) → 末眞(すえまさ・車館くるまで/和田、神職/茶人) F 2 3 6 3
 豊前(ふぜん・井伊) → 直容(なおなり・井伊い/藤原、国学) K 3 2 9 7
 豊前(ふぜん・清家) → 定澄(さだすみ・清家せいけ/清原、神職/歌) O 2 0 7 4
 不宣庵(ふせんあん) → 松斎(しょうさい・比喜多ひきた、茶人) I 2 2 9 7
 不羨庵(ふせんあん) → 也右(やゆう・横井、藩士/俳人/詩歌) 4 5 1 7
 不染院(ふせんいん) → 日雄(にちおう; 法諱、日蓮僧) 3 3 9 1
 豊前王(ふぜんおう) → 豊前王(とよさきおう、廷臣/漢学者) R 3 1 1 6
 不染居為一(ふせんきょいち、前北斎・錦袋舎) → 北斎(ほくさい・葛飾、絵師/葛飾派祖) 3 9 6 2
 普川国師(ふせんこくし) → 惟賢(いけん/ゆいけん; 法諱、天台僧/歌人) 1 1 8 1
 不染居士(ふせんこじ) → 立軒(りっけん・増田ますだ、儒者/著述) B 4 9 7 2
 不染居士(ふせんこじ) → 儼塾(げんじゅく・森もり、医者/漢学) E 1 8 9 1
 不羨斎(ふせんさい) → 不白(ふはく・川上、茶人/俳人) D 3 8 6 3
 不染斎(ふせんさい) → 広計(ひろかず・古田ふるた、藩士/歌人) F 3 7 6 8
 布川斎(ふせんさい) → 得峨(とくが・菅谷、俳・絵師) K 3 1 5 2
 浮籛主人(ふせんしゅじん) → 由誓(ゆうせい・豊嶋、俳人) 4 6 1 7
 府川亭(ふせんでい) → 成之(せいし・小幡、藩士/俳人) I 2 4 5 4
 武川亭(ぶせんでい) → 永理(えいり・武川・礪川亭、絵師) C 1 3 0 7
 不染堂(ふせんどう) → 蓮翁(れんおう; 法諱、日蓮僧) 5 1 9 3
 豊前守(ふぜんのかみ・神) → 益政(ますまさ・神じん/物部、武家/連歌) J 4 0 2 1
 豊前守(ふぜんのかみ・上原) → 賢家(けんか・かたいえ・上原、武将/歌) C 1 5 3 0
 豊前守(ふぜんのかみ・島津) → 久賀(ひさか・島津しまう、武将/家老) J 3 7 8 3
 豊前守(ふぜんのかみ・羽倉) → 信美(のぶよし・荷田/羽倉はくら、国学者) D 3 5 8 8
 豊前守(ふぜんのかみ・岡田) → 義政(よしまさ・岡田おかだ、旗本/治水) M 4 7 0 4
 豊前守(ふぜんのかみ・堀内) → 憲時(のりとき・堀内ほりうち、神職/国学) J 3 5 9 5
 豊前守(ふぜんのかみ・新見) → 正興(まさおき・新見しんみ/源、幕臣外国/奉行) B 4 0 5 6
 豊前守(ふぜんのかみ・岡田) → 善章(よしあきら・岡田おかだ/源、幕臣/歌) K 4 7 4 3
 豊前守(ふぜんのかみ・丹羽) → 正庸(まさつね・丹羽にわ、陪臣/国学) R 4 0 3 4
 豊前守(ふぜんのかみ・山本) → 晟忠(あきただ・山本やまと/藤原、神職/国学) I 1 0 7 3
 豊前守(ふぜんのかみ・磯田) → 種正(たねまさ・磯田いそだ/源、官人/歌) V 2 6 6 5
 豊前頭(ふぜんのかみ・早川) → 直定(なおさだ・早川はやかわ/和泉、神職) O 3 2 4 0
 3809 豊前国白水郎(ふぜんのかみ・あま/とよくにのみちのくちのあま) ?-? 万葉集(卷十六3876)の歌人、
 [豊国とよくにの企救きくの池なる菱の末うれを摘むとや妹がみ袖濡れけむ](万葉;十六3876)
 豊前正(ふぜんのかみ・黒川) → 勝清(かつきよ・黒川くろかわ、神職/国学) N 1 5 2 7
 3810 豊前掾(初世ふぜんのかみ・富本、本名; 福田弾司) 1716-6449 浄瑠璃富本節の太夫、宮古路豊後掾門、
 初名; 宮古路品太夫/のち宮古路小文字太夫こもじだゆう、
 初代常磐津文字太夫が常磐津創設の際に初代常磐津小文字太夫に改名し脇役、
 1748独立; 富本豊志太夫と改名; 富本節を創設/49[富本豊前掾藤原敬親]を受領、
 1752中村座に出勤; 江戸三座に出勤/1760再受領し[筑前掾]となる、
 「年朝嘉例寿」(作曲・作詩は松平南海)
 豊前介(ふぜんのかみ・鈴木) → 広視(ひろみ・鈴木/高橋/藤原、神職/歌) H 3 7 1 9

- 豊前介(ふぜんのみすけ・高橋)→ 広精(ひろきよ・高橋たかはし/鈴木、広視養子/神職/歌) F 3 7 7 8
- I3868 浮素(ふそ・藤生ふじお、) 1798 - 1866 69 上野山田郡の国学者、
[浮素(；名)の通称/号]通称；喜十郎、号；翠筠/梧桐/梧月堂素六/可笑
扶疏(ふそ・森川) → 扶疏(ともしげ・森川もりかみ、絵師/人形師/狂言師) W 3 1 7 2
- D3813 浮草(ふそう) ? - ? 京の俳人；1691江水「元禄百人一句」目録入
- H3858 浮草(ふそう) ? - ? 俳人；雑俳/1711「花鳥」(江戸万屋清兵衛板)入、
[祈る品裸参りも浮世なり](花鳥/前句；思ひおもひに思ひおもひに)
元禄百人一句目録の京の俳人浮草との関係は不詳
- H3829 扶桑(ふそう；道号・大暎だいとん；法諱)?-?1657頃没 江戸前期曹洞僧；関庵文鎖の法嗣、
下総結城の孝頭寺14世、越前福井の孝頭寺6世、「扶桑大暎禅祖説吟」著
不憎(ふそ・今村) → 正員(まさかず・今村/佐々木/源、兵法家) B 4 0 7 5
武宗(ぶそう・土山) → 武宗(たけむね・土山つちやま、廷臣/日記) O 2 6 8 1
武聰(ぶそう・松平) → 武聰(たけあきら・松平まつだいら/徳川、藩主/歌) U 2 6 4 8
蕪窓(ぶそう・森田) → 義章(よしあき・森田もりた、医者) B 4 7 9 6
浮巢庵(ふそうあん) → 文素(ぶんそ・北川きたがわ、農業/俳人) G 3 8 0 1
腐草庵(ふそうあん) → 立国(りゅうこく・柴田しばた、俳人) D 4 9 9 1
不聡庵(ふそうあん) → 記博(のりひろ・角田つのだ、神職/国学) J 3 5 2 3
扶桑翁(ふそうおう) → 宗達(そうたつ・速水はやみ、医者/茶人) I 2 5 3 9
扶桑園(ふそうえん) → 東海(とうかい・寺尾、儒者；音韻) B 3 1 8
扶桑園(ふそうえん) → 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌) C 1 4 7 5
扶桑翁(ふそうおう) → 宗達(そうたつ・速水はやみ、医者/茶人) I 2 5 3 9
不爭室(ふそうしつ) → 徳竜(とくりゅう；法諱、真宗学僧) L 3 1 5 7
富艸舎由種(そうしやよしたね) → 正詳(たださだ・有房ありふさ、歌人) V 2 6 3 1
扶桑真人倚松(ふそうしんじんきしょう) → 玄道(げんどう/はるみち・矢野、儒/国学) C 1 8 8 4
扶桑太郎(ふそうたろう) → 斌彦(あきひこ・佐藤まさとう/飯塚、里正/国学) H 1 0 6 5
不蔵亭(ぶぞうてい；山荘名) → 嘉包(よしかね・稲束いなづか、商家/記録) L 4 7 6 0
富草屋(富草舎ふそうのや) → 亮澄(すげずみ・石津いしづ、国学/歌人) C 2 3 2 6
不息(ふそく・宇津木) → 静斎(せいさい・宇津木うつき、儒者) I 2 4 3 1
武則(ぶそく・甲斐) → 武則(たけのり・甲斐かい、藩士/軍記作者) O 2 6 6 2
武則(ぶそく・川崎) → 武則(たけのり・川崎かわさき、国学/歌) W 2 6 6 1
不測庵(ふそくあん・野村) → 西巒(せいらん・野村/丹治比、藩儒/香道) D 2 4 0 8
不俗庵主人(ふそくあんしゅじん) → 蘭園(らんえん・増島/平/増、幕臣儒官) B 4 8 5 9
不測院(ふそくいん) → 日琮(にっそう・眞覚、日蓮僧) E 3 3 9 0
不測観(ふそくかん) → 陶巨(とうきよ；号、僧/俳人) C 3 1 7 3
- H3818 不存(ふそん) ? - ? 江前期江戸俳人；1691不角「二葉之松」2句入、
[賤が家しづがやに無理に宿借る手負ひ武者](二葉之松；439、
前句；馬を繫げばゆるぐ枝折戸)
吸月堂清水春流と同一？
不存(ふそん・吸月堂) → 春流(しゅんりゅう・清水、儒・俳/詩人) K 2 1 6 1
不存(ふそん) → 眞年(まとし・鈴木すずき、商家/国学者) J 4 0 9 4
- 3811 蕪村(ぶそん・与謝よき/谷口たにぐら、修姓；謝しや、名；長庚/寅/信章) 1716-83 68 撰津東成郡毛馬の生、
両親と家産失い江戸へ、俳諧：巴人/夜半亭宋阿門、関東を放浪/51京に住；画業、
大雅と並び文人画を大成、「十便十宜図」画、1766太祇らと三菓社結成、
蕪村調俳風を確立/夜半亭2世を継承、1766-70「三菓舎中句集」75「夜半亭歌仙」、
1777「夜半楽」編/句日記「新花摘」、78「奥の細道図巻」/80「桃李」「夜半叟句集」、
1782「花鳥篇」編、「蕪村翁文集」「蕪村集」「蕪村三十六歌仙」「蕪村妖怪絵巻」、書翰集、
[春の海終日ひねすのたりのたり哉][菜の花や月は東に日は西に](蕪村句集/春)、
[絶頂の城たのもしき若葉かな][五月雨や大河を前に家二軒](蕪村句集/夏)、
[山は暮れて野は黄昏の薄けき哉][鳥羽殿へ五六騎いそぐ野分のわき哉](蕪村句集/秋)、

[しぐるゝや鼠の渡る琴の上][易水にねぶか流るゝ寒さかな](蕪村句集/冬)

辞世の句[しら梅に明るる夜ばかりとなりけり](から檜葉)

[蕪村の字/別号]字;春星、別号;宰町/宰鳥/溪霜/落日庵/紫狐庵/夜半翁/夜半亭2世、
囊道人/趙居/巴人/魚君/老山/碧雲洞/虚洞/雪洞/白雲洞、
淳風庵/溪漢仲/馬亭ばぼ/洛東閑人/孟溟/滄溟/老雲/老々庵/臥遊、
画号;子漢/四明/三菓堂/三果園/三果軒/朝滄/謝長庚/謝春星/東成/謝寅

不退(ふたい・野村) → 匡解(まさとき・野村のむら、藩士/歌人) R 4 0 5 2

武泰(ふたい・亀田/高田) → 武泰(たけやす・高田/荒木田/亀田、神職) N 2 6 5 5

不滞庵(ふたいあん) → 村資(むらすけ・田村/坂上、藩主/茶道) 4 2 1 7

不退庵(ふたいいん) → 善秀(よしひで・尾中おなか、村長/国学) L 4 7 9 1

不退院(ふたいいん) → 得聞(とくもん;法諱、真宗本願寺派僧) L 3 1 4 8

不退院(ふたいいん) → 景忠(かげただ・藤波/大中臣、神職) K 1 5 9 8

不退転院(ふたいてんいん) → 円策(えんさく;法諱、真宗大谷派僧) F 1 3 6 2

双浦(ふたうら・幸田) → 光潤(みつひろ・幸田こうだ/度会、神職/国学) J 4 1 0 8

D3814 雙樹(ふたき・武隈庵ふかいあん、中島)?-1843 江戸芍薬側狂歌の判者、1829「狂歌二十剛」編

D3815 二方弾正(ふたかただんじょう)?-? 江後期常陸新宿村諏訪明神祠官、1805「諏訪明神由来」著

D3816 富沢(ふたく) ?-? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子えの集」4句入、
[飛梅の葉づくろひする木立こぢち哉](犬子集;一144/飛ぶから鳥になぞらえた)

H3875 不琢(ふたく・藤田ふじた、別号;幸庵)?-? 江前期大阪の俳人、1673西鶴?「哥仙大坂俳諧師」、
1673西鶴「生玉万句」第一飭竹発句等入/76西鶴「古今俳諧師手鑑」81賀子「山海集」入、
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、

[馬下駄うまげたて海を渡すや五月雨さつきあめ](山海集;左15、

高下駄で雨のぬかるみを渡る/謡曲「藤戸」;馬にて海を渡すこと稀代のためしなれば)、

平山直之と同一? → 直之(なおゆき・平山ひらやま/剃髪;不琢) C 3 2 8 2

不折庵(ふたくあん) → 宗矩(むねのり・高木たかぎ、藩士/国学/歌) D 4 2 9 6

不濁斎(ふたくさい) → 未生斎(2世みしょうさい・広甫こうほ、華道家) 4 1 8 8

二子山人(ふたごさんじん) → 梅園(ばいえん・三浦、医者/哲学/詩) 3 6 0 2

H3859 二葉(ふたば;組連) ?-? 武蔵南豊島内藤宿の雑俳の組連、

取次;1746「湖丸評万句合」入、

取次例;[かんざうをかんで貰ふも恥かしい](万句合)、

(甘草を噛み歯にかませて載せると棘が抜けるという/男に対する娘心)

H3860 二葉(ふたば;組連) ?-? 武蔵入間郡一本松の雑俳の組連、

取次;1764「金桂評万句合」入;

取次例;[人間を大きく見せる格子縞かうじま](1764金桂評万句合)

(前句;ほどほどなもの々々/[武玉川]六入)、

二葉(ふたば・六朶園/梅檀) → 六朶園二葉(ろくだえんふたば、商家/狂歌) 5 2 9 8

二葉仙史(ふたばせんし) → 一彦(かずひこ・三上みかみ、神職/歌人) V 1 5 8 2

二股庵(ふたまたあん) → 樗良(ちよら・三浦、俳人) 2 8 3 1

二見(ふたみ・服部) → 二見(ふみ・服部はつとり、歌人) I 3 8 6 3

D3817 武太夫(ぶだゆう・原はら、名;盛和) 1697-1776/一説1792?80or96? 江戸牛込住の幕府御留守番与力、

音曲家、地歌;連川檢校門/江戸長唄;岡安小三郎門/浄瑠璃;山崎源左衛門門、

三味線の全種目修得、享保1716-36頃最高の名手、

1736「断絃余論」著;以後三絃演奏を断つ、狂歌作者等で余生、

1763「隣の疝気」67「奈良柴」「吉原芝居雑記」著、

[武太夫(;通称)の別通称/号]別通称;富五郎/富次郎/富之丞、

俳号;原富はらとみ、芸号;観流斎/岡安原富、法号;翫絃院

D3818 武太夫(ぶだゆう・岸本きしもと、名;就美、泰久男) 1742-181069 美作東南条郡押入村の庄屋の生、

1756(15歳)英田郡倉敷の代官藤本甚助に出仕;幕臣に抜擢、1780勘定所詰普請役、

美濃・甲斐を巡視/1793代官;下総・下野2国内の幕府領を管轄;農桑畜産振興を図る、

「おかけ参の事」著、

[武太夫(;通称)の号] 羅月亭点花

D3819 **武太夫**(ふだゆう・山角やまかど)?- ? 江後期遠州掛川藩主太田資愛家の用人、
1827頃「手簡」著

武太夫(ふだゆう・朝倉) → 東軒(とうけん・朝倉あさくら、藩士/詩人) D 3 1 3 2
武太夫(ふだゆう・南部) → 直政(なおまさ・南部なんぶ、藩主/詩人) P 3 2 7 1
武太夫(ふだゆう・松田) → 信好(のぶよし・松田、和算家) D 3 5 8 5
武太夫(ふだゆう・風間) → 武国(たけくに・風間かざま、藩士/歌人) W 2 6 4 4
武太夫(ふだゆう・倉知) → 瑞枝(みずえ・倉知くらち、兵学・国学者) I 4 1 9 8
芬陀利花院(ふだりけいん・藤原) → 内経(うちつね・一条) 1 2 7 3
→ 芬陀利花院(ふだりけいん)を参照

富旦(ふたん・和田) → 富直(とみなお・和田わた、藩士/和算家) O 3 1 8 8
不断庵(ふだんあん) → 篠野玉湧(しのたまわく、書肆、狂歌) F 2 1 4 2
不断斎(ふだんさい・世木) → 曾北(そぼく・世木、神風館4世/俳人) E 2 5 3 4
淵(ふち・加藤) → 淵(えん・加藤、広島書肆) B 1 3 6 9
不知(ふち・植松) → 茂岳(しげおか・植松/小林、藩士/国学) B 2 1 9 5
富治(ふち・田鎖) → 鶴立斎(かくりゅうさい・田鎖たぐさり、藩士/絵師) K 1 5 5 9
不知庵(ふちあん) → 寄三(きそう・河田・斎藤、俳人) B 1 6 4 3
不知庵(ふちあん) → 東谷(とうこく・太田代おおたしろ、儒者) E 3 1 1 4

D3820 **淵臣**(ふちおみ・古松ふるまつ、医者)の清水しみず潜龍2男) 1836-82獄死 47 母;儒者今村竹堂女、
筑後上妻郡溝口村の生、高橋嘉遯の塾[会補堂]に修学;俊秀の名声、
1855久留米藩校明善堂の居寮生20名に選出;庶民唯一;辞し医学;肥後の村井洞雲門、
友人樋口真幸と江戸の安井息軒塾入、1862(文久2)帰郷;兄潜庵(寿老)と医業、勤王家、
1863脱藩上京;国事奔走/武田耕雲斎の筑波山挙兵に参加;敗走し九十九里浜に潜伏;漁業、
上京;古松簡二と改名/1866(慶応2)長州下向中広島で幕吏に捕縛;3年間入獄/1868赦免、
京都で遷都をめくり木戸孝允と激論;政府に不満;帰郷、久留米藩に中小性格に登用、
藩校明善堂の教官、1871(明治4)大楽だらく源太郎事件で捕縛/1882(明治15)獄死、
歌人;1859「四英獄窓唱和集」校訂、
[淵臣(;名)の名/字/通称/号]名;眞卿(・清水)/眞人、字;子滋、通称:簡二、
号;蕉牕/小桃源/紫隠/終隠

H3864 **夫竹**(ふちく) ?- ? 安藝阿賀の俳人、同郷の夫木と並称される、
[臂笠はかしこなりけり花の雨](1830筵史「ゆふかほ集」入)

富竹園(ふちくえん/ふちくえん) → 知十(ちじゅう・川瀬/河瀬、商家/俳人) E 2 8 3 4
富竹舎(ふちくしゃ/ふちくしゃ、富竹楼) → 知十(ちじゅう・川瀬、商家/俳人) E 2 8 3 4
不知斎(ふちさい・森) → 良敬(りょうけい・森もり、藩絵師) M 4 9 3 1
淵輔(ふちすけ・高原) → 淵輔(えんぼ・高原、儒者) C 1 3 2 2
淵瀬(ふちせ) → 淵瀬(えんらい、俳人) C 1 3 4 2
不知足散人(ふちそくさんじん) → 百亀(ひゃつき・小松こまつ、薬屋/嘶本) E 3 7 9 4
不知全斎(ふちどうさい) → 氏晴(うじはる・大館おおだち、故実家) C 1 2 6 0
不知仏(ふちぶつ) → 紀逸(初世きいつ・慶、俳人) 1 6 0 1
淵満(ふちまる・岡部/賀茂) → 眞淵(まぶち・賀茂/岡部、国学者/歌) 4 0 3 1
不知麻呂(淵満ふちまる・東) → 縁信(よりのぶ・東/石野/平、眞淵門/国学者) J 4 7 4 0

I3833 **不着翁**(ふちやくおう・七里しちり、通称;豊次郎) 1781-? 美濃多芸郡の国学者

D3821 **不中**(ふちゅう) ?- ? 加賀鶴来の女流俳人;1690北枝「卯辰集」4句入、
[夕風やあいだを置きてちる桜](卯辰集135)

H3819 **不中**(ふちゅう) ?- ? 江前期江戸の俳人;1691不角「二葉之松」2句入、
[儒じゅも仏ぶつも千種ちぐさの華の一零](二葉之松149)

富仲(ふちゅう・五辻) → 富仲(とみなか・五辻いつじ/源、廷臣/聯句) O 3 1 8 9
武忠(ぶちゅう) → 武忠(たけただ・下毛野、官人/競馬/舞人) 2 7 9 0
武忠(ぶちゅう) → 武忠(たけただ・姓不祥、神職/歌) E 2 6 4 0
武中(ぶちゅう・飯室) → 天目(てんもく・飯室いむろ、儒者) E 3 0 3 9

- D3822 **富長**(ふちやう・橋本はしもと) ? - ? 江前期俳人;1669季吟判「百五十番誹諧発句合」参、
1674宗旦「遠山鳥」四吟百韻入/74風虎「桜川」221句入
- H2856 **不調**(ふちやう) ? - ? 仙台の俳人;1696不角「矢の根鍛冶後集」入、
[君悟れ吾はこの字の下した悩み](矢の根後集/この字の下は[ほ]/下悩みは心中の悩み)
 阜澄(ふちやう・隠岐) → 米史(べいし・隠岐おき、俳人) 2 7 4 7
 武朝(ぶちやう・菊池) → 武朝(たけとも・菊池さくち、武将/守護) O 2 6 5 3
 富眺庵(ふちやうあん) → 国貞(初世くにさだ・歌川、3世豊国/絵師) 1 7 2 9
 武朝保(ぶちやうほう;狂詩) → 飄斎(ひょうさい・平塚、幕臣/俳/狂歌) F 3 7 2 4
- G3897 **不調法師**(ふちやうほうし) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入;
[三室にてほめし紅葉をたつた川二度びつくりの錦とぞみる]
 不調法師(ふちやうほうし・まぬけ庵) → 狂言堂(きやうげんどう・近松、浄瑠璃/函会/雑俳) N 1 6 6 7
 富直(ふちよく・和田) → 富直(とみなお・和田わだ、藩士/和算家) O 3 1 8 8
 武直(ぶちよく・大原) → 武直(たけなお・大原おほはら、神職/記録) O 2 6 5 4
 不知老(ふちろう・大田) → 咨之(ことゆき・大田おおた、国学者) Q 1 9 5 7
 不知老斎(ふちろうさい) → 橘園(きつえん・三宅みやけ、儒者) B 1 6 5 0
 不知老斎(ふちろうさい) → 砂山(さざん・加倉井かくらい、儒者/教育) B 2 0 6 1
 武珍(ぶちん・荒木田) → 武珍(たけくに・荒木田、神職) E 2 6 3 5
 弘庵(ふつあん・橋田) → 春湖(しゅんこ・橋田さつた、俳人) J 2 1 5 9
- D3823 **仏庵**(ぶつあん) ? - ? 大阪の俳人;雑俳、1751春耕「あふ夜」入
- D3824 **仏庵**(仏菴ぶつあん・中村なかむら、名;蓮/連)1751-1834⁸⁴ 江戸の書家/幕府御畳方の棟梁、梵字に長ず、
 仏像・骨董の蒐集家、「仏菴随見録」「仏菴筆随」「仏菴反故」「三学菴反古袋」「梵天考証」著、
 「人君台論」「仏庵雑記」、「逸見稲丸追悼詩歌集」編、1824「呼子鳥」26「崑岡炎余」著、
 歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
 [古いぬれば世のまじはりもあしがにのあな憂うといひて這ひ隠れてん]、
 (大江戸倭歌;雑1877/老後述懐)、
 [仏庵(;号)の字/通称/別号]字;景連/景蓮、通称;弥太夫/吉寛、
 別号;至観/南無仏庵/雪介精舎
- H3830 **仏菴**(ぶつあん;道号・祖雄そゆう;法諱、俗姓;志賀)1771-1838⁶⁸ 越後松山郷の曹洞僧;
 1781(11歳)出家、1791撰津の大虫嘯岑門/嗣法、越後広大寺住持/1804信濃貞祥寺住持、
 「仏菴禅師遺稿」
 物庵(ぶつあん・小室) → 元貞(げんてい・小室こむろ、医者/俳人) L 1 8 6 0
 仏庵(ぶつあん) → 凡夫(ぼんぶ・俄庵、加賀俳人) 3 9 7 5
 物為久(ぶついききゅう) → 物為久(ものためひさ、狂歌作者) I 4 4 4 2
 勿一庵(ぶついちあん) → 寸馬(すんば、俳人) H 2 3 3 1
- D3825 **弗隠**(ぶつゐん;号・善寧;法諱、俗姓;山本)1763(59?)-1837^{75(79?)} 加賀の真言僧;那谷寺来栄門、
 那谷寺10世、歌人;芝山持豊門/1809産土神の菅生石部社に百首奉納、
 1830「詠白山百首歌」、「如是庵毎日集白山百首」著、
 [うき世には語らふ友もなければや出でても帰る山ほととぎす]、
 (松平春嶽[古今百人一首]入;71善寧名)、
 [弗隠の別号] 如是弗隠/如是庵
 仏印円証禅師(ぶつゐんえんしやうぜんじ) → 大林(だいらん;道号・宗套;法諱、臨濟僧) L 2 6 2 6
 仏印禅師(ぶつゐんぜんじ;諡号) → 智侃(ちかん;法諱・直翁;道号、臨濟僧) C 2 8 3 4
 不通坊(ふつうぼう) → 道楽山人(どうらくさんじん、言語遊戯) H 3 1 9 7
 弗云(ぶつうん) → 眞戒(しんかい;法諱・慧定、黄檗僧/詩) N 2 2 6 4
 弘雲(ふつうん・岡田) → 眞吾(しんご・岡田おかだ、藩士/儒者) O 2 2 2 7
 仏慧円応禅師(ぶつゑえんおうぜんじ) → 景菴(けいじ;法諱・蘭坡、臨濟僧) 1 8 6 4
 仏恵広慈禅師(ぶつゑこうじぜんじ) → 在庵(ざいあん;道号・普在;法諱、臨濟僧) H 2 0 0 1
 仏慧正統国師(ぶつゑしやうとくこくし) → 慧叡(えい;法諱・鄂隱、臨濟僧) 1 3 5 4
 仏慧禅師(ぶつゑぜんじ) → 靈山(りんざん;道号・道隱;法諱、渡来臨濟僧) K 4 9 3 5

- 仏慧禅師(ぶつえぜんじ) → 恭翁(きょうおう;道号・運良、臨濟僧) N 1 6 3 4
 仏慧禅師(ぶつえぜんじ) → 是英(ぜいゑい;法諱・傑翁(けつおう)・けつとう、臨濟僧) D 2 4 2 7
 仏慧大円禅師(ぶつえだいえんぜんじ) → 東溪(とうけい;道号・宗牧、臨濟僧) D 3 1 0 1
 仏慧知鑑大師(ぶつえちかんだいし) → 月林(げつりん/がつりん;道号・道皓、臨濟僧) H 1 8 4 1
 物園(ぶつえん・玉江) → 正紀(まさのり・玉江たまえ、医者) G 4 0 0 7
 仏塙(ぶつお・石井) → 縹斎(じょうさい・石井/土屋、儒者/詩文) S 2 2 3 7
 D3826 物我(ぶつが) ? - ? 俳人;1776江涯「仮日記」入;
 [鶯や出ずんば逃げず居らふもの]
 H3831 仏海(ぶつかい;道号・一音(いつとん);法諱)?-1769 筑前の曹洞僧;崑山元瑞門/法嗣、長円寺5世、
 1749「怡山いざん然禅師願文集纂註」70「法華和字解」著
 H3833 仏海(ぶつかい;道号・浄蔵(じょうぞう);法諱)?-? 江中期黄檗僧;普詣元虚門/1761嗣法、「風月集」
 H3832 仏海(ぶつかい;道号・慈舟(じしゅう);法諱、号;石菴) 1745-1822 78 常陸の曹洞僧;1755能登の大忍門、
 諸師参禅/1784秋月寺住持/1816尾張泉徳寺開山、死霊濟度の逸話あり、「易躋録」
 D3827 物外(ぶつがい・谷川たにがわ、名;包保) 1732-1810 79 丹波氷上郡黒井村の心学者:1769手島堵庵門、
 細見元三と黒井村に伝習舎開設;都講、1796「いろは歌」98「千鳥真声」、「五常俗談集」、
 [物外(;号)の字/通称/別号]字;子康、通称;茂右衛門、別号;断書居士/竜鼻翁
 物外(ぶつがい) 僧はすべて → 物外(ものがい)
 仏外(ぶつがい;号) → 超順(ちょうじゅん;法諱・三上/住職/隊長) M 2 8 9 2
 仏海慈雲禅師(ぶつかいじゆんぜんじ) → 虎哉(こさい;道号・宗乙;法諱、臨濟僧) M 1 9 4 6
 物外陳人(ぶつがいちんじん) → 文瑛(ぶんゑい;法諱・逸岩;道号、黄檗僧) E 3 8 8 1
 物外楼主人(ぶつがいろうしゅじん) → 家熙(いえひろ・近衛、廷臣/書画) 1 1 5 9
 二日坊(ふつかぼう) → 宗雨(そうう・菊池きくち、俳人) G 2 5 0 4
 弗緩(ふつかん・斎藤) → 豊宣(とよのぶ・斎藤、藩士/記録) R 3 1 4 1
 H3844 仏肝(ぶつかん;道号・浄空(じょうくう);法諱)?-1764 山城の黄檗僧;甘南備寺南嶺元勲門/1726嗣法、
 1735甘南備寺住職、1729「山神記」著
 仏寛(ぶつかん;法名) → 義弘(よしひろ・大内/多々良、武将/歌) G 4 7 5 3
 仏眼(ぶつがん)はすべて → 仏眼(ぶつげん)
 仏観禅師(ぶつがんぜんじ) → 慈永(じゑい;法諱・青山せいざん;道号、臨濟僧) B 2 1 1 8
 覆篋斎(ふつきさい) → 簀斎(きさい・岡村おかむら、儒者/勤王派) K 1 6 4 9
 仏機大雄禅師(ぶつきだいうぜんじ) → 玉仲(ぎよくちゅう;道号・宗琇、臨濟僧) P 1 6 2 6
 D3828 仏牛(ぶつぎゅう・天羽あもう、名;光久)?-? 江後期阿波藩士;1830家督/組士・御広間加番役、
 1858隠居/俳諧;社寺に句奉納、1840「拾ひ花庚子紀行」43「西山紀行」著、
 1868「なるとのほそみ」69「島の浦つたひ」、「霊鷲舎心両山紀行」著、
 [仏牛の通称/別号]通称;蕃吉/伝五郎/平蔵/与一右衛門、別号;禹白堂
 仏牛庵(ぶつぎゅうあん) → 貞橋(ていきつ・仏牛庵、俳人) 3 0 5 7
 仏橋(ぶつきょう・北山) → 七僧(しちそう・北山きたやま、儒者/医者) E 2 1 5 5
 仏狂子(ぶつきやうし) → 白尼(はくに・武藤、俳人/仮名詩人) D 3 6 7 7
 仏行房(ぶつきやうぼう;号) → 良雄(りょうゆう;法諱・徳母、大谷派僧) J 4 9 5 9
 D3829 仏兮(ぶつげい・古学庵) ? - ? 江後期俳人;芭蕉研究;1827「俳諧一葉集」3世湖中と共編
 仏兄(ぶつげい) → 鬼貫(おにつら・上島、俳人) 1 4 2 4
 仏兄(2世ぶつげい) → 李原(りげん・山本、俳人)
 D3830 仏猊(ぶつげい;法諱、俗姓;木田) 1762-92 31 京の天台僧、園城寺で修学;敬光門、
 1784大僧正、子弟教育、1776「山家正統学則」補填、「空画遺芳」、
 [仏猊の号] 霊哮/空画/華王院、敬長の師
 D3831 復軒(ぶつげん・板倉いたくら、名;九、正信男) 1665-1728 64 上総帆丘城主の末裔/幕臣;桜田の館で右筆、
 1704御家人に列す/御納戸番、儒;木下順庵門、荻生徂徠と交流、
 「復軒詩文集」「復軒雑記」著、「復軒遺稿」、伯卿・璜溪・美叔の父、
 [復軒(;号)の字/通称/法号]字;惇叔/惇叙、通称;久右衛門、法号;慈光院
 D3832 復軒(ぶつげん・山田やまだ、名;頼熙/熙/舜愈、時頭男) 1666-93 自殺 28 周防三田尻の生/長門萩藩士、
 儒者;上京し宇都宮遯庵門、後水尾天皇に学才を認められ伊藤担庵門、

1679萩藩世子元千代(毛利吉就)の相伴/84藩主吉就初入国に随従し萩に入;萩江戸間往来、
 学者・書家で名声、吉就とも確執;江戸桜田藩邸で自殺、
 「復軒詩藁」「復軒文藁」著、遺稿あり、
 [復軒(;号)の字/通称/別号]字;原欽、通称;又三郎、別号;竜山

D3833 復軒(ふっけん・西山、拙斎男)?- ? 詩人;1828拙斎作・茶山編「拙斎詩鈔」校

- 復軒(ふっけん・上田) → 利容(としひろ・上田、藩士/漢学者) N 3 1 6 1
- 復軒(ふっけん・林) → 榴岡(りゅうこう・林はやし、幕府儒官) D 4 9 7 8
- 仏幻庵(ぶつげんあん) → 丈草(じょうそう・内藤, 俳人) 2 2 2 5
- 仏元眞応智慧如一国師(ぶつげんしんのうちけいによつこくし) → 如空(にょくう、浄土僧) F 3 3 8 8
- 仏源禅師(ぶつげんぜんじ) → 正念(しょうねん;法諱・大休;道号、渡来臨濟僧) B 2 2 1 4
- 復古(ふっこ・安達) → 復古(なほひさ・安達あだち、国学者) 3 2 5 8
- 仏光禅師(ぶつこうぜんじ) → 祖元(そげん・無学;道号、臨濟僧) 2 5 2 0
- 仏眼禅師(ぶつげんぜんじ、靈光仏眼禅師) → 鉄山(てつざん・宗鈍、臨濟僧) C 3 0 3 4
- 仏眼大観禅師(ぶつげんたいかんぜんじ) → 象海(ぞうかい;道号・慧湛;法諱、臨濟僧) G 2 5 5 3
- 仏眼天祐禅師(ぶつげんてんゆうぜんじ) → 宗山(しゅうざん;道号・等貴;法諱、臨濟僧) X 2 1 3 9
- 仏眼南谿(ぶつげんなんけい) → 徹定(てつじょう、浄土僧) C 3 0 4 4
- 仏巖房(ぶつげんぼう;号) → 聖心(しょうしん;法諱・仏巖房、真言僧) J 2 2 9 2
- 仏光禅師(ぶつこうぜんじ) → 祖元(そげん;法諱・無学;道号、渡来臨濟僧) 2 5 2 0
- 仏国興盛禅師(ぶつこくこうせいぜんじ) → 善来(ぜんらい;法諱・儀山;道号、臨濟僧) N 2 4 2 3
- 仏国国師(ぶつこくこくし) → 顕日(けんいち;法諱・高峰;道号、臨濟僧/歌) C 1 8 8 6
- 仏国子(ぶつこくし;号) → 慧鑑(えがい・誓禅、真宗本願寺派僧) D 1 3 5 4
- 仏国禅師(ぶつこくぜんじ) → 顕日(けんいち;法諱・高峰;道号、臨濟僧/歌) C 1 8 8 6
- 仏国禅師(ぶつこくぜんじ・大光) → 独峰(どくほう・存雄、曹洞僧) L 3 1 4 1
- 仏国大安禅師(ぶつこくだいあんぜんじ) → 天叔(てんしゅく;道号・宗眼、臨濟僧) D 3 0 7 8
- 仏護神照禅師(ぶつごしんしょうぜんじ) → 円慈(えんじ・東嶺、臨濟僧) B 1 3 7 6
- 復古堂(ふっこどう・真勢/真瀬ませ) → 中洲(ちゅうしゅう・真勢、易/卜筮) G 2 8 2 0
- 復古堂(ふっこどう) → 肇(はじめ・寺井てらい、藩士/故実家) E 3 6 4 1
- 復古堂(ふっこどう) → 行界(ぎょうかい;法諱・曇蔵、真宗僧) N 1 6 4 4
- 復古道人(ふっこどうじん) → 円山(まんざん;道号・道白;法諱、曹洞僧) K 4 0 5 8
- 復古老人(ふっこうろうじん) → 円山(まんざん;道号・道白;法諱、曹洞僧) K 4 0 5 8
- 勿齋(ぶつさい/もつさい・新井) → 白石(はくせき・新井、儒者/幕政参画) 3 6 1 0
- 勿齋(ぶつさい) → 篤山(とくざん・近藤、儒者) K 3 1 7 7
- ・岡谷 → 義端(ぎたん・岡谷おかや、藩士/書家) L 1 6 1 5
- 勿齋(ぶつさい・井野) → 審卿(しんけい・井野/村瀬、藩士/儒/書) O 2 2 0 2
- 仏齋(ぶつさい・曾谷) → 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8

D3834 仏朔(ぶつさく;号、名;広育)?- 1843 讃岐小豆郡苗羽村の社僧/元八幡寺住職、
 書/俳諧、書を以て聖護院宮に奉仕、1824「伊津都葉集」編、
 [仏朔(;号)の別号]朔道人/葡萄庵

D3835 仏山(ぶつざん・村上むらかみ、名;剛、盛之男)1810-79 70 豊前稗田村の大庄屋、詩:原古処門、
 儒者;亀井昭陽・吉田平陽門/京の貫名海屋門、1835帰郷;私塾水哉園を開;門弟多数指導、
 1824-「仙山堂詩鈔」著、
 [仏山(;号)の幼名/字/通称/法号]幼名;熊之助/東四郎、字;大有、
 通称;健平/彦左衛門/潜蔵、法号;無着院

- 仏山(ぶつざん) → 智達(ちたつ;法諱・義諦、本願寺派僧) E 2 8 7 0
- 仏山(ぶつざん・箕浦) → 元章(もとあき・箕浦みのうら、藩士/日記) C 4 4 0 1
- 仏山(ぶつざん;字) → 慈芳(じほう;法諱、天台尼僧/悉曇学) F 2 1 6 6
- 仏山外史(ぶつざんがいし) → 梅礪(ばいかん・森田もりた、儒者/詩) 3 6 9 1
- 仏慈広鑑国師(ぶつじこうかんこくし) → 隠元(いんげん・隆琦、日本黄檗宗祖) C 1 1 0 3
- 仏慈禅師(ぶつじぜんじ) → 紹瑾(しょうきん・鎌倉期曹洞僧) K 2 1 0 4
- 仏慈禅師(ぶつじぜんじ) → 志玄(しげん;法諱・無極;道号、臨濟僧) D 2 1 4 8

- 仏実(ぶつじつ;法名) → 義弘(よしひろ・大内/多々良、武将/歌) G 4 7 5 3
 仏種(ぶつしゅ;法名) → 種成(たねなり・たねしげ・和氣、廷臣/医者/歌) G 2 6 3 8
 仏寿院(ぶつじゅいん) → 日現(にちげん;法諱・現海、日蓮僧) B 3 3 6 7
 仏袖(ぶつしゅう) → 忠以(ただかね・酒井さかい、藩主/歌/俳) F 2 6 0 8
- H3845 仏洲(ぶつしゅう;道号・仙英せんえい;法諱、俗姓;坂根) 1794-1864 71 因幡鳥取曹洞僧;1801出家(8歳)、
 景福寺快仙門/諸師遍歴/1816仙山本宗門;嗣法、景福寺住持/1841近江彦根清涼寺23世、
 退隱後は「伝光録」開板に尽力;1857完成、近江円成庵開祖、1830「近江円成始祖老人語録」、
 1844「観徳院殿肖像記」、「閑葛藤」「仙英和尚語録」「仙英禪師大円鑑」著、
 [仏洲の号] 丈六子/不会庵
- 仏袖楼(ぶつしゅうろう) → 葛路(かつろ・伊藤、俳人) O 1 5 0 5
 仏樹斎(ぶつじゅさい) → 綾瀬(りょうらい・亀田かめだ、儒者) 4 9 2 5
 仏寿禪師(ぶつじゅぜんじ) → 枢翁(すうおう;道号・妙環;法諱、臨濟僧) F 2 3 2 1
 仏種房(ぶつしゅぼう;字) → 心覚(しんかく;法諱、真言僧) N 2 2 6 6
- I3887 仏性(ぶつじょう;法諱、上人、豊原利秋[?-1212]長男) ?-? 鎌倉期楽人;父より南都笙の相承、
 出家/菩提山真言密教僧、1216(建保4)高山寺の明恵(高弁)を訪問;明恵上人歌集;4首入、
 [白雲と峰の霞にむすぼれて法りを求むる跡をたづねむ](明恵歌集;76)、
 [明恵の返歌、
 跡を昏くらし入りにし山の峰なれど君には見せよ峰の白雲](同;78/昏;人目をくらます)
- 仏性(ぶつじょう;法号) → 家隆(いさか・藤原、歌人) 1 1 0 2
- D3836 仏定(ぶつじょう;法諱、俗姓;山口) 1734-1800 67 丹後熊野の浄土僧;豊岡来迎寺戒譽智典門、
 江戸増上寺で修学/1767但馬豊岡来迎寺住職/京専念寺住職;堂宇修復/念仏法語を印刷、
 「安心決定集」/「蓮門住持訓」編/「日課念仏勸導記」/1800「日課念仏投宿編」著、
 [仏定の法名] 遜譽/僊阿/蒙光/誠誠/謙蓮社
- H3846 仏乗(ぶつじょう;道号・慈僊じせん;法諱、俗姓;谷川) 1798-1870 73 越前檜津村の曹洞僧;
 彦根清涼寺独掌道鳴門/嗣法、1835長門長徳寺住寺/石見慈雲寺など住持、
 1865美濃竜泰寺42世/70尾張安昌寺住持、「嬰兒和解」「仏乗慈僊和尚行実」著
- 仏性院(ぶつじょういん) → 日奥(にちおう;法諱、日蓮僧) 3 3 8 4
 仏性院(ぶつじょういん) → 日礼(にちらい/にちらい・貞運、日蓮僧) D 3 3 7 0
 仏乗院(ぶつじょういん) → 日愜(にっせい;法諱、日蓮僧) E 3 3 6 3
 仏性活通禪師(ぶつじょうかつつうぜんじ) → 大空(だいくう;道号・玄虎、曹洞僧) J 2 6 7 3
 仏照慈明禪師(ぶつじょうじみょうぜんじ) → 不遷(ふせん;道号・法序、臨濟僧) H 3 8 2 8
 仏性上人(ぶつじょうしやうにん) → 仏性(ぶつじょう;法諱、楽人/僧/歌人) I 3 8 8 7
 仏照禪師(ぶつじょうぜんじ) → 慧曉(えぎょう・白雲、臨濟僧) 1 3 5 9
 仏乗禪師(ぶつじょうぜんじ) → 慧広(えこう・天岸、臨濟僧) 1 3 6 2
 仏照大鏡禪師(ぶつじょうだいきやうぜんじ) → 宗悟(そうご・悦溪、臨濟僧) H 2 5 2 5
 仏性伝東国師(ぶつじょうでんとうこくし) → 道元(どうげん・希玄、曹洞宗祖) 3 1 0 7
 仏乗坊(ぶつじょうぼう;号) → 恵琳(えりん;法諱、真宗大谷派僧) E 1 3 3 6
 仏性本源国師(ぶつじょうほんげんこくし) → 昕叔(きんしゅく;道号・顕岫、臨濟僧) R 1 6 1 5
 仏心(ぶつしん) → 文晁(ぶんちやう・谷たに、絵師) G 3 8 2 4
 沕真(ぶつしん・佐々木) → 縮往(しゅくおう・佐々木ささき、藩儒/絵師) Y 2 1 6 4
 仏心院(ぶつしんいん) → 日珖(にちこう;法諱、竜雲院、日蓮僧) B 3 3 7 7
 仏心覚照国師(ぶつしんかくしやうこくし) → 慧玄(えげん;法諱・関山、臨濟僧) 1 3 6 1
 仏心広通禪師(ぶつしんこうつうぜんじ) → 宗慶(そうけい;法諱・雲叔;道号、臨濟僧) G 2 5 8 8
 仏心正統禪師(ぶつしんしやうとうぜんじ) → 古岳(こがく;道号・宗亘そうご;法諱、臨濟僧) L 1 9 8 8
 弗水(ぶつすい・ふつすい・金谷) → 春坡(しゅんぱ・金谷/高橋、商家/俳人) L 2 1 7 4
 仏性(ぶつせい・ぶつじょう) → 仏性(ぶつじょう;法諱、楽人/僧/歌人) I 3 8 8 7
- D3837 仏仙(ぶつせん、屋号;黒瀬屋) 1721-90 70 加賀小松の商家/俳人;希因門?、諸国行脚、暁台と親交、
 1774「発都安幾」編、76「可良ひ鮭」「初秋」編/、80白雄「春秋稿」入、1785「都の冬」編;暁台序、
 1788「芳野の花」編、「秋祭」「仏仙諸国遊曆句帖」著、天明七名家の1、

[仏仙(；剃髮号)の別号] 別号;北海坊/北海牙/十方庵/山叩/子日庵2世(左静の後継)、
 物先(ぶつせん・柳沢) → 續斎(せきさい・柳沢やなぎさわ、藩医/詩) K 2 4 0 6
 洵潜居(ぶつせんきよ/びつせんきよ) → 善斎(ぜんさい・永田道慶、儒者) F 2 4 4 1
 仏宗眞悟禪師(ぶつそうしんごぜんじ・諡名) → 石屏(しつぺい・子介、臨濟僧) V 2 1 0 7
 仏宗大弘禪師(ぶつそうだいこうぜんじ) → 実伝(じつでん;道号・宗真、臨濟僧) U 2 1 9 7
 仏孫(ぶつそん) → 林来(りんらい;号、僧/俳人) K 4 9 8 2
 仏陀寺(ぶつだじ;号) → 充賢(じゅうけん;法諱、本願寺派僧/唱道) X 2 1 1 5
 仏陀寿(ぶつだじゅう;法名) → 朱雀天皇(すざくてんのう、醍醐の皇子) 2 3 1 5
 仏地(ぶつち) → 覚晏(かくあん、天台/臨濟僧) J 1 5 4 1
 仏智広濟禪師(ぶつちこうさいぜんじ) → 永琢(ようたく;法諱・盤珪、臨濟僧) B 4 7 4 4
 仏智広照国師(ぶつちこうしょうこくし・諡) → 中津(ちゅうしん・絶海、臨濟僧) 2 8 1 7
 仏智広照禪師(ぶつちこうしょうぜんじ・諡) → 玄祥(げんしょう;法諱・雲谷、臨濟僧) J 1 8 9 3
 仏智常照国師(ぶつちじょうしょうこくし・諡) → 性激(しょうとん;法諱・高泉、黄檗僧) P 2 1 5 7
 仏智禪師(ぶつちぜんじ) → 慧雲(えいん・山叟、臨濟僧) 1 3 5 1
 仏智大照国師(ぶつちだいしょうこくし) → 慧心(えしん;法諱・竺雲;道号、臨濟僧) 1 3 6 6
 仏智大通禪師(ぶつちだいつうぜんじ) → 玄提(げんてい;法諱・玉山、臨濟僧) L 1 8 5 2
 仏智大通禪師(ぶつちだいつうぜんじ) → 小溪(しょうけい;道号・紹怱、臨濟僧) I 2 2 1 5
 仏智丕照禪師(ぶつちひしょうぜんじ) → 宗崔(そうさい;法諱・雪窓、臨濟僧) H 2 5 3 9
 仏虫(ぶつちゅう) → 一具(いちぐ・高梨、浄土僧/俳人) B 1 1 1 8

D3838 仏頂(ぶつちやう;法諱、俗姓;平山ひらやま/藤崎、号;河南/懶華/哮吼子) 1634-1715⁸² 常陸の臨濟僧、
 1641(8歳)鹿島の根本寺こんほんじの冷山門/55(14歳)諸国修行行脚/74根本寺21世継承、
 根本寺寺領取上の件で幕府に訴訟;その間江戸深川大工町の臨川庵に滞在、
 1680芭蕉が芭蕉庵に入り運命的出會;臨川庵に芭蕉が参禅、1682勝訴;根本寺近辺に庵住、
 1687芭蕉が鹿島詣で仏頂禪師と再會;観月の歌/1695臨川庵に帰庵;寺とすべく請願、
 1713臨濟宗妙心寺派臨川寺として許可/松島雲巖寺45世徹通と親交;寺内の山庵で病没、
 [おりおりにかはらぬ空の月かげもちゞのながめは雲のまにまに](鹿島紀行)、
 (不変の月も雲の変化で眺めが変わる/芭蕉の付句;[月はやし梢は雨を持ちながら])

仏頂房(ぶつちやうぼう;字) → 行巖(ぎやうがん;法諱・仏頂房、天台僧) N 1 6 7 8
 仏頂禪師(ぶつちやうぜんじ) → 仏頂(ぶつちやう;法諱、臨濟僧) D 3 8 3 8
 仏通禪師(ぶつちゆうぜんじ) → 癡兀(ちこつ;道号・大慧;法諱、天台/のち臨濟僧) E 2 8 2 1
 仏通大心禪師(ぶつちゆうだいしんぜんじ) → 春林(しゅんりん;道号・宗叔;法諱、臨濟僧) M 2 1 1 0
 仏敵先生(ぶつてきせんせい) → 広聡(ひろとし・栄名井さかない/上野/真壁、神職/和漢学) G 3 7 5 1

D3839 仏哲(ぶつてつ) ? - ? 奈良期736渡来の林邑(りんりゅう;ベトナム)僧;婆羅門僧正と来日、
 大安寺で悉曇したん;悉曇章を伝える、東大寺大仏開眼に舞楽奏(菩薩舞・抜頭舞・林邑楽)

参考 婆羅門僧正 → 菩提(ぼだい・僊那、704-760、大仏開眼導師) E 3 9 4 5
 仏天(ぶつてん) → 其阿(きあ・ごあ、遊行25世) J 1 6 1 4
 仏奴(ぶつど・加藤) → 小自在(しょうじざい・加藤かとう、僧/歌/俳) U 2 2 7 4

H3847 仏灯(ぶつとう;道号・越宗おつしゅう;法諱) ?-1796 出羽の曹洞僧;仏山門/嗣法、1785飛騨洞雲寺10世、
 1791退隱、1791「禅余稿」

D3840 勿堂(ぶつどう・若山わかやま、名;拯/用拯ようじやう、字;壮吉) 1802-67⁶⁶ 阿波儒者;佐藤一斎門/朱子学、
 美濃岩村藩主に招聘;江戸儒員/開塾/1862昌平覺儒官、易学、「教戦略記」「四書私記」、
 「読易私記」「武教要書略解」「学庸私記」、「勿堂先生文稿」「勿堂先生災余文稿」著、
 門人;勝海舟/板垣退助/土方久元/奥宮暁峰ら

仏統国師(ぶつとうこくし) → 疎石(そせき;法諱・夢窓;道号、臨濟僧) 2 5 2 4
 仏燈大光国師(ぶつとうだいこうこくし) → 約翁(やくおう・徳俟、臨濟僧) 4 5 4 5
 仏徳広通国師(ぶつとくこうつうこくし) → 悟溪(ごけい・宗頓そうとん、臨濟僧) M 1 9 3 0
 仏徳禪師(ぶつとくぜんじ) → 元翁(げんのう;道号・本元、臨濟僧) M 1 8 1 1
 仏徳大通禪師(ぶつとくだいつうぜんじ) → 愚中(ぐちゅう;道号・周及しゅうざげう、臨濟僧) C 1 7 4 6
 弗得弗措斎(ぶつとくぶつそさい) → 思亭(しいてい・丹羽にわ、儒者/家塾教育) V 2 1 1 8
 仏日叡慧禪師(ぶつにちえいえぜんじ;諡号) → 楚俊(そしゅん;法諱・明極みんき;道号、渡来臨濟僧) D 2 5 8 4

- 仏日常光国師(ぶつにちじょうこうくし)→ 明応(みょうおう;法諱・空谷、臨濟僧/五山文学) G 4 1 1 9
 仏日真照禪師(ぶつにちしんしょうぜんじ)→ 宗深(そうしん・しゅうじん;法諱・雪江;道号、臨濟僧) C 2 5 1 7
 仏日禪師(ぶつにちぜんじ) → 桂悟(けいご;法諱・了庵、臨濟僧/遣明使) 1 8 4 9
 勿々軒(ぶつぶつけん) → 宗室(5世そうしつ・千せん、裏千家8世茶人) H 2 5 6 7
 物々子(ぶつぶつし) → 相宰(すけただ・木下きのした、医/絵師/歌) I 2 3 3 4
 仏法房(ぶつぼうぼう) → 道元(どうげん;道号・希玄、曹洞宗祖) 3 1 0 7
 仏母心寺(ぶつぼしんじ;諡号)→ 尊性法親王(そんしょうほうしんのう、真言大覚寺門跡) E 2 5 9 1
 仏魔巢(ぶつまそう・榎本) → 馬州(馬洲ばしゅう・榎本えのもと、藩士/俳人) E 3 6 4 8
 D3841 **生津麿**(ふつまる・堀尾ほりお)? - ? 江後期京の国学者;内遠門、1862「近世三十六人撰」著、
 [生津麿(;名)の通称]角之進/彦蔵
 物蒙堂礼(ぶつもうどうれい) → 石山人(せきざんじん、戯作者/狂歌) K 2 4 1 0
 払目翁(ぶつめくおう) → 斃己斎(へいきさい・荻野おぎの、藩士/儒者) 2 7 1 7
 物茂卿(ぶつもけい) → 徂徠(そらい・荻生おぎゅう、儒者) 2 5 3 1
 勿用斎(ぶつようさい) → 永理(えいり・武川・礪川亭、絵師) C 1 3 0 7
 仏誉助給(ぶつよじよきゅう) → 雲鼓(うんこ・堀内、俳人) B 1 2 1 3
 仏卵(ぶつらん) → 鬼卵(きらん・栗杖亭りつじょうてい、戯作者) D 1 6 7 1
 仏力精(ぶつりきしょう) → 力精(りきしょう;法諱、真宗本願寺派僧) 4 9 5 4
 仏狸斎(ぶつりさい) → 轍士(てつし・東鮒巷、俳人) C 3 0 3 6
 仏立慧照国師(ぶつりゅうえしょうくし)→ 等照(とうき・僧任、浄土僧) C 3 1 4 4
 仏林慧日禪師(ぶつりんえにちぜんじ)→ 恭翁(きょうおう;道号・運良、臨濟僧) N 1 6 3 4
 物令(ぶつれい・福島) → 末晨(すえあき・福島ふくしま/度会/亀田、神職) J 2 3 1 3
 I3864 **仏蓮**(ぶつれん・葛がづら・旧姓;服部はつとり、号;酔雪) 1814-7360 撰津島上郡高槻の本願寺派正恩寺の生、
 叡山で天台教学、京で書画;貫名海屋門/詩;梁川星巖門/儒・史学・頼山陽門、
 画;河内黄檗宗宝寿寺の松井愛石門、仏道・国学;伴林光平門、
 河内渋川郡八尾植松村の真宗仏光寺派松林寺住職;
 寺内に1837(天保8)頃に私塾[簷葡舎えんぼしゃ]を開設;子弟教育、
 勤王尊攘家池内奉時まさとき(大学)の姉と結婚、維新後;訓導
 仏蓮社良誉(ぶつれんしゃりょうよ)→ 定恵(定慧じょうえ;法諱、浄土僧) H 2 2 1 0
 武貞(ぶてい・土山/源) → 武貞(たけさだ・土山つちやま、廷臣/国学者) O 2 6 3 5
 武貞(ぶてい・城) → 武貞(たけさだ・城じょう、藩士/国学者) X 2 6 5 8
 武貞(ぶてい・高野) → 武貞(たけさだ・高野たかの、藩士/儒者) O 2 6 3 6
 武貞(ぶてい・安積) → 東海(とうかい・安積あさか、儒医/尊攘) B 3 1 9 7
 D3842 **不的**(ふてき) ? - ? 越中魚津の俳人;1890北枝「卯辰集」1句入、
 [草もえて土のほろつく野沢のさば哉](卯辰集;一76/ほろつくはもろく落ちる)
 D3843 **不敵**(ふてき・児池) ? - ? 大阪の俳人;雑俳;1750自選笠付集「三尺の鞭」
 H3886 **筆子**(ふでこ・大峰) ? - ? 幕末明治期歌人;松の門三艸子まつのとみさこ(小川美佐子)門、
 1920「松の門三艸子歌集」編
 筆子(ふでこ・傀儡) → 傀儡筆子(くぐつふでこ、狂歌) D 1 7 7 1
 H3885 **ふで女**(ふでじょ) ? - ? 江後期歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [咲き初めて昔しのべと吹く風にわが袖かをる軒の橋](大江戸倭歌;夏482)
 D3844 **筆次**(筆二/筆治ふでじ・玉木たまき)?-? 江中期天明1781-89頃江戸の歌舞伎・浄瑠璃作者、
 天明1784-88頃江戸で歌舞伎の合作に参加/1789浄瑠璃「花上野誉の碑」増補に関与、
 1784「大商蛭小嶋」85「稚馴染累詞」著
 D3845 **筆太夫**(3世ふでたゆう・竹本たけもと)?-? 江後期大阪の侠客;[百貫の安兵衛]と称される、
 のち浄瑠璃太夫:竹本弥太夫門、天保改革の際奉行所に浄瑠璃太夫を武士扱いするよう訴え、
 近松狂言堂と太夫・三味線諸家の伝記収集;1842「浄瑠璃大系図」共編/校、
 [3世竹本筆太夫の別号]豊竹千代太夫(;初号)竹本千代太夫/豊竹筆太夫/小鷹翁
 H3848 **不鉄**(ふてつ;道号・桂文けいぶん;法諱) 1563-1636 74 肥前山代郷楠久津の曹洞僧;1675出家、
 長門大寧寺の安叟珠養・貴雲嶺胤門、肥前高伝寺亀雲龐鑑ほうかん門/嗣法、高伝寺住持、
 佐賀藩主開創の宗智寺開山、「禅林類聚三百則鈔」「宗門葛藤集」「不鉄和尚上訴」著

- D3846 **不徹**(ふてつ) ? - ? 美濃岐阜俳人;1698「続猿蓑」入;
[山寺や猫守まもりゐるねはむ像](続猿蓑;巻下)
- D3847 **普徹**(ふてつ;号) ? - ? 江後期浅草本蔵寺住日蓮僧、
1835「貫名山妙日寺靈宝略縁起」著
不徹(ふてつ・渡辺) → 政寛(まさひろ・渡辺わたなべ、藩士;建白) T 4 0 8 4
不輟斎(ふてつさい) → 担庵(担菴たんあん・伊藤、医/儒/詩歌) 2 6 8 6
筆の綾丸(ふでのあやまる、狂歌) → 歌麿(うたまる・喜多川、浮世絵師) 1 2 7 0
筆綾人(ふでのあやんど) → 綾人(あやんど・庭訓舎、書家/狂歌) C 1 0 7 8
筆之都(ふでのいち) → 菊永検校(きくながけんぎょう、地歌) F 1 6 2 2
筆之介(ふでのすけ・三輪) → 秀憲(ひでのり・三輪みわ、藩士/歌道) L 3 7 3 6
筆常持(ふでのつねもち) → 巴扇堂(2世はせんだう、筆匠/狂歌) E 3 6 7 5
- D3848 **富天**(富天ふてん・浦川うらかわ) 1701-1767 大阪俳人:淡々[半時庵]門、同門拡張のため讃岐山陽の旅、
1740「押花宴」「かはづの海」/42「棗亀なつめがめ」「淡々文集前編」編、50「民歌行」「万句集」編、
1761「紙月編」62「帰稲」63「ちかひがさ」編、淡々談話「奇説つれづれ草」著、
1765「村径自呼毆鼠伝」著、追善集;「富天追善集後の月見」17回忌「諧歌景天集」、
[馬子唄へ海より盈こぼす初しぐれ](熱田日記/海から雲が流れてくる)、
[富天の別号] 求驢斎、清得舎、半時庵2世
- D3849 **不転**(普天ふてん・別号;鶏頭庵/雪巢/老少年) 1780-1845 名古屋俳人:土朗門、
一生を風月に過す;1812「さくら乞食」13「鶯囀梅」18「ねすのせき」27「鍬まつり」著、
1829「まかきくさ」、30「湯のかたみ」/31「あなかつゝみ」「よときくさ」著、
1837「尾張千句集」40「うめこよみ」著
- D3850 **普天**(ふてん;法諱、諡号;皆遵かいじゆん院) ?-1853 摂津武庫郡西新田の真宗本願寺派僧;源光寺住職、
紀伊正念寺芳英門/1844勸学、「大乘起信論筆記」「入出二門偈聴記」「普天師書翰集」著
普天(ふてん・澄玄) → 澄玄(ちようげん・普天、真宗大谷派学僧) I 2 8 1 4
敷典(ふてん・鏡味) → 敬義(甲鵬たかよし・鏡味がみ、神楽座楽人) N 2 6 7 4
- D3851 **不伝**(ふでん・伊藤いとう、名;次春) ?-? 江前期武術家;浅山内蔵入道一伝門、
蕪雑を捨て居合術に専念;不伝流を創始;祖、松江藩祖松平直政に招聘;師範役を務める、
1680「先書」81「後書」著、[不伝(;号)の通称]長太夫/兵右衛門
普伝(ふでん・原田) → 則長(のりなが・原田はらだ、神職/和学) J 3 5 7 3
不伝居士(ふでんこじ) → 宗頼(むねより・桑折こおり/くわおり、家老/歌) D 4 2 8 0
浮天斎(ふてんさい・市川) → 兼恭(かねたか/かねのり・市川、医者/洋学) O 1 5 5 9
浮天斎(ふてんさい・是枝) → 貞至(さだのり・是枝これえだ、商人/勤王) J 2 0 3 0
- D3852 **普東**(ふとう) ? - ? 江中期尾張俳人:雲裡系、
1753「三ゆふくれ」1757「かたみ屏風」編
浮島(ふとう;号) → 遂翁(すいおう;道号・元廬;法諱、臨濟僧) E 2 3 1 8
撫道(ぶどう・関せき) → 兎毛(とも・関せき、藩士/狂歌/詩) P 3 1 0 3
武道(ぶどう・杉/平) → 武道(たけみち・杉すぎ、武将/連歌) O 2 6 7 8
葡萄庵(ぶとうあん) → 仏朔(ぶつさく;号、葡萄庵/社僧) D 3 8 3 4
不動院(ぶどういん;号) → 直兼(じきけん;法諱、天台僧) Q 2 1 0 2
不倒翁(ぶとうおう) → 小洲(しょうしゅう・高田、商人/経済家) J 2 2 5 5
舞踏斎(ぶとうさい) → 義親(よしちか・山田やまだ、医者) E 4 7 5 3
不動山人(ぶどうさんしん) → 寛(ひろし・生方うぶかた/源、書家) F 3 7 9 0
蒲萄坊(ぶとうぼう) → 千那(せんな;号、明式、本願寺派僧、俳人) 2 4 3 6
蒲萄坊(ぶとうぼう) → 未角(みかく・三上/千那の曾孫、僧/俳人) 4 1 5 7
不動丸(ぶどうまる・源) → 義家(よしいえ・源みなもと、武将/歌人) C 4 7 1 7
太賢(ふとかた・浅利) → 太賢(もとかた・浅利あさり、神道家) C 4 4 3 3
- D3853 **太木**(ふとき・大根おねの、姓;松本、通称;山田屋半右衛門) ?-? 江戸飯田町中坂下の辻番請負業、
狂歌:橘州門/狂歌の歳旦摺物を始めた人、1783赤良「万載集」橘州「若菜集」/85「後万載」入、
[借錢の山にすむ身のしづけさは二季にきより外にとふ人もなし](若菜集)(二季は盆と暮)、

[大根太木の号] 俳号;雁奴、塵積楼

富得(ふとく・勝部) → 眞楯(またて・勝部かつべ/佐々木、国学者/神職) O 4 0 9 1

武徳(ぶとく・中山) → 武徳(たけり・中山なかやま、通詞) O 2 6 6 3

武徳(ぶとく/たけり・本田) → 四明(しめい・本田ほんだ、儒者) V 2 1 8 1

D3854 不図山人(ふとさんじん) ? - ? 江戸の狂詩作者;大田南畝[寐惚先生]門、

1790銅脈・寐惚「二大家風雅」入

富訥翁(ふとつおう・篠沢) → 久敬(ひさたか・篠沢しのざわ、藩士/和漢学) B 3 7 2 4

船居(ふない/せんきよ;号) → 達言(たつげん;法諱・船居、真宗僧) R 2 6 5 8

武内(ふない・留守) → 希斎(きさい・留守す/遊佐ゆさ、儒者) I 1 6 5 2

武内(ふない・山名) → 政胤(まさたね・山名やまな、和学者) T 4 0 5 1

船路君(ふなじのきみ;綽名) → 道済(みちなり/どうさい・源、廷臣/詩歌人) C 4 1 1 0

D3855 船積(ふなづみ・田原/俵たわらの、姓;大竹)?-1820? 江戸小網町の船積問屋、狂歌/戯作者、

「夷曲ことし俵」編(1821刊)/「伊呂波短歌」(1821刊)、

[田原船積(たわらのふなづみ;号)の通称/別号] 通称;三左衛門、

別号;俵船積/高浜屋/大湊舎/法六庵/寛哉(かんさい、法号;観譽量寿法子

3813 道祖王(ふなのおおきみ、新田部親王にいたべのみこの男)?-757刑死 737従四下/740従四上/756皇太子、
757. 3月廢位;諸王に降格・同年7月橘奈良麻呂の変に連座;マドヒと改名/杖刑死、
万四期歌人;4284(天平勝宝五[753]石上宅嗣邸の宴での歌/官は大膳大夫(だいぜんのだいら)、
[新あらしき年の初めに思ふどちい群れて居をれば嬉しくもあるか](万葉集;十九4284)

鮒主(ふなぬし・林) → 養老館路産(ようろうかんろさん、林波臣、狂歌) B 4 7 6 5

3814 船王(ふなのおおきみ/ふねのおおきみ、舎人親王男)?-? 奈良期;727従四下/743従四上/746彈正尹、
757皇太子選考会議でその閨房治まらない理由で除外/弟淳仁天皇即位で親王に列す、
従三位/大宰帥/治部卿/二品、淳仁廢帝とともに王に降格/藤原仲麻呂の謀反に連座:
隱岐に配流、万葉四期歌人;3首998/4279/4449/3926左注/4257(左注;王の伝承歌)、
[なでしこが花取り持ちてうつらうつら見まくの欲しき君にもあるかも](万葉;廿4449)
(橘奈良麻呂邸の宴での歌;うつらうつらは鮮明にじっくりとの意/君は奈良麻呂)

船[舟]橋(ふなばし) → 国賢(くにかた・清原、廷臣/日本紀研究) 1 7 6 1

D3856 船麻呂(ふなまる・富士川ふじがわ)?-? 江戸の絵師・1860葎窓貞雅「滑稽質屋雀しちやずめ」画

船守(ふなもり・度会) → 度会船守(わたらいのふなもり・狂歌師/大野梶馬) 5 3 4 3

D3857 富南(ふなん・秋山あきやま、名;章あきら) 1723-1808⁸⁶ 伊豆田方郡中郷村の郷土、父早世;
祖父重昌に養育、祖先は甲斐武田氏の家臣、儒・国学;並河誠所(詠)門、地誌学者、
官許を得て伊豆州内巡行調査;地誌編纂、1750「墨水避暑詩巻」/90「伊豆勝覽」著、
1791「南方海島誌」/1798-1800「豆州志稿」(13巻)著、「伊豆産物記」編、「豆州海島誌」著、
「伊豆七島志」(萩原正史と共編)/「青丘蓋集」著、
[富南(;号)の字/通称/別号]字;子成、通称;右馬之助/惣治郎/文蔵、
別号;近礼/希斎/尼山亭にざんてい

無難(ふなん;法諱) → 至導(しどう;道号・無難;法諱、臨濟僧) V 2 1 2 5

不二(ふに/ふじ;号) → 宥祥(ゆうしょう;法諱・妙浄、真言僧) C 4 6 4 5

不二園(ふにえん) → 定子(さだむろこ・大野/井上/榎本、歌人) J 2 0 8 7

不二身(ふにしん;号) → 大観(だいかん;道号・文珠、臨濟僧) J 2 6 5 1

不二道人(ふにとりじん) → 方秀(ほうしゅう;法諱・岐陽、臨濟僧) 3 9 5 5

不二房(ふにぼう;号) → 良巖(りょうごん;法諱・靈玉、天台学僧) H 4 9 5 4

H3877 不入(ふにゅう・和田わだ) ? - ? 江前期上方の俳人;

1673西鶴「生玉万句」第四時鳥脇句、

[銚子の口に薫る橘](生玉万句;時鳥脇句/銚子の口に差した橘の作物、

発句;高木松意;御神託にまかせて聞かむほととぎす)

不如学斎(ふによがくさい・羽生田) → 修平(のぶひら・羽生田、国学/歌) D 3 5 0 7

不如子(ふによし) → 江雪(こうせつ;道号・宗立;法諱、臨濟僧/詩) K 1 9 1 2

不如無(ふじよむ;号) → 江雪(こうせつ;道号・宗立;法諱、臨濟僧/詩) K 1 9 1 2

不如無斎(ふによむさい) → 稻川(とうせん・山梨、儒者/詩人) 3 1 1 9

- D3858 **普潤**(ふにん;法諱・俗姓;岩佐いわざ、初法諱;即眞)1829-1901⁷³ 筑後浮羽の天台僧;恩亮門;出家、叡山大仙院光観門/1853安楽律院性憲より受戒/江戸浄名院で慧澄に師事、1875安楽律院住持/80天台宗中学林校長、天台声明に精通、「比丘心得記」「一心三観辨」「十不二門指要鈔会本」
- D3859 **普寧**(ふねい;法諱・周観しゅうかん;字)?-? 江前期長崎の真言僧/佐山宝壽院住僧:浄厳門、律師、悉曇学修学;講義、1698「悉曇字記捷覧」99「群疑評釈集」編/1714「皎然受報集」編、1715「咩字義顕玄記」33「声字実相義顕体記」著、普寧と周観の別人説あり
- 船輔(ふねすけ・白井) → 寛蔭(寛陰ひろかげ・白井/宮下、国学者) F 3 7 6 5
 船守(ふねもり・海老えびの) → 方人(かたうど・辺越へごしの、佐野屋七兵衛/狂歌) C 1 5 3 1
 孚年(ふねん・古森) → 厚茂(あつしげ・古森こもり/秦/河崎、神職/歌) H 1 0 5 1
- D3860 **武然**(ふねん/ふぜん・望月もちづき/初姓;吉田、名;明)1720-1803⁸⁴ 京御幸町通丸太町の書家:篆刻、俳人:宋屋門、1765「明和俳諧」、69師追善「香世界」編、72几董「其雪影」73「明鳥」入、「春慶引」編、「春帖」「明和五年(1768)歳旦」「安永二年(1773)歳旦」編、
 [名月や源みなもとちかき御溝水みかはみづ](あけ鳥;191)、
 [武然の字/別号]字;知常、別号;雪下庵/蓮日庵/方壺山人
- D3861 **不能**(ふのう;法諱・良照りょうしょう;法名)?-1762 浄土僧;敬首門、上京;聖臨庵で自誓受戒、江戸目黒長泉院を開/岩代桑折無能寺再興;浄土律を提唱、1778「無能和尚行業遺事」編
- D3862 **不能斎**(ふのうさい・中村なかむら、名;勝知、竹香斎男)1834-1906⁷³ 近江彦根藩士;1841(8歳)家督嗣、藩主井伊直弼の供目付/藩校弘道館の素読方/御目付役/1867皆米札奉行;辞職/謹慎、39年間の謹慎中に著作活動、「彦根藩学制志」「井伊家譜」「学芸志林応問集」著、「磯うつなみ」「河内王勘文」「大日本史月晦杞憂」「彦根藩公益私記」著、
 [不能斎(;号)の通称] 繁太郎/内記
- 不能斎(ふのうさい) → 貞彙(さだいげ・若村わかむら/小林、神職/歌) P 2 0 8 2
 不能散人(ふのうさんじん) → 貞彙(さだいげ・若村わかむら/小林、神職/歌) P 2 0 8 2
 不能叟(ふのうそう) → 藤樹(とうじゅ・中江なかえ、儒者;陽明学) 3 1 1 6
 鍼之丞(ぶのすけ・平岡) → 好国(よしくに・平岡ひらおか、神職/歌人) O 4 7 7 5
 傳大納言(ふのだいなごん) → 道綱(みちつな・藤原ふじわら、廷臣/歌) 4 1 0 9
 傳の殿(ふのと) → 道綱(みちつな・藤原ふじわら、廷臣/歌) 4 1 0 9
 富馬(ふば・金井/岩下) → 花足(かさく・岩下、藩士/俳人) M 1 5 8 2
 不背(ふはい;号) → 増隆(ぞうりゅう;法諱、真言僧/神道) J 2 5 1 6
 腐誹[俳]子(ふはいし) → 貞室(ていしつ・安原、俳人) 3 0 0 5
 腐誹子(ふはいし) → 維舟(いしゅう・松江まつえ重頼、俳人) 1 1 9 2
- H3806 **不白**(ふはく) ? - ? 摂津難波住人/狂歌;1666行風「古今夷曲集」入
- H3820 **不白**(ふはく) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国柳」入
- D3863 **不白**(ふはく・川上かわかみ、名;堯達/新柳、五郎[五作]2男)1719-1807^{89歳} 紀州新宮の生、茶道;京の表千家如心斎宗左門/1745茶湯正脈を授与/1749真台子を伝授される、1750(寛延3)江戸駿河台に黙雷庵を建設;千家不白流の祖、神田明神に蓮華庵・花月楼建設、新宮城主水野家(和歌山藩江戸家老職家)に出仕;天皇・将軍・日光准宮等が茶事を問う、幕府に茶は石州流のみであったが不白流が浸透する、「千家茶通集」編、俳人;蓼太門、「不白翁句集」(三駱さんろ編/不白の息宗雪2世が請うて上梓)、「不白随筆」著、
 [声細う吹き切る風や小夜千鳥](不白翁句集)
 [天辺より御意戴くや時鳥](水戸侯に奉茶)、
 [不白(;号)の幼名/別号]幼名;亀次郎、
 別号;孤峰/宗雪/黙雷/円頓斎/亭々斎/抛筌斎/不羨斎/蓮花庵、茶号;黙雷庵宗雪
 法号;孤峰不白日祥居士
- 普白(ふはく;法諱) → 万巖(ばんがん・巖まんがん;道号・普白、曹洞僧) K 4 0 4 2
 不白(ふはく;号) → 連山(れんざん;道号・交易;法諱、曹洞僧) B 5 1 0 9
 不白(ふはく) → 親元(ちかもと・蜷川、武家/連歌/日記) C 2 8 0 4
 不白(ふはく) → 好仁親王(よしひとしんのう・高松宮、連歌) G 4 7 4 7

- 不伯(ふはく) → 定政(さだまさ・松平まつだいら、城主) J 2 0 6 7
 不薄(ふはく;法号) → 重徳(しげとみ・大原おおはら、権中納言) S 2 1 1 3
- D3864 蕪博(ふはく) ? - ? 尾張俳人;1777江戸在住、1774美角「ゑぼし桶」入、
 [灯ともしきえて白菊ばかり手折らばや](ゑぼし桶;96/白菊を明りとしたい)
- 不白軒(ふはくけん) → 嵐雪(らんせつ・服部、俳人1654-1707) 4 8 0 6
 不白軒(ふはくけん) → 拾翠(しゅうすい、俳人?-1759) H 2 1 7 3
 不白軒(ふはくけん) → 吐月(とげつ・飯島、俳人1727-80) L 3 1 6 3
 不白軒(ふはくけん) → 梅年(ばいねん・原田/服部、俳人1826-1905) B 3 6 9 3
- D3865 武八(ぶはち・湯浅ゆあさ) ? - ? 江後期三河設楽郡本郷の酒造業、
 天保3-8(1832-37)農民と商人との紛争を記録;1837「議定論日記」著
- 斧八郎(ふはちろう・大橋) → 得山(とくざん・大橋おおはし、藩士) K 3 1 7 8
 不拔(ふばつ・山田) → 顕義(あきよし・山田やまだ、藩士/軍人/司法) I 1 0 6 9
 不半(ふはん・三瀬) → 宗圓(そうえん・三瀬みせ、商家/歌人) L 2 5 1 5
 武範(ぶはん) すべて → 武範(たけのり)
 武美(ぶみ・菊地) → 武美(たけよし・菊地きくち、藩士/儒/武術) C 2 6 9 0
 武備(ぶび・村田) → 武備(たけはる・村田むらた、廷臣/歌人) Z 2 6 9 1
- D3866 不美人(ぶびじん、春の屋はるのや) ? - ? 大阪の狂歌作者、1826文々舎「略画職尽」入
- H3876 不必(ふひつ・堀田はつた) ? - ? 上州安中藩主堀田正俊の家老家の男、
 佯狂ようきょうして出仕せず/撰津武庫郡今津に来住;医を業とす、のち備中に住、
 歌人;季吟門/俳諧;貞室門、
 1676西鶴「古今俳諧師手鑑」82風黒「高名集」入、
 [驚くや胴骨よしも年の暮](手鑑/高名集/胴骨よしは丈夫で不敵な人;借金取には閉口)
- 3812 不比等(ふひと・藤原朝臣ふじわらのあそみ、別名;史ふひと、鎌足男)659-72062 母;車持国子女の与志古娘、
 大和・奈良期廷臣;689判事/長女宮子を入内/県犬養橋三千代を後妻/698藤原姓を名乗る、
 701大宝律令を完成;大納言正三位/707元明天皇即位を支持/708正二位右大臣、
 仏教信仰;興福寺を建立、710養老律令の企画/718編纂着手;途中で没(757仲麻呂が施行)、
 4人の息を南・北・式・京の各家祖とし藤原家繁栄の基礎確立、贈太政大臣正一位、
 諡号;淡海公/文忠公、詩人;懐風藻5首入(29/30/31/32/33)、
 [文を飛ばす山水の地 爵さかづきを命ず薛蘿の中 漆姫しつき鶴を控ひきて挙あがり
 柘媛しやん魚に接して通ふ 煙光巖上に翠にして 日影岸の前に紅なり
 翻りて知る玄圃近きことを 対翫す松に入る風](懐風藻;31/遊吉野)
 息子; 武智麻呂(南家)・房前ふささき(北家)・宇合うまかい(式家)・麻呂(京家)
 息女; 宮子(聖武天皇母)・光明子(聖武天皇皇后)・多比能(橘諸兄の室)
- I3872 史(ふひと・松本まつもと、)1834 - 189663 若狭小浜の国学者/近江高島郡の櫛原神社社掌、
 歌;[鴉のうみ]入
- 史(ふひと・白猪しらい) → 広成(ひろなり・葛井ふじい、奈良期詩歌) 3 7 2 3
 文儒(ふひと・田中/高田) → 与清(ともきよ・小山田、国学者) 3 1 6 0
 富百(ふひやく;俳名) → 弥市(やいち・江田/枝えだ、歌舞伎役/作者) 4 5 3 2
 浮瓢軒(ふひょうけん) → 貞昌(さだまさ・片桐かたざり、藩主/茶人) J 2 0 6 6
 浮瓢子(ふひょうし) → 敬忠(のぶただ・瀬下せしも、国学・俳/史家) B 3 5 8 3
 武敏(ぶびん/たけとし・菊池) → 魯斎(ろさい・菊池きくち、藩儒/家塾) B 5 2 5 1
 武敏(ぶびん・岡屋) → 武敏(たけとし・岡おか、商家/国学) W 2 6 2 5
- D3867 武富(ぶふ) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子えのこ集」2句入、
 [さゝがにの糸むすびつく柳かな](犬子集;259/ささがにはは蜘蛛)
- 不々庵主(ふふあんしゅ) → 円慈(えんじ・東嶺、臨済僧) B 1 3 7 6
- D3868 浮風(ふふう・有井ありい、名;義保/幼名;新之助、義実男)1702-6261 筑前直方藩士/20歳頃致仕、
 俳人;1718野坡門、大阪で医業/諸国行脚;筑後の永松なみ[諸九尼しよきゅうに]と駆落、
 野坡の無名庵継承、1756「俳諧窓の春」61「朱白集」編、追善「その行脚」;諸九尼編、
 [浮風の通称/別号]通称:軍治、別号;湖白/湖白庵/千鳥庵
- 扶風(ふふう・栗山) → 文行(ふみゆき・栗山くりやま、国学/歌人) I 3 8 1 8

- 不不外(ふふがい;号) → 主海(しゅかい;法諱・不不外、天台僧) Y 2 1 5 8
- 3815 吹茨刀自(吹黄刀自ふふきのとじ、伝未詳)?-? 飛鳥後期675十市皇女の伊勢參宮に供奉(万葉;22)、
刀自は女性の尊称、万葉二期歌人;3首22/490/491(1931重出)、
[河上かはへのゆつ岩群いはらに草生むさず常にもがもな常娘子にて](万葉;一22)
[川の上への伊都藻いづもの花のいつもいつも来ませ我が背子時じけめやも](万葉;四491)
- 不不芳齋(ふふほうさい・随朝)→若水(じやくすい・随朝ずいちょう/阿野、和算/漢学) G 2 1 2 7
- 不聞(ふぶん→ふもん;道号)→契聞(かいもん;法諱・不聞ふもん、曹洞僧) D 1 5 8 7
- 普文(ふぶん) → 普文(ふもん;法諱・煥章、天台僧) E 3 8 1 4
- 武文(ぶぶん)すべて → 武文(たけふみ)
- 武平(ぶへい・穂積) → 元庵(げんあん・穂積ほづみ、儒者) D 1 8 8 0
- 武平(ぶへい・山本) → 格安(ただやす・山本、国学/和算家) R 2 6 0 6
- 武平(ぶへい・伴) → 香竹(こうちく・伴ばん、国学者;歌/書) B 1 9 6 9
- 武平(ぶへい・城) → 武貞(たけさだ・城じょう、藩士/国学者) X 2 6 5 8
- 武平(ぶへい・森重) → 都由(すべよし・森重もりげ、砲術家) D 2 3 8 6
- 武平(ぶへい・服部) → 東洋(とうよう・服部/服、儒者/詩) H 3 1 8 0
- 武平(ぶへい・金丸) → 朝平(ちようへい・金丸、俳人) J 2 8 7 9
- 武平(ぶへい・松平) → 久徴(ひさよし・松平、藩士/記録) C 3 7 2 1
- D3869 武平次(ぶへいじ・青砥あおと、名;綱義、藩士金沢儀左衛門男)1713-8876 越後岩船郡村上の生、
幼年期に青砥冶兵衛の養子;越後村上藩士、鮭の乱獲による漁獲高減少の対策の研究;
鮭の母川回帰性を発見;遡上する三面川に分流の種川を設置し人工の産卵場所を造る、
「種川たねがわの制」を考案導入し種川の拡張を図る;鮭養殖の漁獲高は1千両超え藩政に貢献
- 武平次(ぶへいじ・竹下) → 周直(ちかなお・竹下たけした、庄屋/勸農家) B 2 8 3 6
- 武兵次(ぶへいじ・竹下) → 義直(よしなお・竹下、周直の孫/大庄屋) F 4 7 1 7
- 武兵衛(ぶへえ・堅山) → 利武(としたけ・堅山たてやま、藩士/記録) M 3 1 6 7
- 武兵衛(ぶへえ・永淵) → 有武(有竹ありたけ・永淵ながぶち、藩士/歌) F 1 0 3
- 武兵衛(ぶへえ・古川) → 氏英(うじひで・古川ふるかわ/源、幕臣/歌) E 1 2 3 1
- 武兵衛(ぶへえ・小寺) → 遵路(ゆきみち・小寺こでら、藩士/儒者) F 4 6 6 7
- 武兵衛(ぶへえ・小町谷) → 吉英(よしひで・小町谷こまちや、農業/歌人) G 4 7 3 9
- 武兵衛(ぶへえ・小町谷) → 吉憲(よしのり・小町谷こまちや/林、歌人) F 4 7 9 0
- 武兵衛(ぶへえ・神戸) → 友琴(ゆうきん・神戸かんべ、商家/俳人) B 4 6 2 5
- 武兵衛(ぶへえ・高橋) → 武兵衛(たけべえ・高橋、浄瑠璃作者) E 2 6 5 1
- 武兵衛(ぶへえ・高橋) → 本蔭(もとかげ・高橋たかはし、国学/歌人) K 4 4 3 9
- 武兵衛(ぶへえ・香西) → 成資(しげすけ・香西/植松、兵学者/軍記) C 2 1 2 6
- 武兵衛(ぶへえ・村瀬/久世) → 兼由(かねよし・久世くぜ、郷土史家) P 1 5 0 7
- 武兵衛(ぶへえ・舎人) → 重巨(しげなお・舎人とねり、藩士/本草/華道) R 2 1 7 8
- 武兵衛(ぶへえ・秋元) → 良(りょう・秋元あきもと、藩士/儒者) F 4 9 9 5
- 武兵衛(ぶへえ・佐野) → 竹之助(たけのすけ・佐野、藩士/大老襲撃) O 2 6 5 7
- 武兵衛(ぶへえ・河内屋) → 笹丸(ささまる・十叟舎、狂歌作者) B 2 0 6 0
- 武兵衛(ぶへえ・飯田) → 昌秀(まさひで・飯田/山本、国学者) G 4 0 7 6
- 武兵衛(ぶへえ・赤川) → 知哲(ともさと・赤川あかがわ/岩松、藩士/歌) T 3 1 9 1
- 武兵衛(ぶへえ・赤川) → 知至(ともゆき・赤川あかがわ、知哲男/藩士/歌) T 3 1 8 7
- 武兵衛(ぶへえ・長井) → 実賢(さねかた・長井ながい、藩士/歌人) P 2 0 0 0
- 武兵衛(ぶへえ・遠藤) → 志室(しほう・遠藤えんどう、大肝煎、国学) N 2 1 5 4
- 武兵衛(ぶへえ・五十嵐) → 貞利(さだとし・五十嵐いがらし/田巻、国学) N 2 0 7 6
- 武兵衛(ぶへえ・清水) → 晴国(はるくに・清水しみず、藩士/歌人) K 3 6 2 6
- 武兵衛(ぶへえ・瀬見) → 善隣(よしちか・瀬見せみ、国学) N 4 7 5 3
- 武兵衛(ぶへえ・目加田) → 慎憲(ちかおり・目加田[多]めかた、藩士/国学) N 2 8 6 6
- 武兵衛(ぶへえ・轟木) → 寛胤(ひろたね・轟木とどろき、藩士/尊攘) K 3 7 3 2
- 不偏齋(ふへんさい) → 宗鎮(そうちん・三谷みたに、儒者/茶人) I 2 5 4 9
- 武保(ぶほ・菊池/河原) → 容齋(ようさい・菊池、武保、幕臣/絵師) 4 7 9 5

- 武保(ふほ・菊池) → 武保(たけやす・菊池、荒物商/文筆家) B 2 6 1 3
 武甫(ふほ・山田) → 武甫(たけすけ・山田やまだ、藩士/和漢学/養蚕) 2 7 1 5
- D3870 附鳳(ふほう) ? - ? 江中期撰津灘の敏馬浦の俳人;
 1776几董「続明鳥」2句/82蕪村「花鳥篇」1句入、[溜池の動かぬ水に桜哉](花鳥篇;38)
- 富芳(ふほう/とみよし・辻林) → 喜右衛門(きえもん・辻林つばやし、本草家) F 1 6 0 0
 富方(ふほう・加藤) → 玄順(げんじゅん・加藤かとう、医者) J 1 8 7 8
- D3871 蕪坊(ふほう・青々園) ? - ? 上方の狂歌作者:紫笛門
 富房(ふほう・立川) → 富房(とみふさ・立川たてかわ、大工) O 3 1 9 5
 富房(ふほう/とみふさ・長谷川) → 知仙(ちせん・長谷川、囲碁) E 2 8 5 3
 不忘(ふほう・千) → 宗室(8世そうしつ・千せん、茶人/裏千家11世) H 2 5 6 8
 不忘(ふほう・寺本) → 海若(かいじやく・寺本てらもと/鈴木、書家) I 1 5 6 8
 武邦(ふほう・藤原左近) → 角行(かくぎょう・長谷川、修験行者) J 1 5 6 8
 不忘庵(ふほうあん) → 茂睡(もすい・戸田、歌人/歌学) 4 4 0 5
 富峯観(ふほうかん) → 野松(やしゅう・富峯観、俳人) 4 5 7 1
 不忘溝壑楼(ふほうこうがくろう) → 悔斎(かいさい・竹村たけむら、藩士/儒者) E 1 5 3 8
 富望山人(ふほうさんじん) → 国貞(初世くにさだ・歌川、絵師) 1 7 2 9
 不放子(ふほうし;号) → 文英(ぶんえい;道号・清韓、臨濟僧/鐘銘事件) H 3 8 5 2
- D3872 不卜(ふぼく・岡村おかむら、名;清占)?-169160余歳? 江戸の俳人;石田未得門、堀江町・本舟町住、
 1659梅盛「捨子集」入、78「俳諧江戸広小路」「俳諧向之岡」、86「丙寅之歳旦」、88「続の原」編、
 1682如扶「三ヶ津さんかのつ」入、追善集(不角編);13回忌「一峠」33回忌「師恩集」、不角の師
 [そぼふるやなほ傘さして山桜](続の原;24)、
 [不卜の通称/別号]通称;重郎兵衛/市郎右衛門、別号;一柳軒いちりゅうけん、法号;信是院
- D3873 不卜(ふぼく・原はら、是三)? - ? 近江大津の俳人;貞室・蕉門、尚白[1650-1722]の師、
 高政「後集絵合千百韻」独吟百韻入
- D3874 斧卜(ふぼく) ? - ? 加賀小松の俳人;1690北枝「卯辰集」4句入、
 [火屋ひとつ鳴き残したる雉ぎぎす哉](卯辰集;一59/火葬場の人々だけには聞えない)
- D3875 玦卜(ふぼく・森岡、又四郎男) 1729-9870 能登黒島の船問屋/俳人・關更門、
 妻文遊・息子玻井も俳人、
 1776「俳諧袖みやげ」(:妻との京紀行)/79「風も秋」/「津守船」、83「名月塚」84「蛛の舞」、
 1786「力ずまふ」92「ひぐらしぶえ」編、「雪の旅寝」「毛利農ほとり」編、
 [玦卜の通称/別号]通称;又四郎、別号;獅子窟/三木さんぼく、法号;廓公了天居士
 妻 → 文遊(ふゆう・森岡、俳人/歌人) E 3 8 2 3
- D3876 斧木(浮木ふぼく;号、諏訪すわ/飯田いだ、名;義明) 1772-182554 京生/信濃善光寺の大観進用人、
 歌僧、歌;澄月・桃沢夢宅門、夢宅・西山拙斎と並称される、
 [そことなく打ち霞む日は心して見れども見えぬ葛城の山](詞書;春日望山/短冊)
 [斧木(;号)の別号]別号;垂雲軒/翠雲軒/無木
- I3801 夫木(ふぼく・宇都宮うつのみや、号;閉関) 1781-184464 尾張海東郡の津島神社祠官、歌;熊谷直好門
- H3804 夫木(ふぼく、文音) ? - ? 安藝阿賀の俳人、柴籬「鶴亭日記」(;文音号で入)、
 1821篤老「大鳴輯」/30筵史「ゆふがほ集」入、同郷夫竹と並称される、
 [神の田をうゑるや人のむかしめく](大鳴輯)
- 不木(ふぼく) → 直竜(なおたつ・寺尾、藩士/俳人) B 3 2 5 9
 不卜(ふぼく・浅野) → 鹿古(しかふる・浅野、俳人) P 2 1 8 4
 浮木(ふぼく・黒沢) → 元重(もとしげ・黒沢/上曾、藩士/歌) C 4 4 6 0
 浮木(ふぼく・亀水軒) → 亀水軒浮木(きすいけんふぼく・戯作者) L 1 6 0 1
 腐木(うゆうし;号) → 光広(みつひろ・烏丸/藤原、廷臣/歌学) 4 1 3 1
 浮木庵(ふぼくあん) → 臥雲(がうん、僧/俳人) J 1 5 2 1
 夫木庵(ふぼくあん) → 文喬(ぶんきょう・村井、俳人) F 3 8 0 3
- H3849 不昧(ふまい;道号・紹省しやうせい;法諱)?-1652 尾張熱田の兵学者/臨濟僧;竜珠寺良嶽門/嗣法、
 尾張乾徳寺中興/1644伊勢菰野見性寺開山、「六韜鈔」「論語鈔」「中庸鈔」著、
 [不昧の号] 三靈/陽屋軒、諡号;靈光不昧禪師

- D3877 **負米**(ふまい・棗由亭そうゆうてい、姓;西田、名;耕悦、別号;若拙堂栗生坊)?-? 江後期大阪櫛屋町の人、
1804-18頃狂歌作者;如棗由亭栗洞門、1811「狂歌似世物語」、14「狂歌越天楽」編、
1815「狂歌夜光珠」補填、木端「栗葉集」・「板橋集」などに入集、丹州亭負栗の父、
大阪櫛屋町の医者西田耕悦と同一か?、また西田耕耘(医者/若拙堂)の父栗翁か、
→ 耕悦(こうえつ・西田、医者) H 1 9 5 9
→ 耕耘(こうん・西田、医者) H 1 9 4 7
[漁すなどの技わざはしらねど今もなを網にかかりて売るかつをぶし](夜光珠;五)
不味(ふまい・松平) → 治郷(はるさと・松平、藩主/茶道) G 3 6 3 8
不味(ふまい;号) → 童童(どうりゅう;法諱・臥雲;道号、曹洞僧) I 3 1 2 6
不邁(ふまい・林) → 真人(まひと・まこと・林はやし/原、藩士/歌) R 4 0 9 0
不味庵(ふまいあん) → 通虎(みちとら・嶋しま、藩士/医者/俳人) C 4 1 0 4
不味居(ふまいきよ・上田) → 堂山(どうざん・上田うねだ光陳、庄屋/詩歌) E 3 1 7 0
不味軒(ふまいけん;号) → 信景(のぶかげ・佐藤、地質研究/殖産家) B 3 5 0 8
武満(ぶまん/たけまる・有馬) → 正義(まさよし・有馬/坂木/榊、藩士/勤王) I 4 0 7 0
- H3821 **ふみ** ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入
[待瘦まつやせを薜あさがほの置く露見せて](二葉之松213、待恋を朝日の前の露に喩える)
- I3863 **二見**(ふみ・服部はつとり、名;お市/号;花月庵)?-1818 周防吉敷郡の歌人
ふみ(・牛奥) → かつ(・牛奥うしおく、藩老女/歌人) T 1 5 7 7
書(ふみ・上田) → 好文(よしふみ・上田うねだ、国学者) L 4 7 7 3
婦美(ふみ・滝/西原) → 綾子(あやこ・西原にしはら/滝、歌人) I 1 0 2 0
- I3815 **章彬**(ふみあき・岸きし、旧姓;岩切/村野)1730-8859 薩摩鹿兒島藩士;御用人、
有職故実;伊勢貞丈門、
[章彬(;名)の通称]喜右衛門/与十郎
- D3878 **文秋**(ふみあき・豊ぶんの/本姓;豊原とよはら、多おの久弘3男)1783-184058 母;安倍季任女、
楽師豊(豊原)順秋の養子、楽人;1804薩摩守/11隠岐守/27従四下/37従四上、歌人、
1815「豊原文秋朝臣自筆和歌」19「鳳管抄」/21「一曲管絃抄」23「大永懐旧録」、
1832「衆清録」「豊原鳳笙秘曲鈔」・「豊原文秋朝臣詠草」著
養子;陽秋かげあき(1812-48/安倍季随2男)
- D3879 **文明**(ふみあき・早川はやかわ) ? - 1821 尾張清洲の国学者/歌人;本居宣長・春庭門、
1817磯村道彦「春風集」入、
[文明(;名)の通称/号]通称;万之助/清太夫、号;藤蔭
- F3834 **文明**(ふみあき・三善みよし、文江ふみえ男)?-? 平安前期廷臣;参議清行の孫/940頃大内記、
948式部少輔、詩人;扶桑集入、本朝文粹;橘直幹の上奏状に入
文篤(ふみあつ・荒木) → 痴堂(ちどう・荒木、書家/歌) E 2 8 9 2
- D3880 **文邸**(ふみいえ・馬淵まぶち/修正;馬)?-1830 加賀金沢藩士;歩士/御算用場に出仕;60俵、
和算三池流;下村幹方門/1798藩校明倫堂の算学師範、1802「袁塚探だ」・「算法円中容術」、
「鉤股無奇術解」「三較連乗解」「算法乗除記」「算梯卷之三術解」著、
[文邸(;名)の通称/号]通称;臯吉/源之丞、号;柳卿
文海(ふみうみ・石井) → 文海(ふみみ・石井いし、絵師) E 3 8 0 6
- H3866 **文江**(ふみえ・三善みよし、清行男)?-? 平安前期廷臣;大学頭/大内記/右中弁、
926文章博士/式部権大輔、詩人;類聚句題抄・朝野群載・政事要略等に5首の詩文入、
文明ふみあきらの父
- D3881 **文雄**(ふみお・多治比/丹墾たじひ)?-? 836存 平安前期廷臣;文書生、836遣唐使第三船頭判官、
渡唐途中遭難;船を壊し筏を造り避難することを決議;一行を救う、詩;経国集1首入
- D3882 **文雄**(ふみお・青山あおやま、名;文時、別号;陽明舎)?-? 江中期筑前直方の神職;多賀神社宮司、
俳人;野坡門、浮風と幼時より親交、1772「折つつじ集」編
- H3882 **書緒**(書雄/文緒ふみお・鈴木すずき、通称;駒六/半蔵)?-? 江中後期;遠江引佐郡堀内村の国学者;
内山真竜[1740-1821]・本居宣長[1730-1801]門、歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;3首入、
[春深み吉野の川辺吹く風に匂ふ桜の花散り乱る](八十浦;420/落花)
- 3826 **文雄**(ふみお/もんゆう・井上いづえ)1800-7172歳 江戸の医者;田安家の侍医、歌人;岸本由豆流門、

一柳千古門、歌論/注釈/考証、1868落首が新政府の忌憚に触れ一時投獄(草野御牧みまきと)、1856「摘英集」編/66家集「調鶴集」、「歌堂醉語」「柯堂詠草」「元真集」「詞林栞」「和学辨」、「市のとよみ」「八代集評論」「文雄翁家集」、1859-64「伊勢の家つと」64「延齡話」外著多数、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入/1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[田鶴たづのみる千代田のこずゑうち霞み江門への湊に春はきにけり](調鶴集;2/立春)
[片岡の杜のしめなはしめやかに霞むをみれば春雨の降る](現存百人一首;3)、
[文雄(;名)の通称/号]通称;元真/玄真、号;歌堂/柯堂/調鶴、法号;文雄院

息女貞さだも歌人→定子(さだむるこ・大野おおの/井上/榎本、歌) J 2 0 8 7

- I3874 **史郎**(ふみお・水原みずはら) 1837-1899 63 近江大津の国学者/歌人、
妻;山田嘉猷えみちの長女未瑳子みさこ(1837-1914)、慶夫よおの父、東京住、1888「筆の花」編、
[史郎(;名)の字/通称/号]字;美瑞、通称;虎二郎/平蔵/宗之、号;三酉/以酊生
妻 → 未瑳子(みさこ・水原/山田、国学/歌) K 4 1 7 0
文雄(ふみお・松岡) → 雄淵(おぶち・松岡、神道) B 1 4 9 1
文雄(ふみお・近藤) → 戴斗(2世たいと・葛飾、絵師) B 2 6 9 1
文雄(ふみお→ものう) → 文雄(ものう・洞誉、浄土僧/語学) I 4 4 3 6
文雄(ふみお・日下) → 世傑(せいけつ・日下くさか/孔/森、儒/詩) B 2 4 1 7
文雄(ふみお・早川) → 武英(たけひで・早川、藩士/樺太開拓) O 2 6 6 8
文雄(ふみお→あやお・→大藪) → 文雄(あやお・大藪おおやぶ、神職/詩歌) H 1 0 3 0
- H3893 **文臣**(ふみおみ・青根あおね) 1811 - ? 近江彦根四十九町の医者、
のち尾張名古屋の町医、歌人/画を嗜む、
[文臣(;名)の別名/通称/号]別名;質、通称;少吉、号;葆斎ほうさい/蓬斎ほうさい
文臣(ふみおみ・真木) → 佐忠(すけただ・真木まき、神職/国学) J 2 3 2 5
- I3871 **文香**(ふみか・前嶋まえじま、通称;弥次右衛門) 1691-1753 63 近江彦根藩士;300石、
歌人;[彦根歌人伝・鶴]入、前嶋邦之くにゆき(弥次右衛門/1678-1745)の一族
- D3883 **文景**(ふみかげ・袖岡そでおか、和景男/本姓;橘) 1799-1855 57 廷臣;蔵人所衆/兼上南座/1808正六下、
1816玄蕃助/32正五下、「勸修寺かじゅうじ家御由緒大略」著、景命の父
- I3876 **文勝**(ふみかつ・虫明むしあき、号;陽庵/玩芳舎) ?-1828 備中賀陽郡の医者、国学
- I3828 **文清**(ふみきよ・佐草さぐさ、美清よきよ男) 1822-82 61 出雲出雲郡の杵築大社さぎざたいしゃ(出雲大社)上官、
国学;本居内遠・平田篤胤・千家尊孫門、武清たけきよの父、
佐草家は千家67代の子の自清が養子で継嗣した出雲大社上官の家、
[文清(;名)の通称] 図書ずしよ/民部みんぶ
- D3884 **文静**(ふみきよ・東儀とうぎ、文暉ふみてる男/本姓;太秦) 1824-? 1871存 天王寺方楽人;
1846河内守/50従五上/1870雅楽局楽家/71退官、
1853「遠楽譜」67「伽陀附物譜」、「催馬楽附物案譜」「舞楽留」著
文清(ふみきよ・林) → 義方(よしかた・林はやし、医者) C 4 7 6 7
- D3885 **史邦**(ふみに・中村なかむら、名;保潔) 1662?-1704? 43 尾張犬山医者/尾張藩犬山城主寺尾直竜の侍医、
上京;仙洞御所出仕/所司代与力衆、1693江戸で浪人、俳人;去来の紹介で芭蕉門、
1696「芭蕉庵小文庫」編、1691「猿蓑」24句/98「続猿蓑」5句/98種文「猿舞師」120句余入、
[広沢やひとり時雨るゝ沼太郎](猿蓑;一/沼太郎はヒシクイの異称)、
[史邦の通称/号/別名]通称;春庵、号;五雨亭、別名;大久保荒右衛門、根津宿之助
- I3852 **文子**(ふみこ・殿村とのむら、法号;壽原/壽元じゅげん) 1722-? 伊勢松坂の殿村整方まさかた(1711-84)の妻、
殿村本家;両替商の家、国学・歌;本居宣長門(夫と同門)
- I2855 **文子**(ふみこ・鍋島なべしま、) 1761-1834 74 肥前佐賀藩士鍋島直章なおあき(1782-1861)の側室;
(正室は於變[鍋島治茂女])、歌人
- H3888 **ふみ子**(ふみこ) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[むらさめは空さりげなく晴れにけり袖のしぐれもかからましかば]、
(大江戸倭歌;冬1082)、
若江薫子におこ(1835-81)と同一?
- I3839 **婦美子**(富美子ふみこ・千家せんげ、広橋光成女) 1825-1903 79 出雲の出雲国造千家尊澄たかづみの妻、
国学・歌;夫門、尊福たかとの母

- 文子(ふみこ/あやこ?・若江)→ 薰子(におこ・若江わかえ、和漢学/歌) 3 3 1 2
 I3843 **文定**(ふみさだ・高橋たかはし、通称;八之丞)1681-1753 73 近江彦根藩士、歌人;[彦根歌人伝・亀]入
 I3850 **文貞**(ふみさだ・恒川つねかわ、)? - 1877 江後期;尾張春日井郡の医者、国学・歌;植松茂岳門
 履実(ふみざね・和智) → 履実(りじつ・ふみざね・和智わら、儒者) B 4 9 1 8
 文重(ふみしげ・宮地みやじ) 常盤(ときわ・宮地みやじ、絵師) K 3 1 3 7
 H3887 **書女**(ふみじよ) ? - ? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [けさよりは暑さをよそに遣り水の音も身にしむ秋は来にけり]、
 (大江戸倭歌;秋696/立秋水)
 文季(ふみすえ・高橋) → 交孚(かたさね・高橋たかはし、医/儒者) U 1 5 9 3
 D3886 **文輔**(ふみすけ・奈良井ならい)? - ? 江中期京の歌舞伎立作者;1736-44頃諸座で活動、
 1740「けいせい普賢湊」/41「けいせい大井川」/「今様信田妻」/42「けいせい名草郡」
 I3854 **文輔**(ふみすけ・中村なかむら)1701-1763 63 江中期;讃岐三木郡の儒者;高松藩儒、
 有職故実・国学;速見房恒門、八栗城主中村宗トむねしめ(?-1622)の裔、
 1745(延享2)「栗林荘記」著(高松藩主松平頼恭の命で著作;後の栗林公園)、
 [文輔(;名/字)の通称/号]通称;彦三郎、号;君山/慶洞
 文輔(ふみすけ・機) → 文輔(ふみすけ・機はた、歌舞伎作者) F 3 8 8 6
 文輔(ふみすけ・篠沢) → 辣堂(らつどう・篠沢しのざわ、藩士/経史) B 4 8 4 7
 文甫(ふみすけ・土屋/後藤)→ 知虎(ともとら・土屋、家老/詩文) P 3 1 9 6
 文弼(ふみすけ・斎木) → 坦篤(たんか・斎木さいき、藩士/儒者) T 2 6 2 0
 文布(ふみたえ・服部) → 広布(ひろたえ・服部はつとり、藩士/国学) I 3 7 3 4
 H3891 **文敬**(ふみたか・朝香あさか/旧姓;追川、)1812-78 67 上野甘楽郡の医者/国学者、
 [文敬(;名)の通称]岡太郎(けいたろう/山城/山井)
 文孝(ふみたか・山本) → 良寛(りょうかん;法諱・大愚、曹洞僧/詩歌) 4 9 1 7
 文丈(ふみたけ・山下) → 蚊丈(ぶんじょう・山下やました、神職/国学/俳人) F 3 8 7 9
 D3887 **文惟**(ふみただ・一志いっし、文延男/本姓;度会)1620-95 76 伊勢外宮の祠官、
 「豊受皇太神宮神排拝式」著
 D3888 **文躬**(ふみちか・朴木ほおのき、通称;刑部丞)?-1495? 戦国期武士;伊勢国司北畠具方の家臣、
 連歌:新菟玖波集3句入
 文月庵(ふみつきあん) → 周東(しゅうとう・片山かたやま、藩士/俳人) Y 2 1 0 8
 D3889 **文継**(ふみつぐ・勇山連いさやまのむらじ/のち安野宿禰やすののすくね)773-828 56 河内の漢学者;紀伝博士、
 廷臣;大学頭/従四下/東宮学士、816嵯峨天皇に「史記」を進講/勅撰三詩集すべて編纂参加、
 詩;818文華秀麗集編;1首入/凌雲集編/経国集;1首入
 D3890 **文常**(ふみつね・飯島いじま、号;雪屏/石屏せつぺい)?-1866 幕末期越後長岡の絵師;菊の絵が得意、
 1807「芳菊草稿」31「文常芳菊帖」32「菊譜」著
 文経(ふみつね・福井) → 公清(きみきよ・福井/栗野・足代、神職) M 1 6 0 2
 D3891 **文暉**(ふみてる・東儀とうぎ、文順男/本姓;太秦)1777-1843 67 天王寺方楽人/1792河内守/1841正四下、
 「舞楽留」著、文静の父
 3816 **文時**(ふみとき・菅原すがら、高規男)899-981 83 母;菅原宗岳女、右大臣道真の孫、
 901(3歳)祖父道真左遷に連座/一家離散、紀伝道に修学/933文章生/大内記/文章博士、
 左少弁/977式部大輔/981非参議/従三位、詩壇重鎮;大江朝綱と菅江一双と称さる、
 959内裏詩歌合参、家集「文芥集」(散佚)、文粹38首入、扶桑集・和漢朗詠集・類聚句題抄入、
 950「仁和寺御室御物実録」著、勅撰;拾遺442、
 [文時(;名)の字/通称]学生字;右菅生、通称;菅三品、輔昭の父
 D3892 **文言**(ふみとき・東儀とうぎ、文均ふみなり男/本姓;太秦)1847-76 30 天王寺方楽人、
 1857正六下/右兵衛少尉、1870雅楽局楽家/74退官、1855「楽所要記」著
 文時(ふみとき・青山) → 文雄(ふみお・青山あおやま、神職/俳人) D 3 8 8 2
 章言(ふみとき・中原) → 章言(あきこと/あきとき・中原、歌人) C 1 0 8 4
 D3893 **文利**(ふみとし・紀き、淑光よしてる[869-939]男、長谷雄の孫)?-? 平安前期廷臣;蔵人/紀伊守/美作守、
 散位、歌;962応和二年内裏歌合/966康保三年内裏前裁合参、

[よもすがら待ちあかしつるほととぎすいつかは声を聞くべかるらむ]、

(内裏歌合;八番左15、右は美作藏人)

文敏(ふみとし・五島) → 赤水(せきすい・五島、医者) K 2 4 2 5

D3894 文友(ふみとも・檉内かしうち) ? - ? 江戸期阿波の医者、「禅居医話」「兼澄辨疑」「活法合機」著、
[文友(;名)の字/通称/号]字;以輔、通称;解穆かばく、号;金嶽/信古道人

I3808 文友(ふみとも・太田おた) ? - ?寛政1789-1801頃没 讃岐香川郡坂田の医者/歌人、
1748(寛延元)西行60年追善集に歌60首入

D3895 文豊(ふみとよ・長瀬ながせ、斎藤弁蔵男)?-1880 長瀬長兵衛の養子/岩代白河の国学者;加藤千浪門、
1853「雁のはしら」、「関屋の桂」著、大金玄僊の師、
[文豊(;名)の通称/号]通称;洲平/白川、号;平榴斎/橘其葉きつきょう

文虎(ふみとら・丹羽) → 嘯堂(しょうどう・丹羽、儒/医者)

文直(ふみなお・飯島) → 温郷(おんきょう・飯島、歌人) D 1 4 3 9

I3825 文中(ふみなか・後藤ごとう、守黒もりすみ2男)1809-55/47 佐渡加茂郡舟下の生/後藤呉山の養嗣子、
医者/歌人、宗蔵そうぞうの弟、父・兄と共に佐渡で歌人として活動

D3896 書主(ふみぬし・興世おきよの朝臣)?- ? 平安期歌人、816大歌所別当:文徳実録記入

D3897 文均(ふみなり・東儀/本姓;太秦、芝しば葛起男)1811-73/63 東儀文信義の嗣子/天王寺方楽人、
1844近江守/55従四下/70雅楽局楽家/73退官、
「楽所日記」/1848「大嘗会巳日主基方附物」著

文成(ふみなり・橘) → 文成(あやなり・橘宿禰、万葉歌人) B 1 0 5 9

I3853 文庭(ふみにわ・中津なかつ、)1821-1883/63 筑前宗像郡玉丸村の生、国学;青柳種信・足代弘訓門、
維新後;玉丸(許斐山)熊野神社宮司/傍ら家塾[賢木園けんぼくえん]開設、
和漢学・書を指導;門弟3百余、記念碑あり

D3898 文信(ふみのぶ・関せき、通称;八左衛門)?-? 江前期砲術家;1596丸田盛次門;霞流砲術修得、
のち関流砲術を主唱、初め米沢の上杉家家臣/のち上総久留里藩主土屋家に出仕、
1617「合薬口伝」33「薬之法集」50「遠近書」、「南蛮流鉄炮印可状」、「方円六本九極数加返」著、
子孫は代々[軍兵衛]を称し常陸土浦藩に出仕

H3894 文信(ふみのぶ・朝枝あさえだ/旧姓;長多、)1813-1894/82 周防岩国藩士、歌人、
[文信(;名)の別号/通称/号]別号;右文、通称;康太/昱之允いくのすけ、号;柴廼舎しばのや

文信(ふみしん・朝枝) → 文信(ふみのぶ・朝枝あさえだ/長多、藩士/歌) H 3 8 9 4

文信(ふみのぶ・一色) → 春信(はるのぶ・一色いっしき、商家/国学) J 3 6 3 9

文廼門(ふみのもん) → 千寛(ちひろ・茅舎かや、権田万次郎、藩士/狂歌) F 2 8 2 5

文の屋(ふみのや・白崎) → 誠(まこと・白崎しろさき、一恭/商家/国学) Q 4 0 2 3

書廼屋(ふみのや) → 久孝(ひさたか・太田おた、藩士/国学者) I 3 7 8 9

文の舎千鶴(ふみのやせんかく) → 甚左衛門(じんざえもん・高見/大野、書肆/国学) O 2 2 6 0

文の家秀茂(ふみのやひでしげ) → 秀茂(ひでしげ・文の屋、旅館主人/狂歌) D 3 7 0 8

D3899 文範(ふみり・藤原ふじわら、元名男)909-996/88 母;藤原扶幹女、廷臣;955左中弁/967参議、
971従三位権中納言/972中納言/986従二位/988致仕、
藤原敦忠家の家司/主人没後その室(藤原玄上女)と結婚、
洛北岩倉に大雲寺建立、958村上天皇催「鬪詩行事略記」詩合の講師、奇行逸話;古事談入、
歌人;960内裏歌合参加、万代集・別本和漢兼作集・和漢兼作集入、新統古今50、
[かぞふれば松より年ぞ老いにける我をたづねて人はひかなん](新統古;春50/子日紫野)

E3800 文礼(ふみり);通称・稲葉いなば、名;克)?-? 江後期医者;腹診法を唱導、
1787「腹証図象」/1799-1801「腹証奇覧」著、門人和久田叔虎・神戸子祥らが師説を伝承

I3861 文徳(ふみり・橋爪はしづめ、号;良樹斎/鉄叟)1815-67/53 信濃伊那郡の和漢学者

文則(ふみり・矢野) → 御蔭(みかげ・矢野やの、商家/国学/歌人) K 4 1 8 6

I3806 文彦(ふみひこ・大槻おおつき、磐溪3男)1847-1928/82 江戸木挽町の生/国学;日本語学研究、如電の弟、
仙台藩の密偵;鳥羽・伏見戦に参戦/戊辰戦後;奥羽越列藩同盟提唱の父の戦犯助命活動、
1872年に文部省出仕、1889-91国語辞典「言海」編、「伊達騒動実録」著、
1897「広日本文典」1901「根岸及近傍図」01「復軒雑纂」16「口語法」著、
1932-37「大言海」編(没後完成)、38「復軒旅日記」著(没後刊)、

- [文彦(；名)の別名/通称/号]初名(諱)；、通称；復三郎、号；復軒/黒石斎
 文寿(ふみひさ・松貴) → 二曲(にきよく・松貴まつき、俳人) G 3 8 9
 文久(ふみひさ・川村) → 碩布(せきふ・川村、豪商/名主/俳人) 2 4 1 1
- H3896 **文英**(ふみひで・有吉ありよし、)1833-1896⁶⁴ 豊前上毛郡の医者、国学・歌；定村直孝門、
 [文英(；名)の別名/字/号]別名；清隣(きよちか?)、字；子貞、号；花月堂/一清
- I3817 **文啓**(ふみひろ・国方くにかた、)1780-1858⁷⁹ 讃岐高松の商家?、国学者
 [文啓(；名)の通称/号]通称；逸民、号；魯斎、屋号；出羽屋
- I2865 **文礼**(ふみひろ・服部はつとり、通称；又三)1810-78⁶⁹ 備中下道郡の国学者・歌人；前田夏蔭門、
 備中吉備郡岡田藩の代官
 文熙(ふみひろ・田内) → 董史(董文ただふみ・田内たうち、教育者) Q 2 6 7 6
- E3801 **文房**(ふみふさ・万里小路までのこうじ、平松時行男)1759-83^{早世}25 1768(10歳)万里小路政房の養子、
 廷臣；1778蔵人/83右中弁；早世、
 「文房卿記」「安永九年諒闇中記」80「常御殿御祈申沙汰留」著、
 [文房(；名)の初名]初名；量高
- E3802 **文雅**(ふみまさ・石崎いしざき、一志いっし尚昌男)1723-99⁷⁷ 伊勢山田の人/石崎宗元の養子；
 伊勢外宮の御師久保倉家の代官職/家職を嫌い上京し医学；香川修庵門、帰郷後医業、
 家を弟に譲渡、再度上京し儒学；谷眉門/諸学に通ず/横笛；伶人山井子一門；奥義を究める、
 1751「伊勢路廻志類辺」、「按内記便蒙」「伊勢参宮按内記便蒙」「和名鈔私考」「郷談」外著多、
 [文雅(；名)の幼名/字/号]幼名；多門、字；大卿、号；長沙
- I3844 **文祇**(ふみまさ・高橋たかはし、)1779-1861⁸³ 越後蒲原郡の国学者、
 [文祇(；名)の通称/号]通称；秋平、号；正翁
- E3803 **履正**(ふみまさ・福村ふくむら、亀吉男)1818-68⁵¹ 伊勢度会郡田中中世古の絵師；岡村鳳水門、
 四条派の絵を得意、歌を嗜む、「三宝院大般若経跋抄」編、
 [履正(；名)の字/通称/号]字；百祥、通称；内膳、号；樟溪
- E3804 **文丸**(ふみまる) ? - ? 大阪俳；来山門、「蘆の角」編、1691江水「元禄百人一句」目録入
 文丸(ふみまる・乗松) → 長虎(ながとら・乗松のりまつ/源、藩士/歌) O 3 2 3 2
- H3898 **文丸**(ふみまる・石王いしおう/本姓；矢田部、安治男)1748-1810⁶³ 近江甲賀郡の水口神社祠官、
 基治もとはるの弟/石王寒軒の従弟、歌；冷泉為村家入門/のち小沢蘆庵門、
 諸国遊歴；長崎に長く滞在、
 [文丸(；名)の通称/号]通称；右兵衛/兵衛、号；長庚
- E3805 **文麿**(ふみまる・狂蝶子きやうちょうし、関せき/本姓；平、名；豊脩)?-1821 尾張の生?/江戸市ヶ谷住の狂歌、
 六樹園石川雅望門；五側判者、読本洒落本作者、
 1812「浄瑠璃姫物語」14「五大力後日物語」15「用字格」著、17「はしめの春の狂歌集」編、
 「書繫秃筆」「狂歌卅六歌仙」著、「雅言集覽」補訂、
 [狂蝶子文麿(；号)の通称] 文吉
- E3806 **文海**(ふみみ・石井いし、夏海なつみ男/本姓；平)1804-49⁴⁶ 佐渡相川の絵師；紀南嶺門、
 佐渡の風景・肖像画を得意/父に協力し佐渡の地図完成、「佐渡一国山水図」「鴨湖八勝図」、
 「佐渡一国海岸全図」「相川十二ヶ月」「恋浦雅景一覽」「相川全市図」/1830「恵美草」著、
 [文海(；号)の通称/別号]通称；彩助、別号；彩瀾堂/小瀾
- I3838 **文道**(ふみみち・関せき、通称；文蔵)1822-1906⁸⁵ 信濃伊那郡の国学者
 文道(ふみみち・堺) → 堺文道(さかいのふみみち、狂歌) M 2 0 9 5
- 3817 **書持**(ふみもち・大伴宿禰おともすくね、旅人たびと男)?-746 家持(718?-785)の弟、万葉四期歌人12首；
 463/1480/1481/1587/3901-06/3909/3910、3913・3959左注/3957題、花草木を愛する、
 [橘は常花とこはなにもがほととぎす住むと来鳴かば聞かぬ日なけむ](万葉；3909/家持に贈)
- E3807 **文幹**(文幹ふみもと・紀き、淑光よしてる男)?-944^{圧死} 廷臣；944従五下信濃守、文利の弟、
 934(承平四)3月26日中宮藤原隠子五十賀の「屏風歌」を詠む(日本紀略；拾遺集2)、
 944任国信濃到着当日に大風で庁舎倒壊し圧死、
 [春霞立てるを見ればあらたまの年は山より越ゆるなりけり](拾遺集；2)
- I3803 **文哉**(ふみや・小川おがわ、通称；郁介)1811-85⁷⁵ 備後福山藩士、

- 国学;小寺清之(1770-1843)・大国隆雅(1792-1871)門、藩校誠之館国学教授、
- E3808 **文哉**(ふみや・神戸かんべ) ? - ? 幕末期洋学者、「究理学」著、
1876英国医者ホトスレー「精神病約説」を翻訳
文哉(ふみや・村田) → 春門(はるかど・村田/宮崎、国学/歌) 3 6 3 1
文哉(ふみや・富沢) → 貞(てい・富沢とみざわ/上野、地役人/国学) F 3 0 1 7
- E3809 **文泰**(ふみやす;号・松浦まつら) ?- ? 尾張萩原の俳人;独学で修得、
1762「太山風みやまおろし」、63「俳諧非十論」著(:支考「俳諧十論」を論難)
- I3870 **文之**(ふみゆき・堀ほり、) ? - 1797 紀伊牟婁郡の医者、紀伊新宮住、和学者、
[文之(;名)の字/号]字;伯倫、号;天民/八串坊/宇選
新宮の医者堀宇仙(?-?/長平/本居大平門歌人)と同族?
- E3810 **文康**(ふみやす・小林こばやし、有賀丈左衛門男) 1790-1857 68 代々信州小県郡栗林村の庄屋、
小林に改姓、国学者;宣長流古道派を修学/医・易学・漢籍・仏典を修得、
本居有郷・平田篤胤らと交流、
1834「麻須美能鏡」、「阿伎豆能和邪」「古来諸速解」「選方明鑑」著、
[文康(;名)の通称/号]通称;清吉/丈左衛門、号;雲樹/秋津能屋、諡号;阿伎豆彦瑞道大人
- E3811 **文之**(ふみゆき・日夏ひなつ) ? - ? 江中期享保1716-36頃の神道家;松岡雄淵門、
1736「中臣祓秘訣」、記録「神代巻師説」著
- I3818 **文行**(ふみゆき・栗山くりやま、) 1832-1884 丹波桑田郡の国学;高千穂真宗僧の寛隆門、
歌;香川景恒門、
[文行(;名)の別名/通称/号]別名;和文、通称;駒之助/直弼/直哉、号;扶風/桂谷/桂山
普明(ふみよう;字) → 日通(にっつう・境持院、日蓮僧) F 3 3 2 7
普明(ふみよう;法諱) → 普明(ふめい;法諱・宝月、真宗僧/詩人) E 3 8 1 2
富明(ふみよう;字) → 憲誉(けんよ;法諱・富明;字、真言僧) M 1 8 6 7
不妙庵法宜(ふみようあんほうぎ) → 了周(りょうしゅう・古筆こひつ;4世/平沢/小川、古筆鑑定) L 4 9 9 4
普明院(ふみょういん) → 光子内親王(みつこないしんのう、観音堂建立) D 4 1 3 8
- I3807 **章美**(ふみよし・大野おおの、) 1789-1854 66 近江蒲生郡の国学者・歌人、
[章美(;名)の通称/号]通称;与惣右衛門、号;きくのや/幾久園/杖竹真直(;狂名)
文美(ふみよし・松本) → 賀慶(がけい・松本まつもと、和算家) K 1 5 7 8
武民(ふみん・長橋) → 栞園道間戸(かえんみちまど、長橋、狂歌) P 1 5 9 8
不眠斎(ふみんさい) → 不乾斎雨声(ふけんさいうせい、戯作者) B 3 8 8 1
- E3812 **普明**(ふめい/ふみよう;法諱・宝月ほうげつ;字、俗姓;阿ほとり/竹内) 1737-1805 69 豊後府中の真宗大谷派僧、
日田の長福寺通元の養子/仏・儒修学、詩文;黄檗僧大潮門、高倉学寮入;1780寮司/82擬講、
帰郷;長福寺住職;学寮楽法楼で子弟教育、没後;贈嗣講、
「香光詩集」「香光文集」「論語考決」著、
[普明(;法諱)の号] 香光院/香光室/明月楼
- E3813 **不鳴**(ふめい・井上いのかげ、名;黙、前羽信近男) 1812-92 81 淡路洲本の医者;徳島藩医井上玄貞の養子、
京・長崎で医を修学、徳島藩医;1849種痘を試験/61シーボルトに面会、医を免じられ土籍、
藩政参与/1868致仕、徳島県翻訳係/女学校御用掛、詩文・歌を嗜む、
1845「亜墨竹枝」、「亜墨竹枝余話」「春魚詠草」著、
[不鳴(;号)の字/通称/別号]字;蹊夫、通称;左門太/伸庵、
別号;春海/春漁/春洋/泡翁/臥遊斎/文会楼
附明(ふめい・土屋) → 金生(かなお・土屋つちや、藩士/測量術) O 1 5 2 9
扶明(ふめい・三刀谷) → 扶明(すけあき・三刀谷みとや、藩士) F 2 3 9 6
武明(ふめい・大原) → 武明(たけあき・大原おほら、儒者) O 2 6 2 1
武明(ふめい・鈴木/伊東) → 武明(たけあき・伊東/鈴木、国学/剣術) O 2 6 2 2
普明院(ふめいいん) → 藤子(ふじこ・伊達だて、藩主女/歌人) I 3 8 4 2
布茂(ふも・佐々木) → 吉晴(よしはる・佐々木ささき、歌人) N 4 7 0 0
麓(ふもと・藤田) → 憲貞(のりさだ・藤田/小松原、武道家) E 3 5 5 7
麓(ふもと・林) → 正謙(まさかた・林はやし、藩士/国学) R 4 0 9 2
- G3899 **麓近道**(ふもとのちかみち) ? - ? 上州の狂歌作者;1787「才蔵集」入;550、

[六尺のさすが路銭につまりてはたゞ一寸もゆかれざるかな](才藏集;550)、
(六尺の袖ごひ[物乞]するを見侍りて)

- E3814 **普文**(ふもん;法諱・号;煥章)?- ? 室町期天台宗台密小川流の勸進聖、1414琵琶湖の竹生島参籠、
夢を得て比叡山の古記蒐集;1415「竹生島縁起」編(竹生島都久須麻社・宝巖寺の由緒)
- E3815 **普門**(ふもん;法諱・潮誉ちよよ;号;慈眼院、彰見寺光縁男)1636-9257 伊勢の真宗僧、
初め浄土宗修学:芝増上寺で修業/親鸞の旧跡巡拝;下野高田専修寺に参籠;
真宗高田派僧として彰見寺住職、妻帯せず称名・著作に専念、
「親鸞絵伝撮要鈔」「正信念仏偈師資発覆鈔」「当麻曼荼羅口訣」著
- E3816 **不聞**(ふもん) ? - ? 江前期俳人;1689露川「花虚木はなのうつぼぎ」歌仙入
- E3817 **布門**(ふもん・桑原くわばら/井上、名;貞雄、字;四郎)1691-175666 大阪の医者/俳人;来山門、雑俳点者、
師の追善集上梓、1723書肆編「卯の菊月集」前句附入、1735「誹諧禪農能」編、
1738「有馬日記」/41「松葉畚」/45「みつ巴」/48「藍の手」/50「むめ椿」「桑老父」編、
1716-36書肆編「富士の高根」入、54潘山「しぐれの碑」(貞因25回忌・貞峨13回忌追善集)入、
追善集「三日翁」、
[翁草在いすがごとし犬莖の花](しぐれの碑/発句)、
[布門の別号] 五流斎/四月坊/桑老父/竹砌ちくぜい/東江閣、婆束・女媒の父
- E3818 **富門**(ふもん・滝たき) ? - ? 江中期1751-64頃大阪の雑俳点者、
1755「俳諧腹太鼓」評
- E3819 **普聞**(ふもん;法諱・得生院;諡号、俗姓;田中)1812-7665 越後頸城郡本善寺生の真宗本願寺派僧、
宗学;越後正念寺興隆・僧朗門/1870近江泉福寺住職、「器界総論」「一家拾難決拵」著
- 普門(ふもん) → 円通(えんつう;法諱、天台浄土僧) F 1 3 2 4
普門(ふもん;道号・元照) → 元照(げんしょう;法諱・普門、臨濟僧) J 1 8 9 5
武門(ふもん・大和田) → 気求(ききゅう・大和田、書肆/国学) 1 6 9 0
不聞(ふもん;道号・契聞) → 契聞(かいもん;法諱・不聞ふもん、曹洞僧) D 1 5 8 7
普門円通禅師(ふもんえんつうぜんじ) → 仙厓(せんがい;道号・義梵;法諱、臨濟僧/禅画) F 2 4 0 1
普門寺関白(ふもんじかんぱく) → 政忠(まさただ・九条くじょう/藤原、関白) D 4 0 4 7
富野(ふや・山本) → 富野(登見野とみの・山本やまもと、歌人) W 3 1 8 8
不夜庵(ふやあん) → 太祇(たいぎ・炭すみ/たん、俳人) 2 6 0 2
不夜庵(2世ふやあん) → 五雲(ごうん・岡、太祇門俳人) C 1 9 1 1
不夜庵(3世ふやあん) → 菅鳥(かんちょう・俳人) R 1 5 4 1
- E3820 **浮遊**(ふゆう・関岡せきおか、名;義元or義末、義実男)?-? 江前期武将;父祖は伊勢関岡城主、
一時加藤清正に仕官、1622「関岡家始末」著(;鳥尾石見守書留の関岡家譜に父の戦功を付)、
義元と義末は兄弟で浮遊がどちらか不明
- E3821 **不雄**(ふゆう;号) ? - ? 江中期長崎の俳人;宇鹿門?、
1716去来13回忌追善「菊の杖」編
- E3822 **桴遊**(ふゆう・本島もとじま) ? - ? 江中期江戸の戯作者;すべて中島車尋と共著、
1754談義「無而七癖なくてなくせ」/浮世草子「風流宝文箱」/読本浄瑠璃「仮名雑後日菅原」著
- E3823 **文遊**(ふゆう・森岡もりおか、森岡又四郎[珠トふぼく]妻)?-1803 能登黒島の俳人/歌人、玻井の母、
1776「俳諧袖みやげ」著(:夫との京紀行)
- 夫 → 珠ト(ふぼく・森岡、船問屋/俳人) D 3 8 7 5
富有(ふゆう・宇野) → 直作(なおさく・宇野うの、藩士/砲術) B 3 2 1 6
富有(ふゆう・福井) → 富有(とみあり・福井ふくい、能楽師/国学) W 3 1 2 2
敷雄(ふゆう・福田) → 敷雄(しきお/のおお・福田ふくだ/瀬本、国学/歌) J 3 5 8 7
武雄(ふゆう) すべて → 武雄(たけお)
蛭蜂翁(ふゆうおう) → 常方(つねかた・野矢のや、藩士/槍術/歌) B 2 9 9 6
不尤斎(ふゆうさい・長沢) → 楽浪(らくろう・長沢ながさわ、藩儒/詩) B 4 8 2 9
冬氏(ふゆうじ・中御門) → 冬定(ふゆさだ・中御門なかみかど、廷臣/歌人) E 3 8 2 5
- E3824 **冬氏女**(ふゆうじのむすめ・大炊御門おおいみかど/本姓;藤原)?-? 光厳院の女房;廊御方か?、
通称;光福寺前内大臣女、[父冬氏(1282-1324)は1313権大納言/22内大臣/法号;光福寺]、
冬信・家信の姉妹、歌人:風雅集1050、

- [つつむ中は人めにさはる方やあると更けてしもこそなほ待たれけれ] (風雅; 恋1050)
 不尤所(ふゆうしょ・長沢) → 築浪(らくろう・長沢ながさわ、藩儒/詩) B 4 8 2 9
- I3851 冬蔭(ふゆかげ・鶴岡つるおか、通称; 市郎右衛門) 1776-1854 79 江戸品川宿本陣の主人、
 国学者; 木島菅麿・富樫広蔭門
 冬吉(ふゆきち・山崎) → 弓雄(ゆみお・山崎、国学者/教育) G 4 6 1 0
- I3860 冬子(ふゆこ・野田のだ、旧姓; 森) 1777-1861 85 伊予宇和郡矢野村庄屋野田美陳よしのぶ(1770-1843) 妻、
 歌人; 夫美陳門、良久・豊子(共に歌人)の母、
 矢野村次男良久、娘豊子も歌をよく
 [冬子(;名)の初名]初名; 寿子、
- I3813 冬子(ふゆこ・豊田とよだ、絵師豊田秋為あきため女) 1803-76 74 信濃岐阜の歌人; 香川景恒門
- I3811 冬子(ふゆこ・片山かたやま、) 1829-1875 83 筑後久留米の国学者; 船曳磐主いわぬし(鉄門かなと)門、
 同郷同門の久留米藩士片山正喬まさたか(1801-72)との関係?
- E3825 冬定(ふゆさだ・中御門なかみかど、初名; 冬氏、宗冬男/本姓; 藤原) 1282-1337 56 廷臣; 蔵人頭/左大弁、
 1313参議/従三位/28権中納言/31正二位、「冬定卿記」著、1318和歌所御会始参加、
 1330元徳二年八月御会参加/藤葉集入、勅撰2首; 新千載343/新拾遺1150、
 [七夕の五百機衣いはたごももおく露にぬれてかさぬる秋はきにけり](新千載; 秋343)
 [催馬楽妹と我という心をよめる、
 いもと我がいるさの山の月影ぞ同じよどこのかたみとはなる](藤葉; 恋504)
- E3826 冬実(ふゆざね・二条にじょう、教基男/本姓; 藤原) ?-? 1393 存 南朝廷臣; 1359正三位右大臣、
 1366左大臣/従一位/69関白、歌人; 自邸で百首歌を催、新葉29首; 57/118/236/296以下、
 [あしびきの山越えくれて行く雁は霞の末に宿やとふらん](新葉集; 57/右大臣)
- E3827 冬実(ふゆざね・近衛このえ、経忠男/本姓; 藤原) ?-1380 廷臣; 1363非参議従三位/65左近中将、
 歌人; 1367新玉津島社歌合; 左方参加、
 [ゆふなぎの春の浦波はるばると霞をわくるあまの釣り舟](新玉津歌合; 十四番左27)
 不躰子(ふゆし) → 知守(とももり・秋山あきやま、神道家) T 3 1 9 7
 冬成(ふゆしげ・滋野井) → 実前(さねさき・滋野井/藤原、権中納言/歌) D 2 0 0 3
- E3828 冬輔(ふゆすけ・松殿まつどの、大納言忠嗣男/本姓; 藤原) ?-1392 南北期廷臣; 1375非参議従三位、
 連歌; 菟玖波集1句入;
 [松にきこえて秋風の声](菟玖; 十二1126/前句; 鳴鹿ハ山のいつくにかよふらん)
- E3829 冬隆(ふゆたか・藤原ふじわら/家名; 壬生みぶ、俊隆男/家隆の曾孫) ?-1345 廷臣; 正四下宮内卿、
 歌人; 1322内裏詩歌会始に参加、1324内裏十首参加、没後に覚如が哀傷歌を寄こす、
 拾遺現藻集・続現葉集・臨永集・松花集・藤葉集(4首)入、菟玖波集5句入、
 勅撰9首; 玉葉(1696/2071)続千(1215/1619/2016)続後拾(288/857)風(1712)新拾(1814)
 [さす棹もおよばずなれば行く水にまかせてくださ淀の河舟](玉葉集; 十五2071)
 冬隆(ふゆたか・五辻) → 季吉(すえよし・滋野井/藤原/土/五辻、廷臣/連歌) F 2 3 7 4
- E3830 冬忠(ふゆただ・大炊御門おおいみかど、法号; 香隆院、家嗣男/本姓; 藤原) 1218-68 51 母; 藤原基宗女、
 鎌倉期廷臣; 1239従三位/50正二位/65内大臣/68病により出家; 没、
 勅撰歌人4首: 続古今(134/1006; 内大臣)続拾遺(1060; 大炊御門内大臣)新後撰(782)、
 [いまはとて月も名残やをしむらん花散る山の有明の空](続古今集; 二134/月前落花)
- 3818 冬嗣(ふゆつぐ・藤原ふじわら、通称; 閑院大臣、内麻呂男) 775-826 52 母; 飛鳥部奈止麿女の百濟永継、
 廷臣; 810蔵人所を設置し蔵人頭に就任/811参議/23正二位/825左大臣/贈太政大臣正一位、
 息女順子の産んだ皇子が即位(文武天皇); 外戚として北家繁栄の基礎を築く、勸学院設置、
 818「文華秀麗集」編、820「弘仁格式」821「内裏式」編/「日本後紀」を弟安世と編纂、
 詩人; 凌雲3首・文華秀麗5首・経国1首・文粹1首入、歌人; 後撰4首(16/729/1181/1400)、
 眞夏・良岑安世らの兄弟、長良・良房・良相・順子(仁明天皇皇后)らの父、
 [なほざりに折りつる物を梅の花こき香かに我や衣そめてん](後撰集; 春16)
- H3863 冬綱(ふゆつな・藤原ふじわら、為信男) ?-? 藤原範親の猶子、鎌倉後期廷臣; 少納言/正四下、
 歌人; 玉葉563
 [露わくるこのした遠き春日野の尾花がなかに小牡鹿さをしかの声](玉葉集; 四秋563)
 冬経(ふゆつね・一条) → 兼輝(かねてる・一条、関白/故実家) O 1 5 6 6

- E3831 **冬照**(ふゆてる・橘たちばな、守部男)1814-6350 武州の国学者;父門/1829江戸住/平戸藩で教授、歌人:「橘守部家集」編/「万葉集地名部類」「助辞本義一覧」著;母;政子、浜子(;歌人)の兄、遺稿「椎能故夜提いのこやで」(;妻とせ子編)、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[つるべ縄たえし古井のあつ氷おもひとけても汲む人ぞなき]、
(大江戸倭歌;恋1534/寄氷恋)、
[冬照(;名)の通称/号]通称;茂末/茂三/元輔、号;椎本いがもと
妻 → とせ子(東世子とせこ・橘、歌人) O 3 1 3 0
- E3832 **冬時**(ふゆとき・大江おおえ、宗秀男)?- ? 鎌倉後期廷臣;五位備前守/左馬助、貞秀の弟、歌:新後拾遺集1095;
[偽いはりにならふうき身は中々にちぎらぬくれや頼みなるらん](新後拾;十三恋1095)
- I3848 **冬載**(ふゆとし・近田ちかた、八束やつか3男)1823-9977 伊予宇和郡の庄屋の家/歌人;父門/半井梧菴門小鼓・花道を嗜む、詠草7冊/長歌1冊あり、
[ふしなれし軒端の竹に朝な朝なまづ聞くものは鶯の声](;朝鶯)
[冬載(;名)の別号/通称]初名;永雄、通称;副次郎/喜藤太/隼太
冬名(ふゆな・大束) → 大束冬名(おおたばのふゆな、狂歌) C 1 4 2 0
- E3833 **冬仲**(ふゆなか・慈光寺じょうじ/本姓源、源善仲男)1629-9163 廷臣;1662藏人/76中務権大輔/従四下、「百人一首湖水抄」、1673「改元夜就詔書并脂燭之儀問答之事」著
- E3834 **冬長**(ふゆなが・藤原ふじわら、初名;兼基、冬良[?-1308]男)?-? 鎌倉後期南北期廷臣;五位、歌人;1364成立「新拾遺集」1184、
[衣々の別れをしたふ手枕に涙をそへて鳥やなくらん](新拾遺;十三恋1184)
冬の日庵(ふゆのひあん) → 長翠(ちようすい・常世田とこよだ、俳人) J 2 8 0 9
冬日庵(ふゆのひあん) → 武日(ぶえつ・宮沢/宮本/春日、長翠門俳人) B 3 8 1 8
- E3835 **冬信**(ふゆのぶ・大炊御門おおいみかど、冬氏男/本姓;藤原)1309-5042 母;吉田経長女、廷臣;1324参議、正四下/1345内大臣/49従一位、家学;有職故実(装束等)に精通、「調度並装束之事」著、歌;1339光厳上皇仙洞三席御会始に参加、風雅集;1923(前内大臣・冬)、
[見てもなほ思ひぞまさる筆のあと中々つらきかたみなりけり](風雅;1923/李夫人を)
[冬信の法号]随心自在院、氏忠の異母弟、家信の兄、信忠・宗実・冬宗の父
- E3836 **冬信母**(ふゆのぶのはは・大炊御門おおいみかど、冬氏の後室)?-? 1324[60余歳] 吉田経長女、大炊御門冬氏の室であった姉の没後に後室;冬信・家信の母、歌:新千載集2231、
[思ひきや六十あまりの坂越えてこの別路わかれちに迷ふべしとは](新千載;哀傷2231)、
(夫冬氏との死別のとき)
- E3837 **冬教**(ふゆのり・鷹司たかつかさ、基忠男/本姓;藤原)1305-3733 母;衣笠経平女、兄冬平の猶子、廷臣;1309従三位、1324左大臣/29従一位/30関白/33停職/34右大臣;氏長者/35左大臣、1309「冬教公記」、「光厳院御即位記」「珣子立后屏風歌」著、歌人;勅撰9首;玉葉(611)続千(3首107/497/1476)続後拾(3首169/586946)新千載(2首)1315京極為兼[詠法華経和歌]参加、
[大原やをしほの山の時鳥われに神代の事かたらなむ](続後拾;169/高陽院歌合)、
[冬教(;名)の号]後円光院のちのえんこういん、冬平・冬基・聖忠・良信・道珍の兄弟
冬彦(ふゆひこ・猪熊) → 秋彦(あきひこ・猪熊いのくま/卜部、国学者) G 1 0 9 5
冬姫(ふゆひめ・久我) → 貞子(さだこ・伊達だて/久我、仙台藩主室) O 2 0 8 3
- E3838 **冬平**(ふゆひら・鷹司たかつかさ、基忠男/本姓;藤原)1275-132753 母;衣笠[近衛]経平女、廷臣;1285従三位/右大臣/1301従一位/08摂政;氏長者、10太政大臣/11関白、歌人、自宅で歌会催(拾藻鈔入)、「家伝抄」「改元記」「後照念院装束抄」「冬平公記」、弟冬基・冬教を猶子、歌;「鷹司冬平応製百首和歌」、1315京極為兼[詠法華経和歌]参加、1303嘉元・20文保・正中の各百首参加、続現葉入/1345?小倉実教[藤葉集]5首入、勅撰81首;新後撰(118/166/382/838/867/1205)玉(14首)続千(15首)続後拾(13首)以下、
[さてもなほさそひやすると桜花手折りて風の心をもみん](新後撰;春118/内裏百首歌)
[冬平(;名)の号]号;後照[称]念院
- I3819 **冬広**(ふゆひろ・来宮くるみや、)1832-186635 伊予松山藩士、国学者、
[冬広(;名)の通称/法名]通称;伝左衛門、法名;真功院

- E3839 **冬文**(ふゆふみ/とうぶん、荷兮かだいの弟?)?-? 尾張名古屋の俳人;1686「春の日」7句入、
1689荷兮「あら野」16句入;荷兮らと四吟歌仙
[行く人の蓑をはなれぬ霞かな](あら野;二)
冬松(ふゆまつ・竹内) → 信均(のぶひら・竹内たけうち、藩家老/歌人) J 3 5 0 1
- H3895 **冬丸**(ふゆまる・荒木あき、号;松亭?)?-? 江期;伊勢松坂の国学,本居宣長の縁戚、
歌人;清水谷実業(1648-1709)門
冬麿(ふゆまる・荷田) → 御風(のりかぜ・荷田/羽倉/柴崎、国学) E 3 5 3 6
- I3805 **冬海**(ふゆみ・大鐘おおがね、旧姓;山本?)?-?天保1830-44頃没 讃岐高松藩士/国学者/歌人、
[冬海(;名)の通称]半三郎/要人(かなと?)
- E3840 **冬通**(ふゆみち・鷹司たかつかき、師平男/本姓;藤原)1330-8657 廷臣;1342従三位/62左大臣、
1363従一位/67関白、冬家の父、歌:1369後光厳天皇催「九月十三夜御会」参加、
勅撰6首;風雅(1633)新千載(400/1234/1341)新後拾遺(1212/125)
[明けぬるか寝覚めのまどのひまみえて残るともなき夜半のともし火](風雅;十六1633)
[冬通(;名)の号]号;一心院
- E3841 **冬道**(ふゆみち・間島まじま、名;正興まさおき/正休まさやす、正盈男)1827-9064 尾張名古屋藩士/勤王派、
歌;植松茂岳・熊谷直良門、藩主徳川慶勝を助け国事奔走;慶勝の謹慎処分の時蟄居、
のち明治政府に出仕、1886宮内省御歌所寄人、1858「熊谷直好家集」編、「冬道翁歌集」、
[冬道(;号)の通称]万次郎、妻;大塩由枝ゆき(歌人)
- E3842 **冬基**(ふゆもと・鷹司たかつかき、基忠男/本姓;藤原)1285-1309早世25 母;衣笠[近衛]経平女、
兄冬平の猶子、廷臣;従三位/1307権大納言/08正二位、冬平・冬教・聖忠・良信・道珍の兄弟、
「春日権現験記」書、歌;勅撰9首;新後撰(515/1002/1126)玉葉(5首799以下)続千載(1142)
[とはれても又とふ人をまつほどにもとのあとさへうづむ白雪](新後撰集;六冬515)
- E3843 **冬基**(ふゆもと・醍醐だいで、関白一条昭良2男/本姓;藤原)1648-9750 醍醐家の祖/廷臣;1678従三位、
1684権大納言/正二位、歌・書に堪能、1687「東宮御元服次第」著
- E3844 **冬康**(ふゆやす・安宅あたぎ・安宅木あたぎ/本姓;橘、三好元長男)1528-64兄により謀殺37 三好長慶の弟、
淡路豪族安宅家の養子/武将;和泉岸和田城主、摂津守、水軍を率いて兄長慶を援助、
1564飯盛城で兄長慶により謀殺、歌/連歌/茶の湯を嗜む、「安宅冬康あたぎふゆやす連歌集」著、
「百首」(「百首和歌」所収)、1561冬康独吟何路百韻、宗養・紹巴と連歌;初何・何人百韻、
[冬康(;名)の幼名/通称/号]幼名;神太郎、通称;鴨冬、号;宗繁/一舟軒、法号;瑞応院
- I3883 **冬良**(ふゆよし・ふゆら・衣笠きぬがさ/本姓;藤原、初名;家平、経平男)1267-130842 母;右大臣藤原公基女、
鎌倉期廷臣;左中将/1289(正応2)従三位/90冬良に改名/91正三位参議、
1292(正応5)南都衆勘被放氏;籠居/後日被免衆勘令統氏の間出仕/権中納言/95従二位、
1297(永仁5)正二位中納言/1302辞任、03(嘉元元)息子左中将家輔没;出家、08(徳治3)没、
兼良・経覚・静運・辨恵・深海・関白基忠の兄弟/家輔・冬長の父、
歌人;1293永仁元年内裏御会参加;5首、
[色まさる月のかつらの秋風にこよひをときとすめる空かな](内裏御会56)
- 3819 **冬良**(ふゆよし・ふゆら・一条いちじょう、兼良男/本姓;藤原)1464-151451 母;町頭郷女、兄教房の猶子/廷臣、
1473従三位/75権中納言/88関白・氏長者/92従一位/93太政大臣、学問・歌;父門、
「新撰菟玖波集」撰進を関白として推進編集(1494序を執筆/26句入)、歌;1484歌合参加、
1503三六番歌合参加、「詠歌之大概」「法華経題和歌」「流霞集」「後妙華寺殿御詠草」、
連歌;「梢柏問答抄」編、1500「冬良公記」、「衛府装束抄」「古今和歌集注釈」/「官位令」編、
[茂りあふ山はみどりの玉簾すきま求むる月を見るかな](三六番歌合;樹蔭夏月;3番右)、
[冬良(;名)の諡号]後妙華寺のちのみょうげい、房通の養父
- E3845 **冬頼**(ふゆより・藤原ふじわら、俊経[誠蓮上人]男?)-1383 南北期廷臣;従四下兵部権大輔、頼清の孫、
歌人;1342持明院殿仙洞歌合参加/64-65一万首作者入/70-71仙洞歌合参加/風雅1588、
[夕づくひ雲ひとむらにかげろひて時雨にかすむをかの松原](風雅集;雑1588)
冬良(ふゆら・衣笠) → 冬良(ふゆよし・ふゆら・衣笠きぬがさ/藤原、中納言/歌) I 3 8 8 3
冬良(ふゆら・一条) → 冬良(ふゆよし・ふゆら一条、関白太政大臣/連歌) 3 8 1 9
- E3846 **浮葉**(ふよう) ? - ? 俳人;1690北枝「卯辰集」2句入、
[寝に来るな花の散るまで山鳥やまがらす](卯辰集;上一112)

- H3822 **不譚**(ふよう) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」「若みどり」入
[禁酒する宵に呑む酒身み一代](二葉之松;197/前句;唯しばらくを千日の栄)
(わが身一代の最後の酒と思うとこの上ない快樂)
- E3847 **芙蓉**(ふよう・高こう;修姓、姓;大島、名;孟彪/癸/鶴瑞/籍、医者大島尤軒男/本姓;源)1722-8463
甲斐高梨の書家、幼時江戸で官医武田長春院門/上京し刻印研究;古体派篆刻の祖;
印聖と称さる、故実精通、加賀藩・1762肥前蓮池藩に出仕/84常陸宍戸藩儒に招聘後没、
「高芙蓉篆印譜」「芙蓉印譜」「漢篆千字文」「篆原」「古今印選」「印章例考」「遊囊日記」外著多、
[芙蓉(;号)の字/通称/別号]字;孺皮/士典/子典/孟典/堯侯、通称;逸記/近藤齋宮、
別号;氷壑山人/中岳画史/菡萏かんたん/三岳道者(;池大雅・韓天寿と三山登山で共通号)
- E3848 **芙蓉**(ふよう・城戸きど、名;賢、富恭男)1744-9956 伊勢四日市儒者/1773家督;郡山藩士四日市判官、
1780大和郡山に移住/郡山藩京都邸で儒を修学/江村北海・竜草廬と交流、1793藩儒、
藩主に随行し江戸へ;藩主夫人・世子の侍講、詩社主宰、「帝範便覧」「臣範便覧」、
「東帰稿刪」「芙蓉先生文集」「学庸解釈又註」「辨道辨名便覧」1789「敬業館社歳旦詩集」、
[芙蓉(;号)の字/通称/別号]字;公賢、通称;友蔵、別号;月庵/敬業館主人、
- E3849 **芙蓉**(ふよう・鈴木ずき/修姓;木、名;雍、木下勘平2男)1749-181668 信州伊那郡北方村の生、
絵師;黒川亀玉門(一説;宋紫石門)、明の諸家を模し山水画に長ず、詩文;寒山禅師門、
柴野栗山の紹介で阿波徳島藩の絵師として出仕、皆川淇園・亀田鵬斎・菅茶山と交流、
「老蓮詩集」「華陽皮相」著/1790「唐詩選画本」1801(寛政13)「熊野遊記・熊野名勝図画」画、
1801(享和元)「唐土名山図会」09「画図酔芙蓉」画、妻;笹山道伯女、小蓮の父/鳴門の養父、
谷文晁・大岡雲峯の師、
[芙蓉(;号)の字/通称/別号]字;文熙、通称;新兵衛、別号;老蓮/眞逸/芙蓉窩、
法号;老蓮院
- 芙蓉(ふよう・藤・藤原) → 貞幹(さだもと・藤原/藤、国学/故実家) 2 0 2 7
父幼(ふよう;道号) → 老卵(ろうらん;法諱・父幼/南桂、曹洞僧) C 5 2 6 8
不耀(不曜ふよう・村田) → 光彦(こうりゅう・村田、和算家/規矩術) L 1 9 5 7
不耀(ふよう・小原) → 氏益(うじます・小原おはら、藩士/絵師) C 1 2 7 2
不耀(ふよう・下里) → 千穎(ちかひ・下里しもさと/藤原/中臣/鎌田、神道) M 2 8 6 9
- E3850 **蕪葉**(ふよう) ? - ? 尾張の俳人;1689「あら野」入、
[夏山や木陰木陰の江湖がうこ部屋べや](あら野;八/江湖部屋は夏の修行小屋)
- E3851 **武陽**(ふよう・大竹おおたけ/修姓;岳、名;鸞、東海男)?-1846 江戸芝新銭座住の漢学者;講説業、
「国字書則」「老子古解」「東海岳先生行状」著、
[武陽(;号)の字/別号]字;仲鳳/九儀、別号;白雲楼
- 武揚(ふよう・高良) → 武揚(たけあき・高良こうら、国学者) X 2 6 0 9
武揚(ふよう・榎本) → 武揚(たけあき・榎本、幕臣/海軍) O 2 6 2 3
武庸(ふよう・中山/堀部) → 武庸(たけつね・堀部/中山、赤穂浪士/討入) O 2 6 4 8
浮葉庵(ふようあん) → 東園(とうえん・桃もも、商家/儒者) B 3 1 4 5
芙蓉庵(ふようあん) → 井左(せいさ・浅野あさの、俳人) I 2 4 1 5
芙蓉庵富水(初世ふようあんふすい) → 漣々(2世れんれん・大久保忠保、俳人) B 5 1 3 6
芙蓉庵富水(2世ふようあんふすい) → 富水(2世ふすい・芙蓉庵、西谷、俳人) C 3 8 8 3
- E3852 **武陽隠士**(ふよういんし;姓名不詳)?-? 江戸の浪人;1816風俗随筆「世事見聞録」
- E3853 **芙蓉花**(ふようか・一本亭、姓;松濤まつなみ)1721-8363 大阪の狂歌師;木端門、「狂歌五題集」著、
「難波土産」著、俳諧;蘆陰社中、1776几董「続明烏」3句入/道立「写経社集」2句入、
[茶はつまで身を宇治川の鮎鮎汲くみ](続明烏;甲62/小鮎汲は遡る稚鮎を網すくう業)
[一本亭芙蓉花(;狂歌号)の通称/別号]通称;平野屋清兵衛、俳諧号;蘆陰社
- 芙蓉花(ふようか・勝田) → 紫文斎(しぶんさい・宇治、千種庵/名主/一中節/狂歌) F 2 1 6 0
芙蓉窩(ふようか・鈴木) → 芙蓉(ふよう・鈴木/木下、絵師/詩文) E 3 8 4 9
芙蓉閣(ふようかく) → 白嶺(はくれい;法諱・雪棧せつさん、真宗僧) E 3 6 1 4
芙蓉居(ふようきよ) → 鶯卿女(おうけいじよ・守村[邸]もりむら、俳人) 1 4 4 7
浮謡軒(ふようけん) → 三千風(みちかぜ・大淀、三井、俳人) 4 1 0 3
芙蓉軒(ふようけん) → 万庵(ばんあん;道号・原資、臨濟僧/詩文) H 3 6 2 0

- 芙蓉齋(ふようさい) → 春川(しゅんせん・大岡/藤原/有元、絵師) P 2 1 2 0
芙蓉齋江淡(ふようさいこうたん) → 江淡(こうたん・芙蓉齋、狩野派絵師) K 1 9 5 4
芙蓉山(ふようさん) → 雪成(初世せつせい、書肆/俳人) E 2 4 4 6
不用舎(ふようしゃ) → 中俚(ちゅうそ・中村、藩士/医/儒者) G 2 8 5 6
芙蓉散人(初世ふようさんじん) → 雪成(初世せつせい、書肆/俳人) E 2 4 4 6
芙蓉散人(2世ふようさんじん) → 菅裏(かんり、雪成2世、書肆/俳人) E 1 5 2 1
芙蓉散人(3世ふようさんじん) → 菅子(かんし、菅裏男/書肆/川柳作者) S 1 5 5 2
芙蓉山人(ふようさんじん) → 橋洲(きつしゅう・菅かん、藩士/儒者) L 1 6 4 5
武陽散民(ぶようさんみん) → 冠帯(かんたい・田中たなか、農政家) H 1 5 7 2
扶揺子(ふようし) → 壺邱(こきゅう・毛利/膝、儒/詩文) F 1 9 5 3
芙蓉精社(ふようせいしゃ) → 麩山(びざん・谷たに、儒者/詩人) 3 7 0 6
芙蓉仙史(ふようせんし) → 師古(しこ・礪はざま、絵師) T 2 1 2 9
芙蓉先生(ふようせんせい) → 麩山(びざん・谷たに、儒/詩人) 3 7 0 6
富陽堂(ふようどう) → 名臣(あきおみ・神代かみしろ、医/国学者) D 1 0 3 0
芙蓉道人(ふようどうじん) → 錦江(きんこう・成島、歌人) 1 6 6 1
芙蓉道人(ふようどうじん) → 正斎(せいさい・近藤、幕臣/儒/千島探検/歌) B 2 4 5 8
芙蓉の侍従(ふようのじじゅう) → 忠真(ただまね・大久保、藩主/詩歌人) F 2 6 0 9
芙蓉峰(ふようほう) → 恵海(えかい・法饒、真宗高田派僧) D 1 3 5 1
芙蓉坊(ふようぼう) → 長嘯(ちようしやう・北山、俳人) I 2 8 9 6
芙蓉楼(ふようろう) → 錦江(きんこう・成島、歌人) 1 6 6 1
芙蓉楼(ふようろう) → 衡山(こうざん・成島/北角、幕臣/儒/歌) J 1 9 2 6
芙蓉楼(ふようろう) → 楓軒(ふうけん・小宮山、儒者) 3 8 5 3
芙蓉楼(ふようろう) → 季履(きわく・佐伯さえき、藩士/儒/詩人) Q 1 6 6 0
芙蓉楼(ふようろう) → 椿軒(ちんけん・内山、歌/狂歌) K 2 8 6 8
芙蓉楼(ふようろう) → 逸人(いつじん・加藤かとう、商家/俳人) B 1 1 5 1
芙蓉楼(ふようろう) → 鉦野(きんや・牧野まきの、儒/詩人) Q 1 6 3 6
芙蓉楼(ふようろう) → 広陵(こうりやう・芙蓉楼、俳人) C 1 9 0 6
撫抑園(ぶよくえん) → 紅映(こうえい・井上、商家/俳人) H 1 9 5 6
普羅庵(ふらあん) → 黙我(もくが・安藤、商家/俳人) 4 4 7 2
- E3854 **ブラウン**(Brown, Samuel Robbins) 1810-80⁷¹ アメリカ/プロテスタント宣教師/1859来日・神奈川住、
伝道・教育・社会事業、ヘボンと新訳聖書翻訳、1879帰国
缶楽(ふらく・加藤) → 缶楽(ふがく・加藤、儒者/神儒の学) B 3 8 3 2
夫楽(ふらく・高野) → 隆古(たかひさ・高野たかの、廷臣/神道) Y 2 6 0 2
不楽(ふらく・大原) → 東野(とうや・大原、絵師/博物学) H 3 1 5 0
不埒(ふらち・酒上さけのうえの、狂歌) → 春町(はるまち・恋川、藩士/黄表紙) 3 6 3 5
- E3855 **不埒散人**(ふらちさんじん・姓名不詳)?-? 江戸洒落本;1780「多佳余宇辞たかようじ」
風落着山人(ふらつきさんじん) → 左角斎(さかくさい・滑稽本作者) F 2 0 0 9
- E3856 **ぶらぶら山人**(ぶらぶらさんじん、姓;村松むらまつ/名;新作)?-? 江後期三河津具の人、
1850「津具往来」著
- E3857 **蕪嵐**(ぶらん) ? - ? 京の俳人;關更門、
1774美角「ゑぼし桶」1句入;53/77江涯「仮日記」1句入;90
[猪しの子の鼻吹き歩く落葉かな](ゑぼし桶;53)
富利(ふり/とみとし・数楽かずら) → 耕文(こうぶん・長尾ながお/数楽、書家) L 1 9 0 6
ふり(楓里ふり・羽倉/荷田) → 蒼生子(たみこ・荷田かた、国学/歌人) G 2 6 5 8
扶陸(傳陸ふりく・尾形) → 乾山(けんざん・尾形おがた、陶工/絵師) B 1 8 9 3
武栗(ぶつ・原) → 重与(しげとも・原はら/井原、国学/歌) O 2 1 4 7
- E3858 **布立**(ふりゅう) ? - ? 俳人;几董門、
1773几董「あけ鳥」6句入[内:夏四月朔臨時会歌仙参加5句(魚赤発句)],
[ゆく春の裾をからげよ藤の花](明鳥;119)
- E3859 **普立**(ふりゅう) ? - ? 俳人;春夜楼連/1776几董「続明鳥」1句入、

[暗がりへうかと這入はひれば蚊遣かやりかな] (続明烏;245)

- E3860 **浮流**(ふりゅう・青山あおやま、別号;長者房/宝瑟ほうしつ) ?-1782 三河赤坂の僧;専修念仏の行脚僧、
近江義仲寺で剃髪/芭蕉を思慕;伊賀友生常録寺住、俳人;蝶夢門、「二子句撰」著、
1775「高野紀行」81「きのさき日記」82「長者房句集」著
浮立(ふりゅう/浮丘ふきゅう) → 孝幹(たかもと・里井、廻船問屋/国学) N 2 6 4 2
布流庵(ふりゅうあん) → 菊嗽(きくそう、修験僧/俳人) K 1 6 1 8
- I3885 **不留禅尼**(ふりゅうぜんに) ? - ? 江中期;撰津池田の歌人;宮川松堅門、伝不詳、
1722松堅[倭譚五十人一首]入、
[霜ふかみそれかあらぬか咲く花か葉がくれ句ふ菊のまがきは]、
(倭譚五十人一首;35/籬菊)
- E3861 **武陵**(ぶりょう・西尾にしお、名;邦直/字;司郷、直経男) 1766-1838 73 丹波大山酒造業/篠山藩御用達、
苗字帯刀/庄屋;新田開拓尽力、俳・月居門/夜半亭俳人や成美・士朗・蒼虬らと交友、
「人名録・名録帖」編、「東西四歌仙」編、「杜陰日記」「ゆめものかたり」「さぬ婦利」著
[武陵(;号)の通称/別号]通称;吳四郎/与左衛門、
別号;杜陰/白雲居/養浩庵叟/椎の屋学匠/南亭、
武陵(ぶりょう;号) → 桂林(けいりん;道号・徳昌、臨濟僧) G 1 8 8 1
武陵(ぶりょう・山崎) → 知雄(ともお・山崎、国学者) P 3 1 2 2
風鈴軒(ふうりょうけん・内藤) → 風虎(ふうこ・内藤義泰、藩主/歌/俳人) 3 8 5 5
不量軒(ふりょうけん) → 北華(ほっか・山崎、医/俳/戯作) E 3 9 4 8
不量軒(ふりょうけん) → 夢酔(むすい・勝かつ/男谷、幕臣) 4 2 7 7
武陵斎(ぶりょうさい・岡本) → 桃里(とうり・岡本、絵師/御陵研究) I 3 1 1 7
武陵罪人(ぶりょうざいにん) → 豊信(とよしげ・山内、容堂、藩主/詩歌) R 3 1 1 8
- H3867 **風鈴軒**(ふうりょうけん・松岡まつおか) ?-? 奥州岩城の俳人;内藤風虎門、風虎の変名?
1669風虎催「百番俳諧発句合」右方に参加;玖也判
風鈴軒(ふうりょうけん) → 風虎(ふうこ・内藤ないとう、義泰/藩主/俳人) 3 8 5 5
風鈴子(ふうりょうし) → 風虎(ふうこ・内藤ないとう、義泰/藩主/俳人) 3 8 5 5
武良自(ぶりょうじ・中臣) → 武良自(むらじ・中臣朝臣、万葉歌人) D 4 2 1 5
- E3862 **武陵遊士**(ぶりょうゆうし・姓不詳) ?- ? 歌人;1706梶女かじよ家集「梶の葉」序;蛙鳴子と
- E3863 **不琳**(不鱗ふりん・戸川とがわ) ?- ? 江前期享保1716-36頃大阪浄瑠璃・歌舞伎作者、
1723「記録曾我玉笄髻」34「曦松黄金根」35「かいせい八花形」著
- I3829 **不磷**(ふりん・佐藤さとう) 1815 - 1891 77 上野群馬郡子持村の国学者;宮下宏蔭門
1860(安政6)同郷の小淵幻亜と子持神社境内に万葉碑建立
不磷(ふりん;法号) → 重徳(しげとみ・大原おおはら、権中納言) S 2 1 1 3
富隣(ふりん・宍戸) → 謙堂(けんどう・宍戸ししど、易学家) L 1 8 7 6
震(ふるう・華岡) → 青洲(せいしゅう・華岡はなおか、外科医) I 2 4 6 2
古香(ふるか・鈴木・神方・秋園) → 古香(ひさか・江口/神方/小笹/鈴木、女流歌人) 3 7 8 9
- E3865 **古蔭**(ふるかげ/ひさかげ・小谷こたに/おたに) 1821-82 62 因幡鳥取天王社祠官の家/幼児より詠歌、
1844紀州住;国学者/歌学;加納諸平門、1828-54諸平撰「類題鮎玉ぶくぎよく集」編纂参加、
歌風流麗で諸平の柿園しん派で頭角を現す/紀州藩国学所学頭代、/尚往館国学教授、
万葉集を講義、書;米原豊秋門、書は加藤千蔭風を慕い古蔭と改名、音楽にも長ず、
鳥取藩に呼戻される;1860(万延元)鳥取藩国学方手伝/63藩校尚徳館教授、
音楽;皇学寮音楽講師、1871宇倍神社禰宜、芳蔭の兄、家集「六杉園集」著(芳蔭編)、
1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、
[あらぼらけ露なかるる松はらに夜ハのあらしのゆくへをぞみる]、
(沖探容画の因幡八景;松原晴嵐)、
[古蔭(;名)の別号/通称/別号]別名;堅光、通称;忠次郎/為之丞/浪江/靱負ゆげい/融、
別号;杉園/雙杉園/六杉園
古風(ふるかぜ) すべて → 古風(ひさかぜ)
- H3861 **古川**(ふるかわ;組連) ? - ? 江中期江戸本郷の川柳の組連、
取次;1779「川柳評万句合」入;

取次例;[間男は戸棚でくるめぬくを聞く](79万句合/前句;なぐさみにけり々々)、
(女が亭主を言いくるめ抜いて寝かせつける;落語のネタ)

古川(ふるかわ) → 古川(こせん、江前期17c俳人) M 1 9 9 3

I3862 古樹(ふるき・旗野はたの、)1829- 188153 越後蒲原郡保田村の農業(豪農)、国学者、
吉田東伍(歴史地理学者)・高橋義彦の父、
[古樹(;名)の初名/通称]初名;信、通称;杳左衛門/木七

I3873 古城(ふるき・三宅みやげ、号;梅軒)1843-192684 肥前高来郡有馬村の国学者/歌;丸山作楽さくら門、
国学;中島広足門、1886「祭之墨繩」94「和文格」著

古喜(ふるき・貸本) → 貸本古喜(かしほんのふるき、竹屋万吉、狂歌) H 1 5 8 5

旧国(旧州ふるくに) → 大江丸(おおえまる・安井/大伴、俳人) 1 4 0 3

古瀬勝雄(ふるせのかつお) → 勝雄(かつお・古瀬、狂歌) C 1 5 4 1

E3867 古嗣(ふるつぐ・山田やまだ/姓;造・のち宿禰、益人男)798-85356 京;左京の漢学者/821父死没、
826陸奥按察使記事/828少内記/829少外記/831大外記/846阿波介;干魃に堤防築造灌漑、
852左京亮、従五上相模権介、「日本後紀」編纂参加(819-840完成)、詩;経国入

古道閑(ふるどうかん) → 道閑(初世どうかん・清水しみず、茶人) C 3 1 3 5

富楼那日暹(ふるなにつせん) → 日暹(につせん;法諱・智見院、日蓮僧) E 3 3 7 4

E3868 古根(ふるね・飛田とびた/ひだ、通称;伊右衛門)?-? 江戸前期京の俳人:立圃門、「詞の友」
[古根の別号] 加近/賀近

布留田造(ふるのたづくり、狂歌) → 正式(まさり・池田、俳/狂歌) F 4 0 9 4

布留廼舎(ふるのや) → 実秋(さねあき・財部たからべ、藩士/神職/歌) Q 2 0 8 9

古文(ふるぶみ・友垣) → 友垣古文(ともがきのふるぶみ、狂歌作者) S 3 1 5 4

布留部(ふるべ・宮地) → 常盤(とこわ・宮地みやじ/菅原、神道家) K 3 1 3 7

I3859 古海(ふるみ・西野にし、通称;由加之助/牀之助)1822-9877 山城綴喜郡の国学者/歴史家、
維新後;官吏;繕写担当、東京住、往来物・教育用歴史書など著作、
「鹿兒島追悼記」「鹿兒島征記」「鹿兒島銘々伝」「日本地名箋」「作文階梯」「作文捷徑」外著多

E3869 古道(ふるみち・小野おの、姓;長谷川、通称;謙益)1697-178286 遠州磐田郡川袋の医者、
壮年時眼疾で失明し江戸で鍼術按摩業:技術に優れ患者多数/有名になる、
国学:1738真淵門(県門);江戸での第1番目の門人、古学/歌文、加藤枝直との贈答歌あり、
歌集「小野古道家集」著(県門遺稿第二集入)、本居大平「八十浦の玉」入、
[梅の花にほふがうへに鶯の鳴く声聞けば春したぬしも](八十浦;上8/1758真淵家宴)

I3812 古道(ふるみち/こどう・高橋かたはし、善左右衛門善慶男)1835-189157 美濃岐阜中竹屋町の商家;
高橋家7代継嗣/味噌醤油醸造業、妻;すゑ(名古屋の高松長太郎女)/房次郎(了孝)の父、
歌人;香川景恒門、「古道詠草」著、1891病死、
[落ちたぎつ多芸の郡の多度山の滝の音こそ世にひゞきけれ](養老の滝/高橋家扇面歌)、
辞世[たちまちにけむりとならんこの身ゆゑひげもあたまもするにおよばず]
[古道(ふるみち;名)の初名/通称/号]初名;善太郎、通称;善左衛門(代々の称)、号;古道こどう

I3826 古達(ふるみち・近藤こんどう、)1837-191074 伊予新居浜の神職;黒島神社祠官、国学者、
[古達(;名)の通称/号]通称;国太良(くにたろう?)/筑前守、号;玄亀斎

E3870 古屋雨漏(ふるやのあまもり) ? - ? 狂歌作者、1785南畝「徳和歌後万載集」2首:389/695、
[ふるさとへいそげばまはる道のべにいくたびとなくとくる笠紐](後万載;羈旅389)

富嶺(ふれい) → 文誰(ぶんすい・岡田、宋屋門俳人) F 3 8 8 4

富鈴[房](ふれい[ぼう]・百葉泉) → 宋屋(そうおく・望月、俳人) 2 5 8 0

フレデリック=ヘンドリック → 昌高(まさたか・奥平/島津、藩主/蘭学) D 4 0 2 3

E3871 武烈天皇(ぶれつてんのう、小泊瀬稚鷦鷯天皇おはつせのわかさぎのすめらみこと、仁賢天皇皇子)?-506 記紀所伝人物、
日本書紀;太子の時影媛かげひめをめぐる志毘臣しびのおみとの歌場うたがき争;後に志毘臣を殺害、
以後在位8年;猟奇的残虐非道な暴君となる、記では小長谷若雀おはつせのわかさぎの命

布連(ふれん・本多/松平) → 直基室(なおもとものしつ・松平、歌人) C 3 2 7 4

武連(ぶれん・森田) → 武連(たけつら・森田もりた、歌人) U 2 6 6 2

E3872 扶老(ふるろう) ? - ? 伊賀俳/1758鳥酔を案内(「冬扇一路」巻末「伊賀実録」入)

- H3850 **不老**(ふろう・吉岡よしおか、別号; 遅日庵/無川)?-? 江後期江戸俳人; 空阿門/法橋、篆刻/書、
1858「俳諧浅草名所一覽」編、「ひこばへ集」著
- 武牢(ぶらう; 号) → 永雄(えいゆう; 法諱・英甫、臨濟僧、近世狂歌祖) 1 3 0 5
 不老軒(ふろうけん) → 嘉路(よしみち・朝山あさやま/勝部、国学者) L 4 7 1 8
 不老子(ふろうし) → 翠月(すいげつ・門脇かどわき、俳人) E 2 3 4 0
 不老泉(ふろうせん) → 道雄(みちお・太田/大田おおた、歌人) B 4 1 2 5
 不老泉隠(ふろうせんいん) → 忠升(ただたか・本多ほんだ、藩主/儒/詩歌) F 2 6 2 3
 不老岩(ふろうとう) → 鯨夫(いさお・木村きむら、商家/歌/神職) K 1 1 1 6
 富楼那(ふろうな; 通称) → 鳳山(ほうざん; 法諱、融通念仏僧) B 3 9 1 2
 不老不死老人(ふろうふしろうじん) → 玄鶴(げんかく・黒田くろだ、医者/詩文) I 1 8 2 6
 不老坊(ふろうぼう) → 遊五(ゆうご・古賀こが、庄屋/俳人) B 4 6 5 6
 不老門(ふろうもん) → 鷲夫(わしお・大倉おおくら、商家/歌人) 5 3 0 5
 富禄庵(ふろくあん) → 素因(そいん・茨木いばらき、藩士/俳人) F 2 5 8 3
 風呂道閑(ふろどうかん) → 道閑(初世どうかん・清水しみず、茶人) C 3 1 3 5
 布和(ふわ・小川) → 宜(ぎ・小川おがわ、医者/儒者) T 1 6 6 6
 武和(ぶわ・中井) → 武和(たけかず・中井なかい、商家/歌人) Y 2 6 5 0
 武隈庵(ぶわいあん) → 雙樹(ふたき・中島、狂歌判者) D 3 8 1 4
 不惑道人(ふわくどうじん) → 成斎(せいさい・小島こじま、藩士/書家) B 2 4 6 0
 不破山人(ふわさんじん) → 惟益(これます・不破ふわ、神職) O 1 9 2 9
 賁(ふん・津田) → 賁(かざる・津田、儒者) L 1 5 6 8
 賁(ふん・竹内) → 東白(とうはく・竹内たけうち、蘭医/兵学) G 3 1 9 2
 賁(ふん・渡部) → 琴溪(きんけい・渡部/渡辺、藩士/儒者) Q 1 6 8 3
 賁(ふん・星野) → 癯軒(くげん・星野鶴水ていすい、儒者) B 1 7 3 4
 賁(ふん・竹村) → 悔斎(かいさい・竹村たけむら、藩士/儒者) E 1 5 3 8
- E3873 **文**(ぶん・巖井いわい) ? - ? 江後期漢学者; 1825「莊子南華真經集註」著
「莊子増註全」著(1893刊)
- 文(ぶん; 一字名) → 好仁親王(よしひとしんのう・高松宮、連歌) G 4 7 4 7
 文(ぶん・田/岡田) → 竹圃(ちくほ・岡田おかだ/田、儒者/詩) D 2 8 7 6
 文(ぶん・星野) → 蒼山(きざん・星野ほしの、儒者/尊王派) I 1 6 5 8
 文(ぶん・佐竹/川合) → 春川(しゅんせん・川合/川/佐竹、藩士/儒者) K 2 1 1 4
 文(ぶん・鈴木) → 椿亭(ちんてい・鈴木/鈴・鱸、幕臣/儒者) K 2 8 9 1
 文(ぶん・鈴木) → 良知(りょうち・鈴木、儒/医者/本草家) I 4 9 8 5
 文(ぶん・前川) → 秋香(しゅうこう・前川まえがわ、漢学/蘭学) X 2 1 2 1
 文(ぶん・垣塚) → 東臯(とうこう・垣塚かきづか、藩士/職制) D 3 1 8 9
- E3874 **文阿**(ぶんあ) ? - ? 連歌; 1564景恵「石山千句」参
文阿弥(ぶんあみ) → 文晁(ぶんちよう・谷たに、絵師) G 3 8 2 4
- E3875 **文安**(ぶんあん; 字・永井なかい、名; 洵美よしとし、何道男) 1717-7559 大阪の香道家: 大枝流芳門、
儒; 伊藤東涯門、歌; 香川宣阿門、「春の菌」「宿の橘」著
- E3876 **汶庵**(文菴ぶんあん・小川おがわ、名; 忠実、忠繁男/本姓; 源) 1782-184766 代々幕府侍医:
伯母の訓育で医学修得/1805直医/医学助教/西城侍医/法眼; 医学教諭兼務/1838法印、
1825「屠蘇考」、「胡氏筆語」、「閑斎雑録」、「辛巳初冬漫録」、「読金匱要略」、「読素問」、「読扁倉伝」著、
[汶庵(; 号)の字/通称/別号]字; 意公、通称; 竜仙院、別号; 竹塙/稽古斎、法号; 竜仙院
- E3877 **聞庵**(ぶんあん; 通称・佐井さい、名; 大瑞、佐井圭斎の義子)?-? 京の医者、
1844「痘科私撰」、「傷寒論私撰」、「佐井聞菴随筆」著、「古方合薬考」校訂
- 文安(ぶんあん・馬場) → 竹坡(ちくは・馬場、書家) D 2 8 6 9
 文安(ぶんあん・種/種村) → 箕山(きざん・種村たねむら、儒者/詩) F 1 6 3 9
 文安(ぶんあん・楓井) → 保定(やすさだ・楓井かえでい、藩士/医/国学) F 4 5 7 3
 文庵(ぶんあん・菅沼/阮) → 東郭(とうかく・菅沼/阮、医者/儒者) C 3 1 0 9
 文庵(ぶんあん・神沢) → 昌秀(まさひで・神沢かんざわ、医者/国学) P 4 0 1 0
 文安先生(ぶんあんせんせい/せんじょう) → 寛斎(かんさい・市河、詩人) 1 5 4 8

- 文偉(ぶんい・西河) → 倫成(やすなり・西河にしかわ、絵師) C 4 5 4 9
 文惟(ぶんい・一志) → 文惟(ふみただ・一志いっし/度会、神職) D 3 8 8 7
 文尉(ぶんい/ぶんのじょう・池永) → 豹(泰良はだら・池永、国学者) E 3 6 8 0
 文蔚(ぶんい・村松) → 蘆溪(ろけい・村松むらまつ/松、農家/藩儒) B 5 2 3 0
- E3878 **文郁**(ぶんいく;通称・高橋たかはし、名;信容、藩医高橋信義男)1823-55³³ 信直の孫/広島藩蘭方医者、
 1845江戸の坪井信道蘭学塾入;大槻俊齋門/1846大阪の緒方洪庵適塾入門、牛痘の研究、
 牛痘接種の学術的証明、文軒の養父、「済生輯冊」訳/「扶歇蘭土牛痘篇」「牛痘種法小論」著
 文郁(ぶんいく・半井) → 一六(いちろく・半井なからい、医者/俳人) C 1 1 6 7
 文郁(ぶんいく・末包) → 立石(りっせき・末包すえかね、儒者) C 4 9 0 7
 文郁(ぶんいく・井上) → 有年(ありとし・植田うねだ、医者/勤王) H 1 0 0 8
 文郁(文或ぶんいく・山田) → 清壽(きよひさ・山田やまだ、医者/国学者) V 1 6 5 5
 文郁(ぶんいく・向) → 朝良(ちやうりやう・護得久ごえく、琉球廷臣/詩) M 2 8 5 4
- E3879 **文一**(ぶんいち・谷たに、利光澹齋男)1787-1818³² 江戸下谷2丁目の絵師:谷文晁門/谷家の養子、
 田安家に出仕、養父文晁に先立ち没、「日光山眞景図」「文一粉本」画、
 [文一(;名)の字/通称/号]字;文一、通称;文一郎、号;痴齋、
 蚊市(ぶんいち・長井) → 伴白(ばんじ・長井ながい、俳人;雑俳点者) 3 6 4 6
 文一郎(ぶんいちろう・利光/谷) → 文一(ぶんいち・谷/利光、絵師) E 3 8 7 9
 文一郎(ぶんいちろう・武田) → 道年(みちとし・武田たけざわ/出川、歌人) J 4 1 6 9
 文蔚(ぶんいつ・山田) → 月洲(げつしゅう・山田、藩士/儒者/詩) E 1 8 8 1
 文蔚(ぶんいつ・吉村) → 寛泰(ひろやす・吉村よしむら、藩士/儒者) H 3 7 5 5
 文蔚(ぶんいつ・吉田) → 周斎(しゅうさい・吉田よしだ、藩医・儒者) X 2 1 2 9
 文蔚(ぶんいつ・中) → 清泉(せいせん・中なか/勝村、藩儒) J 2 4 0 7
 聞恵(ぶんえ;法諱) → 五岳(ごがく・平野ひらの、真宗僧/儒/詩) C 1 9 2 5
- H3852 **文英**(ぶんえい;道号・清韓せいかん;法諱、俗名;中尾重忠、中尾勝重男)?-1621 伊勢合川村の臨濟僧、
 鎌倉建長寺文叔清彦門/嗣法、伊勢無量寿寺住寺/1600東福寺227世、加藤清正に従い渡鮮、
 京方広寺の鐘銘を撰;家康による鐘銘事件/1615江戸駿府に拘留、
 1597「韓長老朝鮮使僧松雲問答書」「文英清韓長老記録」/「韓長老集」「文英韓長老集」著、
 [文英清韓の通称/号]通称;韓長老、号;不放子
- E3880 **文英**(ぶんえい) ? - ? 伊勢山田の俳人:1633重頼「犬子えの集」1句入、
 [うす氷ふむはあぶなし千鳥足](犬子集:六1500)
- E3881 **文瑛**(ぶんえい;法諱・逸岩いつがん;道号)?-? 黄檗僧:江戸白金瑞聖寺の実伝道鈞門/法嗣、
 1674播磨新野村の正法寺建立(実伝開山)、1691実伝が瑞聖寺4世となりその監寺となる、
 1696実伝退隠後に都寺となる、1683「泉石稿」/96「実伝禅師語録」著、
 [逸岩文瑛の別道号/号]別道号;逸巖/逸岳いつがん、号;梅翁/梅花翁/物外陳人
 文英(ぶんえい・如意寺6世和尚) → 如風(じよふう・立翁、僧/俳人) C 2 2 9 3
 文英(ぶんえい;字) → 宗阿(そうあ;号・慶義;法諱、真言僧/詩歌) F 2 5 8 7
 文英(ぶんえい・小原) → 氏益(うじます・小原おはら、藩士/絵師) C 1 2 7 2
 文英(ぶんえい・中尾/横山) → 信平(しんぺい・横山/中尾、絵師/養蚕) P 2 2 7 7
 文英(ぶんえい・有吉) → 文英(ふみひで・有吉ありよし、医者/歌) H 3 8 9 6
 文英(ぶんえい・安田) → 穂末(ほすえ・安田やすだ、国学者/歌) G 3 9 4 4
 文英先生(ぶんえいせんじょう;諡号) → 篤所(とくしょ・北村きたむら、儒者) K 3 1 9 3
 文栄堂(ぶんえいどう) → 善兵衛(ぜんべえ・前川・伊丹屋、書肆/戯作) N 2 4 1 0
- E3882 **文右衛門**(ぶんえもん・阿部あべ)?-1848? 江後期嘉永1830-44頃陸中上閉伊郡宮守村の教育者、
 宮守村梓森で寺子屋を経営、「梓森齋雜記」著
- E3883 **文右衛門**(ぶんえもん・後藤ごとう)?-? 上州北群馬郡子持村上白井の名主、
 利根川上流の急流上の綾戸の難所に隧道を建設、俳人;松露庵門、1866「綾戸穴道の栗」著、
 [文右衛門(;通称)の号] 錦秋
 文右衛門(ぶんえもん・野村) → 其梅(きばい・野村のむら、俳人) L 1 6 7 7
 文右衛門(ぶんえもん・山田) → 溪尾(けいび・山田やまだ、俳人) G 1 8 5 8

文右衛門(ぶんえもん・草野/佐藤)→ 固庵(こあん・佐藤/草野、儒者) G 1 9 2 0
 文右衛門(ぶんえもん・林) → 正香(せいこう・林はやし、藩士/歌人) P 2 4 0 0
 文右衛門(ぶんえもん・松倉)→ 嵐蘭(らんらん・松倉まつら、俳人) 4 8 0 7
 文右衛門(ぶんえもん・堀田)→ 六林(ろくりん・堀田、恒山、詩/俳人) B 5 2 1 8
 文右衛門(ぶんえもん・伊藤)→ 李山(りざん・伊藤いとう、大庄屋/俳人) B 4 9 1 2
 文右衛門(ぶんえもん・平松/高橋)→ 残夢(ざんむ・高橋、国学/歌学) 2 0 5 7
 文右衛門(ぶんえもん・佐々木)→ 露秀(ろしゅう・佐々木、妓楼主人/俳人) B 5 2 6 7
 文右衛門(ぶんえもん・堤) → 有筋(ゆうせつ・堤つみ/石川、儒者) D 4 6 1 1
 文右衛門(ぶんえもん・松本)→ 交山(こうざん・松本/上条、茶屋/絵師) J 1 9 3 1
 文右衛門(ぶんえもん・鹿山)→ 野月(やげつ・鹿山、俳人) 4 5 5 5
 文右衛門(ぶんえもん・石原)→ 正俊(まさとし・石原いしはら、正明甥/国学) E 4 0 5 3
 文右衛門(ぶんえもん・中山)→ 葦菴(せいが・中山なかやま、医・藩儒者) 2 4 8 5
 文右衛門(ぶんえもん・斎藤)→ 元水(げんすい・斎藤さいとう、藩士、国学) N 1 8 7 9
 文右衛門(ぶんえもん・中沢)→ 智山(ちざん・中沢ながざわ、儒者/私塾) E 2 8 2 8
 文右衛門(ぶんえもん・磯崎)→ 種栄(たねひで・磯崎いそさき、本陣勤務/歌) V 2 6 6 4
 文右衛門(ぶんえもん・野田)→ 正芳(まさよし・野田のだ、商家/歌人) I 4 0 6 6
 文右衛門(ぶんえもん・鯨岡)→ 重胤(しげたね・鯨岡くじらおか、詩人) R 2 1 3 8
 文右衛門(ぶんえもん・菅) → 忠篤(ただあつ・菅すが、浜主/神道) X 2 6 6 8
 文右衛門(ぶんえもん・荒井屋)→ 織江(おりえ・橋本はしもと、商家/国学) E 1 4 0 5
 文右衛門(ぶんえもん・福田)→ 眞直(まसानお・福田ふくだ、旅籠業/国学) S 4 0 2 5
 文右衛門(ぶんえもん・井上)→ 正義(まさよし・井上まいのうえ、国学/法律) N 4 0 3 4
 文右衛門(ぶんえもん・岡崎)→ 勝海(かつみ・岡崎おかざき、藩士/国学) U 1 5 0 0
 文右衛門(ぶんえもん・渡辺)→ 福麿(さちまろ・渡辺わたなべ、藩士/歌人) P 2 0 8 3
 文右衛門(ぶんえもん・古久保)→ 常德(つねのり・古久保ふるくぼ、国学者) G 2 9 3 1
 文右衛門(ぶんえもん・中村)→ 祇歎(まさよし・中村なかむら、藩士/尊攘) R 4 0 1 8
 文右衛門(ぶんえもん・鈴木)→ 重良(しげよし・鈴木すずき、神職/算学) Z 2 1 2 0

E3884 文淵(ぶんえん・岩谷いわや、名:宗賢)?-1791 羽後土崎の医者/詩文を嗜む、「言志稿」著、
 [文淵(;字)の通称] 新助/岩五郎/善久

E3885 文淵(ぶんえん・河崎かわさき、名:珍頭/通称;新兵衛)?-1858 伊勢山田の国学者/詩文を嗜む、江戸住、
 「神領俗歳時記」著

文園(ぶんえん・岡田) → 啓(けい・岡田、藩士/国学者) D 1 8 3 2
 文淵(ぶんえん・中村) → 牛荘(ぎゅうそう・中村、藩士/儒者) M 1 6 7 7
 文淵(ぶんえん・朝比奈) → 玄洲(げんしゅう・朝比奈あさいな、藩士/儒者) E 1 8 8 9
 文垣書屋(ぶんえんしよおく) → 長温(ひさよし・鈴木すずき、商家/俳・歌人) J 3 7 9 7
 文淵堂(ぶんえんどう、書肆)→ 伊八(2世いちはち・北沢/須原屋、書肆) 1 1 5 6
 文淵堂(ぶんえんどう) → 九兵衛(きゅうべえ・浅倉屋あさくらや/吉田、書肆) T 1 6 4 0
 文王(ぶんおう・東北院) → 東北院文王(とうほくいんのぶんおう、童/歌) X 3 1 2 6
 文翁(ぶんおう・清原) → 良賢(よしかた・清原きよはら、廷臣/漢学者) C 4 7 6 2
 文翁(ぶんおう・河内) → 公明(きみあき・河内かわうち、医者/国学/歌) M 1 6 0 0
 文翁(ぶんおう・新井) → 文山(ぶんざん・新井/林、儒/詩文/藩士) F 3 8 4 2
 文翁(ぶんおう・桐淵) → 鹿太(ろくた・桐淵きりぶち、医者/俳人) 5 2 9 7
 文鶯(ぶんおう・久野) → 純固(すみかた・久野くの、藩家老/詩歌) D 2 3 8 8
 文音(ぶんおん) → 夫木(ふぼく、文音、俳人) H 3 8 0 4
 文恩(ぶんおん・渡部) → 琴溪(きんけい・渡部/渡辺、藩士/儒者) Q 1 6 8 3

H3823 分花(ぶんか) ? - ? 京太鳳寺俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」6句入
 [鶺鴒かさぎにくゝめて戻る禅の艶つや](万国燕704、禅僧の恋は仲介者によく言含めて帰る)

E3886 文下(ぶんか・額田ぬかた、通称;正[庄]三郎、風之男)?-1775 京五条の書肆/俳人、1747家業継承、
 父の遺稿「野坡吟艸前篇」完成刊行、1747父風之追悼「かくれ蓑」編、66「歳旦」編、
 1772「かさし梅」編、「誹諧耳底記」編、
 [文下の別号] 九十九庵(くもあん/伊勢屋/九臯堂)

- E3887 **文瓜**(ぶんか) ? - ? 江戸中期京鷲峰の僧/俳人:随流門、「夢物語」著
 文遐(ぶんか・栗野) → 経麻(つねあさ・栗野、神職/国学) B 2 9 6 1
 文嘉(ぶんか;字) → 日薩(にっさつ;法諱・文明院、日蓮僧) D 3 3 8 9
 文可(ぶんか;法諱) → 大道(だいでう;道号・文可、臨濟僧) K 2 6 8 2
 文可(ぶんか・岩瀬/小野) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7
 文窩(ぶんか・黒川) → 通淳(みちあつ・黒川くろかわ、藩士/歌人) J 4 1 0 0
 文華(ぶんか・小幡) → 太室(たいしつ・小幡おばた、医者/儒・詩) K 2 6 1 2
 文華(ぶんか・石川) → 鳳台(ほうだい・石川いしかわ、藩士/詩人) C 3 9 2 3
 文華(ぶんか・萩原) → 嵩嶽(すうがく・萩原楽亭、大麓男/儒者) 2 3 9 7
 文稼(ぶんか・勝田/服部) → 竹塙(ちくお・服部/勝田、儒者/詩人) C 2 8 6 5
 聞可(ぶんか・佐々木) → 孝政(たかまさ・佐々木ささき、儒者) N 2 6 1 8
- E3888 **文雅**(ぶんが) ? - ? 江中期摂津伊丹の俳人;1776几董「続明烏」入、
 [裏町や声見失ふ田螺売たにしうり](続明烏;甲47/庶民生活の点景)
 文雅(ぶんが・一志/石崎) → 文雅(ふみまさ・石崎いしざき/一志、医/漢学) E 3 8 0 2
 文雅(ぶんが・後藤) → 邦経(くにつね・後藤ごとう、藩士/国学者) E 1 7 1 7
 聞我(ぶんが・前田) → 利寛(としひろ・前田まえだ、藩主男/和学) W 3 1 4 2
- E3889 **文海**(ぶんかい) ? - 1355 真言僧;醍醐寺宝幢院僧/法印、1350東寺凡僧別当、
 1348「貞和四年伝法灌頂記」「伝法灌頂私記」「東寺凡僧別当記」「三輪神道伝」「宝口鈔」著
- H3874 **文海**(ぶんかい) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
 [雲の江や泡だつ魚の浮き沈み](丁卯集;春水/稲雨と四水を詠む)
- E3890 **文海**(ぶんかい・熊井くまい、名;禎夫、別号;大艸園だいそうえん)?-1879 京高倉の俳人;五仲庵有節門、
 1853「くさにしき」編・1858-60「くさもえ集」
 文会(ぶんかい・竹内たけうち) → 東門(とうもん・竹内、儒/医者) H 3 1 4 6
 文会(ぶんかい・源) → 忠良(ただよし・源みなもと、神道家) R 2 6 2 8
 文海(ぶんかい → もんかい;法諱) → 竜洲(りゅうしゅう;道号・文海、曹洞僧) H 4 9 8 4
 文海(ぶんかい・伊東/伊藤) → 蘭洲(らんしゅう・伊東/伊藤/修姓東、漢学者/戯作) C 4 8 6 0
 文海(ぶんかい・石井) → 文海(ふみ・石井いし、絵師) E 3 8 0 6
 文魁(ぶんかい・毛) → 安詳(あんしょう・太工廻だくじやく、廷臣/歌) H 1 0 9 0
- E3891 **分外**(ぶんがい・梁瀬やなせ、通称;伝兵衛)?-? 江中期大阪心齋橋筋北久太郎町の書肆/俳人:淡々門、
 1744「二百歌仙」編/46「淡々発句集」編、
 [分外の別号] 丹波屋/文貨堂
- 3820 **文会堂**(ぶんかいどう・林はやし、名;義端ぎたん) 1646?-171166? 京書肆文会堂主人;1689頃開業/儒;仁齋門、
 浅井了意に私淑/浮世草子;「武家堪忍記」/1695「玉櫛笥」96「玉箒子たまははき」「夜談随筆」著、
 1698「搏桑名賢文集」編、1701「文林良材」、04「搏桑名賢詩集」10「徳山雑吟」編、
 [文会堂(;号)の字/通称]字;久成、通称;九兵衛
 文会堂(ぶんかいどう) → 千壽(ちほぎ・燕栗園2世、山田/久米/書肆/狂歌) F 2 8 3 7
 文会楼(ぶんかいろう) → 不鳴(ふめい・井上いのうえ、医者/詩歌) E 3 8 1 3
 文雅園(ぶんがえん) → 五芳(ごほう・石田いしだ、俳人) N 1 9 6 4
 文雅園(ぶんがえん) → 八朗(はちろう・宮本みやもと、俳人) E 3 6 9 8
 文雅園(ぶんがえん) → 蟾居(せんきよ・岩城、商家/俳人) M 2 4 0 5
- E3892 **文角**(ぶんかく・太田おおた、羨乎男) 1763-183169 江後期筑後久留米の俳人:關更門、久留米俳壇重鎮、
 「わかは集」著、門人多数
 [文角の通称/別号]通称;修平/平右衛門、別号;可中庵/觀山亭/樹々、蘭堂の父
 文角(ぶんかく・芳月堂、俳人) → 流宣(ともぶ・石川、絵/浮草子/俳) Q 3 1 1 9
 文角(ぶんかく・芳月堂;俳;不角門) → 政信(まさのぶ・奥村、絵師、流宣の弟弟子) F 4 0 6 4
 文覚(ぶんかく) → 文覚(もんがく;法諱、遠藤盛遠、真言僧) I 4 4 1 6
 文華軒(ぶんかけん) → 雷洲(らいしゅう・安田/中村、幕臣/絵師) 4 8 5 8
 文花齋(ぶんかさい) → 素来(そらい;号、俳人;雜俳) K 2 5 5 2
 文化齋(ぶんかさい) → 嵐窓(らんそう・円城寺えんじょうじ、藩軍学師範/俳人) C 4 8 8 7

- 文華堂(ぶんかどう) → 祐信(すけのぶ・西川にしかわ、絵師/絵本) C 2 3 7 4
 文華堂(ぶんかどう) → 香園(こうえん・加藤、書肆/儒) H 1 9 6 9
 文貨堂(ぶんかどう) → 分外(ぶんがい・梁瀬やなせ、書肆/俳人) E 3 8 9 1
 文花房(ぶんかどう) → 海旭(3世?かいぎょく・榎、俳人) I 1 5 0 4
 文化房(ぶんかぼう) → 旭庵(きょくあん・吉田、俳人) O 1 6 7 8
 文花楼清丸(ぶんかりうきよまる) → 文々舎蟹子丸(2世ぶんぶんしゃかにこまる・久保、狂歌) G 3 8 3 9
 奮翰(ぶんかん・陳、狂文) → 南畝(なんぼ・大田) 3 2 3 3
 E3893 **文煥**(ぶんかん・賀川かがわ/本姓;源)1811-7363 阿波徳島の医者:玄悦から8代目、
 京の一貫町松原南住;産科に長ず/1869藩命で阿波に移住、「産科法論続編」著、
 [文煥(;名)の字/号]字;子達/士達、号;玄道/一貫斎
 文閑(ぶんかん) → 文閑(もんかん、時宗僧/連歌作者) I 4 4 1 7
 文関(ぶんかん・小野) → 鶴山(かくざん・小野、儒者) H 1 5 2 7
 文竿(ぶんかん・星野) → 地口有武(ぢぐちのありたけ、狂歌) D 2 8 4 4
 文貫(ぶんかん・上坂/斎藤) → 九腕(きゅうえん・齋藤、藩士/儒者) I 1 6 7 5
 文幹(ぶんかん・紀) → 文幹(ぶんかん・ふみもと・紀き、廷臣/歌人) E 3 8 0 7
 文幹(ぶんかん・三井) → 丹丘(たんきゅう・三井みつゐ、医者/絵師) T 2 6 2 8
 文煥(ぶんかん・山口) → 葛坡(かたかべ・山口やまぐち、詩人) N 1 5 7 8
 文煥(ぶんかん・清水) → 赤城(せきじょう・清水しみず、兵学者/随筆) D 2 4 5 7
 文観(ぶんかん;字) → 弘真(こうしん;法諱・文観;字、真言僧) J 1 9 8 8
 文寛(ぶんかん・松本) → 思斎(しさい・松本、商家/儒者/教育) T 2 1 4 8
 文館(ぶんかん・高野) → 百里(ひゃくり・高野、魚問屋/俳人) E 3 7 8 3
 文含斎(ぶんがんさい) → 常枝(つねえだ・藤井ふじい、医者/語学) B 2 9 7 5
 文翰井(ぶんかんせい) → 百庵(ひゃくあん・寺町/越智、幕臣/茶/歌) E 3 7 4 3
 文煥先生(ぶんかんせんせい:私諡) → 春樵(しゅんしょう・梅辻、禪宜/儒詩) J 2 1 9 6
 E3894 **文熙**(ぶんき・巴陽軒、巴陽軒男)?-? 近江の俳人:父の巴陽軒を継承、
 1792「巴陽軒追善集」編/「流布追善」編、93「冬椿集」編
 E3895 **文器**(ぶんき・小島こじま、名;為善/為宣)1817-9377 金沢藩士/俳人:大夢門/1874南無庵を継承、
 1839-43「忘庵ちり囊」編、
 [文器の通称/別号]通称;吉三郎/文左衛門/吉二、別号;晚霞(初号)/南無庵4世
 文己(ぶんき・沢田) → 東里(とうり・沢田さわだ、書家) I 3 1 1 5
 文規(ぶんき・木村/遠藤) → 白人(わつじん・あつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1
 文暉(ぶんき・東儀) → 文暉(ふみてる・東儀とうぎ/太秦、楽人) D 3 8 9 1
 文暉(ぶんき・岡) → 熊嶽(ゆうがく・岡おか、絵師) B 4 6 0 4
 文磯(ぶんき・有持) → 桂里(けいり・有持ありもち、医者) G 1 8 7 8
 文熙(ぶんき・鈴木) → 芙蓉(ふよう・鈴木/木下、絵師/詩文) E 3 8 4 9
 文熙(ぶんき/ふみひろ・田内) → 董史(とうし・ただふみ・田内たうち、教育者) Q 2 6 7 6
 文熙(ぶんき・陰山) → 豊洲(ほうしゅう・陰山かげやま、儒者/詩人) B 3 9 4 5
 文亀(ぶんき・原) → 師貞(もろさだ・原はら、医者/歌人) L 4 4 1 0
 文徽(ぶんき・神野) → 世猷(せいゆう・神野じんの/服部、藩士/儒) J 2 4 6 6
 文徽(ぶんき・垣内) → 熊岳(ゆうがく・垣内かきうち、藩儒) B 4 6 0 3
 文驥(ぶんき・浅野) → 嵩山(すうざん・浅野あさの、藩士/奥医師) F 2 3 2 7
 E3896 **文祇**(ぶんぎ、別号;雞田けいでん/娥眉庵/時雨庵主人/閣連坊)?-? 江中期江戸吉原の戯作者/俳人、
 1779「百安楚飛」/80「風流仙婦伝」/81「三都仮名話」著
 文祇(ぶんぎ・高橋) → 文祇(ふみまさ・高橋たかはし、国学者) I 3 8 4 4
 文儀(ぶんぎ・友石) → 慈亭(じてい・友石ともいし、農業/儒者) V 2 1 2 1
 E3897 **文暉菴**(ぶんきあん・松本まつもと、字;嶺松/通称;弥平次)?-? 江戸期武蔵秩父大宮の俳人、
 「文暉菴句集」著
 文毅先生(ぶんきせんせい) → 南溟(なんめい・沖野おきの、儒者/詩) J 3 2 5 4
 文吉(ぶんきち・竹田) → 出雲(いでゆ・竹田、浄瑠璃座元作者) B 1 1 0 1

- 文吉(ぶんきち・中島) → 棕隠(そういん・中島なかじま、漢学/詩人) 2504
 文吉(ぶんきち・広田) → 憲寛(のりひろ・広田、藩士/蘭学者) F3566
 文吉(ぶんきち・関) → 文麿(ふみまろ・狂蝶子きょうちょうし、狂歌/戯作) E3805
 文吉(ぶんきち・長谷川) → 貞信(初世さだのぶ・長谷川はせがわ、絵師) F2043
 文吉(ぶんきち・宮崎屋) → 夏鼎(ひろさだ・井上いのうえ、商家/歌人) L3708
 文吉(ぶんきち・小町谷) → 吉孝(よしとか・小町谷こまちや、農業/歌人) E4708
 文吉(ぶんきち・大鐘) → 篤(あつし・大鐘おおかね/印田、商家/国学) H1022
 文吉(ぶんきち・桂) → 文治(2世ぶんじ・桂かつら、嘶家) F3857
 文吉(ぶんきち・上田) → 石斎(せきさい・上田うえだ、篆刻家) K2405
 文吉郎(ぶんきちろう・高宮) → 正路(まさみち・高宮たかみや、国学/歌人) Q4074
 文吉郎(ぶんきちろう・楠本屋) → 和夫(にぎお・福田ふくだ、国学/神職) H3333
 E3898 **文機堂**(ぶんきどう) ? - ? 大阪俳人;浪花雑俳;1751春耕「あふ夜」折句入
 文机房(ぶんきぼう) → 隆円(りゅうえん;法諱、芸能僧;琵琶) C4990
 文久(ぶんきゅう/ふみひさ・川村) → 碩布(せきふ・川村、豪商/名主/俳人) 2411
 文躬(ぶんきゅう・朴木) → 文躬(ふみちか・朴木ほおのき、武士/連歌) D3888
 蚊牛(ぶんぎゅう) → 鉄斎(てっさい、俳人) C3031
 I3804 **文薬**(ぶんきよ・小宅おやけ、)1793-186573 下野真岡の国学者
 文挙(ぶんきよ・道号) → 契選(けいせん;法諱・文挙、曹洞僧/詩選集編) 1878
 文挙(ぶんきよ・大江) → 藍田(らんてん・大江おおえ、儒者/詩人) D4805
 E3899 **文魚**(ぶんぎょ・吉田、屋号;大和屋)1730-180071 江戸蔵前札差/足代方御用達、河東節浄瑠璃名手、
 河東節:5世十寸見ますみ河東門/竹雅と並称、十八大通の1、俳諧;魚貫門、晩年家運衰退、
 「筆始四季探題」、俳;心祇門人編「三部集」入、
 [文魚の通称/別号]通称;太郎次、別号;十寸見ますみ文思
 E3864 **文魚**(ぶんぎょ) ? - ? 江中期江戸の女流川柳作者;小石川連、
 [玉づさと女郎の胸はうらおもて](誹風柳多留;四六)
 文魚(ぶんぎょ・佐野) → 正直(まさなお・佐野さの、藩士/儒・国学/歌) P4089
 F3800 **文喬**(ぶんきょう) ? - ? 俳人;1745「袖浦の歌」(雛之章)
 F3801 **文橋**(ぶんきょう・櫻川さくらがわ・桜[桜井説もある])?-? 江後期寛政1789-1801頃江戸の絵師/合巻作者、
 鳥文斎栄之門か?、画;1790「聴従浅黄罇」91「金銀太平記」「新吉原聖賢画図」、
 戯作;1791「三人寄れば文殊智恵」「艶事雨三囲」「呼継金成植」、
 慈悲成と同一説あり → 慈悲成(じひなり・櫻川) 2130
 F3802 **文京**(ぶんきょう・花笠はながさ、姓;東条/名;来甫、町医東条黙斎享哲男)1785-186076 江戸医家の生;
 東条琴台の兄、家業を嫌い家出/歌舞伎作者:4世鶴屋南北門、江戸上方芝居に関与、
 1811「巖島雪宵幣」作者;花笠魯助で初見、1833俳優風刺の滑稽本を著し一時劇壇を放逐、
 合巻;3世菊五郎など役者の代作、1818「与謝武郎恋夜話」24「仮名曾我当蓬莱」著、
 俳優諷刺滑稽本;1833「役者必読妙々痴談」33「役者妙々後夜の夢」、40「百面相」外著多数、
 川柳作者;松鱸編「狂句梅柳」入、1831「滑稽発句類題集・二編」(松鱸編)関・序、
 仮名垣魯文の師、[鼻息で近目盆画の山を抜き](狂句梅柳序)、
 [花笠文京(;号)の通称/別号]通称;魯介/魯助、
 別号;花笠外史はながさいし/魯介/代作屋大作/豊島新造/三芝居士/李園春色台/鈍亭/
 半室閑人/魯鈍翁半空/好色外史/曲取主人/双枕亭そうちんてい、法号;魯鈍齡筆
 F3803 **文喬**(ぶんきょう・村井むらい)1800-186061 陸奥八戸の俳人:上野家文門、歌/書を嗜む、
 「俳諧たねいち山」「俳諧藻屑集」著、
 [文喬の通称/別号]通称;山本屋(古屋)益太郎、別号;夫木庵/都末起庵つまきあん
 文杏(ぶんきょう・熊谷) → 恕(ひろし・熊谷くまがい、陪臣/国学/歌) J3745
 文恭(ぶんきょう・野田) → 中洲(ちゅうしゅう・野田、儒者/詩文) G2819
 文恭(ぶんきょう・山本) → 雲根(うんこん・山本やまもと、医者) D1270
 文拱(ぶんきょう・沢田) → 一斎(いっさい・沢田さわだ、書肆/儒者) B1142
 文橋(ぶんきょう・森田) → 門喬(もんきょう・近松、歌舞伎作者) I4419

- 文郷(ぶんきょう・松山) → 涼介(りょうかい・新宮しんぐう/松山、医者) G 4 9 8 1
 文興(ぶんきょう・清田) → 儂叟(たんそう・清田せいた/きよた、儒者/詩) I 2 6 4 9
- F3804 文暁(ぶんぎょう;法諱・法侶;字、俗姓;藁井わらい) 1735-1816⁸² 肥後八代真宗仏光寺派正教寺10世、
 俳:叔父雪蘭居・春渚門、1802「俳諧芭蕉談」著/11「芭蕉翁反古文[花屋日記]」編、「龍海篇」、
 「通覧雑記」「凡兆日記」「松江名勝記」「伊良古紀行」「次郎兵衛物語」、「青蜜柑集」著
 [文暁の号] 露竹庵/紫海/法月/大律/渡白人/乞隠/西天庵/雪吹庵/行月坊、
 東流館/支天庵、 諡号;了幻院法侶上人
- 文恭院(ぶんきょういん) → 家齊(いえなり・徳川、将軍) 1 1 5 2
 文恭紹誨先生(ぶんきょうしゅうかいせんせい;諡号)→九華(きゅうか・中島、儒者)M 1 6 3 5
 文教先生(ぶんきょうせんせい;諡号)→ 蘭室(らんしつ・脇わき/脇屋、儒者/詩) 4 8 1 0
 文恭先生(ぶんきょうせんせい;諡号)→ 舜水(しゆんすい・朱しゆ、儒者) 2 1 5 9
 文恭先生(ぶんきょうせんせい;諡号)→ 茶山(ちやざん・菅/菅波、儒/詩/教育者) 2 8 4 0
 文恭先生(ぶんきょうせんせい;諡号)→ 西山(ゆうざん・園山そのやま/加藤、藩儒) B 4 6 9 7
 分鏡亭(ぶんきょうてい) → 春琴(春葉しゆんきん・浦上/紀、絵師/詩) J 2 1 4 1
 文狂亭綾丸(ぶんきょうていあやまる)→ 綾丸(あやまる・文狂亭、人情本) C 1 0 7 7
- F3805 文亟(ぶんきやく) ? - ? 俳人;1774美角「ゑぼし桶」入;
 [冬の松日裏のかたに勢ひあり](ゑぼし桶)
- 文均(ぶんきん・芝/東儀) → 文均(ふみなり・東儀/太秦、楽人) D 3 8 9 7
- H3801 文吟(ぶんぎん) ? - ? 江前期俳人;1692不角「千代見草」入、
 [水牢みづらうに入れて絞れど出ぬ未進みしん](千代見草/前句;情けないこと情けないこと)
 (水牢は年貢未納者への責め道具/未進は年貢未納/絞っても無い袖は振れない)
- 文金堂(ぶんきんどう・堂号)→ 太助(たすけ・森本、河内屋、書肆) E 2 6 7 0
 文九郎(ぶんくろう・逸見) → 在綱(あつな・逸見へんみ、医者/勤王派) F 1 0 4 4
 奮卿(ふんけい・川田) → 田福(でんぶく・川田、呉服商/俳人) E 3 0 1 8
- F3806 文卿(ぶんけい・細谷ほそや) ? - ? 国学/神道;南嶺[義俊]門、1757南嶺「南嶺遺稿」編刊/跋
- H3824 文卿(ぶんけい・西村にしむら、時爾庵)?-? 江中期江戸の俳人;乾什門、乾什座点者、
 1754竹翁「俳諧童の的」点句入
- B3848 文卿(ぶんけい・宮) ? - ? 江中期駿河の書家、稲川「思旧漫録」記事入、
 学問;関思恭(1697-1765)門、飛白の書体(かすれた書体)に秀でる
- F3807 文溪(ぶんけい・近藤こんどう、名;明、華溪男)1772-1824⁵³ 和泉堺の医者;家業継嗣、
 堺奉行三宅康哉の知遇を得る、「燕居自箴」編、1803「藤氏医談」15「撰生談」、「藤氏医則」著、
 [文溪(;号)の字/法号]字;隆昌、法号;覚明院
- F3810 文啓(ぶんけい・谷たに/島田しまだ、初名;元旦もとかつ、谷麓谷男)1778-1840⁶³ 江戸の生、
 絵師:1790円山応挙門;師没後は沈南蘋の画法を追究、1799田安家の蝦夷調査に同行;
 松平信明に従い画図作業、因幡鳥取藩江戸留守居役の島田図書の養子;島田元旦と名告る、
 1801江戸屋敷取次使者雇、1819島田家の家督嗣;物頭/21幕府公課の川普請;普請奉行、
 1829国勝手の命で鳥取住、谷文晁・安之の弟、
 1799「蝦夷蓋開日記」、「蝦夷紀行図譜」「蝦夷山川地理紀行」「蝦夷風俗図式」著、
 [文啓(;名)の通称/号]通称;末之丞/季允/寛保、号;元旦げんたん/嘯月斎/香雲軒
- I3810 文圭(ぶんけい・香山かやま、) ? - 1825 信濃伊那郡の歌人;森広主門、
 [文圭(;名)の通称/号]通称;利兵衛、号;香山老人
- I3849 文卿(ぶんけい・津野まつ、芳州男)?-1854 飛騨高山の蚕糸問屋;福島屋、
 儒学;赤田臥牛(1747-1822)門/詩人、千萱ちがやの父、
 [文卿(;号)の名/字/通称/別号]名;義監、字;士雲、通称;福島屋五右衛門、別号;鳳泉
 ☆津野家;滄州一芳州一文卿一千萱ちがや一五三二(悟窓)
- F3808 文啓(ぶんけい・山田やまだ、初名;土専、先代山田文啓の養嗣子)1812-66⁵⁵ 伊勢山田の人、
 母の縁故の松井万庵により養育/1829(18歳)志摩鳥羽藩侍医山田文啓の養嗣;鳥羽藩士、
 上京し漢学;寺島天祐門/医;福井三角門、さらに儒学;坂井虎山・大塩中斎門、
 大塩の乱の余党として閉門/赦免後諸国遊歴/越中富山藩より招聘さらたが応ぜず、
 「山田氏詩文集」「公共大典」「文章染指」「亜罵利加要結好記」「療治燃犀」著、

[文啓(；名)の字] 達郷

文継(ぶんけい・勇山/安野)→	文継(ふみつぐ・勇山いさやま、漢学/詩人)	D 3 8 8 9
文慶(ぶんけい;法諱)	→ 文慶(もんきょう/もんけい;法諱、天台僧)	I 4 4 6 8
文卿(ぶんけい・大城)	→ 壺梁(こりょう・大城おおき、儒者)	D 1 9 6 6
文卿(ぶんけい・津軽)	→ 朝喬(ともたか・津軽、藩奉行/雑俳)	P 3 1 6 4
文卿(ぶんけい・横谷)	→ 藍水(らんすい・横谷よこや/谷、鍼医/詩)	C 4 8 7 3
文卿(ぶんけい・竹中)	→ 南峰(なんぼう・竹中たけなか、医者)	J 3 2 4 5
文卿(ぶんけい・三井)	→ 善之(よしゆき・三井みつゐ、眼科医)	H 4 7 9 3
文卿(ぶんけい・猪飼)	→ 敬所(けいしよ・猪飼いかい、儒者)	1 8 7 3
文卿(ぶんけい・加藤)	→ 北溟(ほくめい・加藤/中川、儒者/詩)	D 3 9 9 3
文卿(ぶんけい・小川/杉山)→	白堂(はくどう・小川おがわ、医者/詩)	D 3 6 7 1
文卿(ぶんけい・重富)	→ 縷山(じょうざん・重富しげとみ、藩士/儒者)	J 2 2 3 6
文卿(ぶんけい・浜田)	→ 春庵(しゅんあん・浜田はまだ、儒者)	2 1 9 5
文卿(ぶんけい・秋吉)	→ 錦水(きんすい・秋吉あきよし、医者)	R 1 6 2 5
文卿(ぶんけい・御薊)	→ 中渠(ちゅうきよ・御薊みその、鍼法医者)	F 2 8 9 1
文卿(ぶんけい・長尾)	→ 秋水(しゅうすい・長尾ながお、遍歴/詩人)	H 2 1 7 7
文卿(ぶんけい・根岸/岸)→	典則(つねのり・根岸/中原/岸、商家/歌/禅)	D 2 9 1 7
文卿(ぶんけい・今田)	→ 頼武(よりたけ・今田いまだ、藩士/執政)	I 4 7 9 4
文卿(ぶんけい・大城)	→ 壺梁(こりょう・大城おおき、藩士/儒者)	D 1 9 6 6
文卿(ぶんけい・中沢)	→ 智山(ちざん・中沢ながざわ、儒者/私塾)	E 2 8 2 8
文卿(ぶんけい・河津)	→ 長夫(ながお・河津わかづ、儒者/歌人)	L 3 2 7 5
文卿(ぶんけい・高野)	→ 恬斎(てんさい・高野たかの、藩医/詩人)	D 3 0 4 8
文卿(ぶんけい・脇屋)	→ 恕亭(じよてい・脇屋わきや、儒者)	M 2 2 7 1
文啓(ぶんけい;字)	→ 日芳(にっぽう/日忠;法諱、日蓮僧)	F 3 3 6 0
文啓(ぶんけい;字)	→ 維宝(いほう;法諱・文啓、真言僧)	I 1 1 2 5
文啓(ぶんけい・国方)	→ 文啓(ふみひろ・国方くにかた、国学者)	I 3 8 1 7
文圭(文奎ぶんけい・馬/北山)→	寒巖(かんばん・北山/馬、幕臣/絵師)	Q 1 5 1 2
文桂(ぶんけい;法名)	→ 武四郎(たけしろう・松浦、探検家;北海道名付親)	E 2 6 3 8
文敬(ぶんけい・戸川)	→ 威佐(かんすけ・戸川とがわ、藩士/書家)	R 1 5 1 5
文敬(ぶんけい・中田)	→ 高寛(たかひろ・中田なかた、藩士/和算家)	N 2 6 0 7
文敬(ぶんけい・朝香)	→ 文敬(ふみたか・朝香あさか/追川、医者/国学)	H 3 8 9 1
文経(ぶんけい/ふみつね・福井)→	公清(きみきよ・福井/栗野・足代、神職)	M 1 6 0 2
文景(ぶんけい・袖岡)	→ 文景(ふみかげ・袖岡そでおか/橘、廷臣)	D 3 8 8 3
文荆山人(ぶんけいさんじん)→	迂斎(うさい・三浦みづら、商家/文筆)	B 1 2 0 0
文景先生(ぶんけいせんじょう;諡号)→	橘園(きつえん・三宅みやげ、儒者)	B 1 6 5 0
文景先生(ぶんけいせんじょう;諡号)→	恕亭(じよてい・脇屋わきや、儒者)	M 2 2 7 1
文敬先生(ぶんけいせんじょう;諡号)→	宗直(むねなお・高橋/紀、国学/故実)	B 4 2 9 5
文溪堂(ぶんけいどう)	→ 鼎峨(ていが・米山、筆耕/黄表紙作者)	3 0 4 2
文溪堂(ぶんけいどう)	→ 琴秀(きんしゅう・岡田、書肆)	H 1 6 9 7
文奎堂(ぶんけいどう)	→ 白推(はくすい・米屋、俳人)	D 3 6 3 9

F3809 **文献**(ぶんげん・各務かがみ) 1755- 181965 大阪の医者;産科/のち整骨科、
1800女性の刑死体を解剖;科学的整骨術を修得/1819木製の全身骨格模型制作;
幕府医学館に献納、1800「婦人内景之略図」1810「整骨新書」19「模骨呈案」、「真骨全図」著、
[文献(；名)の字/通称/号]字;子徴、通称;相二、号;帰一堂

F3811 **文軒**(ぶんげん・比志島ひじま、漣水散人)?-? 江戸期/文献目録;「稗史年表」編
文軒(ぶんげん・山崎) → 雲山(うんざん・山崎やまさき、絵師/書) D 1 2 7 3
文献(ぶんげん・高柳) → 信之(のぶゆき・高柳、俳人) D 3 5 6 9
文献(ぶんげん・河野) → 小石(しょうせき・河野かわの、藩儒) T 2 2 8 5
文献(ぶんげん・華岡) → 鹿城(ろくじょう・華岡はなおか、医者/清洲の弟) 5 2 9 4
文言(ぶんげん・東儀) → 文言(ふみとき・東儀/太秦、楽人) D 3 8 9 2

- 文玄齋(ぶんげんさい・山本)→ 抱中(ほうちゅう・山本やまもと、医者) C 3 9 3 1
 文憲先生(ぶんけんせんせい;私諡)→ 棕隠(そういん・中島なかじま、漢学/詩人) 2 5 0 4
 文憲先生(ぶんけんせんせい;諡号)→ 静斎(せいさい・斎いつき/斎藤/斎宮、儒者) B 2 4 5 7
 文献先生(ぶんけんせんせい;諡号)→ 臥牛(がぎゅう・赤田あかだ、儒者/詩) B 1 5 3 0
 文玄先生(ぶんげんせんせい;私諡)→ 淡窓(たんそう・広瀬、儒者/教育) 2 6 9 3
- F3812 **文虎**(ぶんこ・西原にしはら、通称;梅太郎/佐左衛門、平八[栗之]男) 1790-1855 66 信濃飯山藩御用油商、
 俳人:一茶門、「一茶翁終焉記」著、一茶「おらが春」書写/「一茶発句集」編纂に参加、
 「ほまち畑」「文虎発句集」「文虎句帖」著、
 [文虎の別号] 梅大/松園/松室/松堂、俳仏堂
- 文虎(ぶんこ・丹羽) → 嘯堂(しょうどう・丹羽にわ/源、漢学/医者) R 2 2 6 0
 文庫(ぶんこ・印具) → 竜麿(たつまる・印具おしすみ、藩老/歌人) W 2 6 3 6
 文庫(ぶんこ・印具) → 虎彦(とらひこ・印具おしすみ、竜麿男/歌人) U 3 1 6 2
- F3813 **豊後**(ぶんご・平山ひらやま、別号;平山文五郎) ?-? 江前期元禄1688-1704頃京の歌舞伎作者;
 村山平右衛門座/万太夫座等で執筆、1693「れんりの松」/94「武道」達者;平兵衛と合作
- F3814 **文吾**(ぶんご・竹田たけだ) ? - ? 江中期浄瑠璃作者;
 1766「太平記忠臣講釈」著/68「傾城阿波の鳴門」;近松半二らと合作
- F3815 **文五**(ぶんご・4代目湊屋庄兵衛) ?-1782 安藝広島猫屋町の紺屋業/俳人:野坡門、
 「俳諧春草集」編(1794刊)、1752野坡追善「十三題」入、梅仏の父、
 [聞くの香やことふく人のかくれ里](頼杏坪「芸藩通志」入)
- 文伍(ぶんご・谷) → 文晁(ぶんちよう・谷たに、絵師) G 3 8 2 4
 文吾(ぶんご・石川) → 千濤(ちなみ・石川、歌人) F 2 8 0 9
 文吾(ぶんご・伊奈) → 鬼卵(きらん・栗杖亭りつじょうてい、戯作者) D 1 6 7 1
 文吾(ぶんご・桑原) → 元淑(げんしゆく・桑原くわばら、藩士/医者) J 1 8 6 5
 文吾(ぶんご・児玉) → 琢(たく・児玉こだま、藩士/地誌) N 2 6 9 1
 文吾(ぶんご・宇夫方) → 広明(ひろあき・宇夫方うぶかた、儒者/神職) F 3 7 4 9
 文吾(ぶんご・山口) → 正明(まさあき・山口やまぐち、藩士/歌人) T 4 0 5 4
 文吾(ぶんご・小池) → 信貞(のぶさだ・小池こいけ、藩士/歌人) I 3 5 3 6
 文吾(ぶんご・池上) → 光信(みつのお・池上いけがみ、藩士/歌/書) L 4 1 1 8
 文吾(ぶんご・今村) → 宗博(むねひろ・今村いまむら、歌人) D 4 2 6 6
 文吾(豊後ぶんご・木下) → 兼高(かねたか・木下きのした、神職/国学) U 1 5 4 3
 文吾(ぶんご・木村) → 馬得(ばとく・木村きむら、藩士/歌人) K 3 6 0 5
 文吾(ぶんご・松井) → 秀房(ひでおさ・松井まつい/大場、藩士/国学) L 3 7 0 3
 聞五(ぶんご・阪元) → 生字(せいう・阪元さかもと/種子田、儒者) H 2 4 4 1
 豊後(ぶんご・榎倉/二見) → 忠知(ただとも・二見ふたみ、神職/連歌) M 2 6 0 6
 豊後(ぶんご・猿渡) → 容盛(ひろもり/かたもり・猿渡さわたり、神職/歌) H 3 7 5 4
 豊後(ぶんご・中川) → 経雅(つねまさ・中川/荒木田、神職/歌) D 2 9 7 0
 豊後(ぶんご・福島) → 末彦(すえひこ・福島ふくしま/橋村、神職) J 2 3 1 4
 豊後(ぶんご・野沢) → 昌樹(まさき・野沢/村瀬/山県、与力/詩歌) C 4 0 2 2
 豊後(ぶんご・岡部) → 千尋(ちひろ・岡部おかべ/狛こま、家老/歌) M 2 8 2 9
 豊後(ぶんご・川崎) → 多豆雄(たずお・川崎かわさき/高原、神職/国学) W 2 6 6 0
- F3816 **文考**(ぶんこう) ? - ? 江中期江戸の江戸雑俳点者;
 1720(享保5)撰集「俳諧ちゑぶくろ」点入(蝶々子・紫川・鳳山らと)
- F3817 **文耕**(ぶんこう・馬場ばば/修姓;馬、本姓:中井) 1718-58 獄門 41 伊予の人;出家/還俗;
 江戸で易学/馬術を修得、1754頃軍書講釈師:街談巷説、実録風小説[浮世草子]を著作、
 1757小屋掛け講釈を始める;
 1758美濃郡上百姓一揆取材の講談・書本「平かな森の雫」の販売等で幕府を風刺;捕縛、
 浅草で獄門、門弟;森川馬谷・書家馬場春水ら、1756「武野俗談」57「近世江戸著聞集」著、
 1757「森岡貢物語」58「享保秘録」「当世諸家百人一首」「当代江戸百化物」「愚痴拾遺物語」著、
 1758「大和怪談頃日全書前編」「二瀬川郭仇桜」、「森の雫」「近世奇談」「明君享保録」外著多、
 [文耕(;号)の通称/別号]通称;文助/左司馬さじま/左馬次/文右衛門、

別号;総州葛飾辺老農升瓢しょうびょう

- F3818 **文江**(ぶんこう;安藝あき、名;知英、漲谷男)?-1777 讃岐津田浦の材木商/俳人:父門、
1756平賀源内らと有馬温泉へ;「有馬紀行」著、74「玉淵集」編、
[文江の通称/別号]通称;藤四郎/泰蔵、別号;千古庵/板屋
- F3819 **文篁**(ぶんこう;林はやし、通称;庄兵衛/別号;大黒屋)?-? 撰津伊丹の書肆/俳人:鬼貫門、
1779「鬼貫独吟百韻」「竹瓦楼句鈔」編、「独わらひ」著
- F3820 **文綱**(ぶんこう) ? - ? 俳人;1776樗良「月の夜」入;
[涼風すずかぜにさそふて月の登るかな](月の夜)
- F3821 **文江**(ぶんこう;号・法諱;密帷みつゐ/実猷)1766-1842⁷⁷ 南紀秋穂村の臨濟僧/1777出家、
1794田辺の松雲院主、田辺藩公発願の經典翻刻に尽力/達成院に隠居、「文江遺稿」
- F3822 **汶光**(ぶんこう;号) ? - ? 江中期江戸の俳人:祇徳の親族、四時館の連中と交流、
1735刊「ひなつくは」編
- 文孔(ぶんこう;字) → 日教(にちきょう;法諱・本久院、日蓮僧) B 3 3 2 8
文虹(文貢ぶんこう・小寺) → 信正(のぶまさ・小寺、兵学/郷土史) D 3 5 3 0
文公(ぶんこう;諡号) → 治保(はるもり・徳川、藩主/修史事業) H 3 6 0 2
文公(ぶんこう;諡号) → 慶勝(よしかつ・徳川/源/松平、藩主) C 4 7 9 1
文江(ぶんこう・三善) → 文江(ふみえ・三善みよし、廷臣/詩人) H 3 8 6 6
文江(ぶんこう・櫛田) → 可懶(からん・櫛田くした、儒者/詩) H 1 5 5 5
文厚(ぶんこう;法号) → 中洲(ちゅうしゅう・清水しみず、藩士/詩人) G 2 8 2 1
文康(ぶんこう・有賀/小林) → 文康(ふみやす・小林/有賀、国学者) E 3 8 1 0
文候(ぶんこう・萩原) → 秋巖(しゅうがん・萩原はぎわら、書家/詩) W 2 1 8 7
文行[先生](ぶんこう[せんせい]) → 直方(なおかた・中島なかじま、儒者) 3 2 8 9
文行(ぶんこう・谷) → 安之(やすゆき・谷たに、書家/歌?) D 4 5 3 9
文行(ぶんこう・栗山) → 文行(ふみゆき・栗山くりやま、国学/歌人) I 3 8 1 8
文行(ぶんこう・中村) → 直眩(なおあき・中村なかむら/山梨、医者/歌) O 3 2 1 0
文恒(ぶんこう・森田) → 義章(よしあき・森田もりた、医者) B 4 7 9 6
文香(ぶんこう・玉置) → 賢孝(よししたか・玉置たまおき/原、醸造/国学) N 4 7 8 8
汶江(ぶんこう・徳田) → 錦江(きんこう・徳田とくだ、藩士/儒者) J 1 6 1 2
文剛(ぶんこう;名・植木) → 雨鼎(うてい・植木うえき、医者/詩文) D 1 2 1 6
文剛(ぶんこう・星野) → 癩軒(くげん・星野鶴水ていすい、儒者) B 1 7 3 4
聞号(ぶんこう;法諱) → 聞号(もんこう;法諱、真宗本願寺派僧) I 4 4 2 1
文合庵(ぶんごうあん) → 其角(きかく・榎本/宝井、医者/俳人) 1 6 0 5
聞香舎(ぶんこうしや) → 睦斎(ぼくさい・山口、和漢学者/教育) D 3 9 1 4
- F3823 **文耕堂**(ぶんこうどう・松田まつだ)?- ? 江中期1720-41頃大阪の浄瑠璃/歌舞伎作者;門左衛門門、
竹本座付、出雲・松洛らとの合作多し、浄瑠璃;初作1720「河内国姥火」、22「仏御前扇車」、
「梅屋洪浮名色揚」、1731「鬼一法眼三略巻」32「壇浦兜軍記」37「御所桜堀川夜討」外著多数、
歌舞伎;1726「唐錦妹背褥」外著多数、
[鳴く蟬よりもなかなか泣かぬ螢の身を焦がす](御所桜堀川夜討ごしょざくらほりかわようち)
[松田文耕堂の別通称]松田和吉わかち[初世]
- 文弘堂(ぶんこうどう) → 魯石(ろせき・以静堂、俳人) B 5 2 9 9
文耕堂(ぶんこうどう) → 盛章(もりあき・平久間ひらくま、狂歌/国学) L 4 4 1 4
文五右衛門(豊後右衛門/豊五右衛門ぶんごえもん・平林) → 盈淑(みつよし・平林、名主/歌) F 4 1 2 2
文庫翁(ぶんこうおう) → 平次郎(へいじろう・平井ひらい、町吏/文筆) 2 7 5 6
- F3824 **文谷**(ぶんこく・布能ふの、名;忠知、屋号;大黒屋)?-1866 甲府酒造業/名主、俳人:嵐外門/嵐門十哲、
書画、1833「やま霞」編、
[文谷(;号)の通称/別号]通称;権右衛門、別号;嵐香/霞山楼かざんろう
- F3825 **文谷**(ぶんこく・伊沢いざわ、名;貞義、問蔵男)1818-78⁶¹ 信州高遠藩士:右筆/能書家、画:佐藤薫谷門、
山水風物を得意、「高遠十景」画、
[文谷(;号)の通称/別号]通称;勝三郎/左門治/左門次、修二・多喜男・信三郎の父
- F3826 **文国**(ぶんこく・武田たけだ) ? - ? 江後期武州臨濟僧/北足立郡芝村の長徳寺住職、

詩/書を嗜む、「禅余雞肋稿」著

- 聞谷(ぶんこく;道号) → 聞谷(もんこく;道号・浄拙;法諱、黄檗僧) I 4 4 2 2
- 文克(ぶんこく・辻) → 蘭室(らんしつ・辻つじ/中原/村田、医者/蘭学) C 4 8 4 7
- 文刻堂(ぶんこくどう・西村) → 源六(げんろく・西村にしむら、奥村屋/書肆) F 1 8 1 9
- 豊後守(ぶんごのかみ・多賀) → 高忠(たかただ・多賀たが、武将/故実) C 2 6 9 3
- 豊後守(ぶんごのかみ・島津) → 久賀(ひさか・島津しまう、武将/家老) J 3 7 8 3
- 豊後守(ぶんごのかみ・毛利) → 兵橋(ひょうきつ・森もり/毛利重政しげまさ、武将) M 3 7 4 1
- 豊後守(ぶんごのかみ・大岡) → 清謙(きよかた・大岡/織田、幕臣) O 1 6 7 1
- 豊後守(ぶんごのかみ・甲良) → 宗広(むねひろ・甲良こうら、工匠/幕臣) C 4 2 3 9
- 豊後守(ぶんごのかみ・中山) → 吉埴(よしたね・中山なかやま、神職/歌人) E 4 7 3 7
- 豊後守(ぶんごのかみ・真田) → 幸良(ゆきよし・真田さなだ、豊後守/歌) G 4 6 2 4
- 豊後守(ぶんごのかみ・戸塚) → 忠栄(ただひで・戸塚とつか、幕臣/奉行/歌) U 2 6 4 4
- 豊後守(ぶんごのかみ・大久保) → 忠恕(たださと・大久保おおくぼ、旗本幕臣) U 2 6 8 6
- 豊後守(ぶんごのかみ・大久保) → 忠模(ただひろ・大久保おおくぼ、旗本/歌) U 2 6 8 7
- 豊後守(ぶんごのかみ・阿部) → 忠秋(ただあき・阿部あべ、藩主/家訓書) P 2 6 0 6
- 豊後守(ぶんごのかみ・定村) → 直孝(なおたか・定村さだむら/渡辺、神職/歌) K 3 2 9 1
- 豊後守(ぶんごのかみ・真田) → 幸専(ゆきたか・真田/井伊、藩主/歌人) 4 6 1 9
- 豊後守(ぶんごのかみ・塩谷) → 正路(まさみち・塩谷しおのや、幕臣/歌) L 4 0 9 4
- 豊後守(ぶんごのかみ・笠原) → 集光(なりみつ・笠原かさほら、神職/国学) L 3 2 5 9
- 豊後守(ぶんごのかみ・芝崎) → 好全(よしなり・芝崎しばさき、神職/国学) N 4 7 3 1
- 豊後守(ぶんごのかみ・箕田) → 重麿(しげまる・箕田みのだ、神職/国学) Z 2 1 9 1
- 豊後守(ぶんごのかみ・本多) → 助成(すけなり・本多ほんだ、藩主/詩歌) J 2 3 2 2
- 3821 **豊後掾**(ぶんごのじょう・宮古路みやこじ、初名;都国太夫半中) 1660?-1740⁸¹? 浄瑠璃太夫:都一中門、1716頃半中の名/22頃までに師家を去る/大阪で宮古路と改名/国太夫節と称される、豊後掾を受領;豊後節の祖/多くの門弟と江戸・名古屋で出演;代表作「睦月連理摺むつきれんりのたまつばき»;艶治な曲風で好評;長羽織・文金風の髪の流行;度々禁令/1739完全禁止、1737「都のにしき」、「根曳の門松」著
- 3822 **豊後国白水郎**(ぶんごのくにのあま/とよくにのみちのしりのあま) ?-? 万葉集(卷十六3877)の歌人 [紅くれないに染めてし衣雨降りてにほひはすともうつろはめやも](万葉;3877)、(にほはすは赤色系の色が濃くなる;濡れて男女の愛が増すことを暗示) 豊後大掾藤原昶光(ぶんごのだいじょうふじわらのえいこう) → 文字大夫(4世もじだゆう・常盤津、歌舞伎役者/音曲/作曲) B 4 4 2 0
- 豊後法眼(ぶんごのほうげん) → 浄門(じょうもん・榎えのき、和算家) B 2 2 7 2
- 文五郎(ぶんごろう・平山) → 豊後(ぶんご・平山ひらやま、歌舞伎作者) F 3 8 1 3
- 文五郎(ぶんごろう・堤) → 朝風(あさかぜ・堤つみ/源、幕臣/国学者) 1 0 4 6
- 文五郎(ぶんごろう・田中) → 花仙(かせん・田中、鋳物師/俳人) F 1 5 2 7
- 文五郎(ぶんごろう・宮地) → 水溪(すいけい・宮地みやじ、藩士/儒・国学) 2 3 4 3
- 文五郎(ぶんごろう・那須) → 宗英(むねひで・那須なす、国学者・歌人) E 4 2 0 6
- 文五郎(ぶんごろう・谷) → 文晁(ぶんちよう・谷たに、絵師) G 3 8 2 4
- 文五郎(ぶんごろう、大工) → 北雲(ほくうん・葛飾かつしか、絵師) C 3 9 9 0
- F3827 **文沙**(ぶんさ) ? - ? 筑前直方の俳人:浮風・諸九尼門、蝶夢と交流、1786「諸九尼句集」竹雨らと共編
- 文佐(ぶんさ・伊藤) → 蘆汀(あしついで・伊藤/川越、藩儒者) C 5 2 1 7
- H3800 **文彩**(ぶんさい) ? - ? 尾道俳人、1792若翁長月庵芭蕉百忌追善参;93「其蔓集」入
- F3828 **文哉**(ぶんさい・福田ふくだ/本姓;源、名;惟貞) 1796-1857⁶² 上州甘楽郡金井の代々医者、1823(28歳)領主松平家の侍医、画;出三門/菩提寺の天井画を描く、歌;高松公祐門、「惟貞詠草」「日光紀行」著、[文哉(;号)の通称/別号]通称;良作、別号;蔦庵/日新亭金洞、法号;峯雲院
- F3829 **文哉**(ぶんさい・葛井かつらい、名;温/雍/甞) 1811-49³⁹ 上州桐生の儒者:佐藤一斎門、

1830下総佐原に移住;子弟教育、江戸にも住、国史・歌・俳諧・医術に通ず、
「慎静舎詩集」「慎静舎和歌集」「越俎致遠」「割鶏蓄語」「初秋紀行」「彗星略説」外著多数、
[文哉(;)号)の字/通称/別号]字;元温、通称;甚兵衛/慶蔵/和槌わつひ/要/韜蔵とうぞう、
別号;月鴻/柳村/梅坨ばいた/嚶其おうき/慎静舎

F3830 **文斎**(ぶんさい・広沢ひろさわ、名;維直/惟直)?-? 江後期江戸の儒者;和気柳斎[1777-1853]門、
1824「左国古義俚解」/40「文斎喰草ざんそう小稿」、「文斎摘稿」「詩学砭俗へんぞく」「性習講義」著、
[文斎(;)号)の字/通称]字;温卿、通称;文内

F3831 **文哉**(ぶんさい・桃流舎) ? - ? 江後期嘉永1848-54頃;上総境の俳人:禾葉門、
同門の氷壺と論争;1850「俳諧問答」、「難陳十かへり章」著

聞斎(ぶんさい・近藤) → 富蔵(とみぞう・近藤、地誌家/遠島) O 3 1 8 6
文斎(ぶんさい・中山) → 菊之丞(5世きくのじょう・瀬川、歌舞伎役者/戯作者) B 1 6 0 3
文斎(ぶんさい・千葉) → 直胤(なおたね・千葉、国学者) B 3 2 6 3
文斎(ぶんさい・鈴木) → 泰平(やすひら・鈴木すずき、医者/歌人) G 4 5 0 7
文哉(ぶんさい/ふみや・村田) → 春門(はるかど・村田/宮崎、国学/歌) 3 6 3 1
文哉(ぶんさい・小川) → 文哉(ふみや・小川おがわ、藩士/国学者) I 3 8 0 3
文哉(ぶんさい・神戸) → 文哉(ふみや・神戸かんべ、洋学者) E 3 8 0 8
文哉(ぶんさい・藤本) → 千里(ちさと・藤本ふじもと/原、国学/歌) N 2 8 4 1
文哉(ぶんさい・本荘) → 了潤(りょうじゆん・本荘ほんじよう、真宗僧/画) M 4 9 2 6
文哉(ぶんさい・中沢) → 律斎(りつさい・中沢なかざわ、藩儒/詩人) B 4 9 9 3
文哉(ぶんさい・服部) → 応卿(まさあき・服部はっとり、国学者) R 4 0 8 1
文哉先生(ぶんさいせんせい;諡号) → 董堂(とうどう・中井/井、商家/詩/狂歌) G 3 1 7 8
文彩堂(ぶんさいどう) → 文斎万陀伎(ぶんさいまだき、書肆/絵師) F 3 8 3 2

F3832 **文斎万陀伎**(ぶんさいまだき、磯野いその、名;信春)?-? 長崎の絵師:溪斎英泉門、江戸で狂歌本の挿絵、
帰郷後;長崎版画を制作、書肆経営、1816「狂歌御国ふり」/18「狂歌鄙鶯集」編、
1821「狂歌長嬴ちようえい集」47「長崎土産」著
[文斎万陀伎の通称/別号]通称;大和屋由平/大由、別号;文彩堂

F3833 **文左衛門**(ぶんざえもん・杉若すざわか)?- ? 江中期金沢藩士;越中岩瀬の代官、
同藩藩士沢田藤左衛門と果合い;家断絶、1736「越中産物記」著

文左衛門(ぶんざえもん・細川/石河) → 道竹(どうちく・石河いしかわ、儒;陽明学) G 3 1 3 9
文左衛門(ぶんざえもん・紀伊国屋) → 千山(せんざん・五十嵐) F 2 4 8 4
文左衛門(ぶんざえもん・朝日) → 重章(しげあき・朝日あさひ、藩士/儒者) B 2 1 7 8
文左衛門(ぶんざえもん・安達/朝原) → 重栄(しげひで・朝原あさはら/安達、記録) S 2 1 4 0
文左衛門(ぶんざえもん・床井) → 正好(まさよし・中西なかにし/床井、和算家) I 4 0 4 8
文左衛門(ぶんざえもん・中西) → 正則(まさのり・中西、正好の弟/和算家) F 4 0 9 6
文左衛門(ぶんざえもん・木梨) → 恒徳(つねのり・木梨きなし、藩士) D 2 9 1 0
文左衛門(ぶんざえもん・勝野) → 延年(のぶとし・勝野/大沢、藩士/故実) C 3 5 3 3
文左衛門(ぶんざえもん・真野) → 安通(安道やすみち・真野まの、武家故実) D 4 5 0 7
文左衛門(ぶんざえもん・三浦) → 一舟(いっしゅう・三浦みうら、藩士/詩) H 1 1 3 1
文左衛門(ぶんざえもん・亀田) → 鵬斎(ほうさい・亀田、儒者/詩/教育) 3 9 5 4
文左衛門(ぶんざえもん・橋野) → 方久(まさひさ・橋野はしの、商家/儒者/歌) G 4 0 7 9
文左衛門(ぶんざえもん・取田) → 正潔(まさきよ・取田とりだ、国学/神道) C 4 0 3 3
文左衛門(ぶんざえもん・取田) → 寄猛(よりたけ・取田とりだ、藩士/兵法) I 4 7 9 3
文左衛門(ぶんざえもん・吉分) → 大魯(たいろ・吉分[別]、藩士/俳人) C 2 6 3 7
文左衛門(分左衛門ぶんざえもん・鈴木) → 椿亭(ちんてい・鈴木/鈴・鱸、幕臣/儒者) K 2 8 9 1
文左衛門(ぶんざえもん・高井) → 蘭山(らんざん・高井たかい、与力/戯作者) 4 8 0 4
文左衛門(ぶんざえもん・亀屋/大河原) → 亀文(きぶん・大河原おおがわら、商家/和漢学/戯作) G 1 6 2 1
文左衛門(ぶんざえもん・玉田) → 歩牛(ほぎゅう・玉田/渡辺、俳人) C 3 9 8 2
文左衛門(ぶんざえもん・津金) → 胤臣(たねおみ・津金つがね、藩士/陶工/歌) G 2 6 3 5
文左衛門(ぶんざえもん・東条) → 琴台(きんたい・東条とうじよう、儒者) E 1 6 2 4

- 文左衛門(ぶんざえもん・新井)→文山(ぶんざん・新井/林、儒/詩文/藩士) F 3 8 4 2
 文左衛門(ぶんざえもん・小島)→ 文器(ぶんき・小島こじま、藩士/俳人) E 3 8 9 5
 文左衛門(ぶんざえもん・木暮)→ 照房(てるふさ・木暮こくれ、名主/国学) F 3 0 0 8
 文左衛門(ぶんざえもん・安藤)→ 定尚(さだなお・安藤あんど、幕臣/国学) N 2 0 7 5
 文左衛門(ぶんざえもん・谷口)→ 勝盛(かつもり・谷口たにぐち/谷梅、藩士/歌) V 1 5 0 5
 文左衛門(ぶんざえもん・加納)→ 広敏(ひろとし・加納かのう、商家/歌人) I 3 7 9 9
 文左衛門(ぶんざえもん・仙石)→ 釐(おさむ・仙石せんごく、代官/国学者) D 1 4 9 7
 文左衛門(ぶんざえもん・葉山)→ 珍々釜鳴(ちんちんのかまなり、狂歌) K 2 8 9 0
 文左衛門(ぶんざえもん・藤川)→ 貞世(さだよ・藤川ふじかわ、藩士/国学/歌) P 2 0 2 6
 文左衛門(ぶんざえもん・神田)→ 直文(なおみ・神田かんだ、国学者) L 3 2 7 9
 文左衛門(ぶんざえもん・矢野)→ 御蔭(みかげ・矢野やの、商家/国学/歌人) K 4 1 8 6
- F3835 **文作**(ぶんさく・佐倉さくら) ? - ? 京住の歌舞伎作者/初号;佐倉戸文作さくらとぶんさく、
 1756-71京の中村糸太郎座・嵐三五郎座・小川吉太郎座等で合作(藤川山八・中山吾八らと)、
 1763改号;佐倉文作、1756「有卦祭うけまつり蓬莱大殿ほうらいやかた」58「ひらがな枕言葉」、
 1758「稻荷山宮殿入船嵐」65「鴨長名四季物語」66「けいせい比叡山みやこのふじ」69「旭丸源氏鑑」、
 1770「越海扇子橋」71「けいせい大江岸」、外著多数
- F3836 **文作**(ぶんさく・森もり/初姓;朝間あさま、名;錦喬、朝間喜之進男) 1734-1800 67 阿波徳島書家;松本家門、
 阿波板野郡中島浦大松村で寺子屋を開設、1794「御書御披露勤方御案内書」著、
 1799「社倉御相談申上帳」著、
 [文作(;通称)の別通称/号]別通称;仁喜弥、号;魯山
 文作(ぶんさく・内藤) → 敬豊(たかとよ・内藤ないとう、藩士/歌人) Y 2 6 4 6
 文作(ぶんさく・大地) → 文室(あやよし・大地おおち、藩士/詩/書) F 1 0 1 7
 文作(ぶんさく・横田) → 秋足(あきたり・横田よこた、商家/歌人) I 1 0 7 8
- F3837 **文三郎**(ぶんざぶろう・藤川ふじかわ、号;一軒) ?-? 江中期歌舞伎作者、1735-55頃大坂芝居の創作に参加、
 1740「宿無団七やどなしだんしち時雨笠しぐれのからかさ」蛙文と合作、40「大藤内裾野八景」41「一心宝珠台」、
 1741「今織台貫島」48「豊蘆原太平系図」50「下総国殺生石」51「梅香辻露之馬場先」外著多数
- 3823 **文三郎**(初世ぶんざぶろう・吉田よしだ、冠子かんし、人形遣吉田三郎兵衛男) ?-1760 浄瑠璃作者/人形遣い
 三人遣い創始、野心的言動;忠臣蔵騒動、1751「恋女房染分手綱」52「名筆傾城鑑」著、
 1754「小野道風青柳硯」56「崇徳院讃岐伝記」57「薩摩歌妓鑑」58「敵討崇禅寺馬場」著
- F3838 **文三郎**(2世ぶんざぶろう・吉田よしだ、2世冠子、初世男) 1732-90 59 浄瑠璃作者/人形遣、
 「神霊矢切渡」「立春姫小松」著
 文三郎(ぶんざぶろう・細井)→ 九阜(きゅうこう・細井ほそい、書家/篆刻) C 1 6 0 0
 文三郎(ぶんざぶろう・首藤)→ 水晶(すいしょう・首藤すどう/藤・膝、儒者) 2 3 6 5
 文三郎(ぶんざぶろう・和泉)→ 眞国(まくに・和泉/石橋、書肆/国学者) 4 0 6 6
 文三郎(ぶんざぶろう・黒川)→ 通淳(みちあつ・黒川くろかわ、藩士/歌人) J 4 1 0 0
 文三郎(ぶんざぶろう・水野)→ 正芳(まさよし・水野みずの、藩士/国学/歌) S 4 0 9 3
 文三郎(ぶんざぶろう・吹原)→ 九郎三郎(くろさぶろう・吹原ふきはら、商家/国学) E 1 7 4 7
 文三郎(ぶんざぶろう・横田)→ 秋足(あきたり・横田よこた、商家/歌人) I 1 0 7 8
- H3853 **文山**(ぶんざん;道号・等勝とうしょう;法諱、伏見宮邦高親王男) ?-? 16c臨濟僧;叔父宗山等貴門/嗣法、
 相国寺万松軒住、宮中・院等の和漢聯句会参加、1528実世と和漢聯句/29和漢聯句2度、
 [文山等勝の号] 万松軒
- F3839 **文山**(ぶんざん) ? - ? 僧義轍・月堂兄弟の戯名か?, 1689-1692「通俗三国志」記
- F3840 **文山**(ぶんざん・佐々木ささき/修正;佐/本姓;源、名;襲・淵竜/臥竜) 1659-1735 77 佐々木玄竜の弟、
 兄と幼児より書を習得/書家とし一家を成す/讃岐高松藩主松平家に出仕;府内西窪村住、
 幕命で朝鮮の復書を書す/1709致仕、其角と親交、
 1716「以呂波之伝」27「若宮八幡宮縁起」著、
 [文山(;字)の通称/号]通称;百助、号;墨花堂、法号;流芳院
- H3854 **文山**(ぶんざん/ぶんざん;道号・梅英ばいえい;法諱) ?-? 江中期曹洞僧;老山要玄門/嗣法、
 尾張大野村斎年寺14世、1724「万松老山和尚遺藁」編
- F3841 **文山**(ぶんざん・吉松よしまつ、名;正修、彦次郎男) 1755-87 33 石見津和野藩士/儒;萩藩校明倫館で修学、

父の出仕に従い大阪に遊学;片山北海・頼春水門、帰藩;藩校養老館設立に関与し助教授、
「西銘進講義手記」著、

[文山(;)号)の字/通称]字;潤甫/徳章、通称;儀一郎

- F3842 **文山**(ふんざん・新井あり、林三九郎男)1779-1851 73 安房館山の漢学者;鈴木直卿門、
1792(14歳)江戸遊学/儒詩:杉浦西涯門/林述斎家塾入;儒学;佐藤一斎門、
1839館山藩士、郡奉行/目付、「文山詩集」「文山文集」「四書輯釈補註」著、「文山遺稿」、
[文山(;)号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;亥之助、名;升/世傑/世文、字;宏明、
通称;潤蔵/文左衛門、別号;漁々翁/天門/文翁、法号;林照軒宏誉文明居士

- F3843 **文山**(ふんざん・綿引わたひき、名;亭)?-? 江後期常陸久慈郡松栄村の医者、
「瓜連古城考」「正気堂随筆」「弘道館釈義」著、東海(水戸弘道館訓導)の兄、
[文山(;)号)の字/通称/別号]字;公礼、通称;正雄、別号;正気堂

- F3844 **文山**(ふんざん・富田とみた、名;謙/謙次/守謙、日岳男)1785-1832 48 肥後熊本藩士/1803四人扶持、
「日岳先生文集」編、「文山先生詩文稿」著

文山(ふんざん・中瀬) → 柯庭(かてい・中瀬なかせ/松下、藩士/儒者/書) S 1 5 5 9

文山(ふんざん・前島) → 邦之(くにゆき・前島まえじま、藩士/歌人) E 1 7 4 9

文山(ふんざん・和田) → 氏武(うじたけ・和田、藩士/文筆家) C 1 2 4 1

文山(ふんざん・生駒) → 永言(ながこと・生駒こま、藩士/歌人) L 3 2 0 7

文山(ふんざん・百瀬) → 吉員(よしかず・百瀬ももせ、国学/歌人) P 4 7 6 1

文山(汶山ふんざん・橘) → 尚賢(しょうけん・橘たちばな、藩士/医者) I 2 2 5 0

汶山(ふんざん・大井) → 雪軒(せつけん・大井おおい、儒者) E 2 4 1 9

- F3845 **蚊市**(ぶんし) ? - ? 大阪俳人;1690言水「新撰都曲」2句/91賀子「蓮実」4句入、
[菖蒲あやめ茸く軒に風なき馬上哉](新撰都曲;下422)

- F3846 **汶泗**(ぶんし) ? - ? 越中井波俳人;浪化集団に属す、
「浪化日記」著;1699一門の百韻に入

- 3824 **文志**(ぶんし・野村、麩屋ふや伝兵衛男、三箇屋さんがや[4世]九郎兵衛の養嗣)?-1723 金沢書肆/俳人、
1700「和書年表次第記」編/08「艶賀の松」編/12「布ゆかた」編、
[文志(;)号)の通称/別号]通称;三箇屋さんがや[5世]五郎兵衛/麩屋五郎兵衛、
別号;百花/百花堂、法名;宗里

- F3847 **文四**(ぶんし・竹田たけだ) ? - ? 江中期大阪竹本座の浄瑠璃作者;
近松半二と合作:1751「役行者大峯桜」

- F3848 **文子**(ぶんし・吉田よしだ) ? - ? 江中期浄瑠璃作者:江戸結城座の助作者、
1775「初冠賤束帯」著(助作)

- F3849 **聞詩**(ぶんし) ? - ? 江中期伊勢の俳人;
1773几董「あけ鳥」1句/76樗良「月の夜」1句入、
[露深く薺あさがほの花の并ならび哉](あけ鳥;158)

- F3850 **文翹**(ぶんし・深江ふかえ、耳風じょう男)?-? 肥前佐賀藩士/俳人:1842父3回忌追善「空蟬集」編

文之(ぶんし;道号・玄昌;法諱) → 玄昌(げんしょう・文之、臨済僧/儒) C 1 8 1 7

文之(ぶんし・樋口) → 秩山(ちつざん・樋口、儒者) E 2 8 7 9

文之(ぶんし・日夏) → 文之(ふみゆき・日夏ひなつ、神道家) E 3 8 1 1

文之(ぶんし・堀) → 文之(ふみゆき・堀ほり、医者/和学) I 3 8 7 0

文之(ぶんし・田口/石合) → 江村(こうそん・石合いしあい/田口/古畑、儒者) G 1 9 3 9

文志(ぶんし・奥村) → 政房(まさふさ・奥村おくむら、絵師) H 4 0 1 2

文思(ぶんし・渡部) → 琴溪(きんけい・渡部/渡辺、藩士/儒者) Q 1 6 8 3

文思(ぶんし・矢倉) → 安々(やすさだ・矢倉やぐら、商家/歌人) G 4 5 9 2

文思(ぶんし・金井) → 鳳台(ほうだい・金井かない、商家/医/儒者) E 4 5 5 5

文思(ぶんし・十寸見ますみ) → 文魚(ぶんぎょ・吉田、札差/河東節/俳人) E 3 8 9 9

文思(ぶんし;道号) → 文思(もんし;道号・竜淵;法諱、僧吏) I 4 4 2 3

文翳(ぶんし・茂木) → 知亮(ともすけ・茂木もてぎ、藩士/歌/俳人) P 3 1 6 0

蚊子(ぶんし;俳名) → 南北(4世なんぼく・鶴屋、大南北) 3 2 3 5

- F3851 **文治**(文次ぶんじ・沢村さわむら)?-? 歌舞伎立役者/1727頃立作者に転換:元文1736-41頃大阪住、

- 1727「増鏡永代蔵」36「妹背の舞扇」37「歌競凱音梅」42「浮洲巖昔鏡」43「黒船一世一代男」外多
 F3852 **文治**(文次ぶんじ・平田ひらた)**?- ?** 江中期明和1764-72頃歌舞伎作者;江戸で金井三笑らの助作、
 江戸市村座・中村座で活動;17665「色上戸三組曾我」68「今於盛末広源氏」著
- F3853 **文治**(文次ぶんじ・三升みつあがり)**?-?** 江中期歌舞伎作者;1760-1772頃並木正三らと合作、
 1769十輔ら作「傾城さとの芋環おだまき」番付、70「桑名屋徳三入船物語」71「元日寿年越」著、
- F3854 **文治**(ぶんじ・河竹かわたけ)**? - ?** 江後期歌舞伎作者;
 1797五瓶「青楼詞合鏡」番付・「隅田春妓客性」番付
- F3855 **文二**(ぶんじ・地主ぢぬし、名;正名、長右衛門正方男)**1756-1825**70 羽前鶴岡富豪、俳人;河上兆而門、
 神尾貞吾・再和坊門、鷲田光時の跡を継承:出羽美濃派俳諧5代宗匠;鶴岡俳壇を高揚、
 1792芭蕉百回忌石碑建立;句集、1794家督相続/1806隠居;松童窟と改号、
 深く仏法に帰依、1818羽黒山別当の南谷翁塚建立に参与、
 1792「華開眼」編、1818「南谷集」編、「庄内三十三観世音めぐり」著、
 [文二(;号)の通称/別号]通称;長五郎/長右衛門(父を継承)、
 別号;陽秋亭/松童/松童窟/三尺庵
- F3856 **文治**(初世はつせいぶんじ・桂かづら)**1774-1816**43 大阪の噺家;上方落語中興の祖:桂派の始祖、
 1794頃より活動、芝居噺を創案;鳴物・道具入の芝居噺、
 「道具太平記」「蛸芝居」「絵本咄天狗」「落噺桂の花」「臍の宿かへ」「大開好色合戦」著、
 「大寄噺の尻馬」「おかしいはなし」著、
 [桂文治(;号)の通称/法名]通称;惣兵衛、法名;釈空海/法号;桂月空昌信士
- F3857 **文治**(2世にせいぶんじ・桂かづら、文吉、初世男)**?-?** 上方噺家;初世門、「噺、親にまされり」といわれた
- F3858 **文治**(上方系3世さんせいぶんじ・桂かづら、九鳥)**?-?** 上方噺家;2世の孫弟子
- F3859 **文治**(江戸系3世さんせいぶんじ・桂かづら、大和大掾、2世女婿)**?-1857** 江戸噺家;2世三笑亭可楽門、
 江戸桂派の祖
- 文二(文次ぶんじ・沢田) → 東洋(とうよう・沢田さわだ、書家) H 3 1 8 6
 文二(ぶんじ・首藤) → 水晶(すいしょう・首藤すどう/藤・藤、儒者) 2 3 6 5
 文次(ぶんじ・山田) → 官司(かじ・山田やまだ、武芸者) I 1 5 7 9
 文次(ぶんじ・吉川) → 常香(つねか・吉川よしかわ/ト部、神職/剣術) G 2 9 7 0
 文次(ぶんじ・河/上河) → 淇水(きすい・上河うえかわ/河、心学者) B 1 6 3 0
 文次(ぶんじ・渡辺) → 琴台(きんだい・渡辺わたなべ、儒者/詩人) J 1 6 0 6
 文次(ぶんじ・服部) → 滄洲(そうしゅう・服部はつとり、藩儒者) H 2 5 8 3
 文次(ぶんじ・川竹) → 如臯(2世じょう・瀬川せがわ、歌舞伎作者) 2 2 1 0
 文次(ぶんじ・小野) → 正博(まさひろ・小野おの、商家/歌人) O 4 0 1 6
 文次(ぶんじ・林) → 潜斎(せんさい・林はやし/花沢、儒者) M 2 4 3 2
 文次(ぶんじ・太田) → 中彦(なかひこ・太田おた/丸山、藩医/歌) L 3 2 4 5
 文字(ぶんじ・由比) → 演義(のぶよし・由比ゆい、藩士/歌人) E 3 5 0 6
 文治(ぶんじ・新興) → 蒙所(もうしょ・新興におう/興/堀、書家) 4 4 5 5
 文治(ぶんじ・谷) → 本教(もとりの・谷たに、能吏/記録) D 4 4 8 1
 文治(ぶんじ・五百崎/河竹/御園) → 如臯(2世じょう・瀬川せがわ、歌舞伎作者) 2 2 1 0
 文治(ぶんじ・加茂屋) → 小文吾(こぶんご・真柄まがら、旅籠屋/一揆) N 1 9 5 6
 文治(ぶんじ・前田) → 国丸(くにまる・歌川うたがわ、絵師) 1 7 9 3
 文治(ぶんじ・山本) → 杉芽(すぎが・山本やまもと、開国説/俳人) L 2 0 8 7
 文治(ぶんじ・小野) → 好純(よしずみ・小野おの/安福、国学/歌学) D 4 7 8 4
 文事(ぶんじ・末包) → 立石(りつせき・末包すえかね、儒者) C 4 9 0 7
 文爾(ぶんじ/ふみちか?・佐久間) → 維章(これあき・佐久間、藩士/儒者) O 1 9 0 6
- F3860 **文次右衛門**(文二右衛門ぶんじえもん・周しゅ、勝次郎男)**?-1825** 長崎通詞:中国語堪能、
 周辰官より唐年行司家6代目;1766家督継嗣;91小通事末席/1805小通事並/20目附役助、
 浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」「国姓爺合戦」の漢訳、「阿州孝子文」「忠臣蔵演義」著、
 1815狂詩文「忠臣庫ちゅうしんぐら」漢訳;懶所先生訓点
 [文次右衛門の別通称/号]別通称;政次郎/文次郎、号;鴻濛陳人こうもうちんじん、法号;円明院
 文旨舎(ぶんししゃ) → 修古(しゅうこ・宮本みやもと、俳人) X 2 1 1 7

- 文旨舎(2世ぶんししゃ) → 全瓦(せんが・神門ごと、俳人) L 2 4 8 4
 文旨舎(3世ぶんししゃ) → 芝蘭(しらん・深海、女流俳人) M 2 2 9 6
- F3861 **文七**(ぶんしち・雁金かりがね/雁金屋)?-1702死刑 無頼徒の首領;大坂千日前で処刑、
 男伊達として浄瑠璃/歌舞伎の題材;文弥「雁金文七秋の霜」出雲「男作五雁金」など
- F3862 **文七**(初世ぶんしち・中山なかやま/和歌山、初世松屋来助男)1732-181382 大阪の歌舞伎役者、
 雷電土俵入や忠臣蔵由良之助が当り役、俳名;由男よしお、「中山由男一代狂言録」著
- F3863 **文七**(2世ぶんしち・中山、伊沢伊八/嵐猪八/初世来助/俳名;至生)1755-9844 上方歌舞伎役者;
 雛助門、伊勢音頭の福岡貢・夏祭の一寸徳兵衛が当り役
- F3864 **文七**(3世ぶんしち・中山、徳三郎/兵太郎/俳名;百花、屋号;紅屋べにや)1764-185390 京歌舞伎役者;
 1786立役、菅原の源蔵が当り役
- F3865 **文七**(4世ぶんしち・中山なかやま、甚吉)?-? 上方歌舞伎役者;3世中山文七門、1850襲名
 文七(ぶんしち・石黒) → 守稻(もりとし・石黒いしぐろ、国学者) J 4 4 2 3
 文七(ぶんしち・片桐) → 春好(はるよし・片桐かたぎり、製織業/歌人) J 3 6 9 3
 文七(ぶんしち・北沢) → 正教(まさのり/まさとし・北沢きたざわ、神職) P 4 0 2 7
 文七郎(ぶんしちろう・遠藤) → 允信(さねのぶ・遠藤えんどう、藩士/官司) L 2 0 2 1
 文七郎(ぶんしちろう・野原) → 正巧(まさよし・野原のはら/平沢、商家/歌人) R 4 0 5 0
 文七郎(ぶんしちろう・渡辺) → 章(あきら・渡辺わたなべ、酒造業/歌人) I 1 0 8 4
- F3866 **文質**(ぶんしつ・滄琴舎) ? - ? 江後期江戸の俳人、1836「俳諧発句朗詠集初編」
 文瑟(ぶんしつ・田中/田) → 大観(たいかん・田中/修姓;田、暦算/儒) B 2 6 1 8
 文実(ぶんじつ・田中) → 散木(さんぼく・田中たなか、藩士/儒者) G 2 0 1 6
 文日堂(ぶんじつどう) → 礫川(れきせん・中原、川柳) 5 1 0 5
- F3867 **文車**(ぶんしゃ・日野ひの、名;尚茂、重尚男)1644-172885 母;丹羽長正女、
 岩代二本松藩家老;1660家督嗣、1690出納不正の引責で辞任;蟄居、
 俳人:松江維舟門、1695「花蔭はなかつみ」編(;角書「俳諧」)、
 [文車の通称/別号]通称;平五郎/道輝どうき(;隠居後)、別号;百花堂、法号;松久院
- F3868 **文車**(ぶんしゃ・一立斎いちりゅうさい)?-? 講釈師;巾着切り物が得意、1780南畝咄の会「万の宝」参加、
 1830-44頃「赤垣源蔵徳利の別れ」を創作;のち1858黙阿弥「仮名手本硯高島」に挿入される
 文車(ぶんしゃ) → 文車(ふぐるま、遊女、案内記序) B 3 8 7 2
 文車(ぶんしゃ・瀬川) → 如阜(2世じょうこう・瀬川せがわ、歌舞伎作者) 2 2 1 0
 文爵(ぶんしゃく・桑そう/桑山) → 玉洲(ぎよくしゅう・桑山/桑、絵師) D 1 6 0 2
 文若(ぶんじゃく・具志頭親方ぐしちやんうえかた) → 温(おん・蔡さい、政治/詩) C 1 4 2 4
 文若(ぶんじゃく・坂上) → 烏涯(うがい・坂上さかがみ、儒者/詩人) C 1 2 0 7
 文若(ぶんじゃく・徳田) → 飲龍(いんりゅう・徳田とくだ、漢方医者) J 1 1 2 7
 文尺斎(ぶんしゃくさい) → 花城(かじょう・三橋、俳人) L 1 5 9 6
 文守(ぶんしゅ;法諱・一絲) → 一絲(いっし;道号・文守、臨濟僧/歌) E 1 1 6 2
 分種(ぶんしゅ・寺井) → 種清(たねきよ・寺井てらい、神職/歌人) R 2 6 7 7
 文儒(ぶんじゅ→ふひと・田中/高田) → 与清(ともきよ・小山田、国学者) 3 1 6 0
 文寿(ぶんじゅ→ふみひさ・松貴) → 二曲(にきよく・松貴まつき、俳人) G 3 8 9
 文寿(ぶんじゅ・萩原) → 正巳(まさみ・萩原はぎわら、書家/歌) H 4 0 3 5
- F3869 **文秀**(ぶんしゅう;法諱・華頂かちょう;道号、号;直鈎、俗姓;藤谷)1740-182788 近江甲賀石部の僧;
 1754天台叡山僧、黄檗僧;近江の中嶽門/伊予の湛堂門/駿河の白隠門、
 1785近江正明寺住持/1800万福寺25世、1809正明寺に退隠、
 「華頂禅師仮名法語」「華頂禅師語録」「華頂禅師住黄檗山万福寺語録」著
- F3870 **文秀**(ぶんしゅう・竹田、緑庵2世)?-? 羽前下長井の川柳作者;兄太橋[緑庵初世、俳人]門、
 文周(ぶんしゅう;字) → 日峰(にっぽう;法諱、日蓮僧) F 3 3 6 4
 文周(ぶんしゅう・大野) → 幸英(ゆきひで・大野おおの、医者/国学) G 4 6 6 8
 文秋(ぶんしゅう・豊原/多) → 文秋(ふみあき・豊原とよはら/多おおの、楽人/歌) D 3 8 7 8
 分洲(ぶんしゅう・臯月) → 平砂(2世へいさ・臯月さつき、俳人) 2 7 3 1
- F3871 **文重**(ぶんじゅう) ? - ? 伊勢山田俳人;1633重頼「犬子えのこ集」1句入、

- [をとをと(弟)となどあひどを(間遠)の花の兄](犬子集;159/花の弟は菊/花の兄は梅)
- F3872 **文十**(ぶんじゅう・高橋/宇陀野/宇施/露木)?-? 1741存 撰津鷺守の俳人;来山門、大阪住の雑俳点者、1691「よるひる」編、1707「海陸前集/後集」編、08「三国志」入、1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、17「遠千鳥」26「鳴門記」編、1741妻(結婚後4年;20歳没)を追善「月の西」編、[鳥飼のはや出かけつゝ更衣](伊丹発句合;夏)、[文十の別号] 鳥路斎/鳥路叟/路鳥斎/穿雲散人
 文重(ぶんじゅう・宮地) → 常盤(ときわ・宮地みやじ、神道/国学) K 3 1 3 7
- F3873 **文繡堂主人**(ぶんしゅうどうしゅじん)?-? 俳人;雑俳;1857-8「冠付五百題」第一・二篇撰
 文十郎(ぶんじゅうろう・相沢) → 治信(はるのぶ・相沢あいざわ、測量家) G 3 6 7 0
 文十郎(ぶんじゅうろう・中川) → 憲斎(けんさい・中川なかがわ、書家) I 1 8 9 4
 文十郎(ぶんじゅうろう・喜多) → 文十郎(もんじゅうろう・喜多きた、能楽師) I 4 4 2 5
 文十郎(ぶんじゅうろう・勝野) → 秀雄(ひでお・勝野かつの/三勝、製造業/神職/歌) J 3 7 0 6
 文夙(ぶんしゅく;字) → 日選(にっせん;法諱・本住院、日蓮僧) E 3 3 7 6
 文叔(ぶんしゅく・古山) → 藍田(らんてん・古山ふるやま・こやま、医者) D 4 8 0 6
 文叔(ぶんしゅく・大熊) → 秦川(しんせん・大熊おおくま、眼科医/詩人) P 2 2 1 3
 文肅(ぶんしゅく・林) → 三洲(さんしゅう・林はやし、藩儒臣/詩人) M 2 0 3 7
 文肅(ぶんしゅく;諡号) → 光寛(みつひろ・藤堂/多羅尾、家老/詩歌) E 4 1 7 0
 文肅(ぶんしゅく;諡号) → 秋村(しゅうそん・柴しば、儒者/藩儒) I 2 1 0 5
 文肅先生(ぶんしゅくせんせい;諡号) → 熊陽(ゆうよう・藤江、藩儒/地誌) D 4 6 9 9
 文淑先生(ぶんしゅくせんせい;諡号) → 溟北(めいほく・円山/小池、藩士/儒者) 4 3 3 7
 文寿坊(ぶんじゅぼう) → 其兆(きちょう・大谷、俳人) L 1 6 3 5
 文俊(ぶんしゅん;字) → 竜光(りゅうこう;法諱・文俊、真言僧) D 4 9 7 9
- F3874 **文潤**(ぶんじゅん) ?-? 俳人;1689「あら野」1句入、[朝寐する人のさはりや鉢たたき](あら野;八)
 文恕(ぶんじょ・本間/小泉) → 其明(きめい・小泉/本間/小柳、測量/画) M 1 6 0 9
- F3875 **文樵**(ぶんしゅう・石原いしはら、名;正汎) 1736-9863 美濃今尾村成戸の俳人;横井也有門、名古屋住、1766也有「蘿葉集」第三篇編纂(1篇有支/2篇蓑月)、69「若菜売」70「埵ありづか集」編、1780「面影草」編、85也有追悼「夢の蹤あと」編/89「つたのしげり」編
 [文樵の通称/別号]通称;嘉永/瀬平/嘉内、別号;送月堂
- F3876 **文嘯**(ぶんしゅう・五味ごみ、和三郎男)?-1822 信濃諏訪郡茅野村の心学者;植松自謙門、甲府存心舎で修学、俳;文輔門/画;天竜道人門/書;烏石流、手習師匠兼任、「ほやの春」著、[文嘯(;号)の通称/別号]通称;和三郎(父と同)、別号;曾良庵2世/顛湖亭/梅亭、屋号;万屋
- F3877 **文紹**(ぶんしゅう・野村のむら、文蔵男) 1816-? 1886存 代々幕臣;具足同心、江戸下谷御具足町住、絵師;谷文晁門、谷一門の伝記資料「写山楼之記」執筆/1821「都鄙秋興」62「古今名画苑」画、[文紹(;号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;子之助、名;高明、字;順、通称;壮右衛門、別号;木風/台麓
 文笑(ぶんしゅう・一筆斎;画号) → 光(ひかる・頭つむりの、絵師/狂歌) 3 7 0 1
 文昇(ぶんしゅう・加藤) → 寛斎(かんさい・加藤、藩士/地歴/俳人) Q 1 5 5 7
 文章(ぶんしゅう・大塚) → 亀基(かめもと・大塚おつか/真坂、藩士/歌) T 1 5 9 3
 文祥(ぶんしゅう・森) → 蘭斎(らんさい・森もり、医者/絵師) C 4 8 1 7
 文祥(ぶんしゅう・吉田/山県) → 太華(たいか・山県/吉田、藩士/儒者) B 2 6 0 8
 文勝(ぶんしゅう・虫明) → 文勝(ふみかつ・虫明むしあき、医者/国学) I 3 8 7 6
 聞証(ぶんしゅう;法諱) → 聞証(もんしゅう;法諱、浄土学僧) I 4 4 2 6
- F3878 **汶上**(ぶんじょう・石塚いしづか、名;尹)?-? 江後期1818-44頃江戸の漢方医者;蘭方にも精通、1824「護痘錦囊」34「護痘須知種痘管窺」35「困学穴法」/40「困学医言」編、「傷寒論私衡」編、[汶上(;通称)の号] 不玉斎
- F3879 **蚊丈**(ぶんじょう・山下やました) 1820-188162 三河宝飯郡下地村の神官、国学者;羽田野敬雄門/平田家入門、俳人;青々居卓池門、

1856「かつらかけ」著、

[蚊丈(；号)の別名/通称/別号]名；文丈ふみたけ、通称；幸八、別号；青塘居/青塔居

文丞(ぶんじょう・北川) → 善淵(よしふか・北川きたがわ、藩士/歌人) G 4 7 7 9

文常(ぶんじょう・飯島) → 文常(ふみつね・飯島いじま、絵師：菊の絵) D 3 8 9 0

文讓(ぶんじょう・津久井) → 克讓(かつじょう・津久井つぐい、医者/詩) N 1 5 4 6

文讓(ぶんじょう・鈴木) → 恭斎(きょうさい・鈴木すずき、儒者) N 1 6 8 1

文饒(ぶんじょう・勾こう/勾田) → 台嶺(たいれい・勾田まがた/修姓；勾、絵師) L 2 6 2 9

文笑庵(ぶんしょうあん) → 風竹(ふうちく・半榻庵はんとうあん、俳人) 3 8 9 4

蚊小庵(ぶんしょうあん) → 臼人(わつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1

F3880 文鐘軒(ぶんしょうけん・一二三ひふみ軒)？-？ 1750-58頃江戸浄瑠璃作者先駆：肥前座、共著：

1750「新板累しんばんかさね物語」51「八幡太郎東海硯」52「太平記枕言」58「聖徳太子職人鑑」著

文樵子(ぶんしょうし) → 鳥吟(ちょうぎん、俳人) H 2 8 8 9

文松窓(ぶんしょうそう) → 祐訓(すけのり・梅内うめない、藩士/古蹟調査) G 2 3 9 6

文昌堂(ぶんしょうどう) → 藿斎(かくさい・岩永いわたが、医者/本草) J 1 5 8 4

文尚堂虎園(ぶんしょうどうこえん) → 春馬(初世しゅんば・三亭さんてい、戯作者/狂歌) 2 1 6 5

F3881 文燭(ぶんしよく) ？ - ？ 俳人；素檠そぼく[1758-1821]門、

師追善集「ひなはうご」若人と共編

文燭亭(ぶんしよくてい) → 貞庵(ていあん・浅井、医/詩人) 3 0 2 6

F3882 文四郎(ぶんしろう・森もり) ？ - 1788 出雲神門郡出身/松江藩士森文平養子/1744松江藩札座役人、

勝手方役人/諸役所吟味方/1767新番組/大坂御用懸/郡奉行/勘定奉行/用人役、/1787致仕、

「治国譜考証」著、

[文四郎(；通称)の別通称/号]別通称；文右衛門、号；元綏、法号；崇仁院

文四郎(ぶんしろう・塩田/伊藤) → 栄吉(えいきち・伊藤君嶺、儒者/詩) B 1 3 4 2

文四郎(ぶんしろう・平井) → 元興(もとおき・平井ひらい、藩儒/歌人) L 4 4 1 3

文四郎(ぶんしろう・伊藤) → 李山(りざん・伊藤いとう、大庄屋/俳人) B 4 9 1 2

文四郎(ぶんしろう・船津) → 則之(のりゆき・船津ふなつ、里正/国学) J 3 5 9 2

文四郎(ぶんしろう・荒井/吉田) → 六朶園二葉(ろくだえんふたば、商家/狂歌) 5 2 9 8

文四郎(ぶんしろう・西村) → 高陽(たかあき・西村にしむら、歌人) Y 2 6 8 4

文四郎(ぶんしろう・綿屋) → 正巧(まさよし・野原のはら/平沢、商家/歌人) R 4 0 5 0

文四郎(ぶんしろう・綿屋) → 正甫(まさよし・野原のはら/宮沢、正巧養子/商家/歌) R 4 0 5 1

汶四郎(ぶんしろう・植田) → 方清(みちきよ・植田うねだ、庄屋/国学/歌) I 4 1 1 7

文治郎(ぶんじろう・新興) → 蒙所(もうしよ・新興におう/興/堀、書家) 4 4 5 5

文治郎(ぶんじろう・永井) → 勝則(かつのり・永井ながい、藩士/日記) N 1 5 7 7

文治郎(ぶんじろう・平) → 東江(とうこう・沢田/平/源、書家/詩) 3 1 1 0

文治郎(ぶんじろう・菅沼) → 西陵(せいりょう・菅沼すがぬま/阮、儒者) J 2 4 8 2

文治郎(ぶんじろう・山本) → 杉芽(すぎが・山本やまと、開国説/俳人) L 2 0 8 7

文治郎(文次郎ぶんじろう・赤井) → 得水(とくすい・赤井あかい、書家) L 3 1 0 7

文治郎(文次郎ぶんじろう・榎屋/草間) → 直方(なおかた・草間くさま/榎屋、商家/経済家) 3 2 9 2

文治郎(ぶんじろう・桜井) → 房光(ふさみつ・桜井さくらい、国学/勤王/) I 3 8 3 0

文次郎(ぶんじろう・高橋) → 山峰(さんぼう・高橋たかはし、俳人) E 2 0 7 0

文次郎(ぶんじろう・岡井) → 嵯州(せしゅう・岡井おかい、藩士/儒者) C 1 8 0 5

文次郎(ぶんじろう・斎藤) → 大雅(たいが・斎藤さいとう、藩士/儒者) J 2 6 4 0

文次郎(ぶんじろう・長沼) → 采石(さいせき・長沼、藩士/国学者) G 2 0 8 4

文次郎(ぶんじろう・堀内) → 広城(ひろき・堀内ほりうち、地士/国学者) F 3 7 7 4

文次郎(ぶんじろう・桜井) → 光章(みつあき・桜井さくらい/桃沢、国学・歌) H 4 1 6 8

文次郎(ぶんじろう・到津) → 公著(きみあき・到津いとうづ、神職) L 1 6 9 8

文次郎(ぶんじろう・奥田) → 桐園(とうえん・奥田おくだ、藩儒/詩) B 3 1 5 2

文次郎(ぶんじろう・岡井) → 赤城(せきじょう・岡井、藩儒/詩人) D 2 4 5 4

文次郎(ぶんじろう・加藤) → 吉啓(よしひろ・加藤らかとう、藩士/国学者) M 4 7 1 2

- 文次郎(ぶんじろう・堀) → 利邦(としくに・堀ほり、旗本/幕臣/歌) T 3 1 3 9
 文次郎(ぶんじろう・大谷) → 宣甫(のぶとし・大谷おおたに、町人/国学/歌) H 3 5 7 1
 文二郎(ぶんじろう・沢田) → 東里(とうり・沢田さわだ、書家) I 3 1 1 5
 文二郎(ぶんじろう・林) → 潜斎(せんさい・林はやし/花沢、儒者) M 2 4 3 2
 文慎(ぶんしん・文屋) → 如正(ゆきまさ・文屋ふんや、漢学者/詩人) F 4 6 5 9
 文進(ぶんしん・柴田) → 風山(ふうざん・柴田しばた、儒者/書) 3 8 6 8
 文進(ぶんしん・山本) → 玉岡(ぎよくこう・山本やまもと、儒者) I 1 6 8 4
 文親(ぶんしん・近藤/翠中軒) → 知新(ちしん・翠中軒、与力/茶人) E 2 8 4 6
 文臣(ぶんしん・青根) → 文臣(ふみおみ・青根あおね、医者/歌人) H 3 8 9 3
 文信(ぶんしん・関) → 文信(ふみのぶ・関せき、砲術家) D 3 8 9 8
 文信(ぶんしん・朝枝) → 文信(ふみのぶ・朝枝あさえだ/長多、藩士/歌) H 3 8 9 4
 文信(ぶんしん・幸田) → 文信(あやのぶ・幸田こうだ、国学/歌人) H 1 0 5 4
 H869 文人(ぶんじん) ? - ? 江中期俳人、1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
 [面白や空行く鳥のあきの声](伊丹発句合;秋)
 文人(ぶんじん/あやと?・二宮) → 兼善(かねよし・二宮、藩士/和算/地誌) P 1 5 0 9
 文人(ぶんじん・杉山) → 随翁(ずいおう・杉山すぎやま、儒者) E 2 3 2 3
 文真先生(ぶんしんせんせい;諡号) → 誠軒(せいけん・斎藤さいとう、儒者/詩人) B 2 4 2 7
 糞心道人(ふんしんどうじん) → 菊庵(きくあん・奈須なす玄竹、幕府医官/青磁研究) T 1 6 1 5
 聞信房(ぶんしんぼう) → 大周(だいしゅう;法諱・牧野まきの、真宗僧) K 2 6 2 4
 H3825 文推(ぶんすい) ? - ? 江中期京の俳人;1729隆志「俳諧草結」入
 [磨出とぎいだす冬もや月の花ざかり](俳諧草結241、冴えた冬の月こそ花盛りだ)
 F3883 文水(ぶんすい・中村なかむら、青道館)?-? 江中期大阪の俳人:矩州門、1760「朧月」編
 F3884 文誰(ぶんすい・岡田おかだ、名;維貞)?-? 江中期京の俳人:宋屋門、
 1769「歳旦帖」/75「安永四年乙未歳旦帳」編
 [文誰の字/別号]字;子幹、別号;机墨庵/富嶺
 F3885 文推(ぶんすい・鳥雲舎) ? - ? 江中期筑前博多の俳人:無耳庵嶺雲門、
 1781序「無耳庵句集」編
 I3847 文水(ぶんすい・知久ちく、旧姓;熊谷) 1841-1924⁸⁴ 信濃飯田の生、信濃阿島の知久家の養子/歌人、
 [文水(;号)の通称] 力四郎
 聞随(ぶんずい;法諱) → 聞随(もんずい;法諱・赤巖;号、真宗僧) I 4 4 6 5
 F3886 文輔(ぶんすけ・機はた) ? - ? 江中期江戸の歌舞伎作者/1756森田座に初出/
 1757立作者/のち中村座の合作に参加、1757「勢和田合戦」「入船隅田盃」58「赤沢源氏山」、
 1764「人来鳥春告曾我」「斎藤太郎左衛門胤功」70「敵討忠孝鑑」「鏡池佛曾我」外著多数
 F3887 文助(ぶんすけ・岡本) ? - ? 上方の講釈師;太閤記を読む
 F3888 文助(ぶんすけ・黒川、名;貞統)?-1805獄死 岩代会津藩士/地誌家、田島の検地職;
 代官・藩当局と確執、1804息子広蔵と直訴;捕縛/獄死、1774「会南事跡集」、「前代正紀」著、
 「祇園祭由来」「寿林関係」「天明飢餓記録」「黒川一族の由来」「検断林一件記録」著
 F3889 文助(ぶんすけ・松島) ? - ? 歌舞伎作者:
 1866治助2・3世「富治三升扇ふじとみますすえひろ曾我」番付
 文助(ぶんすけ・庄原) → 篁墩(こうとん・庄原しょうばら、儒者/詩) K 1 9 8 4
 文助(ぶんすけ・中井) → 文耕(ぶんこう・馬場ばば/馬/中井、講釈師) F 3 8 1 7
 文助(ぶんすけ・牧) → 嵩振(たかふる・牧まき、藩士/歌人) N 2 6 1 6
 文助(ぶんすけ・亀田) → 商斎(しょうさい・亀田/林、商家/詩歌) J 2 2 0 0
 文助(ぶんすけ・佐野) → 東洲(とうしゅう・佐野さの、書家) E 3 1 9 6
 文助(ぶんすけ・高野) → 陸沈亭(りくちんてい・高野、医者/藩士) 4 9 8 0
 文輔(ぶんすけ・中村) → 文輔(ふみすけ・中村なかむら、藩儒/故実) I 3 8 5 4
 文助(文甫ぶんすけ・小田村) → 麴山(ろくざん/ふざん・小田村/山本、儒者) 5 2 8 4
 文助(ぶんすけ・小田村) → 素彦(もとひこ・楫取/松島/小田村、藩士) D 4 4 9 5
 文助(ぶんすけ・河本) → 公輔(きんすけ・河本かわもと、国学/歌人) U 1 6 0 3
 文助(文輔ぶんすけ・横尾) → 紫洋(しゅう・横尾/黄、藩儒/勤王家) Q 2 2 6 3

- 文介(ぶんすけ・河本) → 延之(のぶゆき・河本/三宅、歌人) D 3 5 7 3
 文輔(ぶんすけ・奈良井) → 文輔(ふみすけ・奈良井ならい、歌舞伎作者) D 3 8 8 6
 文輔(ぶんすけ・斎藤) → 秋圃(穉圃しゅうほ・斎藤/葵/池上、絵師) I 2 1 2 7
 文輔(ぶんすけ・大村) → 重矩(しげのり・大村おむら、医者/歌) S 2 1 1 0
 文輔(ぶんすけ・篠沢) → 辣堂(らつどう・篠沢しのざわ、藩士/経史) B 4 8 4 7
- F3890 文性(ぶんせい) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子えのこ集」5句入、
 [きさらぎをまたでな消えそ雪仏ゆきぼとけ](犬子集;215/如月15日釈迦入滅/雪仏は雪達磨)
- F3891 文成(ぶんせい・山名やまな) ? - ? 江中期紀伊名草郡水穂村の人;公共事業に尽力、
 1784「農家訓」著
- F3892 文盛(ぶんせい・廓遊舎かくゆうしゃ) ? - ? 江後期江戸の書肆/茶番師;愛染連、
 1852翠柳亭梅鶯・東雅園蝶喜催主の愛染連中口上茶番集「茶番頌知論」の下巻序と版刊
- 分正(ぶんせい;諡号) → 栗園(りつえん・中村/片山、藩儒/執政) B 4 9 5 9
 文清(ぶんせい・佐草) → 文清(ふみきよ・佐草さくさ、神職/国学) I 3 8 2 8
 文静(ぶんせい・東儀/太秦) → 文静(ふみきよ・東儀/太秦、楽人) D 3 8 8 4
 文静(ぶんせい・山田) → 松斎(しょうさい・山田、儒者;農事改善) J 2 2 0 1
 文靖(ぶんせい・緒方) → 蘭阜(らんこう・緒方おがた、医者/儒者) C 4 8 0 0
 文性(ぶんせい→もんじょう;字) → 亮典(りょうてん;法諱・文性、真言僧/教育) J 4 9 0 5
 文成(ぶんせい・松田) → 黄牛(こうぎゅう・松田まつだ、医者/儒者) G 1 9 5 2
 文成(ぶんせい・平賀) → 鳳台(ほうだい・平賀ひらが、儒者) C 3 9 2 1
 文成(ぶんせい・秋元) → 公英(きみひで・秋元あきもと、医者/詩歌文) T 1 6 3 8
 文成(ぶんせい・原田) → 年実(としざね・原田はらだ、国学者) W 3 1 1 6
 聞生(ぶんせい) → 聞生(もんじょう;法諱、真宗本願寺派僧) I 4 4 6 4
 文成先生(ぶんせいせんせい;諡号) → 虎山(こざん・坂井さかい、藩士/儒者) C 1 9 6 5
 文成先生(ぶんせいせんせい;諡号) → 東陽(とうよう・津阪/菅原/山田、儒者) H 3 1 8 2
 文清先生(ぶんせいせんせい) → 履軒(りげん・中井なかい、漢学者) 4 9 0 1
 文清先生(ぶんせいせんせい) → 東嶠(とうきょう・米良めら/米、藩士/漢学) C 3 1 8 1
 文靖先生(ぶんせいせんせい) → 拙堂(せつどう・斎藤、儒/詩歌) 2 4 2 1
 文靖先生(ぶんせいせんせい) → 麴谷(おうこく・岡松、儒者) B 1 4 2 8
 文靖先生(ぶんせいせんせい) → 梅竜(ばいりゅう・武田/篠田、儒者) C 3 6 2 0
 文靖先生(ぶんせいせんせい) → 学古(がくこ・円山/丸山まるやま、医/儒者) J 1 5 7 7
 文靖先生(ぶんせいせんせい) → 雪庵(せつあん・松尾まつお、藩医/詩人) K 2 4 6 6
 文生堂(ぶんせいどう) → 祐尹(すけただ・西川にしかわ、絵師/絵本) G 2 3 4 0
- F3893 蚊夕(ぶんせき) ? - ? 大阪の俳人;之道門、
 1690之道「江鮭子あめご」6句(うち7吟歌仙に4句)入、
 [秋風や未まだ音もなし升落し](あめ子;179/升落しは鼠取りの仕掛)
- F3894 文石(ぶんせき・梅園うめぞの) ? - ? 儒者/詩人;1722用拙斎「八居題詠」入
- F3895 文石(ぶんせき・島影しまかげ) ? - ? 江中期会津藩家老西郷近張の家臣、
 儒者;江戸の二見直養門;中江藤樹の学を修得、「清祇彦行状」著
- F3896 文石(ぶんせき・遠藤えんどう) 1755-1807 津軽弘前の商家/俳人、1807高杉村に田植塚建立、
 1807「風流勸進帖」編、
 [文石の通称/別号]通称;兵右衛門、別号;万艸亭/金屋、息子文子ぶんしも俳人
- 文碩(ぶんせき・太田) → 中彦(なかひこ・太田おた/丸山、藩医/歌) L 3 2 4 5
 文積(ぶんせき・浅倉屋) → 九兵衛(きゅうべえ・浅倉屋あさくらや/吉田、書肆) T 1 6 4 0
- F3897 文節(ぶんせつ・林はやし、名;重恒) ? - ? 江後期越後の医者、「眼科提要」訳、
 「針治提要」「病機察要」著、
 [文節(;通称)の字/号]字;仲徳、号;静頤堂せいどう
- 文節(ぶんせつ・中山) → 利質(としただ・中山、幕臣/正成研究) M 3 1 7 3
 文節先生(ぶんせつせん) → 浮山(うきやま・中島なかじま、儒者/講説業) C 3 8 2 8
 芬扇(ぶんせん;号) → 恵船(えはく;法諱、真宗本願寺派学僧) E 1 3 2 1
 賁然(ぶんぜん・佐伯/岸) → 岸駒(がんとく;通称、絵師) G 1 5 2 3

- H3873 **蚊扇**(ぶんせん) ? - ? 俳人;一昌門、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
[十六夜の月正月の二日哉](丁卯集;狗日)
- F3898 **文扇**(ぶんせん) ? - ? 俳人、1693?幸佐「一番船」滑稽和漢入
- F3899 **文泉**(ぶんせん・大野/巨野おの) 1774-183764 奥州白河の絵師:谷文晁門(;藩主松平定信の命)、
肖像画に長ず、主命により「集古十種」編纂参画;文晁・白雲と共に諸国の古器物を書写、
「海内奇観」50巻/「楽翁公居館三郭四園図」画、
[文泉(;号)の通称/別号]通称;万年、別号;泉祐
- 文川(ぶんせん) → 万亀(ばんき;法諱、号;文川、僧/詩人) H 3 6 3 5
- 文川(ぶんせん) → 野逸(やいつ・文川堂、俳人) 4 5 3 4
- 文先(ぶんせん・多田/田) → 弘武(ひろたけ・多田ただ/田、和算家) G 3 7 2 4
- 汶川(ぶんせん/ほんせん) → 梅仏(ばいぶつ・玉華亭/湊屋、俳人) C 3 6 0 5
- G3800 **文泉舎唐丸**(-唐曆ぶんせんしやからまる・小泉)?-? 江後期江戸本所石原の狂歌:文々舎門、
葛飾連、1826文々舎「略画職人尽」入/天保期「良材集」編、
[文泉舎唐丸の別号] 桜戸/鈴繁すずしげ
- 文川堂(ぶんせんとく) → 野逸(やいつ・文川堂、俳人) 4 5 3 4
- 文選復興楼(ぶんせんふっこうろう) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7
- 文泉房(ぶんせんぼう;字) → 朗澄(ろうちよう;法諱・文泉房、真言僧) 5 2 3 9
- G3801 **文素**(ぶんそ・北川きたがわ、可文男)?-1768 近江粟津の農業(豪農)/俳人:雲裡のち蝶夢門、
1763「しぐれ会」創始、義仲寺護持と蕉門顕彰に尽力、1750「其朝顔」64「烏帽子塚」編、
「浮巢庵文素発句集」著、1769文素・可風兄弟の遺句集「鴉におの二声」蝶夢編序、可風の兄、
[文素の別号] 浮巢庵/卯歎舎/滄浪居
- G3802 **文宋**(ぶんそう) ? - ? 小松俳人;1715乃露たいろ「八ゆふぐれ」歌仙入
- G3803 **文章**(ぶんそう・江間えま) ? - ? 江後期信濃藪原村の俳人、1843「文艸集」著、
東雲の兄、宮田円陵(儒者)の父
- 参照 息 → 円陵(えんりょう・宮田、1810-70、儒者) F 1 3 5 0
- 文藻(ぶんそう・小宅おやけ) → 文藻(あやも、小宅、商人/国学/歌、画) F 1 0 1 6
- 文荘(ぶんそう;法号) → 格庵(かくあん・永田ながた、儒者/詩人) J 1 5 4 2
- 聞霜(ぶんそう・印東) → 応中(まさなか・印東いんどう、藩士/歌人) N 4 0 8 8
- G3804 **文蔵**(ぶんぞう・奈川ながわ) ? - ? 歌舞伎作者;
1773初世正三「日本第一和布菴神事にほんだいいちめかりのしんじ」番付作者(初世奈河亀輔らと)
- G3805 **文蔵**(ぶんぞう・青柳あおやぎ、三達男) 1761-183979 仙台東山の医者:江戸の井上金峨門、貿易で財、
3万巻の書を蒐集;青柳文庫とす、1828「青柳館蔵泉譜」29「続諸家人物誌」著、
[文蔵(;名)の字/号]字;茂明、号;東里/近水楼主人、法号;青柳斎東里茂明誠士
- G3806 **文蔵**(ぶんぞう・駒形こまがた) ? - ? 歌舞伎作者;1821四世南北「三賀荘曾我島台」番付
- 文蔵(ぶんぞう・秋山) → 富南(ふなん・秋山、郷士/儒/地誌) D 3 8 5 7
- 文蔵(ぶんぞう・東条) → 一堂(いっとう・東条とうじょう、儒者) B 1 1 2 5
- 文蔵(ぶんぞう・奈良) → 一徳斎(いっとくさい・奈良なら、医者/書) H 1 1 7 3
- 文蔵(ぶんぞう・茨木) → 皆山(かいざん・茨木いばらぎ、漢学者) H 1 5 1 6
- 文蔵(ぶんぞう・田近/伊藤) → 鏡河(きやうか・伊藤いとう、儒者) N 1 6 3 8
- 文蔵(ぶんぞう・田/岡田) → 竹圃(ちくぼ・岡田おかだ/田、儒者/詩) D 2 8 7 6
- 文蔵(ぶんぞう・皆川) → 淇園(きえん・皆川みながわ、儒者) 1 6 0 4
- 文蔵(ぶんぞう・内田) → 鶴洲(ていしゅう・内田うちだ、儒者/文筆家) B 3 0 0 9
- 文蔵(ぶんぞう・桑名) → 元章(もとあき・桑名くわな、儒者) B 4 4 9 4
- 文蔵(ぶんぞう・鈴木) → 小蓮(しょうれん・鈴木/木、儒者/詩文) M 2 2 0 4
- 文蔵(ぶんぞう・伊藤) → 弘菴(こうか・伊藤いとう、藩士/儒者) H 1 9 7 7
- 文蔵(ぶんぞう・南川) → 蔣山(しょうざん・南川みなみかわ、藩儒/医) S 2 2 5 3
- 文蔵(ぶんぞう・谷) → 高當(たかまさ・谷たに、国学者) Y 2 6 1 4
- 文蔵(ぶんぞう・田島) → 政純(まさずみ・田島たじま、藩士/兵法家) D 4 0 0 0
- 文蔵(ぶんぞう・磯村) → 吉徳(よしのり・磯村いそむら、和算家/藩士) F 4 7 7 9
- 文蔵(ぶんぞう・青木) → 昆陽(こんよう・青木、儒/蘭学/甘藷研究) 1 9 5 5

文蔵(ぶんぞう・杉崎) → 天年(てんねん・杉崎すぎさき、儒者) E 3 0 1 5
 文蔵(ぶんぞう・中田) → 高寛(たかひろ・中田なかつ、藩士/和算家) N 2 6 0 7
 文蔵(ぶんぞう・田口/石合) → 江村(こうそん・石合いしあい/田口/古畑、儒者) G 1 9 3 9
 文蔵(ぶんぞう・加藤) → 敬直(たかなお・加藤かとう、和漢/考古学) M 2 6 5 2
 文蔵(ぶんぞう・東条) → 方庵(ほうあん・東条とうじょう、儒者) 3 9 1 0
 文蔵(ぶんぞう・箕浦) → 靖山(せいざん・箕浦/佐々木、藩士/儒者) B 2 4 7 5
 文蔵(ぶんぞう・高橋) → 秀幸(ひでゆき・高橋たかはし、和算家) E 3 7 0 7
 文蔵(文造ぶんぞう・前川) → 秋香(しゅうこう・前川まえばわ、漢学/蘭学) X 2 1 2 1
 文蔵(ぶんぞう・美濃屋) → 恒成(つねなり・瀬川/山川、戯作者) C 2 9 9 5
 文蔵(ぶんぞう・松本) → 眉山(びざん・松本まつもと、俳人) C 3 7 3 2
 文蔵(ぶんぞう・玉沢) → 良澄(よしずみ・玉沢たまざわ、藩士、歌人) D 4 7 8 5
 文蔵(ぶんぞう・谷頭) → 溟南(めいなん・谷頭やがしら、藩士、儒者) 4 3 3 2
 文蔵(ぶんぞう・箕作) → 秋坪(しゅうへい・箕作みつくり/菊池、洋学者) Y 2 1 3 1
 文蔵(ぶんぞう・木内) → 保田(やすひさ・木内きうち、神職/国学) C 4 5 7 4
 文蔵(ぶんぞう・高坂) → 正信(まさのぶ・高坂こうさか、国学者) P 4 0 7 1
 文蔵(ぶんぞう・関) → 文道(ふみみち・関せき、国学者) I 3 8 3 8
 文蔵(ぶんぞう・仙石) → 釐(おさむ・仙石せんごく、代官/国学者) D 1 4 9 7
 文藻庵(ぶんそうあん・小宅) → 文藻(あやも・小宅おやけ、商人/国学/画) F 1 0 1 6
 文藻舎(ぶんそうしゃ) → 春渚(しゅんしよ・文藻舎、御師職/俳人) J 2 1 8 9
 文荘先生(ぶんそうせんせい) → 金華(きんか・平野、儒/詩人) 1 6 5 7

G3807 **蚊足**(ぶんそく・和田わた) 1646 - ? 京の俳人:常矩門/1684江戸住;芭蕉門、嵐雪の隣に住、
 のち素堂の仲介で甲斐谷村藩主秋元家に出仕、1685風瀑「一楼賦」入、
 1686其角「新山家」歌仙入、87尚白「孤松」入/88嵐雪「若水」入/91「猿蓑」入、
 [灰猫と美男くらべの弥生かな](一楼賦;病後)、
 [神田祭の鼓うつ音](猿蓑;三/あとに嵐雪の付句)、
 [蚊足(;号)の通称/別号]通称;源七郎、別号;丁亥郎/円常

H3826 **文足**(ぶんそく) ? - ? 江中期京俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」2句入

G3808 **汶邨**(汶村ぶんそん・松居まつい、名;師薑、別号;九華亭、野蓼斎)?-1712 彦根藩士/俳・画:森川許六門、
 1706許六「本朝文選ほんちようもんぜん」編集参加:清書・跋文(;「以呂波文字後序」執筆)、
 1712許六「正風彦根躰しやうふうひこねてい」巻末に汶村著「借錢涅槃経」入

G3809 **文村**(ぶんそん・目賀田めがた、名;宇隆/守道) 1813-1880 68 江戸下谷鳩組前・和泉橋通の絵師:
 谷文晁門、徳川清水家の用人、「浮世絵巻」画、
 [文村(;号)の字/通称/別号]字;士蝶、通称;帯次郎/帯刀、別号;介庵

文尊(ぶんそん・革嶋) → 宜昌(よしまさ・革嶋かわしま、絵師) H 4 7 1 3
 糞尊者(ぶんそんじや) → 田鶴樹(たづき・浅見、俳人) 2 6 3 6
 文太(ぶんた・井上/南宮) → 大湫(たいしゅう・南宮なんぐう/井上、儒者) B 2 6 5 3
 文太(ぶんた・宮原) → 竜山(りゅうざん・宮原みやはら、藩儒) E 4 9 1 9
 文太(ぶんた・宮原) → 炳友(あきとも・宮原、竜山男/儒者/歌) L 1 0 6 1
 文太(ぶんた・清水) → 国通(くにみち・清水しみず、商家/歌人) E 1 7 2 2
 文太(ぶんた・中村) → 水城(みづき・中村なかむら、藩士/神職/歌) J 4 1 7 4
 文太(ぶんた・村上) → 量敏(かずとし・村上/岡本、藩士/地誌) V 1 5 9 2
 文泰(ぶんたい) → 文泰(ふみやす;号・松浦まつうら、俳人) E 3 8 0 9

G3810 **文代**(ぶんだい・梁) ? - ? 江前期伊勢の俳人;

1694「麓ふもとの旅寐」編(井筒屋庄兵衛版/園女を訪問記念集)[1702轍士「花見車」目録入]

G3811 **文台**(ぶんだい;通称・広岡ひろおか)?-1810 伊賀上野の医者;京の赤松滄洲門;儒と医を修学、
 医を業とする;医学研究に専念、詩文を嗜む、「雑病考」「傷寒論註釈」著

G3812 **文台**(ぶんだい・鈴木すずき、見義男) 1796-1870 75 越後粟生津の漢学者:後藤託玩・太田芝山門、
 江戸に出て病を得て帰郷;私塾長善館を開設し教授講説、1851長岡藩主牧野忠恭に謁見、
 1816「草堂集」編、「周易卦象解」「文台詩草」「文台詩文稿」「老子集成」「喫煙詩話」外著多数、
 [文台(;号)の名/字/通称/別号]名;弘、字;子毅、通称;陳蔵、別号;石舟、

長谷川強庵・蘇山らの師

- 文台屋治郎兵衛(ふんたいやじろべえ) → 治郎兵衛(じろべえ・文台屋、書肆) Q 2 2 5 2
- 文達(ふんたつ; 法諱) → 斧屋(ふおく; 道号・文達、曹洞僧) B 3 8 2 4
- 文達(ふんたつ・御菌) → 常斌(つねあき・御菌みその、鍼医) B 2 9 5 1
- 文達(ふんたつ・谷口) → 遷(うつる・谷口たにぐち、医者/歌人) E 1 2 7 8
- 文太夫(ふんだゆう・仙田) → 教怡(のりやす・仙田せんだ、和学者/歌人) I 3 5 8 4
- 文太夫(ふんだゆう・中村) → 守臣(もりおみ・中村なかむら、国学者/神道) F 4 4 2 3
- 文太夫(ふんだゆう・中村) → 守手(もりて・中村/永井、守臣の養子/神職/国学/歌) F 4 4 8 7
- 文太夫(ふんだゆう・高島) → 宣陽(のぶはる・高島たかしま/沢、代官/歌) I 3 5 9 4
- 文太夫(ふんだゆう・宮崎) → 安貞(やすさだ・宮崎、農学者/開拓) B 4 5 3 9
- 文太夫(ふんだゆう・出淵) → 豊矩(とよのり・出淵でぶち、歌人) V 3 1 7 9
- 文太夫(ふんだゆう・丸尾) → 清謙(きよかた・丸尾まるお、国学/歌人) V 1 6 2 9
- 文太夫(ふんだゆう・三岡) → 焼餅道人(しょうへいどうじん・三岡みおか、藩士/歌) V 2 2 2 7
- 分陀利(ふんたり) → 鈴応(れいおう; 法諱・武川、浄土僧/俳人) B 5 1 5 5
- 芬陀利華院(ふんたりにけいん) → 内経(うちつね・一条、関白/歌人) 1 2 7 3
- 芬陀利花院前関白内大臣家新少将(ふんたりにけいのさきのかんぱくないだいにんけのしんしょうしょう)
- 新少将(しんしょうしょう・歌人) E 2 2 6 4
- 芬陀利華庵(ふんたりにけいあん) → 菅江(かんこう・朱楽、幕臣/狂歌) 1 5 4 7
- 芬陀利華庵(2世ふんたりにけいあん) → 園村竹(そのむらたけ、商家/狂歌) E 2 5 1 7
- 文太郎(ふんたろう・河本) → 公輔(きんすけ・河本かわもと、国学者) C 1 6 5 5
- 文太郎(ふんたろう・古賀) → 毅堂(こくどう・古賀こが、藩士/儒者/詩) C 1 9 3 9
- 文太郎(ふんたろう・関) → 赤城(せきじょう・関せき、漢学者/地誌家) D 2 4 5 8
- 文太郎(ふんたろう・沢田) → 東里(とうり・沢田さわだ、書家) I 3 1 1 5
- 文太郎(ふんたろう・加藤) → 礼文(ひろふみ・加藤かとう、国学者) I 3 7 9 8
- 文太郎(ふんたろう・堅田) → 種知(たねとも・堅田かただ、神職/和漢学/歌) W 2 6 4 9
- 文太郎(ふんたろう・河本) → 公輔(きんすけ・河本かわもと、国学/歌人) U 1 6 0 3
- 文潭(ふんたん・松倉) → 恂(じゆん・松倉まつくら、藩士/財政/記録) 2 1 8 7
- 文端先生(ふんたんせんせい) → 臨臯(りんこう・伊藤いとう、儒者) K 4 9 2 5
- G3813 **文螭**(ぶんち・庄司しょうじ、名; 義継/幼名虎太郎、善雲男) 1782-1852⁷¹ 秋田阿仁前田の生、
上京; 絵師; 初め狩野派のち河村文鳳・琦鳳門、書/篆刻、正風俳人、「庄司文螭翁印譜」著、
[文螭の字/通称/別号]字; 志篤、通称; 兵蔵、別号; 鍾秀亭/森嶺舎/馬得
文智(ぶんち) → 文智(もんち・僧/歌人) I 4 4 3 1
- G3814 **文智女王**(ぶんちじよおう、後水尾天皇皇女、母; 四辻公遠女の与津子[およつ]) 1619-97⁷⁹
1631鷹司教平と結婚; 34離婚/40得度; 臨濟僧一糸文守禪師門、1641修学院に草案を結ぶ、
1645近江永源寺入/56大和添上郡八島村に結庵; 円照寺と称す、歌/画を嗜む、「携葉集」著、
「梅宮消息」1687「普門山規矩」著、円照寺に「血書 般若経」「手皮経」(手の剥皮の書)が残る、
[文智女王の通称/法名]通称; 梅宮/沢宮、法名; 文智/大通文智
- G3815 **文中**(ぶんちゆう) ? - ? 俳点者; 1696良弘「俳諧高天鶯」入、
1705草芥堂「俳諧万人講」入/06団水「こゝろ葉」連句入
- G3816 **文仲**(ぶんちゆう・中島なかじま/修姓; 島、名; 元渙) 1742-1800⁵⁹ 三河の儒者; 斎いつき静斎門、「詩艸藁」著、
[文仲(; 字)の通称]源蔵、玄谷の父
- G3817 **文仲**(ぶんちゆう・原沢はらさわ、名; 誼/義誼) 1764-1839⁷⁶ 上州上野田の医者; 熊谷の三浦無窮門/外科、
華岡青洲や長崎の蘭医と交流、「整骨図説」、義道の父、
[文仲(; 号)の字/別号]字; 子恕、別号; 圭亭、
- G3818 **文沖**(ぶんちゆう・新妻にいづま/初姓; 井上、名; 翊よく) 1767-1846⁸⁰ 新妻周庵の養嗣子、日向延岡藩医、
古医方; 京で岑少翁門、1822延岡藩の上士格(新知120石)、「橙廬詩集」「傷寒論註」著、
[文沖(; 字)の号] 旭峯
- 文衷(ぶんちゆう・石井) → 扱所(たくしよ・石井、儒者) O 2 6 0 4
- 文中(ぶんちゆう・坂) → 徴(ちよう・しるし・坂さか、国学者/教育) H 2 8 0 7
- 文中(ぶんちゆう・三宅) → 嘯山(しょうざん・三宅、商家/詩/俳人) S 2 2 5 0

- 文中(ぶんちゆう・加藤) → 行忠(ゆきただ・加藤かとう、藩侍医/国学) G 4 6 7 1
 文中(ぶんちゆう・後藤) → 文中(ふみなか・後藤ごとう、医者/歌人) I 3 8 2 5
 文仲(文中ぶんちゆう・本田) → 東陵(とうりょう・本田ほんだ、儒者) I 3 1 2 9
 文仲(ぶんちゆう・織田/伊東) → 貫斎(かんさい・伊東いとう、蘭医/幕府医) Q 1 5 6 9
 文仲(ぶんちゆう・有馬) → 元晁(げんちやう・有馬ありま、藩士/蘭学) L 1 8 3 8
 文仲(ぶんちゆう・安達) → 清河(せいが・安達、修験/儒者/詩文) 2 4 8 0
 文仲(ぶんちゆう・端) → 春荘(しゅんそう・端たん/はし、儒者/詩人) K 2 1 1 8
 文仲(ぶんちゆう・小林) → 元有(もとあり・小林こばやし/林、国学者) J 4 4 9 5
 文仲(ぶんちゆう・栗山) → 孝庵(2世こうあん・栗山、医者/解剖) H 1 9 2 2
 文仲(ぶんちゆう・西川) → 藁園(こうえん・西川にしかわ、医者/詩) H 1 9 7 0
 文仲(ぶんちゆう・佐藤) → 寛雄(ひろお・佐藤さとう、神職/地誌家) F 3 7 5 9
 文忠(ぶんちゆう・宮崎) → 古崖(こがい・宮崎みやざき/修姓;宮、儒者) F 1 9 4 8
 聞中(ぶんちゆう;道号) → 聞中(もんちゆう;道号・浄復;法諱、黄檗僧) I 4 4 6 6
 文忠堂(ぶんちゆうどう) → 百淵(ひやくえん・鈴木すずき、心学者) E 3 7 4 5
 文緒(ぶんちゆう・鈴木) → 晝緒(晝雄/文緒ふみお・鈴木、国学者) H 3 8 8 2
- G3819 **文鳥**(ぶんちゆう・秋山あきやま、名;昌逸、宮崎荊口けいこう3男)?-1743 美濃大垣藩士、俳人:蕉門、
 此筋しきん・千川せんせんの弟、1691路通「勸進牒」95浪化「有磯海」入/98「続猿蓑」1句入、
 1700杉風「冬かつら」入、
 [ちか焼きや麦からくべて柳鮠やなぎばえ](続猿蓑;卷下/川狩にいでて)
 [文鳥(;号)の通称/法号]通称;景右衛門
- 3833 **文朝**(ぶんちゆう) ? - ? 安藝巖島の俳人、
 [猫の寝る膝の日南ひなたや冬牡丹](1752野坡追善「十三題」入)
- G3820 **文長**(ぶんちゆう・高橋たかはし、3世羽笠うりゅう、2世羽笠弥右衛門男)?-? 尾張熱田の商家橋屋の生、
 俳人;父2世羽笠門、1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨13回忌追善集)入、
 1782蕪村「花鳥篇」入;
 [先へ来て友にししのぶや花の山](花鳥篇;67)、
 父 → 羽笠(2世うりゅう・高橋弥左衛門、商家/俳人) B 1 2 0 3
- G3821 **文兆**(ぶんちゆう・岩下いわした、名;親利、平輔[平兵衛]男)1728-180477 信濃善光寺大門町の商家葛屋、
 素封家、俳人:士朗門、信濃俳壇の代表者/弟希言も俳人、1796「有明山」/1800「冬扇」編、
 「さるすべり」「反古袋」「老のすさび」著、追善集「かいくつ」(希言・草司編;1805刊)、
 [文兆の字/別号]字;平也、別号;夕陽亭/夕陽楼/蟹窟/二露庵/草露庵、貞融さだみちの父
 弟 → 希言(きげん・岩下いわした、薬種商/俳人) B 1 6 0 9
- G3822 **文趙**(ぶんちゆう) ? - ? 相模の俳人;雑俳、
 1766阿曾万呂「さがみぶり」前句付入
- G3823 **文調**(ぶんちゆう・一筆斎、姓;守)?-? 江中期1751-72頃狩野派絵師:幸元門、
 1770「絵本舞台扇」著、「東八景」画
- G3824 **文晁**(ぶんちゆう・谷たに、名;正安/文朝/文晁、漢学者谷麓谷らくこく男)1763-184078 江戸下谷の生、
 絵師;;1772(10歳)頃加藤文麗門;狩野派の技法習得、1779-80(17-8歳)頃渡辺玄対門、
 さらに鈴木芙蓉・北山寒巖・渡辺南岳門、1788田安家に出仕、1789-90頃長崎に游学、
 1792白河藩主松平定信の近習、大阪の木村兼葭堂巽斎を訪問/明清画;釧雲泉・張秋谷門、
 司馬江漢の洋風画法も習得/独自の画風を展開、古典の研究/諸国巡遊、安之・文啓の兄、
 妻;林幹々/後妻;阿佐子、門人;渡辺華山・高久靄厓・立原東軒・田能村竹田ら多数、
 1795「画学集説」1805「篁村吟藁」06「酬夢編」09「画学斎図稿」11「文晁画談」17「写山楼画本」、
 1825「宮城野聚勝園記」26「常陸紀行」37「清風集」38「酒仏妙楽経」、「文晁画譜」外画多数、
 [文晁(;号)の字/通称/別号]字;子方/子穆/文晁、通称;文伍/文五郎、
 別号;文朝/師陵/山東居士/東海/一如/南臈楼/写山/写山楼/画学斎/画禅居士、
 水雲軒/蝶老/蜨叟しゅうそう/無二道人/楽山、剃髮号;仏心/文阿弥、法号;本立院
- 文澄(ぶんちゆう・安田) → 東亭(とうてい・安田やすだ、医者) G 3 1 6 2
 文澄(ぶんちゆう・村) → 純清(すみきよ・村むら、文筆家) D 2 3 5 7
 文調(ぶんちゆう・朝山) → 重直(しげなお・朝山あさやま、勝部、国学) N 2 1 1 8

- 文暢(ぶんちやう・宮杜) → 藍齋(らんさい・宮杜みやもり、医者/詩人) C 4 8 2 5
 文暢(ぶんちやう・藍沢) → 朴齋(ぼくさい・藍沢あいざわ、儒者/教育) D 3 9 1 9
 聞朝(ぶんちやう; 初法諱) → 契中(けいちゆう; 法諱・常寂房、天台僧) G 1 8 3 5
 文鳥庵(ぶんちやうあん) → 管鳥(かんちやう・不夜庵3世、俳人) R 1 5 4 1
 聞潮齋(ぶんちやうさい) → 龜世(きせい・下郷しもと/千代倉、造酒業/俳人) B 1 6 3 4
 文鳥舎(ぶんちやうしゃ) → 銀獅(ぎんし・文鳥舎、俳人) R 1 6 1 2
 文徴堂(ぶんちやうどう) → 茂喬(しげたか・文屋、吉田新兵衛、書肆/狂歌) C 2 1 3 2
 文直(ぶんちやく・飯島) → 温郷(おんきやう・飯島、歌人) D 1 4 3 9
 文鎮舎(ぶんちんしゃ) → 蟹雄(かにお・文鎮舎、狂歌) F 1 5 6 0
 文通先生(ぶんつうせんじやう; 諡号) → 恒齋(こうさい・片山、藩士/儒者) F 1 9 0 3
 文通先生(ぶんつうせんじやう; 諡号) → 青邨(せいそん・広瀬/矢野、漢学者) C 2 4 5 6
 G3825 **文定**(ぶんてい) ? - ? 伊勢山田の俳人; 1633重頼「犬子えの集」2句入、
 [木々の葉のちり穴なれや谷の底](犬子集; 六1350/塵穴は塵を捨てる穴)
 文亭(ぶんてい・太田) → 之信(ゆきのぶ・太田おた、藩医/歌人) G 4 6 6 9
 文貞(ぶんてい/もんじやう; 字) → 日徴(にちちやう; 法諱・玄成院、日蓮僧) F 3 3 2 2
 文貞(ぶんてい/もんじやう; 字) → 日芳(にっぽう/日忠; 法諱、日蓮僧) F 3 3 6 0
 文貞(ぶんてい・甲斐) → 士幹(しかん・甲斐かい、漢学/医者) P 2 1 8 5
 文貞(ぶんてい・恒川) → 文貞(ふみさだ・恒川つねかわ、医者/国学) I 3 8 5 0
 文定(ぶんてい・高橋) → 文定(ふみさだ・高橋たかはし、藩士/歌人) I 3 8 4 3
 文定(ぶんてい・矢畑) → 直方(なおかた・矢畑やはた、神職/国学) P 3 2 1 3
 文邸(ぶんてい・馬淵/馬) → 文邸(ふみいえ・馬淵まぶち/馬、和算家) D 3 8 8 0
 文禎(ぶんてい・岩永) → 藿齋(かくさい・岩永いわなが、医者/本草) J 1 5 8 4
 文庭(ぶんてい・中津) → 文庭(ふみにわ・中津なかつ、神職/教育) I 3 8 5 3
 聞諦(ぶんてい; 法諱) → 聞諦(もんたい; 法諱、浄土僧) I 4 4 3 0
 文亭綾継(ぶんていあやつぐ; 戯作号) → 桂素(けいそ・宮崎、俳人/戯作) 1 8 8 1
 文亭一通(ぶんていいつつう) → 一通(いつつう・文亭、狂歌) D 1 1 8 1
 G3826 **文亭箕山**(ぶんていきざん・曳白山人)?-? 江後期1804-30頃大阪の戯作者、
 1807「安達原」/09「絵本撃仇談」/敵討氷上霜」/24「根篠雪」著
 文貞公(ぶんていこう; 諡/贈太政大臣) → 師賢(もろかた・花山院、南朝臣/歌) H 4 4 1 2
 文貞公女(ぶんていこうのむすめ) → 師賢女(もろかたのむすめ・花山院、新葉集歌人) H 4 4 1 4
 噴嚏子(ぶんていし) → 沢庵(たくあん; 道号・宗彭、臨濟僧/詩歌) E 2 6 1 8
 文貞先生(ぶんていせんせい) → 荊山(けいざん・日尾ひお、儒者/詩人) 1 8 0 5
 文貞先生(ぶんていせんせい) → 竹厓(ちくがい・石川、儒者) C 2 8 7 7
 文迪(ぶんてき・安江) → 正美(まさみ・安江やすえ、医者/歌) T 4 0 3 3
 文才舎(ぶんてきしゃ) → 藤角(とうかく・木沢、俳人) C 3 1 1 0
 G3827 **分哲**(ぶんてつ・長尾ながお、名; 伯濬、高松藩医長尾養寿男) 1672-1740⁶⁹ 医者; 父門/1725幕府寄合、
 1726西丸奥医師/法眼、「頤生座右銘俗解」著、[分哲(; 通称)の法号]日濬にっしゅん
 聞哲(ぶんてつ; 法諱) → 聞哲(もんてつ; 法諱・西海; 号、僧/歌人) I 4 4 3 2
 聞天館(ぶんてんかん) → 鶴鳴(かくめい・九阜庵、藩士/文筆家) E 1 5 7 9
 G3828 **聞斗**(ぶんとう) ? - ? 俳人; 1666一雪「阿波千句」百韻入
 文度(ぶんど・ふみのり?・松平) → 世軌(つぐのり・松平まつだいら、幕臣) G 2 9 3 8
 G3829 **文東**(ぶんとう・楓谷庵、希吉庵/弄風庵ろうふうあん)?-? 駿河の俳人; 寸長門、1749「俳諧鑑草」編
 H3872 **文桃**(ぶんとう) ? - ? 江前期俳人; 蕉門、1685風瀑「一樓賦」入、
 [世をうたふ家首花の大器たり](一樓賦)
 G3830 **文堂**(ぶんどう・七条しちじやう、名; 安尚、宗民男/本姓; 藤原) 1782-1854⁷³ 阿波板野郡七条村の医者、
 藩医林東儀門、国学・歌・本草学; 京の大江広海門、1804頃徳島で開業医/九州遊歴; 蘭学修得、
 1837郷里七条村で開業医; 和漢学・画に長ず、山野より草根樹皮をを採集し治療に応用、
 1839「甘葛考」「砂糖考」「百世草」「吉備の道草」「後世方書薬能録」「白雲の日記」「随観抄」、
 「老百首」「世々のうもれぎ」「阿波瓦譜」「鏡草」「七条家系考証」著、

[文堂(；通称)の号]清香きよか/清川/勝間呂/瑞香舎/楨廼屋/金亀園/平安尚、
法号；藤原清香居士

文道(ふんどう・堺)	→	堺文道(さかいのふみみち、狂歌作者)	B 2 0 6 3
文道(ふんどう・関)	→	文道(ふみみち・関せき、国学者)	I 3 8 3 8
文堂(ふんどう・渡辺)	→	三休(さんきゅう・渡辺わたなべ、藩儒)	M 2 0 0 0
文堂(ふんどう・東条)	→	宗統(むねつぐ・東条とうじょう、国学者)	E 4 2 0 1
聞濤軒(ふんとうけん)	→	松宇(しょうう・松井まつい、名主/俳人)	F 2 2 2 9
聞濤軒(ふんとうけん)	→	痴漸(ちぜん・春海はるみ、茶人/商家)	N 2 8 3 5
文東陳人(ふんとうちんじん)	→	岐山(きざん・昇亭/池、読本作者)	K 1 6 6 3
文徳(ふんとく・斎藤)	→	彝斎(いさい・斎藤さいとう、藩士/儒者)	F 1 1 4 5
文徳(ふんとく・松岡)	→	蘆堤(ろてい・松岡まつおか、儒者/教育)	C 5 2 1 8
文篤(ふんとく・荒木)	→	痴堂(ちどう・荒木あらかき、書家)	E 2 8 9 2
文徳堂(ふんとくどう)	→	弥白(やはく・梅村うめむら、京書肆)	D 4 5 9 5
文徳堂(ふんとくどう)	→	治右衛門(じえもん・勝村、京書肆)	P 2 1 6 8
文内(ふんない・葛目)	→	朝風(あさかぜ・葛目くずめ、藩士/国学者)	C 1 0 6 7
文内(ふんない・加藤)	→	中孚(ちゅうふ・加藤かとう、藩士/詩人)	G 2 8 8 1
文内(ふんない・増田)	→	立軒(りっけん・増田ますだ、儒者/著述)	B 4 9 7 2
文内(ふんない・広沢)	→	文斎(ぶんさい・広沢ひろさわ、儒者)	F 3 8 3 0
文内(ふんない・江西)	→	常省(じょうせい・中江なかえ、漢学者)	T 2 2 8 3
文内(ふんない・石原)	→	正明(まさあき/まさあきら・石原、国学者/歌)	4 0 0 4
文内(ふんない・野津)	→	政屋(まさいえ・野津のぶ/竹屋、藩士/歌)	J 4 0 0 7
文内(ふんない・野津)	→	基明(もとあき・野津、政屋男/藩士/軍学)	B 4 4 9 9
文日堂(ふんにちどう)	→	礪川(れきせん、川柳作者)	5 1 0 8
文如(ふんによ)	→	光暉(こうき；法諱、真宗西本願寺僧)	I 1 9 1 5
文仁親王(ふんにんしんのう)	→	文仁親王(あやひとしんのう、霊元皇子、歌)	F 1 0 1 3
文尉(ふんのじょう・池永)	→	豹(秦良はだら・池永、国学者)	E 3 6 8 0
文之丞(ふんのじょう・柴田)	→	風山(ふうざん・柴田しばた、儒者/書)	3 8 6 8
文進(ふんのしん・柴田)	→	風山(ふうざん・柴田しばた、儒者/書)	3 8 6 8
文之進(文進ふんのしん・沼)	→	古濂(これん・沼ぬま/梅本、医者/儒者)	P 1 9 0 3
文之進(ふんのしん・宮原)	→	桑州(そうしゅう・宮原、藩儒/兵法/説話集)	H 2 5 8 2
文之進(ふんのしん・松下)	→	筑陰(ちくいん・松下まつした、藩士/儒者)	C 2 8 5 1
文之進(ふんのしん・山本)	→	時憲(ときり・山本やまと、藩士/暦算家)	J 3 1 7 8
文之介(ふんのすけ・堀家)	→	常房(つねふさ・堀家ほりけ、神職/国学)	G 2 9 3 2
文之助(ふんのすけ・高野)	→	蘭亭(らんでい・高野、儒者/詩人)	4 8 0 9
文之助(ふんのすけ・中山/幸田)	→	親盈(ちかみつ・幸田こうだ/中山、幕臣/暦算)	B 2 8 9 3
文之助(ふんのすけ・武富)	→	圯南(いなん・武富たけとみ、儒者/詩文)	I 1 1 1 3
文之助(ふんのすけ・牟田)	→	高惇(こうとん・牟田むた、藩士/武芸者)	F 1 9 3 2
文之助(ふんのすけ・桃井)	→	翠庵(すいあん・桃井/桃もも/坂根、藩儒/詩)	2 3 2 0
文之助(ふんのすけ・桃井)	→	筋山(せつざん・桃井/桃、翠庵養嗣/藩儒)	E 2 4 3 9
文之助(ふんのすけ・桜井)	→	百之(ももゆき・桜井さくらい、商家/国学)	K 4 4 0 7
文之助(ふんのすけ・羽石)	→	道根(みちね・羽石はねいし/藤原、国学者)	K 4 1 1 2
文之助(ふんのすけ・会田)	→	吾山(ござん・会田あいだ/越谷こしがや、俳人/方言研究)	C 1 9 6 6
分之助(ふんのすけ・佐藤)	→	忠泰(ただやす・佐藤さとう、藩校総裁/国学)	X 2 6 2 5
文廼門(ふんのもん)	→	千寛(ちひろ・茅舎かや、権田万次郎、藩士/狂歌)	F 2 8 2 5

G3831 **文坡**(ふんば・大江おおえ/修姓；江、名；匡弼ただすけ) ? - 1790 日向の僧/京で還俗/神道；神仙道を主唱、読本/説教本作者；怪談・奇談など、「小野小町行状記」、1765「勸善桜姫伝」67「勸闡風葉」、1771「抜参残夢嘶ぬけまいりざんむばなし」75「商人黄金袋」85「会談浅間が嶽」90「庚戌運氣考」外著多、
[文坡(；字)の号]菊丘臥仙人/臥仙子/天賜観

G3832 **文波**(ふんば) ? - ? 俳人；1783維駒「五車反古」入；
[風薫る森の木陰や弓の音](五車反古)

- 汶巴(ぶんぱ) → 汶巴(もんぱ、俳人)
 文白(ぶんぱく・関屋) → 致鶴(ちかく・関屋せきや、医/儒者) 2 8 8 5
 文伯(ぶんぱく・山辺) → 篤雅(あつまさ・山辺やまべ、医者/産科) E 1 0 8 2
 文伯(文璞ぶんぱく・南川) → 金溪(きんけい・南川みなみかわ、医/詩人) H 1 6 8 0
 G3833 文八(ぶんぱち・毛利) ? - ? 江戸前期京の書肆, 1675「書籍題林」編
 文八(ぶんぱち・星川) → 清晃(きよあきら・星川、藩士/国学者) N 1 6 0 5
 文八(ぶんぱち・恩田) → 敬休(たかやす・恩田おんだ、儒者) N 2 6 5 4
 文八(ぶんぱち・坪川) → 常通(つねみち・坪川つばかわ、和算家) D 2 9 8 8
 文八(ぶんぱち・一定) → 豊久(とよひさ・一定いちさだ、国学/勤王) U 3 1 2 3
 文八郎(ぶんぱちろう・金井) → 万戸(ばんこ・金井かない、俳人) H 3 6 5 7
 文範(ぶんぱん・藤原) → 文範(ふみのり・藤原ふじわら、廷臣/歌人) D 3 8 9 9
 G3834 文皮(ぶんび・磯田いそだ、三文字屋治兵衛[拓雨]男) 1749-1809 61 京の島原場屋対篁楼の生、
 俳人;夜半亭俳席で活動、1772几董「其雪影」73「明鳥」76「続明鳥」各1句入、
 1777蕪村「夜半楽」82「花鳥篇」83維駒「五車反古」各1句入、
 [離れ家や門田のわきの鶏頭花](続明鳥;乙563/黄金の稲穂と鶏頭の鮮烈さ)
 G3835 文皮(ぶんび・岡井おかい/旧姓;門馬もんま、名;彪)?-1822 1801岡井赤城の養子/04家督:讃岐高松藩儒、
 中寄合/使番格、「読戦国策」著、門馬右馬助(津軽家臣)の弟
 [文皮(;字)の通称/号]通称;初四郎/郡太夫、号;凶南、
 養父 → 赤城(せきじょう・岡井、嵯州男/藩儒) D 2 4 5 4
 文美(ぶんび/ふみよし・松本) → 賀慶(がけい・松本まつもと、和算家) K 1 5 7 8
 文弼(ぶんびつ・斎木) → 垣斎(たなか・斎木さいき、藩士/儒者) T 2 6 2 0
 文豹(ぶんひょう・大喜多) → 蔚(しげる・大喜多おおきた、諸学/教育) T 2 1 1 8
 文彬(ぶんびん・尾芝) → 静所(せいしよ・尾芝、質、儒者/詩人) I 2 4 7 5
 文敏(ぶんびん・;諡号) → 羅山(らざん・林はやし、幕府儒官祖;幕政) 4 8 0 2
 文敏先生(ぶんびんせんせい;諡号) → 旭荘(きょくそう・広瀬ひろせ、儒者/詩) 1 6 4 4
 G3836 文溥(ぶんぷ・蔡さい、祝嶺親方しゅくみねうえかた) 1671-1745 75 琉球漢詩人/北京留学、「四本堂詩集」
 文布(ぶんぷ・服部) → 広布(ひろたえ・服部はっとり、藩士/国学) I 3 7 3 4
 文福茶釜蚊(ぶんぷくちふぶん) → 金鷲(きんが・梅亭、吉田/瓜生、幕臣/戯作) D 1 6 8 3
 吻々齋(ぶんぶんさい・横山) → 潤(じゅん・横山よこやま、本草家) 2 1 8 4
 G3838 文々舎蟹子丸(初世ぶんぶんしゃかにこまる・葛飾かつしか、久保有弘) 1780-1837 58 幕府与力/狂歌葛飾連主導、
 芍薬亭長根と文政調唱導、1826狂歌絵本「略画職人尽」編、1825「狂歌作者一覧」著、
 「狂歌明題集」編、
 [初世文々舎蟹子丸(;号)の本名/字/通称/別号]本名;久保有弘、字:匡寛、通称;泰十郎、
 別号;葛飾蟹子丸/裏堀蟹子丸(父の号?)/葛飾文々舎/葛飾翁/文々舎翁
 ☆後万載集入集の裏堀蟹子丸は父? → 蟹子丸(かにこまる・裏堀) F 1 5 6 1
 G3839 文々舎蟹子丸(2世・葛飾・久保有常、初号;文花楼清丸、初世蟹子丸男)?-? 江戸狂歌;葛飾連、
 父没後2世襲名/江戸牛込住、判者として活躍、1838「追福狂歌集」編
 G3840 文炳(ぶんぺい・菊田きくた、無酔居士)?-? 岩代絵師;白雲館社中、1781台州「魚籃先生春遊記」挿画
 G3841 文平(ぶんぺい・河南かわなみ) 1785-1847 63 江後期三河渥美郡田原の儒者/詩人:柏木如亭門、
 書・篆刻に長ず、書齋を寒林詩屋と名付く、1813「寒林刪余」著、
 [文平(;名)の通称/号]通称;川合庄七郎、号;硯漁/寧齋
 文平(ぶんぺい・田中/関せき) → 道齋(どうさい・田中/関、儒者) E 3 1 3 8
 文平(ぶんぺい・前田) → 東溪(とうけい・前田/一色、菊叢、藩儒) D 3 1 0 4
 文平(ぶんぺい・団/松浦) → 東溪(東溪とうけい・松浦、詩/記録蒐集) D 3 1 1 2
 文平(ぶんぺい・井/井上) → 金峨(きんが・井上、儒;折衷学者) 1 6 5 8
 文平(ぶんぺい・外山) → 直徳(なおのり・外山とやま、歌人) C 3 2 0 9
 文平(ぶんぺい・菅井) → 倉常(そうじょう、菅井すがい、医者) H 2 5 9 9
 文平(ぶんぺい・小原) → 君雄(きみお・小原おはら、藩士/国学/歌) B 1 6 8 1
 文平(ぶんぺい・清田) → 儂叟(たんそう・清田せいた/きよた、儒者/詩) I 2 6 4 9
 文平(ぶんぺい・赤松) → 翼(よく・赤松あかまつ/越智、儒者) B 4 7 7 0

- 文平(ぶんぺい・富永) → 惟安(これやす・富永とみなが、儒者) G 1 9 1 2
 文平(ぶんぺい・星野) → 蒼山(きざん・星野ほしの、儒者/尊王派) I 1 6 5 8
 文平(ぶんぺい・安見) → 晩山(ばんざん・安見やすみ、幕府儒官) H 3 6 8 6
 文平(ぶんぺい・赤根/松崎) → 武人(たけと・赤根あかね、奇兵隊総督) O 2 6 5 0
 文平(ぶんぺい・森) → 一鳳(いっぽう・森もり、絵師) H 1 1 9 3
 文平(ぶんぺい・釧) → 雲泉(うんせん・釧くしろ、絵師) D 1 2 8 7
 文平(ぶんぺい・岡本) → 監輔(けんすけ・岡本、儒/北辺防備主張) K 1 8 3 7
 文平(ぶんぺい・不破/高瀬) → 遊山(ゆうざん・高瀬たかせ、藩士/歌) B 4 6 9 5
 文平(ぶんぺい・堀田) → 光長(みつなが・堀田ほった、藩士/和算家) E 4 1 1 8
 文平(ぶんぺい・堀) → 蘭崖(らんがい・堀ほり、藩士/書家) B 4 8 6 7
 文平(ぶんぺい・鹿田) → 正明(まさあき・鹿田しかた、洋式兵学/藩士) B 4 0 0 9
 文平(ぶんぺい・岡村) → 御蔭(みかげ・岡村、神職/歌人) H 4 1 4 1
 文平(ぶんぺい・阿部) → 順二郎(じゅんじろう・阿部あべ、藩士) N 2 1 0 6
 文平(ぶんぺい・長沢) → 正緒(まさお・長沢ながさわ、名主/歌人) R 4 0 2 7
 文平(ぶんぺい・齋藤) → 昌風(まさかぜ・齋藤さいとう、国学者) P 4 0 9 5
 文炳(ぶんぺい・井口) → 蘭雪(らんせつ・井口いぐち、儒者) C 4 8 8 1
 文炳(ぶんぺい・野田) → 白石(はくせき・野田のだ、醸造業/詩/狂歌) D 3 6 4 7
 文炳(ぶんぺい・吉益) → 恬庵(てんあん・吉益よします、医者/儒者) D 3 0 1 1
 文昞(ぶんぺい→ふみあき・東儀) → 俊昞(としあき・東儀とうぎ、楽人) L 3 1 9 3
 文兵衛(ぶんべえ・関藤) → 藤陰(とういん・関藤せきとう/石川、藩儒/蝦夷踏査) B 3 1 0 7
 文兵衛(ぶんべえ・垣塚) → 東臯(とうこう・垣塚かきづか、藩士/職制) D 3 1 8 9
 文兵衛(ぶんべえ・末守) → 葛斎(かつさい・末守、俳人) S 1 5 5 0
 文兵衛(ぶんべえ・坂口屋) → 延年(のぶとし/えんねん・岡おか、商家/絵師) H 3 5 7 7
 分別五郎左衛門(ぶんべつごろうざえもん) → 恒隆(つねたか・望月もちづき、藩士/民政) C 2 9 3 5
 G3842 文母(ぶんぼ・小林こばやし、通称;庄蔵) 1723-9876 江戸俳人:蓼太・月巢門、1782月巢の時雨窓留守役、
 1785時雨窓継承、1775「玉婦伝」/82「望の花」/87「三の朝」「はるくさ」「葛人追善集」編、
 1790「づだ袋」「心一つ」「文母遺編」編、
 [文母の別号] 暁雨窓/時雨窓3世/飛花窓/飛花山人
 G3843 文輔(ぶんぼ・藤森ふじもり、五左衛門) 1713-180189 信州諏訪の紺屋/俳人:沾涼門、暁台・蘭更と親交、
 諏訪の代表的俳人、1777「保家野の春」編、
 [文輔(;)号]の通称/別号]通称;喜左衛門/喜右衛門/和三郎/平四郎、
 別号;曾良庵/右老房/沾楊/和泉屋、法号;風光院
 文甫(ぶんぼ→ふみすけ・土屋/後藤) → 知虎(ともとら・土屋、藩士/詩文) P 3 1 9 6
 文甫(ぶんぼ;字) → 日尊(にっそん;法諱・蓮成院、日蓮僧) E 3 3 9 5
 文甫(ぶんぼ・武居) → 用拙(ようせつ・武居たけい、儒者/教育) B 4 7 3 2
 文輔(ぶんぼ・奈良井) → 文輔(ふみすけ・奈良井ならい、歌舞伎作者) D 3 8 8 6
 文輔(ぶんぼ・機) → 文輔(ふみすけ・機はた、歌舞伎作者) F 3 8 8 6
 文輔(ぶんぼ・大村) → 重矩(しげのり・大村おむら、医者/歌) S 2 1 1 0
 文輔(ぶんぼ・篠沢) → 辣堂(らつどう・篠沢しのざわ、藩士/経史) B 4 8 4 7
 G3844 文房(ぶんぼう・坂上さかがみ、別号;此君観しくんかん) ?-? 江中期撰津伊丹の俳人:1747「俳諧歌袋」に初載、
 「滝清水」編、蜂房・雲郷・文人らと活動
 文房(ぶんぼう・万里小路) → 文房(ふみふさ・万里小路までのこうじ、廷臣/日記) E 3 8 0 1
 G3845 芬芳(ぶんぼう) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」1句入、
 [残雪ざんせつを見渡す兒かほの陽気也](卯辰集;一24/春の訪れ)
 G3846 文鳳(ぶんぼう・山口やまぐち) ? - ? 江中期上方歌舞伎作者;1769大坂三枡座で活動;
 並木十輔・竹本三郎兵衛らと協力、1774(安永3)頃まで上方作者として名を連ねる、
 1769十輔「傾城廓さとの苧環おだまき」番付
 H3800 文鳳(ぶんぼう・楊よう、嘉味田親雲上かみだべえちん経斎けいさい) 1744-180663 琉球首里漢学/詩人、徳仁の父、
 1800清国冊封使と交流唱和/1802官生、「四知堂詩稿」編、「琉館筆譚」著(石塚崔高と筆談)
 G3847 文宝(ぶんぼう・文宝亭ぶんぼうてい、姓;今井) 1768-182962 江戸飯田町中坂の茶商亀屋の婿養子、

狂歌:大田南畝門、師の筆跡に酷似し偽筆;亀贗といわれた、1818頃家業不振/28剃髪、蜀山人2世を名乗る、「三筋の糸」「筆満加勢」著、1806南畝「ひとと草」入/17「南畝莠言」編、兔園社友、

[文宝亭文宝の通称/別号]通称;亀屋久右衛門、別号;散木/食山人/蜀山人2世

- G3848 **文鳳**(ぶんぼう・河村かわむら、名;亀/馬声)1779-1821⁴³ 京の絵師:岸駒門、山水・美人画に長ず、一鳳・二鳳の父/琦鳳(;女婿)の養父、上田秋成と交流、1803「文鳳漢画」07-8「文鳳画譜」、1809「帝都雅景一覧」11「海道狂歌合」「金波園画譜」画・「漢画指南」、「文鳳山水遺稿」外多数、
[文鳳(;号)の字/別号]字;俊声(駿声)/五游、別号;有毛/首陽館/首陽官/白竜堂

文宝(ぶんぼう・大地) → 文宝(あやよし・大地おおち、藩士/詩/書) F 1 0 1 7

文方(ぶんぼう・名島) → 政方(まさみち・名島/北川/村主/秦/度会、医/国学) H 4 0 5 3

文邦(ぶんぼう・木村) → 春雄(はるお・木村きむら、仏画師/歌) K 3 6 0 6

文豊(ぶんぼう・斎藤/長瀬) → 文豊(ふみとよ・長瀬ながせ/斎藤、国学者) D 3 8 9 5

文鳳(ぶんぼう;号) → 円祥(えんしょう;法諱、真宗高田派僧) E 1 3 9 9

文彭(ぶんぼう・中川) → 憲斎(けんさい・中川なかがわ、書家) I 1 8 9 4

文峰(ぶんぼう) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7

文峰(ぶんぼう・村田) → 氏寿(うじひさ・村田、藩士/政治家) E 1 2 4 1

維寧(ぶんぼう・福尾/中西/元) → 淡淵(たんえん・中西/秋元、儒者) H 2 6 9 3

文芳翁(ぶんぼうおう) → 貞置(さだおき・織田/平、幕臣/茶人) H 2 0 8 4

文鳳陳人(ぶんぼうちんじん) → 松江(しょうこう・多湖たこ/湖、藩儒/詩人) S 2 2 1 3

文宝亭文宝(ぶんぼうていぶんぼう) → 文宝(ぶんぼう・文宝亭、今井、商家/狂歌) G 3 8 4 7

聞本(もんぼん → もんぼん;法諱) → 聞本(もんぼん;法諱・梅山ばいざん;道号、曹洞僧) I 4 4 4 1

- G3849 **文妙**(ぶんみょう;法諱) ? - ? 江後期肥後日蓮僧:実成寺住、1837「弘梁編」著

文妙上人(ぶんみょうしょうにん) → 印玄(いんげん;法諱、天台僧) I 1 1 5 2

- G3850 **文鳴**(ぶんめい・戸田とだ)1706 - 1766⁶¹ 京の俳人:高屋去音門、去音の好々舎継承、1763「蛙袋」編/64註釈「猿談義」著、

[文鳴の別号] 朝茶坊(房)/好々舎/敬山/雉随車/九臯子

- G3851 **文鳴**(ぶんめい・奥おく、名;貞章)? - 1813 京四条堺町東の絵師:円山応挙門;応挙十哲の1、狂歌を嗜む、1794「源平盛衰記図会」99「都林泉名勝図会」著、

[文鳴(;号)の字/通称/別号]字;伯熙/万襪/万禧まんき、通称;順蔵、

別号;栖霞/陸沈斎、法号;積功院

- G3852 **文明**(ぶんめい・平田ひらた、通称;太郎右衛門/別号;暁庵)?-1831 出羽鶴岡の酒造業/庄内藩御用達、質商を兼務/俳人:文二門、1825「めくるあき」編

文明(ぶんめい・三善) → 文明(ふみあきら・三善みよし、廷臣/詩) F 3 8 3 4

文明(ぶんめい・早川) → 文明(ふみあき・早川はやかわ、国学/歌人) D 3 8 7 9

文明(ぶんめい・蔭山) → 休安(きゅうあん・蔭山かげやま、俳人) B 1 6 8 9

文明(ぶんめい・道工) → 彦文(ひこぶみ・道工どうく、歌人/紀行) 3 7 7 0

文明(ぶんめい・佐久間) → 太華(たいか・佐久間、藩士/儒者) B 2 6 0 6

文明(ぶんめい・沢田) → 東洋(とうよう・沢田さわだ、書家) H 3 1 8 6

文明(ぶんめい・東条) → 方庵(ほうあん・東条とうじょう、儒者) 3 9 1 0

安明(ぶんめい・竹内) → 東門(とうもん・竹内たけうち、儒者/医者) H 3 1 4 6

文鳴(ぶんめい・岡田) → 雲洞(うんどう・岡田おかだ、里正/詩文) E 1 2 0 4

文明院(ぶんめいいん/ぶんみょういん) → 日薩(にっさつ;法諱・文嘉、日蓮僧) D 3 3 8 9

文明院(ぶんめいいん) → 正睦(まさよし・堀田/紀、藩主/老中) I 4 0 6 7

文明先生(ぶんめいせんせい;諡号) → 蕉園(しょうえん・中井なかい、儒者) H 2 2 2 8

文明亭(ぶんめいてい) → 堪忍舎二字守(かんにんしゃにじもり、狂歌) R 1 5 5 9

文明夫人(ぶんめいふじん) → 斉昭正室(なりあきのせいしつ・徳川とくがわ、歌人) N 3 2 9 7

文盲散人(ぶんもうさんじん) → 銀鷄(ぎんけい・平亭、畑、医者/狂歌) D 1 6 9 5

- 3825 **文彌**(ぶんみ)初世ぶんや・岡本おかもと)1633-1694⁶² 大阪の浄瑠璃太夫;

延宝1673-81頃大坂の伊藤出羽掾座に出勤、文弥節を創始;哀調を帯びた[泣き節]、1684「四十八願記阿弥陀の本地」著

- G3853 **文彌**(2世ぶんや・岡本おかもと、初名;今文弥) ?-? 浄瑠璃太夫;初世門?/元禄期1688-1704頃活動、門左衛門より前に世話浄瑠璃を手掛ける、1702「国仙野手柄日記」03「雁金文七秋の霜」著
文屋古文(ぶんやのこぶん、狂名)→ 東四郎(2世とうしろう・片野善長、書肆)
文屋茂喬(ぶんやのしげたか)→ 茂喬(しげたか・文屋、吉田新兵衛、書肆/狂歌) C 2 1 3 2
- G3855 **文屋安雄**(ぶんやのやすお、屋号;曾書堂/新甲堂[館]) ?-? 江戸市ヶ谷の書肆曾書堂主人/狂歌、1774熟寐「宝合の記」刊、「宝合図説」、85「後万載集」1首入
[文屋安雄(;号)の通称] 富田屋新兵衛
文屋古文(ぶんやのふるふみ、狂歌)→ 東四郎(2世とうしろう・片野/永楽屋、書肆) F 3 1 5 7
文屋安宇理(ぶんやのやすうり:狂歌名)→ 基定(もとさだ・辻本、書肆/狂歌) C 4 4 5 1
- H3802 **文由**(ぶんゆう・金屋かねや、金屋五郎兵衛[亭々]男) ?-? 1808前 江後期安藝広島の俳人;父門、1794「俳諧春風集」父らと共撰、1784?其両「昔の小篋集」入、1808六合追善「きさらぎ集」(3世玄蛙編)没後入;[苗代や風あたらしく色に出る]
- G3856 **文友**(ぶんゆう・野中のなか、別通称;澹庵) ?-? 代々越中富山藩医/医学:清水敬長門/傷寒治療に尽力、1825「三折須知」著
- G3857 **文友**(ぶんゆう・浅井あさい、通称吉六/別号;百草庵) ?-? 江戸後期名古屋俳人、1853「百人集」著
文友(ぶんゆう・榎内) → 文友(ふみとも・榎内かじうち、医者) D 3 8 9 4
文友(ぶんゆう→たかとも・日向/坂尾)→ 宗吾(そうご・坂尾/阪尾/日向、藩士/武術家) H 2 5 2 8
文雄(ぶんゆう・多治比) → 文雄(ふみお・多治比/丹堀、漢学/詩人) D 3 8 8 1
文雄(ぶんゆう・青山) → 文雄(ふみお・青山、陽明舎、神職/俳人) D 3 8 8 2
文雄(ぶんゆう・日下) → 世傑(せいけつ・日下くさか/孔/森、儒/詩) B 2 4 1 7
文雄(ぶんゆう・もんゆう・井上)→ 文雄(ふみお・井上、医者/歌学、歌人) 3 8 2 6
文雄(ぶんゆう;法諱・中西)→ 文雄(もんゆう;法諱、浄土僧/語学者) I 4 4 3 6
文雄(ぶんゆう・松岡) → 雄淵(おぶち・松岡、神道) B 1 4 9 1
文雄(ぶんゆう・近藤) → 戴斗(2世たいと・葛飾、絵師) B 2 6 9 1
文雄(ぶんゆう・早川) → 武英(たけひで・早川、藩士/樺太開拓) O 2 6 6 8
文遊(ぶんゆう・森岡) → 文遊(ふゆう・森岡、俳人) E 3 8 2 3
文友斎(ぶんゆうざい) → 信雅(しんが;号・高橋、俳人) N 2 2 5 5
- H3827 **文陽**(ぶんよう) ? - ? 江中期京俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」3句入
[日に飾る雉子きぎすは君がしらべ哉](万国燕13、日射しの中で鳴く雉子は君子の姿)
文揚(ぶんよう・毛) → 安趙(あんちよう・野村のむら、琉球音楽演奏) I 1 0 2 5
汶陽(ぶんよう・北川) → 堅壽(かたとも・北川きたがわ、武芸/兵法家) N 1 5 0 1
- G3858 **文翼**(ぶんよく・林はやし、字;子鵬) ?- ? 江戸中期尾張の儒者、1764「殊服同調集」編
文翼(ぶんよく・劉/宮瀬) → 竜門(りゅうもん・宮瀬みやせ、劉、儒者/詩) F 4 9 8 0
文翼(ぶんよく・宇井) → 愷翁(いおう・宇井うい、儒者) F 1 1 1 0
文翼(ぶんよく・山本) → 日下(にっか・山本、儒者) D 3 3 7 4
文来庵(ぶんらいあん) → 雁空(がんくう・関せき、俳人) Q 1 5 2 8
蚊雷居(ぶんらいきよ) → 政和(まさかず・近藤こんどう、医者/国学) P 4 0 7 6
- G3859 **文楽軒**(初世ぶんらくけん・植村うえむら、通称:道具屋与兵衛) 1751-1810⁶⁰ 淡路の人、大阪で人形浄瑠璃文楽を創設
- G3860 **文楽軒**(3世ぶんらくけん・植村、通称;嘉兵衛、釈信楽) 1781-1830⁵⁰ 人形浄瑠璃文楽座を経営
- G3861 **文楽軒**(4世ぶんらくけん・植村、3代文楽翁、2世男) 1813-87⁷⁵ 人形浄瑠璃文楽座を中興/経営
- G3862 **文瀾**(ぶんらん) ? - ? 尾張俳人;1689「あら野」2句入
[連れあまた待たせて結ぶ清水しみづ哉](あら野;四702)
- G3863 **文里**(ぶんり) ? - ? 江中期江戸の俳人;
1709言水「京拾遺」3吟歌仙/30午寂「太郎河」歌仙入
- G3864 **文狸**(ぶんり) ? - ? 江中期但馬生野の俳人:二柳と交流、1760「落葉籠」編
- G3865 **文里**(ぶんり・田辺/本姓藤原/修姓;田・藤) 1729-? 1814存 伊予大洲藩士/江戸;俳人;蓼太・涼袋門、帰郷後淡々門/晩年は中山村に隠棲;寺子屋創設、1801「俳諧思出草」09「去来抄解」著、
[文里の別号] 未足斎みそくさい/暫時舎
- G3866 **文鯉**(ぶんり、笑宿軒雨圭の孫) ?- ? 江後期筑前鞍手の俳人:蝶夢門、1792「松のしるし」編

- 文利(ぶんり・紀) → 文利(ふみとし・紀き、廷臣/歌人) D 3 8 9 3
 文理(ぶんり・斎藤一徳) → 監物(けんもつ・斎藤さいとう、神官/勤王家) M 1 8 5 0
 文理斎(ぶんりさい) → 宰陀(さいだ・苗村、俳人) 2 0 9 4
- 3827 **文流**(ぶんりゅう・錦にしき、姓;山村)?-? 江前中期大阪の俳人/浄瑠璃・浮世草子作者、1688頃竹本義太夫のため浄瑠璃を執筆/1691頃雑俳点者、92上京;醍醐寺の僧として修行、俳諧;言水門、1696大阪で俳諧活動;97閑水「ぬりがさ」入/出羽座付浄瑠璃作者、近松門左衛門の活躍に押され浄瑠璃を離れる、浮世草子作者;西鶴門、書肆松寿堂万屋彦太郎専属浮世草子作者、享保1716-36頃再び雑俳点者/浄瑠璃執筆、1701「傾城八花形」04「高名大福帳」05「棠大門屋敷」06「当世乙女織」「熊谷女編笠」、1708「好色手柄咄」15「心中恋の中道」21「徒然時世粧」19「熊野権現烏牛王」、「柿本人丸出生記」「雁金文七三年忌」「西行法師墨染桜」「北海道虎石」外著多数、[錦文流(;号)の別号] 嶋文流/錦頂子/梅梢庵
- G3868 **文竜**(ぶんりゅう・浅野あさの、丹羽仙庵[浅野祐輔]男) 1724-8461 越前金津の医者;父門、伯父浅野元達の養嗣子、碩学、加賀大聖寺藩主の招聘に応ぜず/福井に移住、1782「方準」編、[文竜(;名)の幼名/字/号]幼名;祐輔、字;士雲、号;恭斎/碓石けつせき
- G3869 **文竜**(ぶんりゅう・石井いひ、字;紀林) 1746-181974 武州埼玉郡備後村の俳人:素丸門、武新方連(地元俳壇)の会頭/1798判者/素丸の宜春園を継承、1775「西国順礼日記」著、1792「よりより」編/1800「俳諧如月田」編/06「俳諧三笑図」「箒の友」編、[文竜の別号] 起竹庵/宜春園ざしゅんえん2世/笛風楼/無窮庵
- G3870 **文柳**(ぶんりゅう・多賀たが、古梁坊雨岡男) 1770-183263 美濃六ノ井村俳人、美濃派の再和派の9世、1817「うきくさ集」「めぐるはる」編、23「東山十百韻」29「墨直し」編 [文柳(;号)の通称/別号]通称;六左衛門、別号;徐風庵
- G3871 **文竜**(ぶんりゅう・野口のぐち・本姓;橋、通称;京太夫)?-? 江後期長崎の文筆家/儒:加藤景範門?、1797「長崎歳時記」、「長崎図志」編
- G3872 **文竜**(ぶんりゅう・安岡やすおか)?-? 江後期美濃の医者:吉田長淑門/美濃岩村藩医、1805「手簡裁制」編
- G3873 **文竜**(ぶんりゅう・松岡まつおか、名;之吉)?-? 江後期;蘭医、和蘭医薬書を翻訳、「医原提要」「産科便談」「和蘭薬名鍵」著、[文竜(;字)の号] 百亭
- 文竜(ぶんりゅう・草川) → 綱忠(つなただ・草川、藩士/能書/教育) B 2 9 1 1
 文竜(ぶんりゅう・渡辺) → 成以(しげもち・渡辺/渡部、藩士/書家) S 2 1 9 2
 文竜(ぶんりゅう・加藤) → 泰済(やすずみ・加藤かとう、藩主/詩歌人) B 4 5 7 9
 文竜(ぶんりゅう・広江) → 殿峰(でんぼう・広江ひろえ、商家/詩/篆刻) E 3 0 3 0
 文竜(ぶんりゅう・源) → 東江(とうこう・沢田、儒者/書家) 3 1 1 0
 文竜(ぶんりゅう・加藤) → 泰済(やすずみ・加藤かとう、藩主/詩歌人) B 4 5 7 9
 文竜院(ぶんりゅういん;法号) → 泰済(やすずみ・加藤、藩主/詩歌人) B 4 5 7 9
 文竜館(ぶんりゅうかん) → 泰済(やすずみ・加藤、藩主/詩歌人) B 4 5 7 9
 文流斎(ぶんりゅうさい) → 養徳(ようとく・若宮わかみや、絵師) J 4 7 9 5
 文流斎(ぶんりゅうさい) → 東明(とうめい・度会わたらい、笹山良意/絵師) T 3 1 4 4
- G3874 **文梁**(ぶんりょう) ?-? 俳人;1783維駒「五車反古ほうぐ」入; [争はで行きかふ年ぞ蝸牛](五車反古)
- G3875 **文良**(ぶんりょう・星野ほしの、名;唯美) 1798-184649 磐城白河の絵師:久松南湖・大野泉祐門、白河藩主松平定信に出仕;1813(16歳)江戸詰絵師/谷文晁門、1823藩主桑名移封に同行、「浴恩園真景」画、[文良(;号)の通称/別号]通称;善輔、別号;爽/甲子山人かつしきんじん
- 文了(ぶんりょう・松尾) → 正文(まさふみ・松尾まつお、歌人) S 4 0 6 4
 文良(ぶんりょう・西/高橋) → 信直(のぶなお・高橋/西、藩医者) C 3 5 5 0
 文亮(ぶんりょう・山崎) → 普山(ふざん・山崎やまさき、医者/俳人) C 3 8 3 1
 文亮(文良ぶんりょう・東) → 夢亭(むてい・東ひがし/清水、儒医/詩文) 4 2 9 3

- 文良院(ぶんりょういん;法号)→ 利恒(としつね・土井どい、藩主) M 3 1 9 7
- G3876 文鱗(ぶんりん・鳥居/鳥井とりの、虚無斎)?-? 堺の俳人:江戸の芭蕉門/芭蕉庵再興に尽力、芭蕉に出山積迦像を贈る/越人・荷兮と交流、1685風瀑「一楼賦」入、86芭蕉「初懐紙評註」入、1686其角「新山家」校訂(;其角らとの4吟歌仙入)/88「続の原句合」参/89「あら野」4句入、[名月や年としに十二は有りながら](あら野;一)
- G3877 文綸(ぶんりん) ? - ? 俳人;珪琳門、1736竹郎「茶話稿」俳論入
- G3878 文琳(ぶんりん・八木やぎ、平太夫至前男)?-1815 岩代二本松藩士/儒:服部南郭門/藩校の文学、能書家;唐様、「世臣伝」著、
[文琳(;号)の通称/別号]通称;敬蔵/右文、別号;文林/退庵、法号;本立院
- G3879 文麟(ぶんりん・塩川) 1808 - 1877 7 京の絵師;円山四条派岡本豊彦門、一時国事に奔走、安政大獄後は画業に専念;京の絵師を組織し如雲社を起す、狂歌嗜む、1844「平安十詠」画、
[文麟(;名)の字/通称/号]字;子温、通称;図書ずよ、号;雲章/木仏道人/泉声/答斎/竹斎/可竹道人、文鵬の父
- 文琳(ぶんりん) → 康秀(やすひで・文屋、古今歌人) 4 5 2 5
- 文林(ぶんりん・山崎) → 直方(なおかた・山崎やまざき、医者/詩文) 3 2 9 3
- 文林(ぶんりん・島田) → 久達(ひさみち・島田しまだ、国学/歌人) J 3 7 8 0
- 文鱗(ぶんりん・大井) → 漁隠(ぎょいん・大井おおい/平、藩士/文筆) N 1 6 1 0
- 文林堂(ぶんりんどう) → 多田翁(ただのじい・田舎老人、書肆/俳/戯作) 2 6 3 0
- 文林堂(ぶんりんどう) → 泉壽(せんじゅ・中川ながわ、古銭学者) M 2 4 4 5
- G3880 文麗(ぶんれい・加藤かとう、名;泰高/泰都やすと、大洲藩士加藤春恒男) 1706-82 7 7 伊予大洲の生、大叔父加藤泰茂(幕臣)の養子;1714遺跡嗣;幕臣/御使番・西丸小姓組番頭/1756致仕、絵師:狩野周信門、谷文晁の師、1779「麗画選」画/「墨画雑画卷」画、
[文麗(;号)の通称/別号]通称;織之助/左兵衛、別号;予斎(;致仕後))
- G3881 汶嶺(ぶんれい・柴田/芝田しばた/修姓;柴、名;央) 1756-1801 4 6 江戸の書家:沢田東江門、儒;経史、1784「三体文淵遺珠」92「書法図」、「続文淵遺珠」編/「百日一放」著、「汶嶺遺稿」、
[汶嶺(;号)の字/通称/別号]字;子華、通称;清八郎、別号;脩芝
- G3882 文礼(ぶんれい・大竹おおたけ、名;善之丞) 1789-1852 6 4 上州甘楽郡田篠村和算家/測量術;小野栄重門、土地測量に長ず、「割円八線表測量法私記」著
- G3883 文嶺(ぶんれい・東翁舎とうおうしゃ、姓;三浦みうら/名;自典)?-? 陸中盛岡の書家、1834「秘法筆奥」
- 文礼(ぶんれい・大槻) → 習斎(しゅうさい・大槻おおつき、儒/洋学者) X 2 1 3 1
- 文礼(ぶんれい・服部) → 文礼(ふみひろ・服部はつとり、藩代官/国学) I 2 8 6 5
- 文礼(ぶんれい・稲葉) → 文礼(ふみのり・稲葉いなば、医者) E 3 8 0 0
- 文麗(ぶんれい;字) → 光雲(こううん;法諱、僧/歌人) Q 1 9 7 6
- 芬路(ぶんろ・俳名) → 菊之丞(5世きくのじょう・瀬川、歌舞伎役者/戯作者) B 1 6 0 3
- G3884 文露(ぶんろ・中川ながわ、柏舟堂、三井秋風[1646-1717]の女婿)?-? 江戸の俳人、妻;文琰(ぶんえん)、1719秋風追善「花林燭かりんしよく」編/23「秋風七回忌」編
- 文蘆(ぶんろ・庵原) → 守富(もりとみ・庵原いおはら、藩士/日記) F 4 4 9 9
- G3885 文弄(ぶんろう) ? - ? 越中伊波の俳人;1776樗良「誹諧月の夜」入;
[ほろほろと渋柿つぶす夜寒哉](月の夜;46/夜なべの柿渋取り作業)
- 文楼(ぶんろう・村田) → 元成(初世もととなり・加保茶、狂歌) D 4 4 6 4
- 文郎(ぶんろう・佐野) → 煥(煥かん・佐野さの、儒者) P 1 5 8 7
- 文豊斎(ぶんろうさい・太田) → 頼資(よりすけ・太田おた、吏員/地誌家) I 4 7 8 0
- G3889 文六(ぶんろく・松沢まつざわ) ? - ? 江中期江戸の歌舞伎作者:1751市村座助作、1757「初花隅田川」58「赤沢山相撲日記」「樸姿見會我」/59「男伊達初買會我」著、1754「百千鳥艶郷會我」57「女武者帰陣屋鳴」著
- 文六(ぶんろく・野田) → 応律(おりのつ・豊竹、歌伎/浄作) B 1 4 6 7
- 文六(ぶんろく・五十嵐) → 梅夫(ばいふ・五十嵐、俳人) C 3 6 0 1
- 文六(ぶんろく・菊池) → 大瓠(たいこ・菊池/菊地、藩士/儒者) B 2 6 3 4
- 文六(ぶんろく・落合) → 東堤(とうてい・落合、儒者) G 3 1 5 8

- 文六(ぶんろく・木村) → 卓堂(たくどう・木村/源、儒者) O 2 6 1 6
 文六(ぶんろく・宇加井) → 純素(すみもと・宇加井うかい、国学/歌人) I 2 3 1 0
 文六(ぶんろく・丸尾) → 清謙(きよかた・丸尾まるお、国学/歌人) V 1 6 2 9
- G3887 文和(ぶんわ・雪柳庵、妻:琴風女)?-1803 出羽鶴岡舟町の庄屋/俳人:不二庵風五門、
 1791風五追善「霜の朝」編、追善集「追善入る月集」(1809妻と継柳庵文洲共編)
- G3888 文和(ぶんわ・川上かわかみ、名;恒、上原某の養子)?-1812 佐渡和泉村の儒/医者、少年時京に遊学、
 1780大阪で儒;頼春水門、長崎で医業;漢・蘭方を折衷、俳人:美濃以雪庵より桃紅仙号を受、
 「浪華日記」著、
 [文和(;通称)の字/別通称/号]字;子久、別通称;多二右衛門、号;墨十庵喚我/桃紅仙
- 文和(ぶんわ・太田) → 惣吉(そうきち・本屋ほんや、茶道具鑑定) G 2 5 7 6
 文和(ぶんわ・田中) → 月歩(げつぽ・田中たなか、俳人/文人) H 1 8 3 6